

豊橋市

男女共同参画及び性の多様性の尊重 に関する市民意識調査

調査結果報告書 概要版

《調査の概要》

豊橋市では、全ての人が人として尊重され、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現をめざし、様々な施策を推進しています。この概要版では、男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりに関する市民の意識を把握するために実施したアンケート調査の主な結果について紹介します。

- 調査目的:本調査は、社会情勢の変化に対応した効果的な施策を展開するため、市民の男女共同参画及び性の多様性の尊重に関する意識やニーズを把握する目的で実施しました。
- 調査対象:豊橋市在住の16歳以上の男女
- 調査人数:男女各2,000人 合計4,000人
- 有効回収:1,028通(25.7%)
- 抽出方法:無作為抽出
- 調査時期:令和7年8月

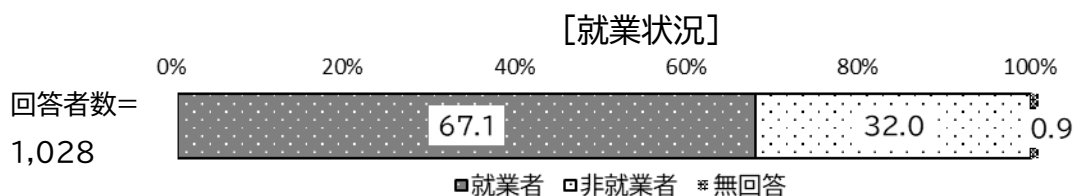
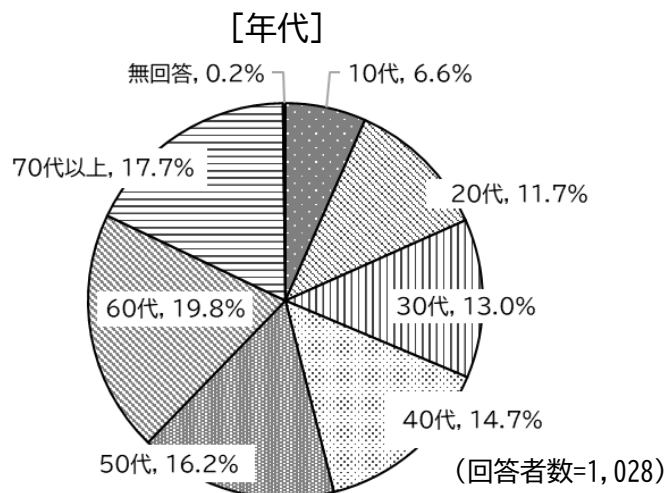
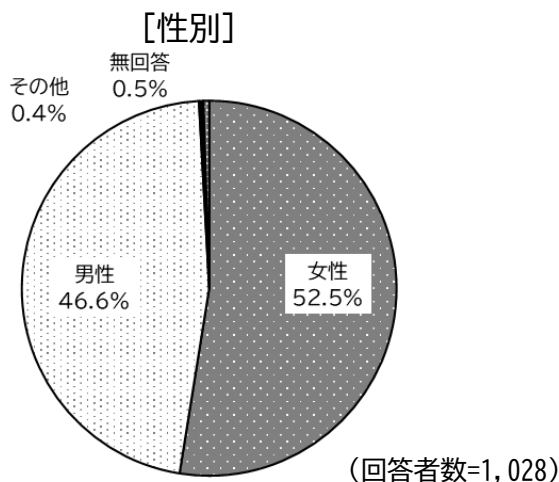


豊橋市 市民協働推進課

TEL:0532-51-2188

令和8年3月発行

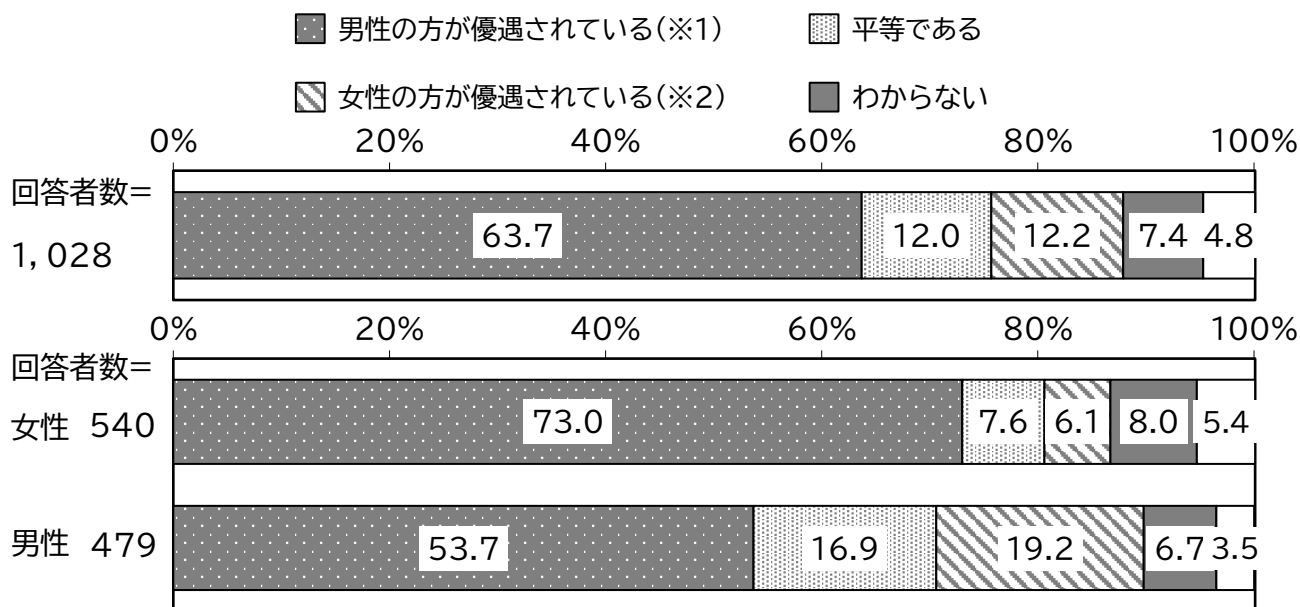
●回答者の属性



1. 男女の平等感について (報告書 P14~P32)

- ① 社会全体でみた男女の地位の平等感についてたずねたところ、63.7%の人が「男性の方が優遇されている(※1)」と答えています。男女別でみると、「男性の方が優遇されている(※1)」の回答の割合は男性よりも女性で高くなっており、男女間で認識に差があることがわかります。

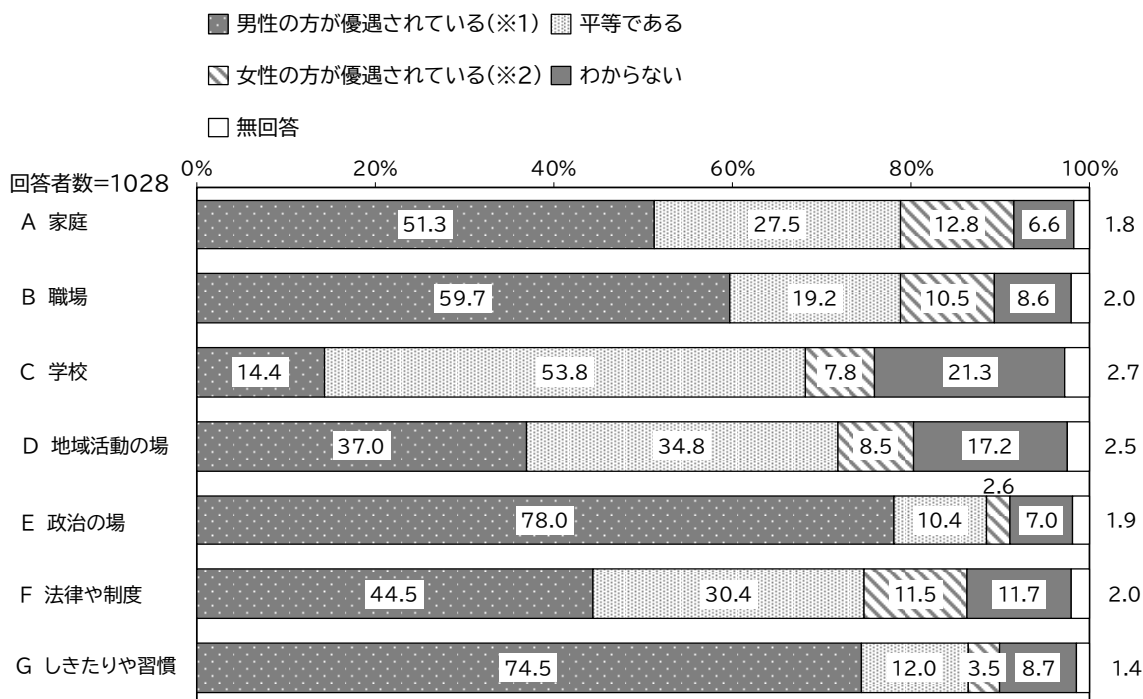
[社会全体の男女の地位評価]



※1:「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計
 ※2:「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

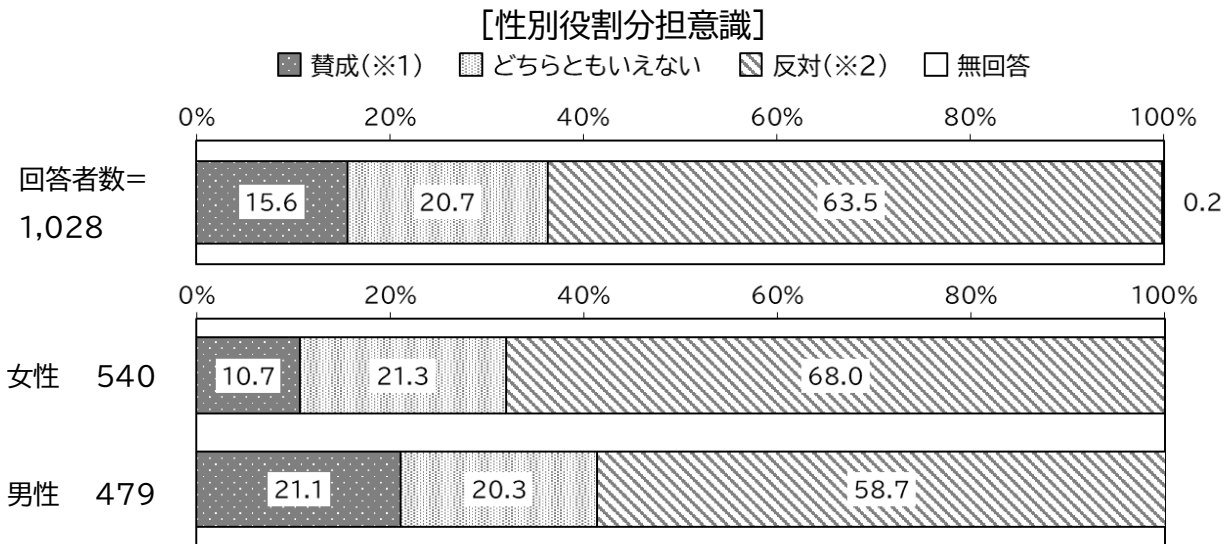
- ② 場面別にみると、平等感がもっとも高いのは「学校」で「平等である」の回答が半数を超えています。一方、「政治の場」「しきたりや習慣」は「男性が優遇されている」の回答が70%を超えています。

[各場面および分野の男女の地位評価]



2. 性別役割分担意識について **(報告書 P50~P57)**

- ① 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対する」の回答が63%を超えています。
 また男女別で見ると、女性に比べ、男性で「賛成する」の回答の割合が高くなっています。

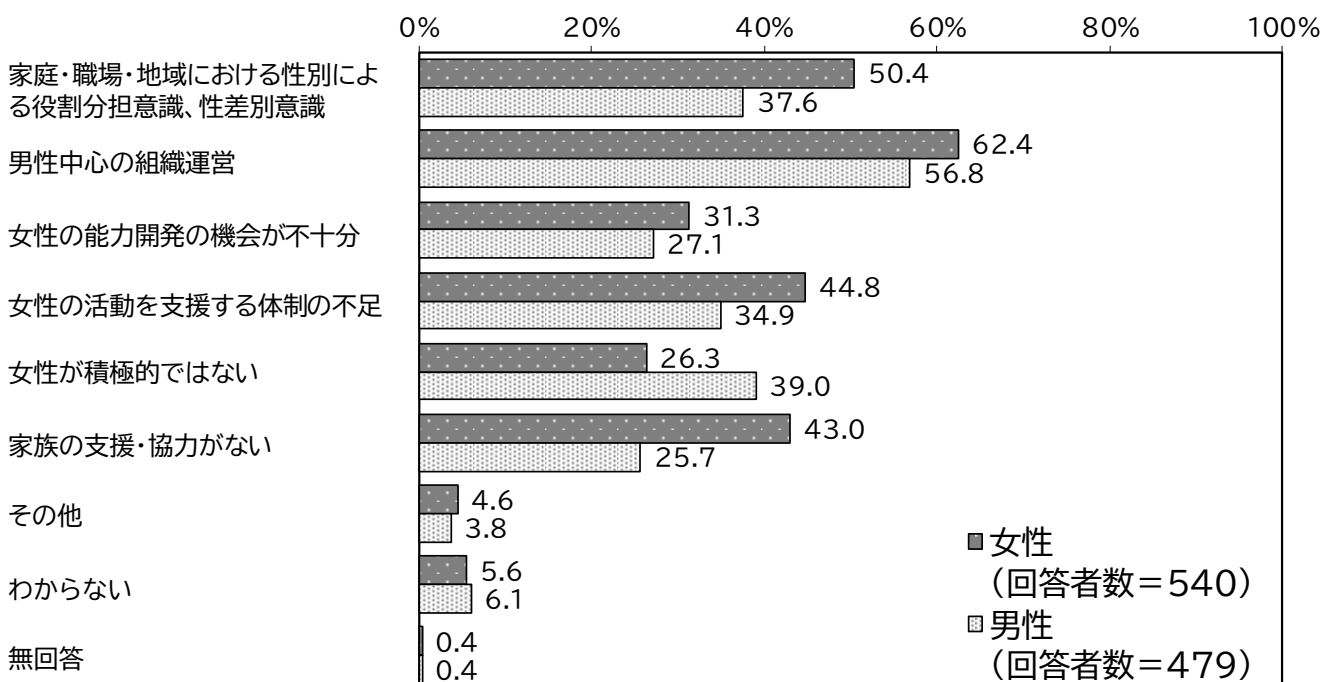


※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計
 ※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

3. 意思決定の場への女性の参画について **(報告書 P34~P36)**

- ① 政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由として「男性中心の組織運営」の回答の割合が最も高く、その他に「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」、「女性の活動を支援する体制の不足」の回答の割合が高くなっています。

[政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由(性別別)]



4. 家庭・仕事・地域活動のバランスについて (報告書 P37~P49)

- ① 平日・休日ともに「家事（掃除・洗濯・炊事など）」「子育て（乳幼児から学生まで）」「介護・看護」といった家庭の活動の時間は女性が男性より2倍以上長くなっています。

[平日・休日の活動時間]

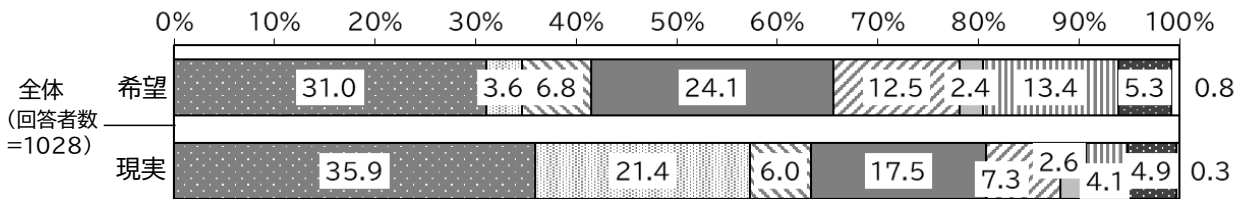
単位:時間

	平日			休日		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
A 仕事(収入の得られる労働)	5.43	4.54	6.41	1.07	1.16	0.96
B 家事(掃除・洗濯・炊事など)	2.43	3.57	1.17	2.90	4.07	1.61
C 子育て(乳幼児から学生まで)	1.31	2.03	0.51	1.97	2.71	1.12
D 介護・看護	0.39	0.52	0.24	0.41	0.54	0.26
E ボランティア・NPO活動	0.08	0.10	0.06	0.11	0.08	0.12
F 地域活動(自治会の530運動・資源回収など)	0.11	0.06	0.15	0.22	0.21	0.24
G 趣味・レジャーなどの余暇活動	1.50	1.43	1.56	3.42	3.17	3.67

- ② 「家庭」、「仕事」、「地域活動」の希望と現実について比較すると、全体では、「仕事」を優先」の回答の割合が希望の3.6%に対し、現実には21.4%と希望と現実の差が大きく、「仕事」を優先していることが分かります。

[家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度（理想と現実比較）]

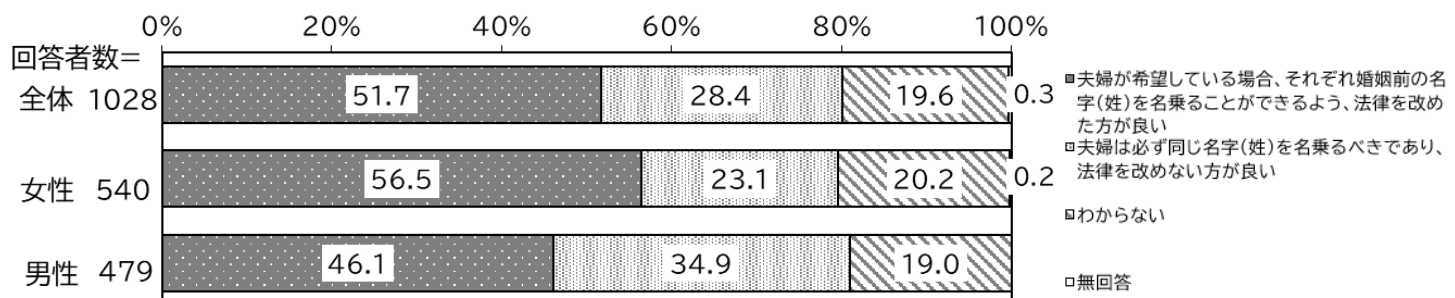
- 「家庭」を優先したい・している
- 「仕事」を優先したい・している
- 「地域・個人の活動」を優先したい・している
- 「家庭」と「仕事」をともに優先したい・している
- 「家庭」と「地域・個人の活動」をともに優先したい・している
- 「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい・している
- 「家庭」と「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい・している
- わからない



5. 選択的夫婦別姓について (報告書 P82~P84)

- ① 「夫婦が希望している場合、それぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるよう、法律を改めた方が良い」の回答が約半数を占めていますが、男女の差が大きくなっています。

[選択的夫婦別姓について]

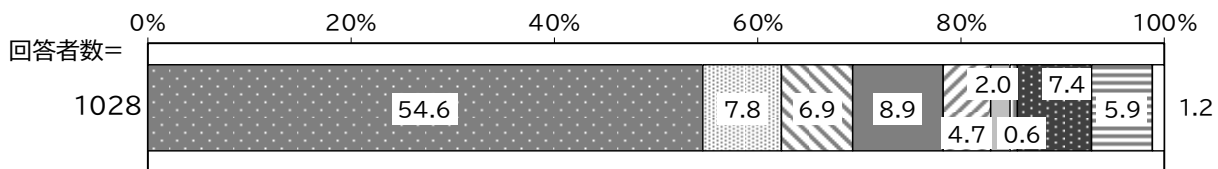


6. 女性が仕事をするることについて (報告書 P71~P73)

女性が仕事をするることについてどのように思うかをたずねたところ、「子どもができれば産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい」の回答の割合が高くなっています。

【女性が仕事をするることについて】

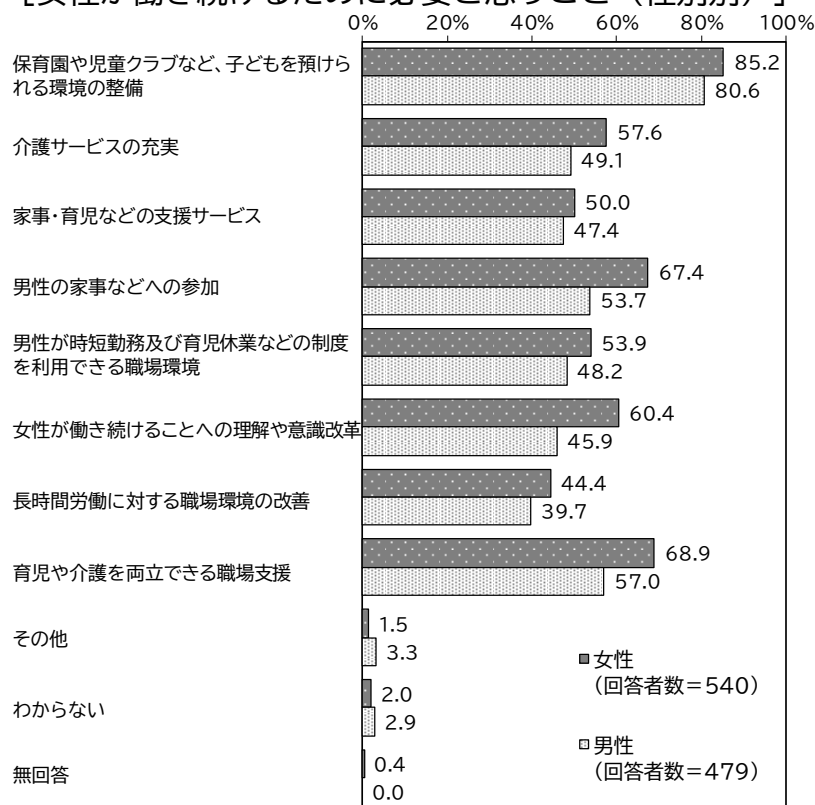
- 子どもができれば産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい
- ▨ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらフルタイムの仕事に就くのがよい
- ▧ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲を超える)で仕事に就くのがよい
- 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲内)で仕事に就くのがよい
- ▩ 子どもができるまでは仕事をするのがよい
- ▨ 結婚するまでは仕事をするのがよい
- ▨ 女性は仕事をしない方がよい
- その他
- ▨ わからない
- 無回答



7. 女性が働き続けるために必要と思うこと (報告書 P74~P76)

働くことを希望する女性が働き続けるために必要だと思うことについてたずねたところ、「男性の家事などへの参加」、「女性が働き続けることへの理解や意識改革」、「育児や介護を両立できる職場支援」といった男性側・職場に求められる項目で男女の差が大きくなっています。

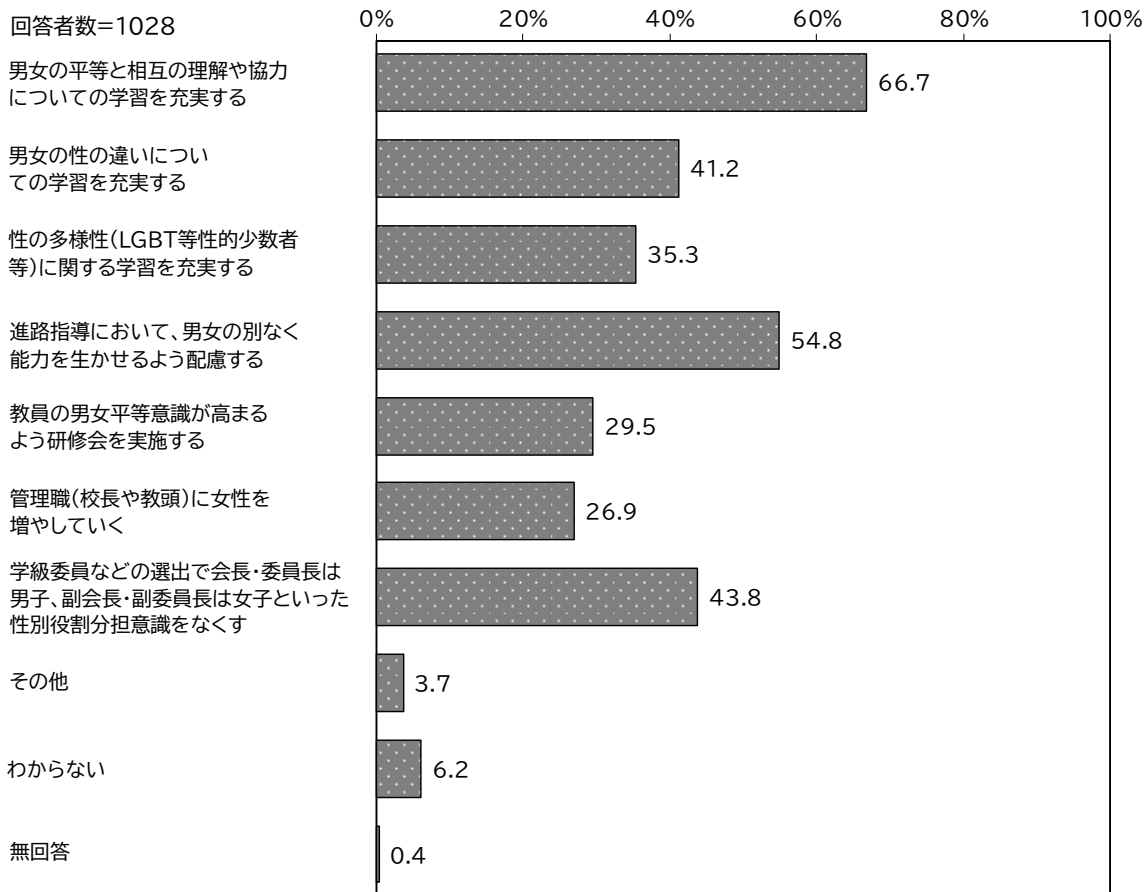
【女性が働き続けるために必要と思うこと (性別別)】



8. 男女平等のための学校教育のあり方 (報告書 P95~P99)

- ① 男女共同参画社会実現のために、学校教育の場で必要なことについてたずねたところ、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の回答の割合が 66.7%と最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が 54.8%、「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」の回答の割合が 43.8%となっています。

[男女平等のための学校教育のあり方]



- ② 男女別で比較すると、男性に比べ、女性で「管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく」「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」「LGBT等性的少数者(性の多様性)に関する学習を充実する」の割合が高くなっています。

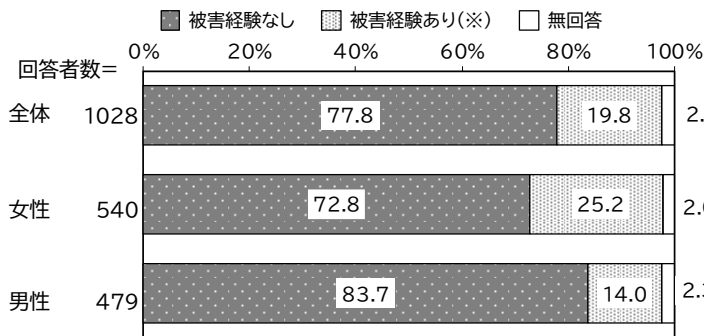
[男女平等のための学校教育のあり方(性別別)]

区分	回答者数(件)	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の性の違いについての学習を充実する	LGBT等性的少数者(性の多様性)に関する学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性	540	66.7	43.1	38.9	55.4	30.0	31.3	47.6	2.4	6.5	0.4
男性	479	67.4	39.2	31.3	54.1	28.4	22.5	39.5	5.2	5.4	0.2

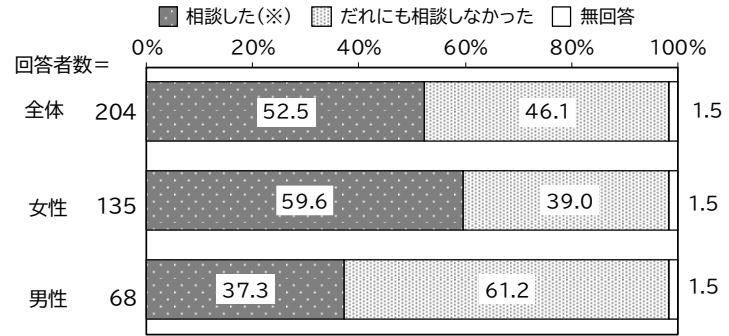
9. 配偶者等からの暴力 (DV) について (報告書 P104~P126)

- ① 配偶者や交際相手から受けた暴力行為 (DV) の経験についてたずねたところ、女性の4人に1人が被害の経験があると回答しています。
- ② DV の被害経験がある方のうち、女性の 39.0%、男性の 61.2%が「だれにも相談しなかった」と回答しています。

[DV 被害経験の有無]

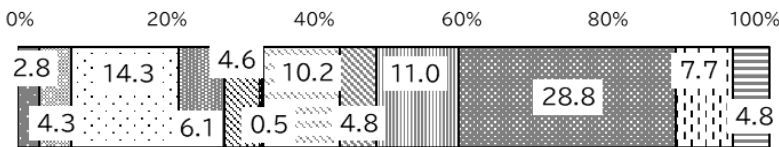


[DV 被害の相談]



- ③ DV の被害の内容は「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした」が最も多く、次に「髪をひっぱる、物をなげつける、はたくななどの暴力を受けた」「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた」と回答しています。(※)

[DV 被害の内容]

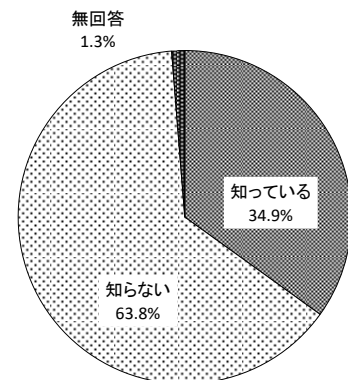


- 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた
- 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた
- 髪をひっぱる、物をなげつける、はたくななどの暴力を受けた
- いやがっているのに性的な行為を強要された
- 避妊をしない性行為を強要された
- 見たくないのに、ポルノ(アダルト)ビデオや雑誌を見せられた
- 何を言っても無視され続けた
- 交友関係や電話、メール、SNSを細かく監視された
- 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた
- 大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした
- 生活費を渡さないなど、経済的に抑えつけられた
- その他

※全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

- ④ DV相談 (電話相談・面接相談) 窓口があることの認知度は 34.9%にとどまっています。

[DV 相談窓口の認知度]



(回答者数=1,028)

■ 豊橋市 DV 相談とは

豊橋市では、DV 被害者にとって身近で安心して相談できる窓口として、女性相談員による相談窓口を開設しています。

☎ 0532-33-9980

- ・DV 電話相談 月～金曜日(9時～15時)
- ・DV 面接相談 火・水・木 (要予約)

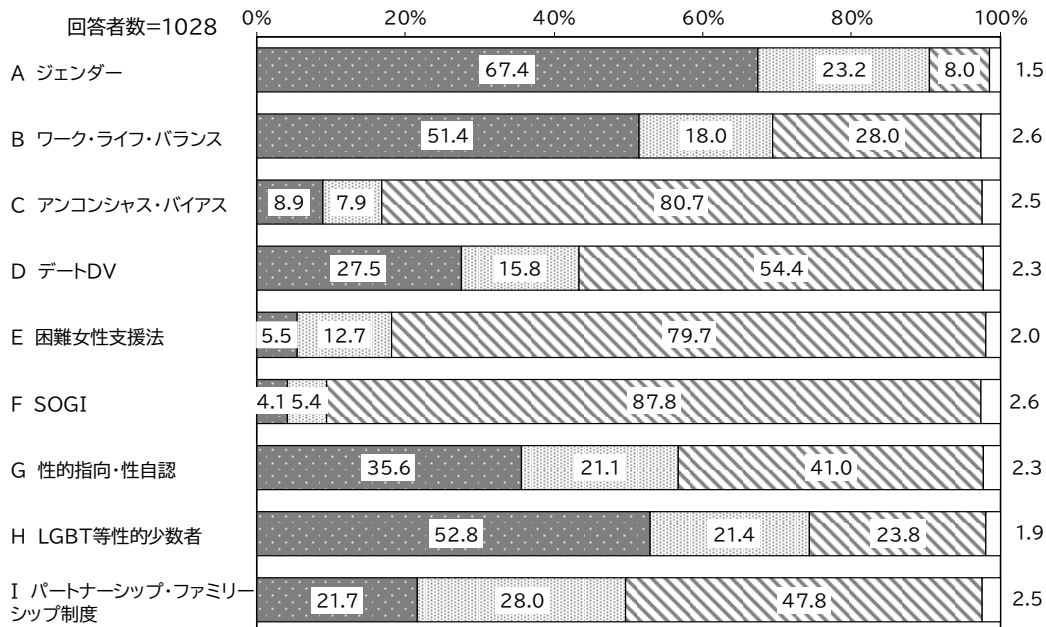
※身体への暴力だけでなく、言葉や態度による心への暴力も DV です

10. 男女共同参画及び性の多様性を尊ぶ社会づくりに関する用語の認知度について

- ① 『ジェンダー』、『LGBT等性的少数者』については「知っていた(※)」の回答が7割を超えています。一方、『アンコンシャス・バイアス』『困難女性支援法』『SOGI』については「知らなかった」の回答が8割前後で認知度が低い状況です。

[用語の認知度]

■ 言葉も内容も知っていた □ 言葉だけは知っていた ▨ 知らなかった □ 無回答

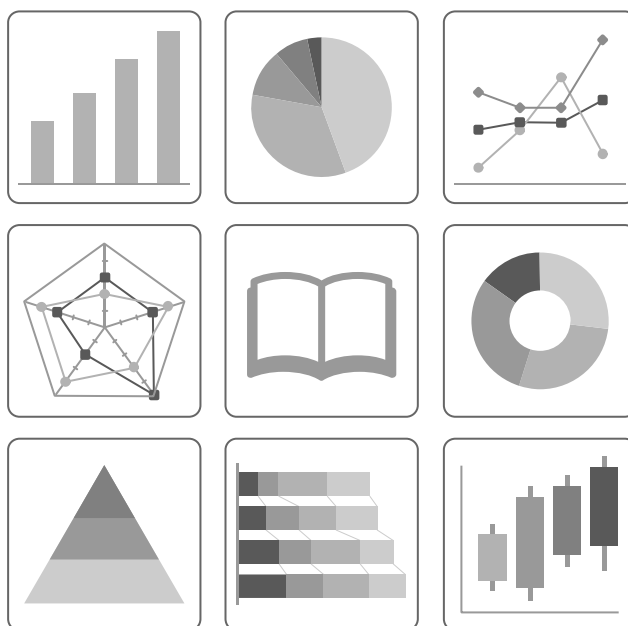


※「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の計

調査結果からわかる豊橋市の現状

- 男女の平等感では、「男性のほうが優遇されている」の回答が6割強を占め、依然として男性が優遇されていると感じている市民が多いことがうかがえます。場面別では、「学校」で「平等」との回答が5割強である一方、「政治」「しきたりや慣習」「職場」での「平等」との回答は2割未満で、男女の平等感は場面ごとの差が大きい状況です
- 「男は仕事、女は家庭」といった性別役割分担意識の考え方について6割以上が「反対する」と回答しており、その割合は年々上昇しています。一方で男性の2割は「賛成する」と回答しており、その割合は女性よりも高くなっています。政策や方針決定の場への女性の参画状況が低い理由としても「性別役割分担意識」の回答の割合は4割を超えています。
- 家事や子育て、介護・看護について女性は男性より2倍以上の時間を費やしており、依然として女性の家事等の負担が大きい状況です。
- 女性が働くことについて産休や育休を使いながら就労を継続する考えの割合が最も高く、そのために必要なこととして子どもを預けられる環境の整備、育児や介護を両立できる職場支援など、働くための環境整備が求められています。
- 女性の4人に一人がDVの被害経験があります。また男性にも一定数被害があることがわかります。しかし、5割の人が被害を受けた際に相談をしておらず、6割の人がDV相談窓口の存在を知らない状況であり、DV相談窓口のさらなる周知が必要です。
- 男女共同参画や性の多様性の用語の認知度は長期的に見て上昇傾向にありますが、「アンコンシャス・バイアス」や「SOGI」の認知度は2割以下であり、さらなる啓発が必要です。

豊橋市
男女共同参画及び性の多様性の尊重
に関する市民意識調査
調査結果報告書



令和 8 年 3 月

豊 橋 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
7	標本誤差	2
II	調査結果	4
1	回答者属性	4
A	性別	4
B	年代（年齢）	4
C	職業	5
D	希望職業	6
E	配偶者の有無	11
E-1	共働きについて	11
F	家族構成	13
2	男女の平等感について	14
(1)	社会全体の男女の地位評価	14
(2)	各場面および分野の男女の地位評価	17
(3)	家庭において優遇されていると思う理由	33
3	意思決定の場への女性の参画について	34
(1)	政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由	34
4	家庭・仕事・地域活動のバランスについて	37
(1)	平日・休日の活動時間	37
(2)	希望の家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度	41
(3)	現状の家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度	45
5	男女の働き方について	50
(1)	性別役割分担意識	50
(2)	性別役割分担意識についてそう思う理由	54
(3)	家事分担についての考え方	58
(4)	男性が育児や介護で休みをとることについての考え方	64
(5)	男性の育児や介護での休みについてそう思う理由	68

(6) 女性が仕事をする事について.....	71
(7) 女性が働き続けるために必要と思うこと.....	74
(8) 離職した女性が社会で活動する際に希望する活動.....	77
(9) 離職した女性が社会で活動する際に重視にすること.....	80
(10) 選択的夫婦別姓について.....	82
(11) 旧姓の利用意向.....	85
(12) 豊橋市から大都市圏への流出について.....	88
6 子どもへの男女共同参画教育について.....	91
(1) 子育てについての考え方.....	91
(2) 男女平等のための学校教育のあり方.....	95
(3) 進路選択に影響を与えるもの.....	100
7 配偶者等からの暴力について.....	104
(1) 配偶者や交際相手から暴力を受けた経験.....	104
(2) 暴力行為（DV）についての相談相手.....	110
(3) 相談をしなかった理由.....	115
(4) 男女間における暴力（DV）を防止するために必要なこと.....	119
(5) 豊橋市DV相談の認知度.....	124
9 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について.....	127
(1) 男女共同参画センター「パルモ」の認知度.....	127
(2) 充実してほしい内容.....	130
10 男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会について.....	132
(1) 用語の認知度.....	132
(2) 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと.....	147
III 自由意見.....	152
1 男性が仕事と家事、育児、介護を両立することについて.....	152
(1) 10代男性.....	152
(2) 30代男性.....	152
(3) 40代女性.....	152
2 女性が仕事と、出産、子育て、介護などを両立することについて.....	153
(1) 20代女性.....	153
(2) 30代男性.....	153
(3) 30代女性.....	153
(7) 40代女性.....	154
(9) 50代女性.....	154
(10) 60代男性.....	154
(11) 60代女性.....	154
3 ジェンダー平等について.....	155
(1) 10代男性.....	155
(2) 10代女性.....	155

(3) 20代男性	155
(4) 20代女性	155
(5) 30代男性	155
(6) 30代女性	156
(7) 40代男性	157
(8) 40代女性	157
(9) 50代女性	158
(10) 60代男性	158
(11) 60代女性	158
(12) 70代男性	159
(13) 70代女性	159
4 LGBT等性的少数者への認識について	160
(1) 20代女性	160
(2) 30代女性	160
(3) 60代男性	160
(4) 60代女性	160
(5) 70代以上男性	160
5 その他男女共同参画に関して	161
(1) 10代男性	161
(2) 30代男性	161
(3) 30代女性	162
(4) 40代男性	162
(5) 40代男性	163
(6) 40代女性	163
(7) 50代男性	163
(8) 50代女性	164
(10) 60代男性	165
(11) 60代女性	165
(12) 70代以上男性	166

I 調査の概要

1 調査の目的

「豊橋市男女共同参画基本計画」の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

豊橋市在住の16歳以上を無作為抽出

3 調査期間

令和7年8月1日から令和7年8月31日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民	4,000通	1028通 ※うちWEB回答475通	25.7%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

7 標本誤差

標本誤差については、下記算出式より算出する。

$$\sigma = \kappa \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

σ : 標本誤差
 N : 母集団
 n : 標本数
 p : 回答比率
 κ : 信頼率による変数

標本数は、令和7年4月1日現在の市内在住満16歳以上の男女(全体)317,036人、男性158,496人、女性158,540人で算出する。

信頼率による変数 κ は、信頼率95%では1.96、信頼率99%では2.58と定義されており、今回の市民意識調査における信頼率を95%とすると、各回答比率別の標本誤差は以下のとおりとなる。

標本数	回答比率 (%)				
	10% or 90%	20% or 80%	30% or 70%	40% or 60%	50%
全体 1028	±1.83%	±2.44%	±2.80%	±2.99%	±3.05%
女性 540	±2.53%	±3.37%	±3.86%	±4.13%	±4.21%
男性 479	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%

※全体にはその他：4名、無回答5名が含まれる。

これは、ある質問において「A」という回答の割合が50%であれば、16歳以上の豊橋市民に同じ質問をしても、統計学的には「A」という回答の割合は、95%の確率で±3.06%の範囲内(3.64%～-3.64%)にあることを示す。

<各比較調査の詳細>

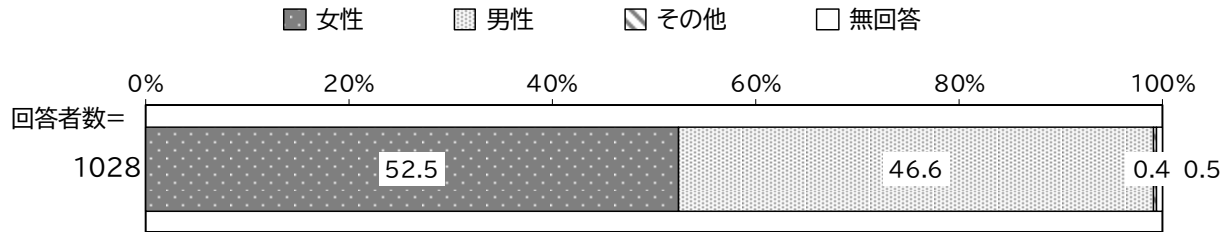
調査主体	調査名	調査時期
国（内閣府）	男女共同参画社会に関する世論調査	令和6年9月
国（内閣府）	男女共同参画社会に関する世論調査	令和4年11月
国（内閣府）	男女共同参画社会に関する世論調査	令和元年9月
愛知県	男女共同参画意識に関する調査	令和6年8月
愛知県	県政世論調査（男女共同参画について）	令和4年7月
愛知県	県政世論調査（男女共同参画について）	令和元年7月
豊橋市	男女共同参画及び性の多様性の尊重に関するアンケート調査	令和7年8月
豊橋市	男女共同参画及び性の多様性の尊重に関するアンケート調査	令和5年8月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	令和3年8月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	令和元年8月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成28年8月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成26年9月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成23年6月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成20年5月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成17年5月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成13年8月

No.	調査項目	国	県	市
問1	社会全体の男女の地位評価	○R6	○R6	○
問2	各場面および分野の男女の地位評価	○R6	○R6	○
問2-1	家庭において優遇されていると思う理由			○
問3	政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由			○
問4	平日・休日の活動時間			○
問5	希望の家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度	○R1	○R6	○
問6	現状の家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度	○R1	○R6	○
問7	性別役割分担意識	○R6	○R6	○
問7-1	性別役割分担意識についてそう思う理由			○
問8	家事分担についての考え方			○
問9	男性が育児や介護で休みをとることについての考え方			○
問9-1	男性の育児や介護での休みについてそう思う理由			○
問10	女性が仕事をすることについて			○
問11	女性が働き続けるために必要と思うこと			○
問12	離職した女性が社会で活動する際に希望する活動			○
問12-1	離職した女性が社会で活動する際に重視にすること			○
問13	選択的夫婦別姓について			○
問13-1	旧姓の利用意向			○
問14	豊橋市から大都市圏への流出について			○
問15	子育てについての考え方			○
問16	男女平等のための学校教育のあり方			○
問17	進路選択に影響を与えるもの			○
問18	配偶者や交際相手から暴力を受けた経験			○
問18-1	暴力行為についての相談相手			○
問18-2	相談をしなかった理由			○
問19	男女間における暴力を防止するために必要なこと			○
問20	豊橋市DV相談窓口の認知度			○
問21	男女共同参画センター「パルモ」の認知度			○
問21-1	充実してほしい内容			○
問22	用語の認知度			○
問23	男女共同参画社会実現のために行政に望むこと			○

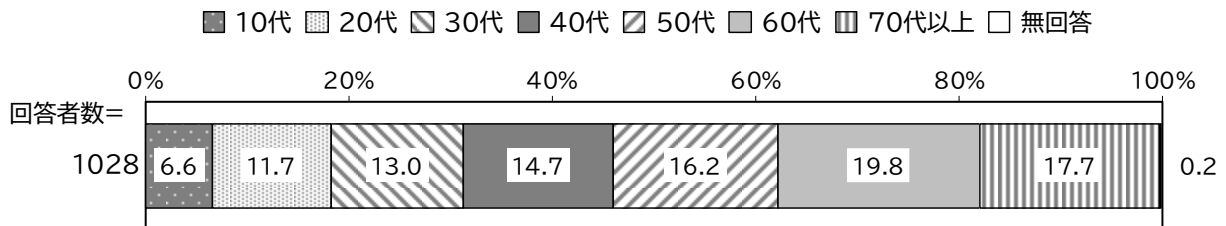
II 調査結果

1 回答者属性

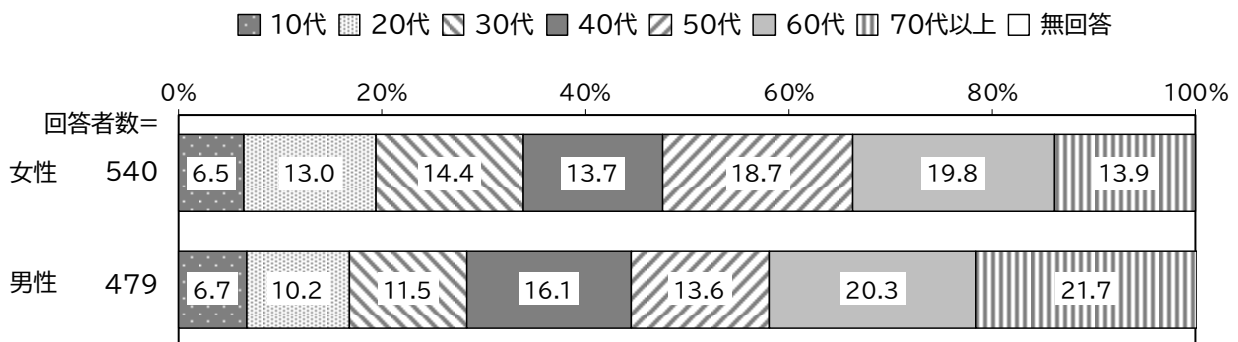
A 性別



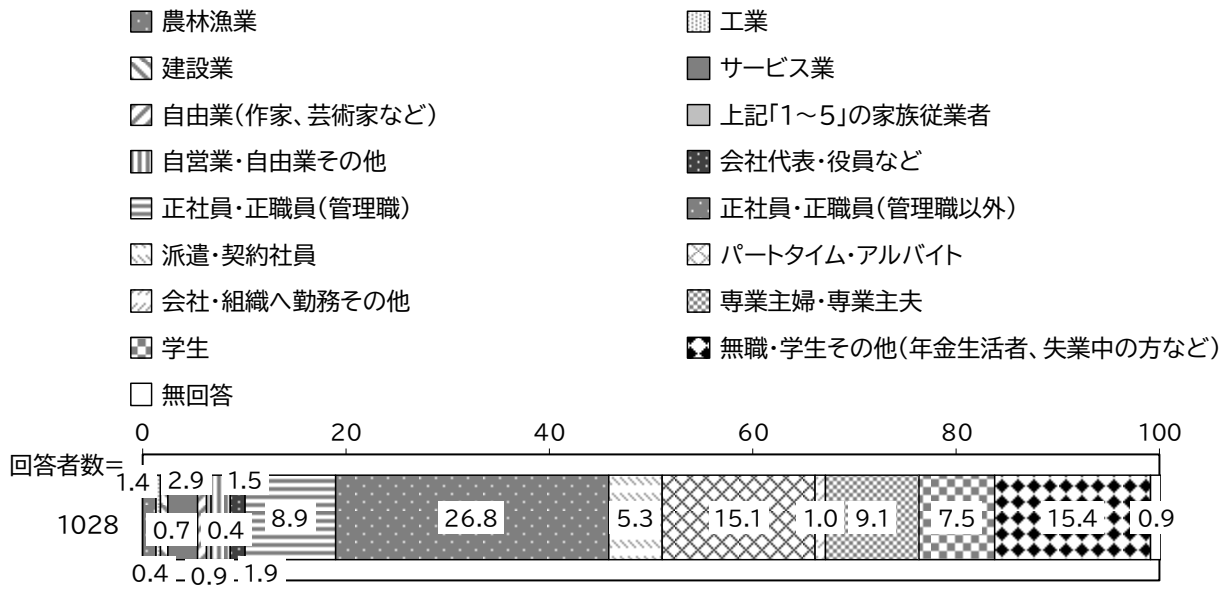
B 年代 (年齢)



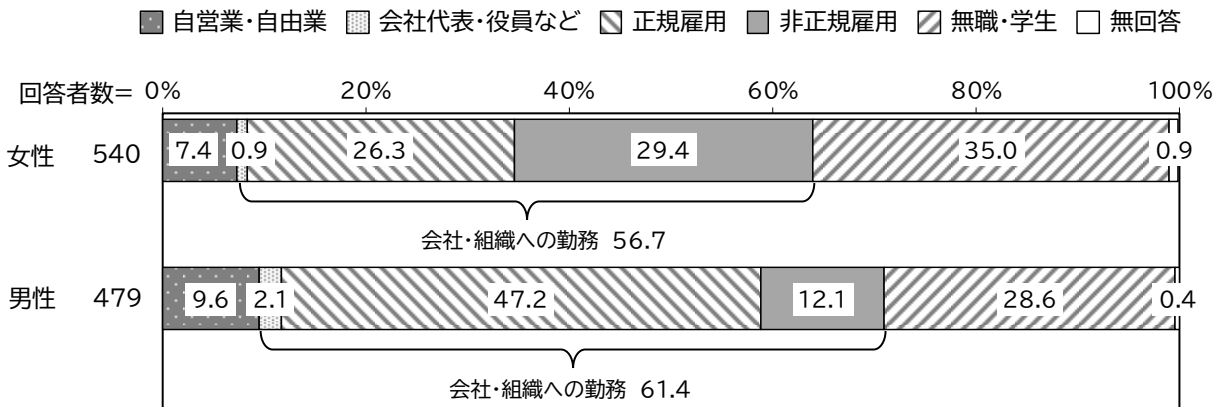
【性別】



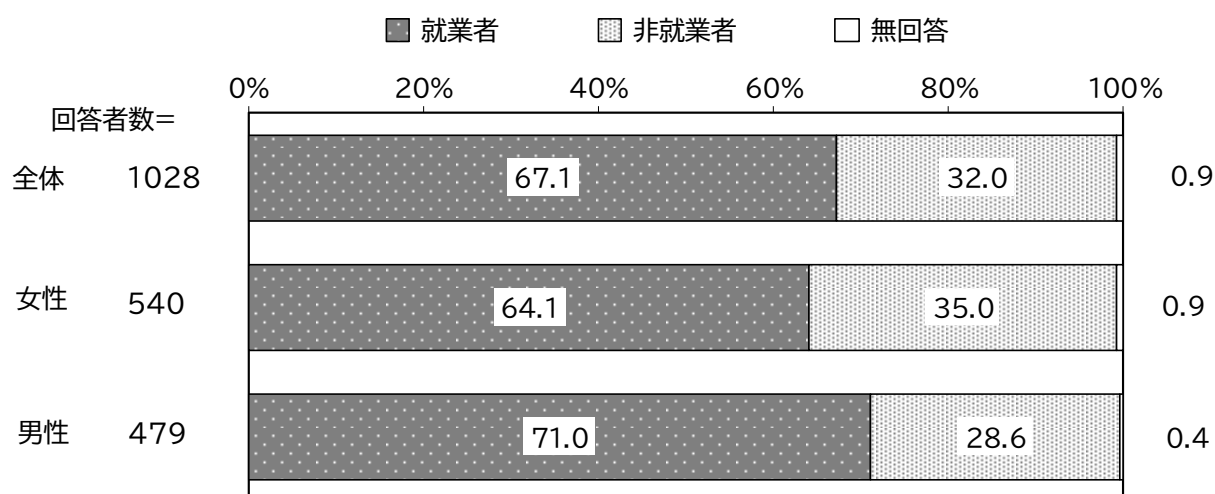
C 職業



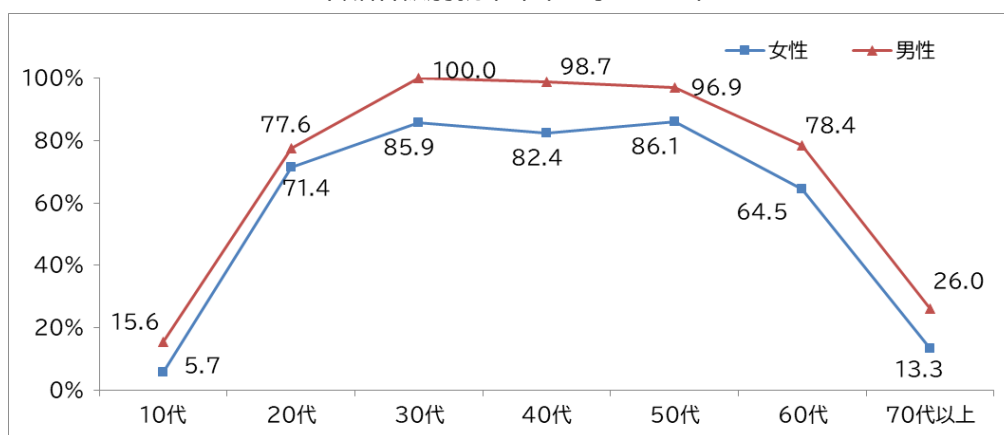
【性別】



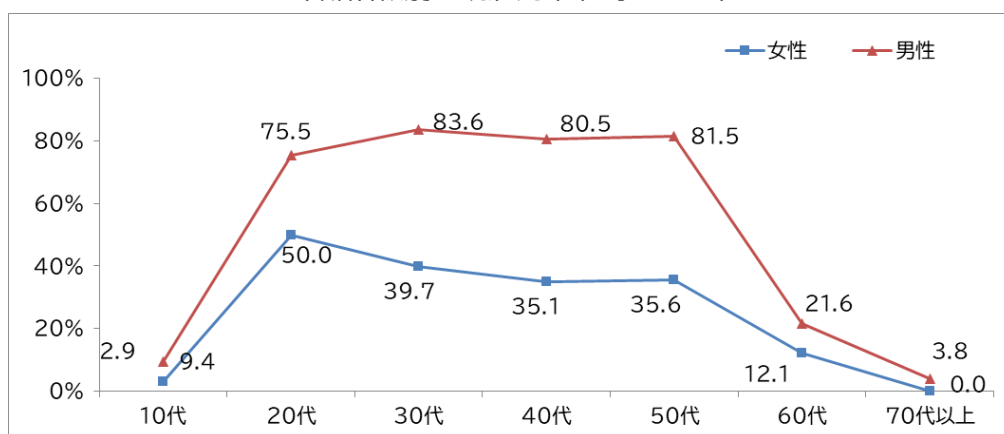
【就業の有無】



年齢階級別就業率(M字カーブ)



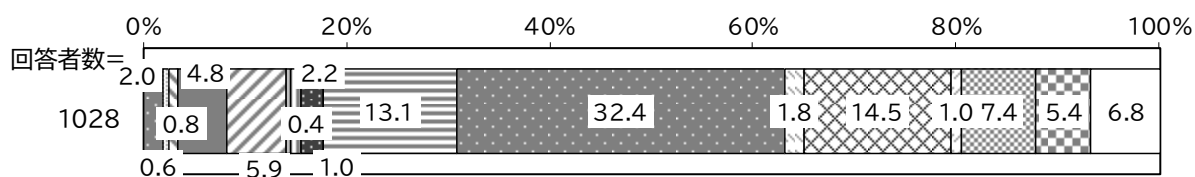
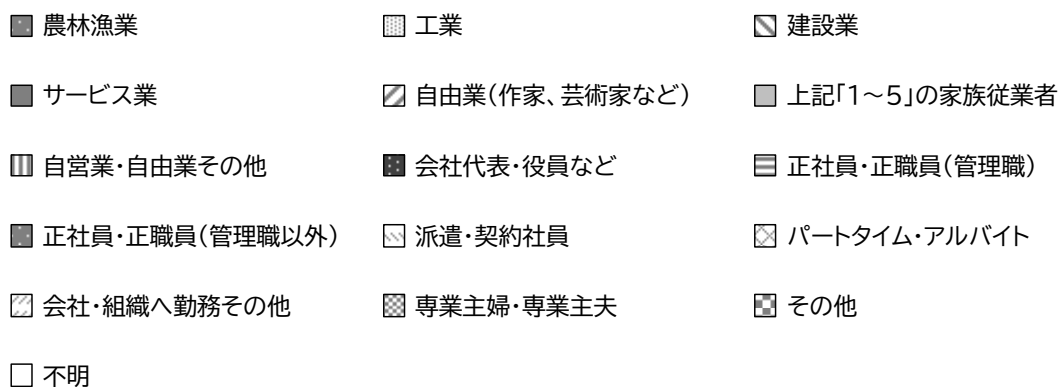
年齢階級別正規雇用率(L字カーブ)



就業の有無について性別で見ると、女性に比べ、男性で「就業者」の割合が高くなっている。性別・年代別で見ると、すべての年代で女性に比べ、男性で「就業者」の割合が高く、特に30代では約14ポイント、40代では約16ポイントの差がみられる。

正規雇用率では、女性は20代をピークに下降し、特に40代・50代では男性との間に約45ポイントの差がみられる。

D 希望職業



【職業と希望職業の相関】

・全体

単位：%

C 職業		回答者数(件)	D 希望職業							無回答
			自営・自由業	会社代表・役員	管理職	正社員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	その他	
C 職業	全体	1028	15.5	2.2	13.1	32.4	1.8	14.5	13.7	6.8
	自営・自由業	88	56.8	2.3	8.0	8.0	0.0	6.8	9.1	9.1
	会社代表・役員	15	13.3	40.0	0.0	6.7	0.0	6.7	13.3	20.0
	管理職	92	14.1	6.5	51.1	22.8	0.0	0.0	3.3	2.2
	正社員	276	13.4	1.4	15.9	64.1	0.0	1.4	1.8	1.8
	派遣・契約社員	54	13.0	0.0	11.1	35.2	22.2	7.4	5.6	5.6
	パートタイム・アルバイト	155	7.1	0.0	3.9	24.5	1.9	57.4	5.2	0.0
	その他	181	12.2	1.1	10.5	24.9	0.6	14.4	30.4	6.1
	無職	158	10.8	1.9	3.2	15.2	1.3	12.0	35.4	20.3
	無回答	9	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	66.7

・女性

単位：％

		回答者数(件)	D 希望職業							
			自営・自由業	会社代表・役員	管理職	正社員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	その他	無回答
C 職業	全体	540	10.6	0.7	10.4	33.1	1.3	21.9	16.9	5.2
	自営・自由業	40	32.5	5.0	10.0	12.5	0.0	15.0	17.5	7.5
	会社代表・役員	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	管理職	21	9.5	0.0	52.4	33.3	0.0	0.0	4.8	0.0
	正社員	121	10.7	0.0	14.9	67.8	0.0	3.3	1.7	1.7
	派遣・契約社員	27	3.7	0.0	14.8	51.9	14.8	3.7	7.4	3.7
	パートタイム・アルバイト	128	6.3	0.0	4.7	25.0	1.6	56.3	6.3	0.0
	その他	136	8.8	0.7	8.8	19.9	0.0	19.1	35.3	7.4
	無職	57	10.5	0.0	1.8	19.3	1.8	15.8	35.1	15.8
	無回答	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0

・男性

単位：％

		回答者数(件)	D 希望職業							
			自営・自由業	会社代表・役員	管理職	正社員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	その他	無回答
C 職業	全体	479	20.9	4.0	16.5	31.9	2.3	6.5	9.8	8.1
	自営・自由業	46	78.3	0.0	6.5	4.3	0.0	0.0	2.2	8.7
	会社代表・役員	10	0.0	50.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	30.0
	管理職	71	15.5	8.5	50.7	19.7	0.0	0.0	2.8	2.8
	正社員	155	15.5	2.6	16.8	61.3	0.0	0.0	1.9	1.9
	派遣・契約社員	26	19.2	0.0	7.7	19.2	30.8	11.5	3.8	7.7
	パートタイム・アルバイト	26	11.5	0.0	0.0	19.2	3.8	65.4	0.0	0.0
	その他	43	23.3	2.3	16.3	41.9	2.3	0.0	11.6	2.3
	無職	100	11.0	3.0	4.0	13.0	1.0	10.0	35.0	23.0
	無回答	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

・女性（20代～50代）

単位：上段-人数 下段-%

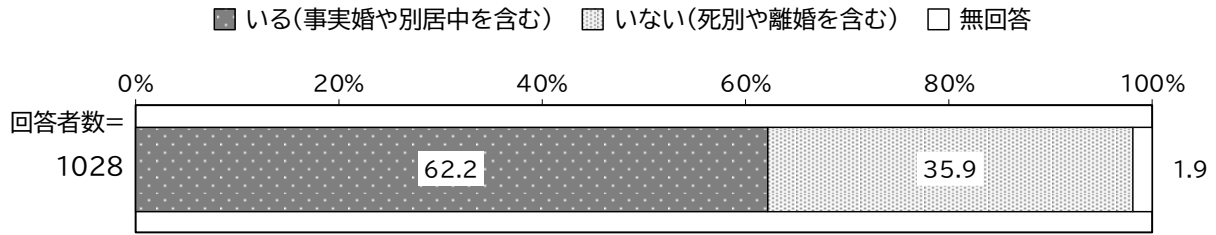
		回答者数(件) 上段：件数 下段：%	D 希望職業							
			自営・自由業	会社代表・役員	管理職	正社員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	その他	無回答
C 職業	全体	323	38 11.8	2 0.6	39 12.1	134 41.5	4 1.2	74 22.9	28 8.7	4 1.2
	自営・自由業	24	8 33.3	1 4.2	4 16.7	4 16.7	0 0.0	4 16.7	3 12.5	0 0.0
	会社代表・役員	3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	管理職	20	2 10.0	0 0.0	11 55.0	6 30.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0
	正社員	108	11 10.2	0 0.0	14 13.0	75 69.4	0 0.0	4 3.7	2 1.9	2 1.9
	派遣・契約社員	21	1 4.8	0 0.0	4 19.0	11 52.4	1 4.8	1 4.8	2 9.5	1 4.8
	パートタイム・アルバイト	88	7 8.0	0 0.0	3 3.4	24 27.3	2 2.3	46 52.3	6 6.8	0 0.0
	その他	46	7 15.2	0 0.0	3 6.5	8 17.4	0 0.0	16 34.8	11 23.9	1 2.2
	無職	13	1 7.7	0 0.0	0 0.0	6 46.2	1 7.7	3 23.1	2 15.4	0 0.0
	無回答	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

・男性（20代～50代）

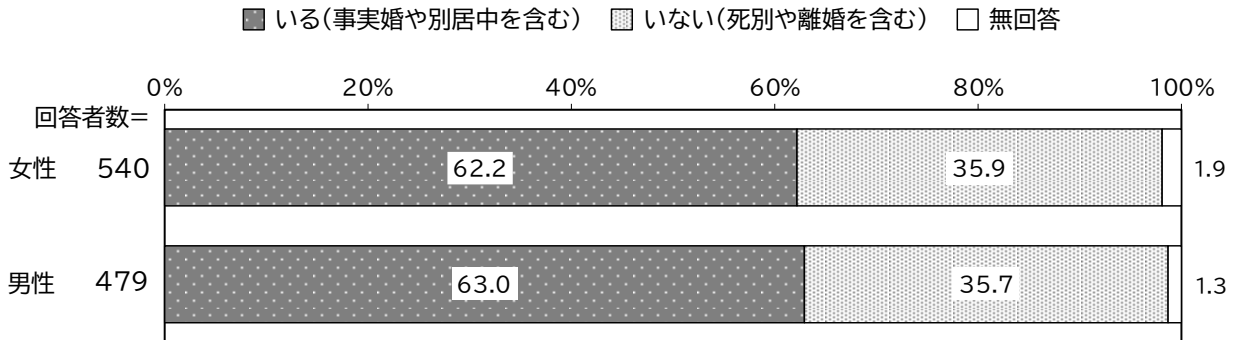
単位：上段-人数 下段-%

		回答者数(件)	D 希望職業							
			自営・自由業	会社代表・役員	管理職	正社員	派遣・契約社員	パートタイム・アルバイト	その他	無回答
C 職業	全体	246	51 20.7	10 4.1	58 23.6	110 44.7	1 0.4	4 1.6	7 2.8	5 2.0
	自営・自由業	21	17 81.0	0 0.0	2 9.5	1 4.8	0 0.0	0 0.0	1 4.8	0 0.0
	会社代表・役員	2	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	管理職	61	10 16.4	6 9.8	29 47.5	12 19.7	0 0.0	0 0.0	2 3.3	2 3.3
	正社員	137	21 15.3	2 1.5	24 17.5	84 61.3	0 0.0	0 0.0	3 2.2	3 2.2
	派遣・契約社員	5	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
	パートタイム・アルバイト	4	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
	その他	11	1 9.1	0 0.0	2 18.2	8 72.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	無職	5	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
	無回答	0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

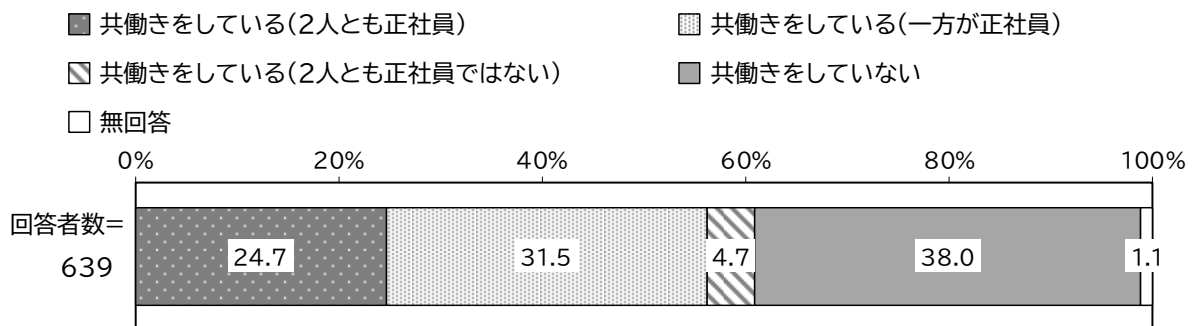
E 配偶者の有無



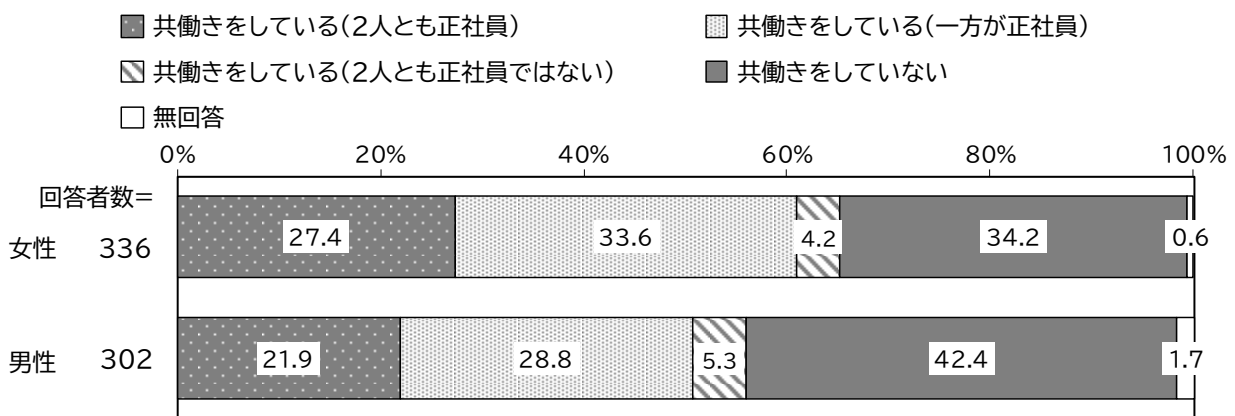
【性別】



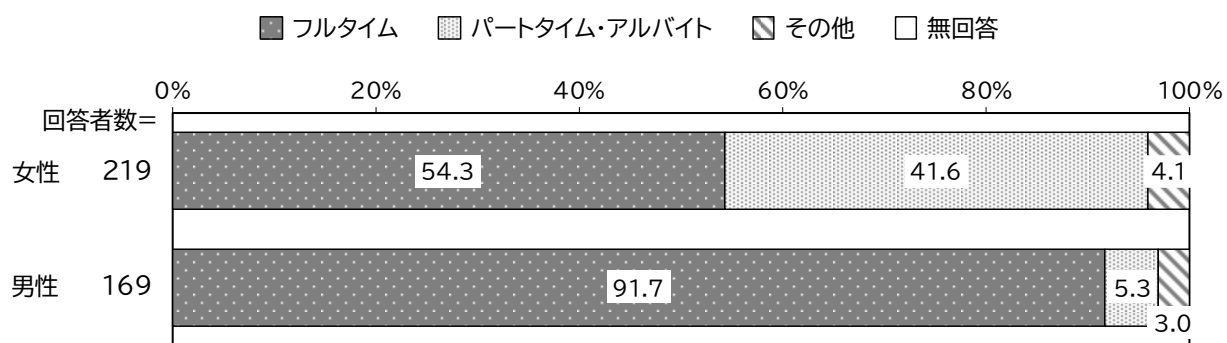
E-1 共働きについて



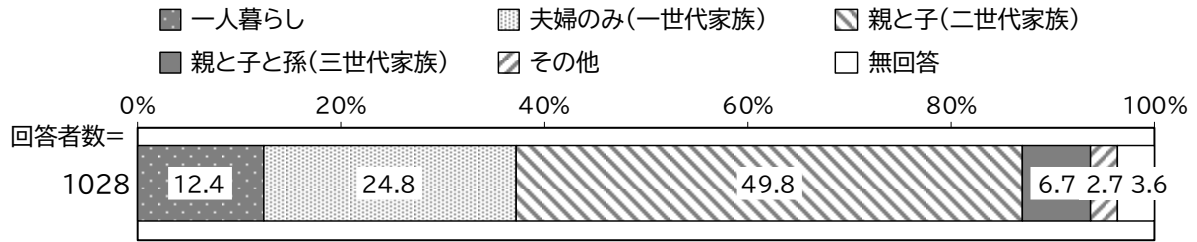
【性別】



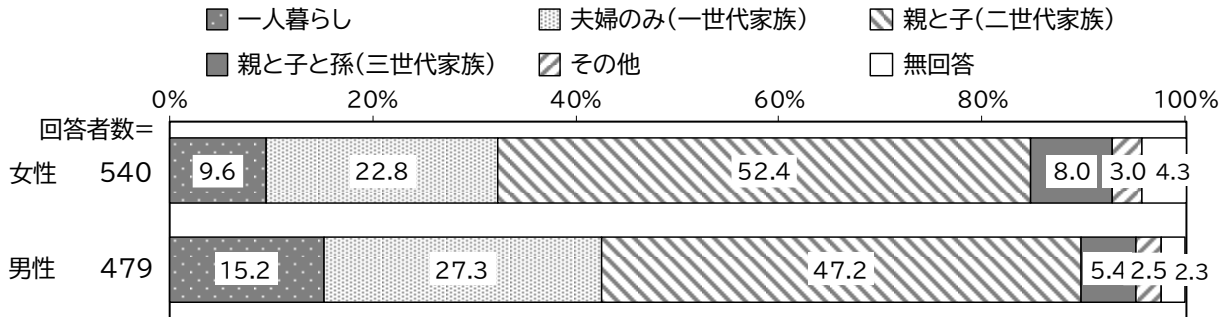
【就労形態（共働きをしている人）】



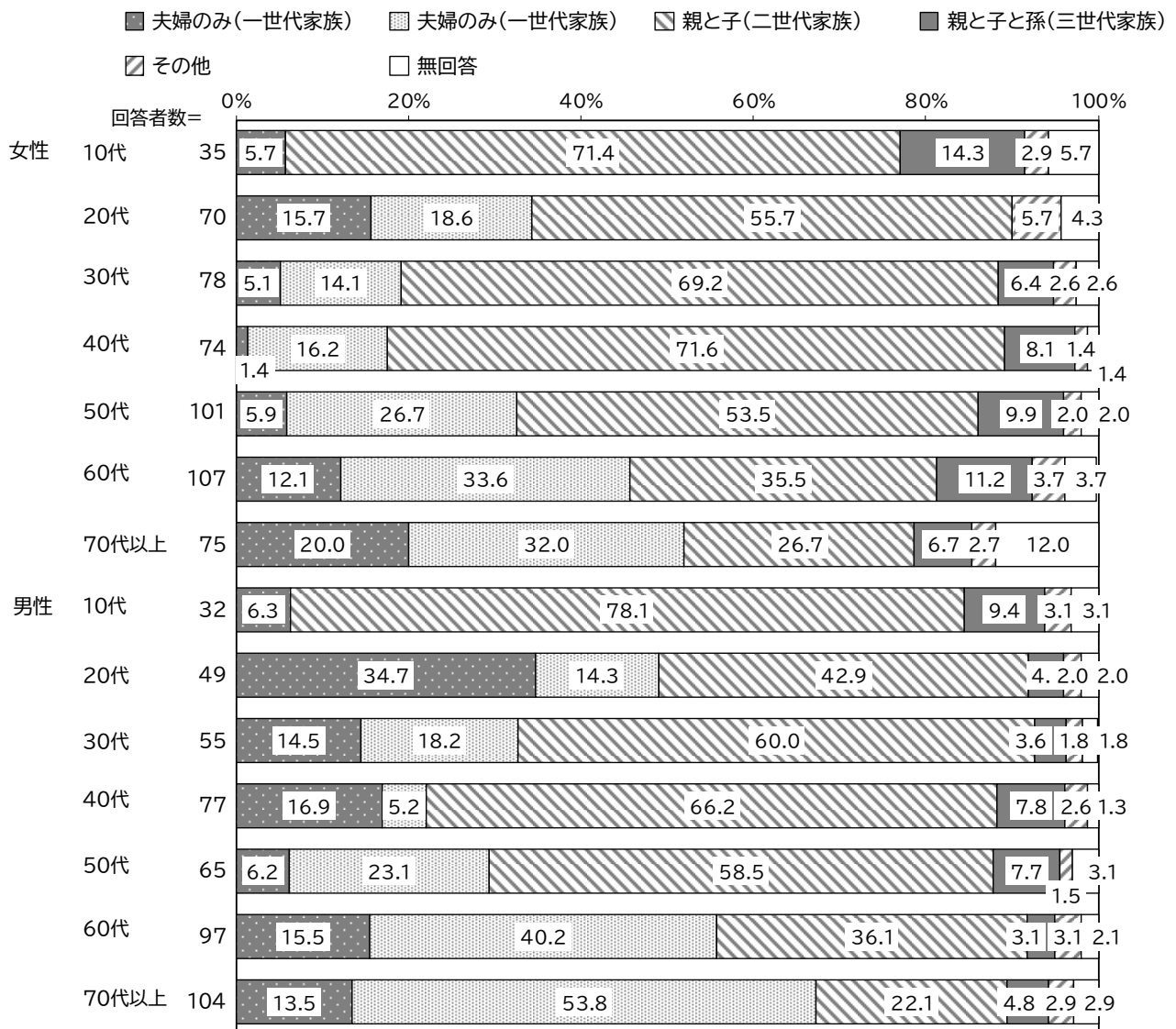
F 家族構成



【性別】



【性・年代別】



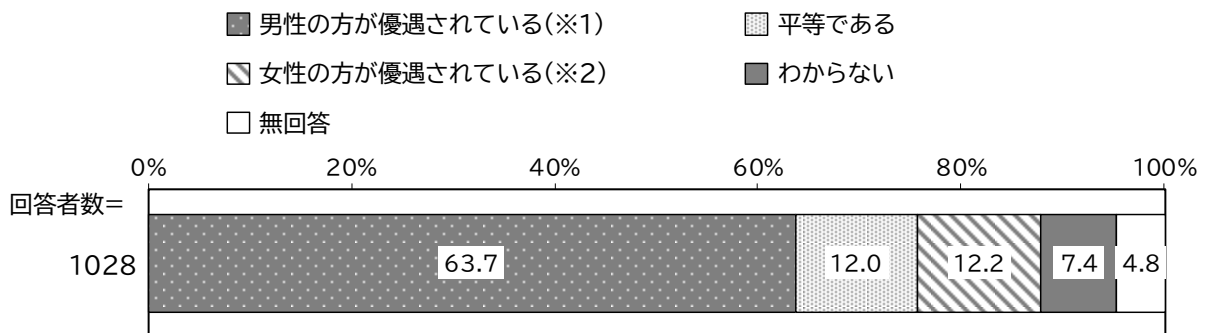
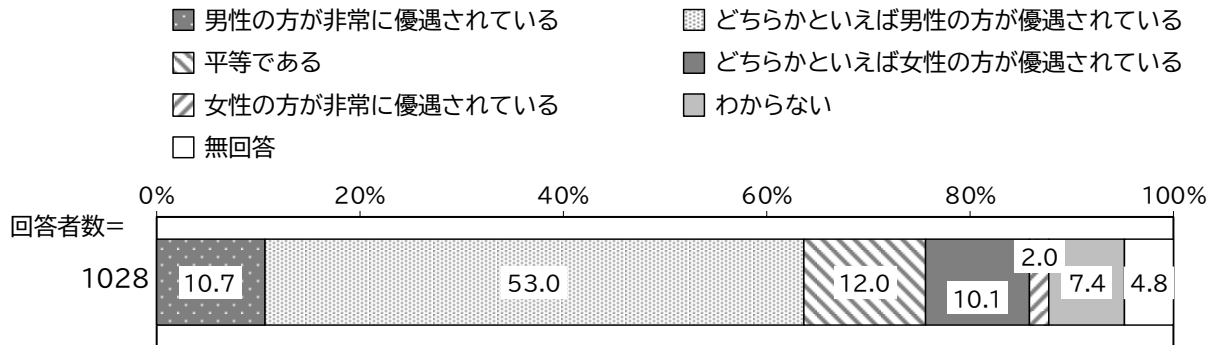
2 男女の平等感について

(1) 社会全体の男女の地位評価

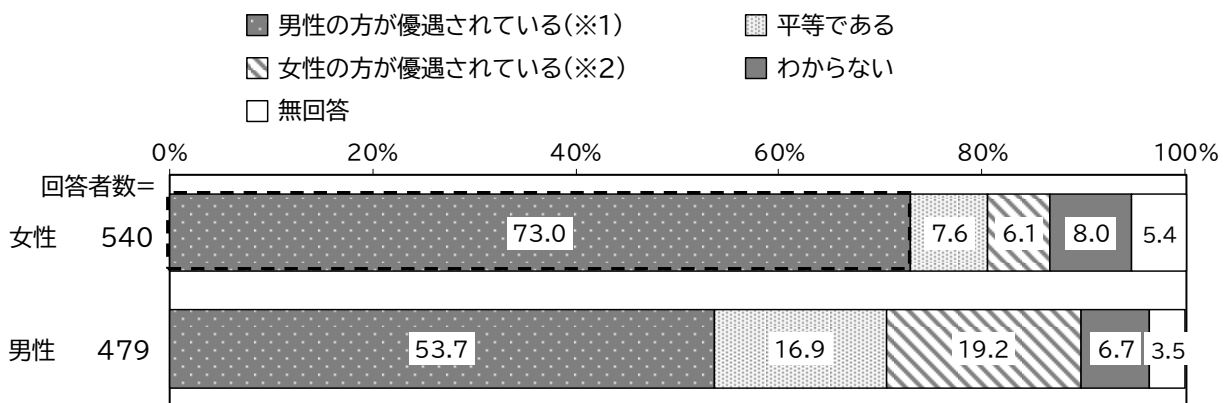
問1. 社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっていると思いますか。
【あてはまるもの1つに○】

「男性の方が優遇されている（※1）」の割合が63.7%、「平等である」の割合が12.0%、「女性の方が優遇されている（※2）」の割合が12.2%となっている。

性別別でみると、男性に比べ、女性で「男性の方が優遇されている（※1）」の割合が高い。



【性別別】



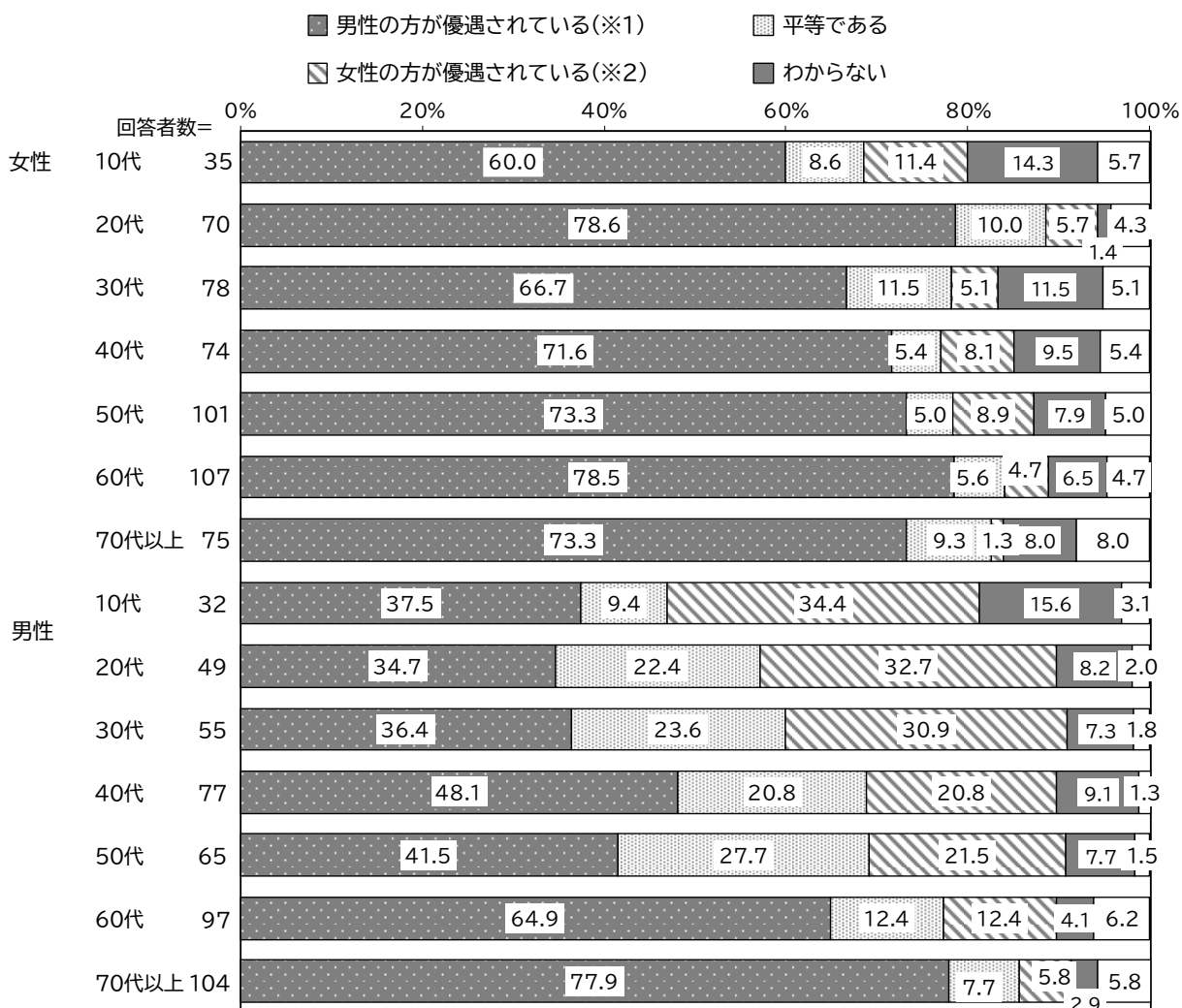
※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

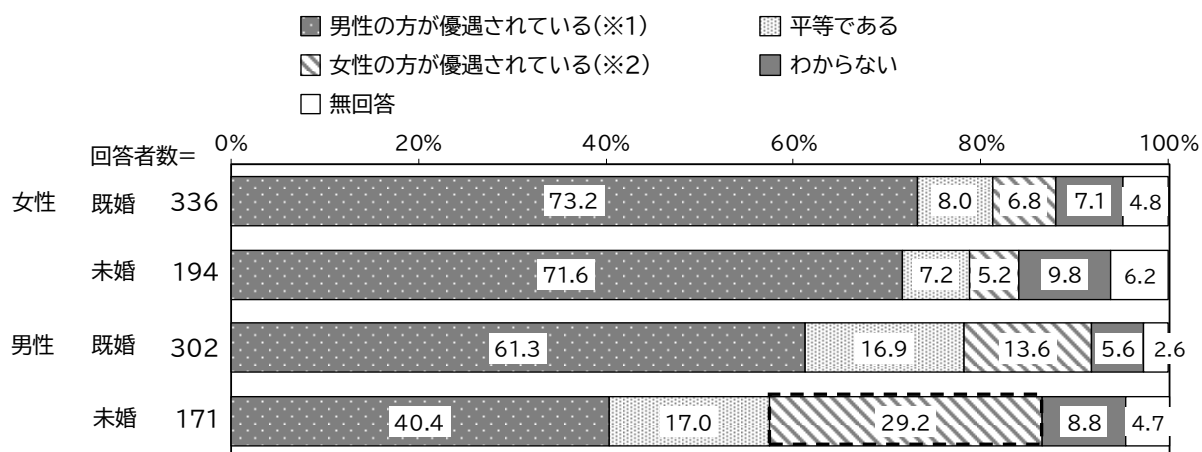
性別・年代別でみると、男性、女性ともに、年代が上がるにつれ「男性の方が優遇されている（※1）」の割合が高くなる傾向がみられる。

性別・婚姻別でみると、他に比べ、未婚男性で「女性の方が優遇されている（※2）」の割合が高い。

【性別・年代別】



【性別・婚姻別】



※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計
 ※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

国・愛知県との比較でみると、「男性の方が優遇されている A+B (※1)」の割合は、国・愛知県より低い数値となっている。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年から「男性の方が優遇されている A+B (※1)」の割合が8.2ポイント減少している。

【国・愛知県との比較・経年比較】

単位：％

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	A+B(※1) 男性の方が優遇されている	C+D(※2) 女性の方が優遇されている
国(R06.9)	11.9	62.8	16.7	6.1	0.7	-	1.7	74.7	6.8
女性	16.5	66.9	12.2	2.9	0.2	-	1.3	83.4	3.1
男性	6.7	58	21.9	9.9	1.3	-	2.3	64.6	11.2
愛知県(R06.8)	21.8	55.3	14.6	5.7	1.1	-	1.5	77.1	6.8
女性	28.9	57.2	9.7	2.6	0.3	-	1.0	86.1	2.9
男性	11.1	54.5	21.0	9.9	2.0	-	1.6	65.6	11.9
豊橋市(R07.8)	10.7	53.0	12.0	10.1	2.0	7.4	4.8	63.7	12.2
女性	13.0	60.0	7.6	5.6	0.6	8.0	5.4	73.0	6.1
男性	8.1	45.5	16.9	15.4	3.8	6.7	3.5	53.7	19.2
豊橋市(R05.8)	14.0	58.0	9.7	5.8	2.1	8.0	2.5	71.9	7.9
女性	15.3	61.6	7.9	2.5	0.2	10.1	2.2	77.0	2.7
男性	12.5	53.6	12.5	9.9	4.6	4.9	2.0	66.1	14.5
豊橋市(R03.8)	12.3	58.8	9.9	6.6	0.8	7.9	3.8	71.1	7.4
女性	14.6	63.9	5.4	3.8	0.2	7.6	4.5	78.5	4.0
男性	9.2	53.3	14.9	9.7	1.5	8.2	3.1	62.5	11.2
豊橋市(R01.8)	10.8	63.7	9.6	3.2	1.1	8.6	3.0	74.5	4.3
女性	14.0	66.8	5.8	1.4	0.2	8.9	2.9	80.8	1.6
男性	5.5	60.1	15.5	5.8	2.5	7.8	2.8	65.6	8.3
豊橋市(H28.8)	8.4	64.8	13.4	5.7	0.2	6.0	1.5	73.2	5.9
女性	10.8	68.3	8.8	2.9	0.2	7.6	1.4	79.1	3.1
男性	5.3	60.0	19.6	9.3	0.2	3.8	1.7	65.3	9.5
豊橋市(H26.9)	8.6	60.2	11.3	6.1	0.9	7.4	5.6	68.8	7.0
女性	11.3	61.9	7.0	4.5	0.3	9.3	5.8	73.2	4.8
男性	5.0	58.1	16.5	8.2	1.6	5.2	5.4	63.1	9.8
豊橋市(H23.6)	8.1	59.3	15.0	6.8	0.5	9.0	1.3	67.4	7.3
女性	10.9	63.3	9.6	4.3	0.3	10.1	1.3	74.2	4.6
男性	4.1	54.2	22.0	10.4	0.6	7.6	1.1	58.3	11.0
豊橋市(H20.5)	10.5	62.3	12.1	5.4	0.7	7.1	2.0	72.8	6.0
女性	11.4	66.0	8.3	3.7	0.5	8.7	1.4	77.4	4.2
男性	9.5	57.9	17.3	7.3	1.0	5.6	1.4	67.5	8.3
豊橋市(H17.5)	10.6	60.6	11.1	7.1	0.6	8.8	1.3	71.2	7.7
女性	13.5	64.5	6.2	3.6	0.2	10.6	1.5	78.0	3.7
男性	6.8	54.9	18.0	11.9	1.2	6.3	0.9	61.7	13.1
豊橋市(H13.8)	19.8	55.4	7.7	4.3	0.4	10.9	1.4	75.2	4.7
女性	25.6	55.4	3.9	4.1	0.0	9.7	1.2	81.0	4.1
男性	12.4	56.1	12.7	4.4	1.0	12.1	1.3	68.5	5.4

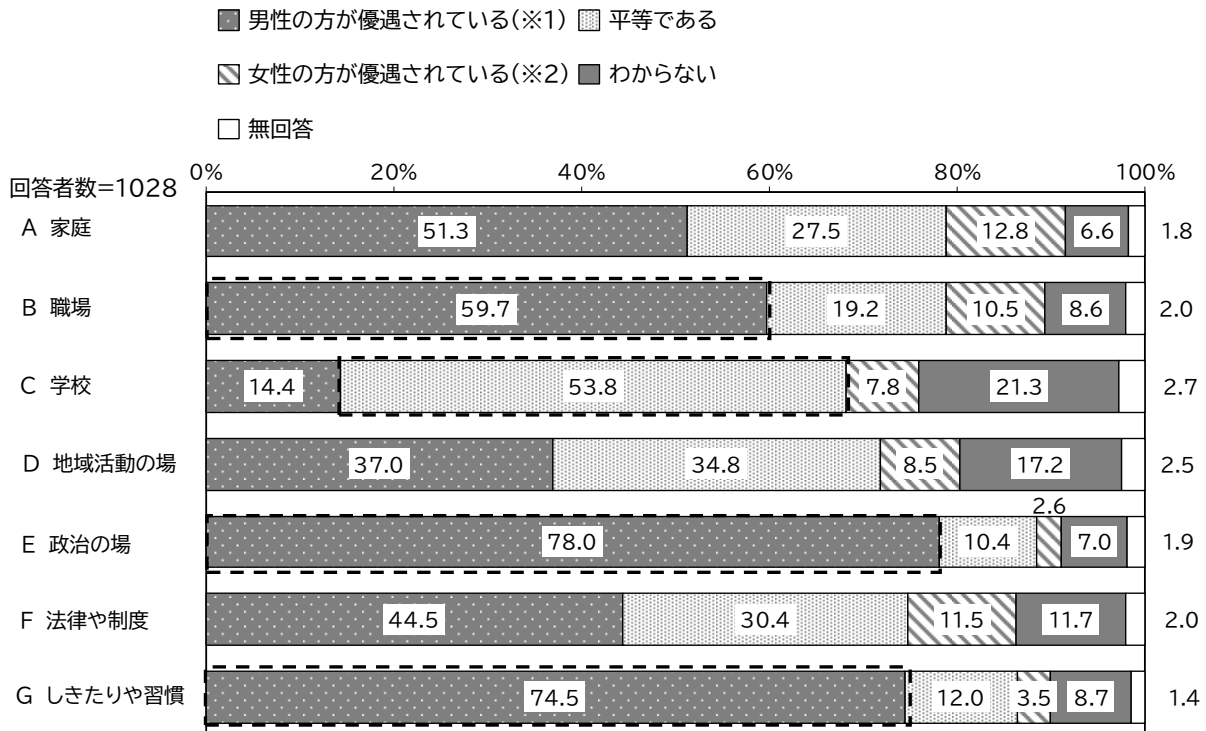
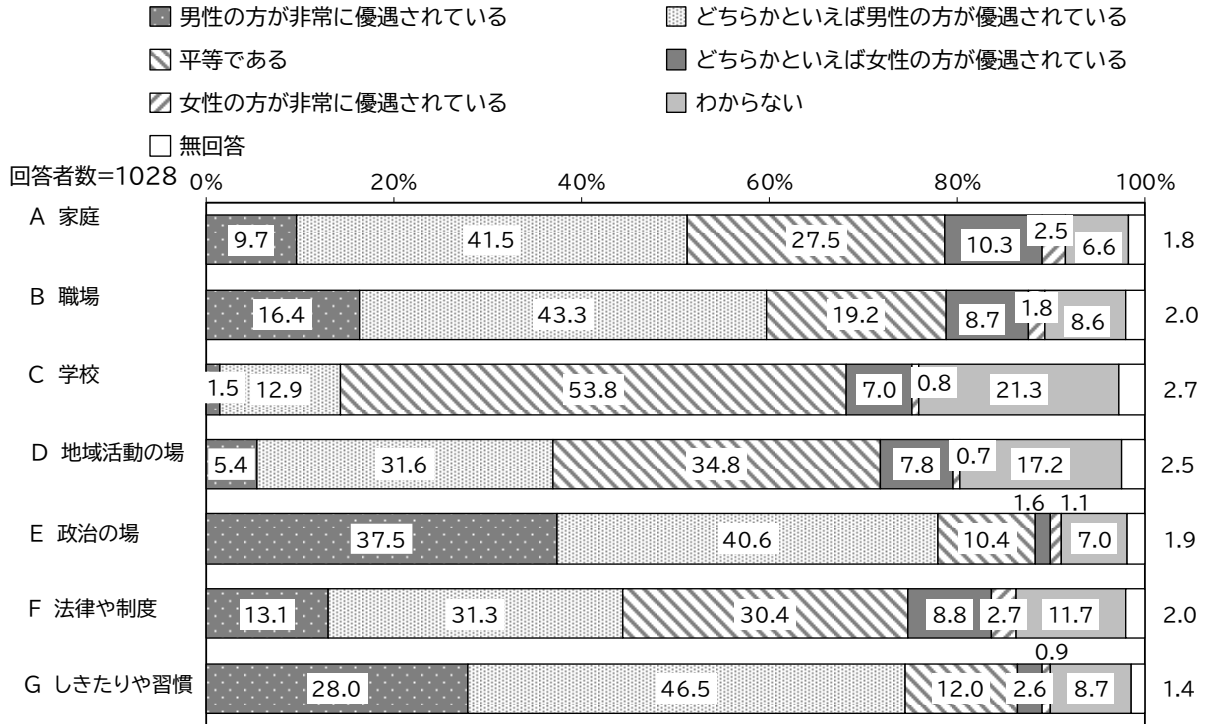
※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

(2) 各場面および分野の男女の地位評価

問2. 次の各場面および分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。
【A～Gの各項目について、あてはまるものを1つに○】

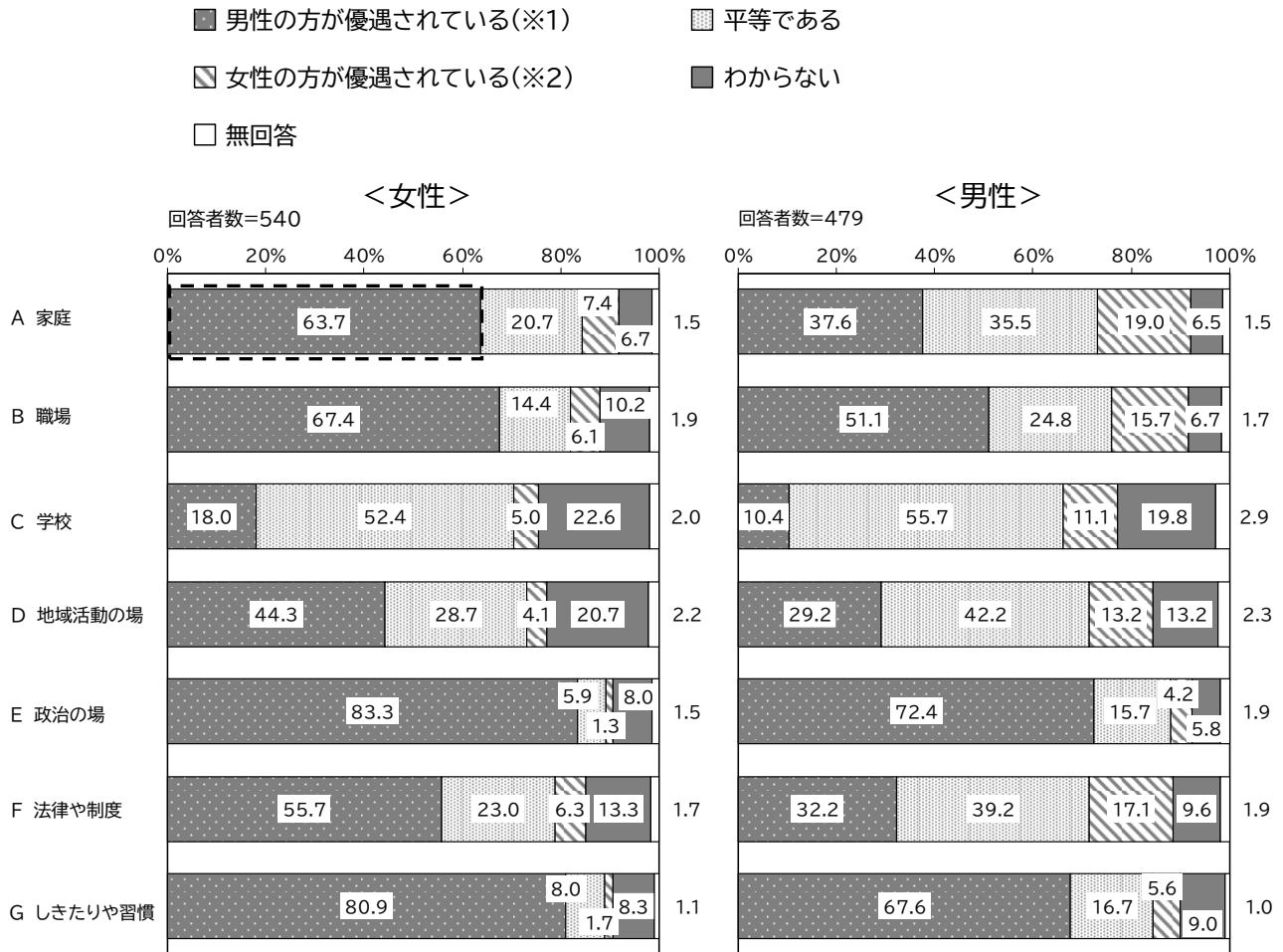
『B 職場』『E 政治の場』『G しきたりや習慣』において、「男性の方が優遇されている（※1）」の割合が高い。また、『C 学校』において「平等である」の割合が高く、5割台となっている。



※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計
 ※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

【性別別】

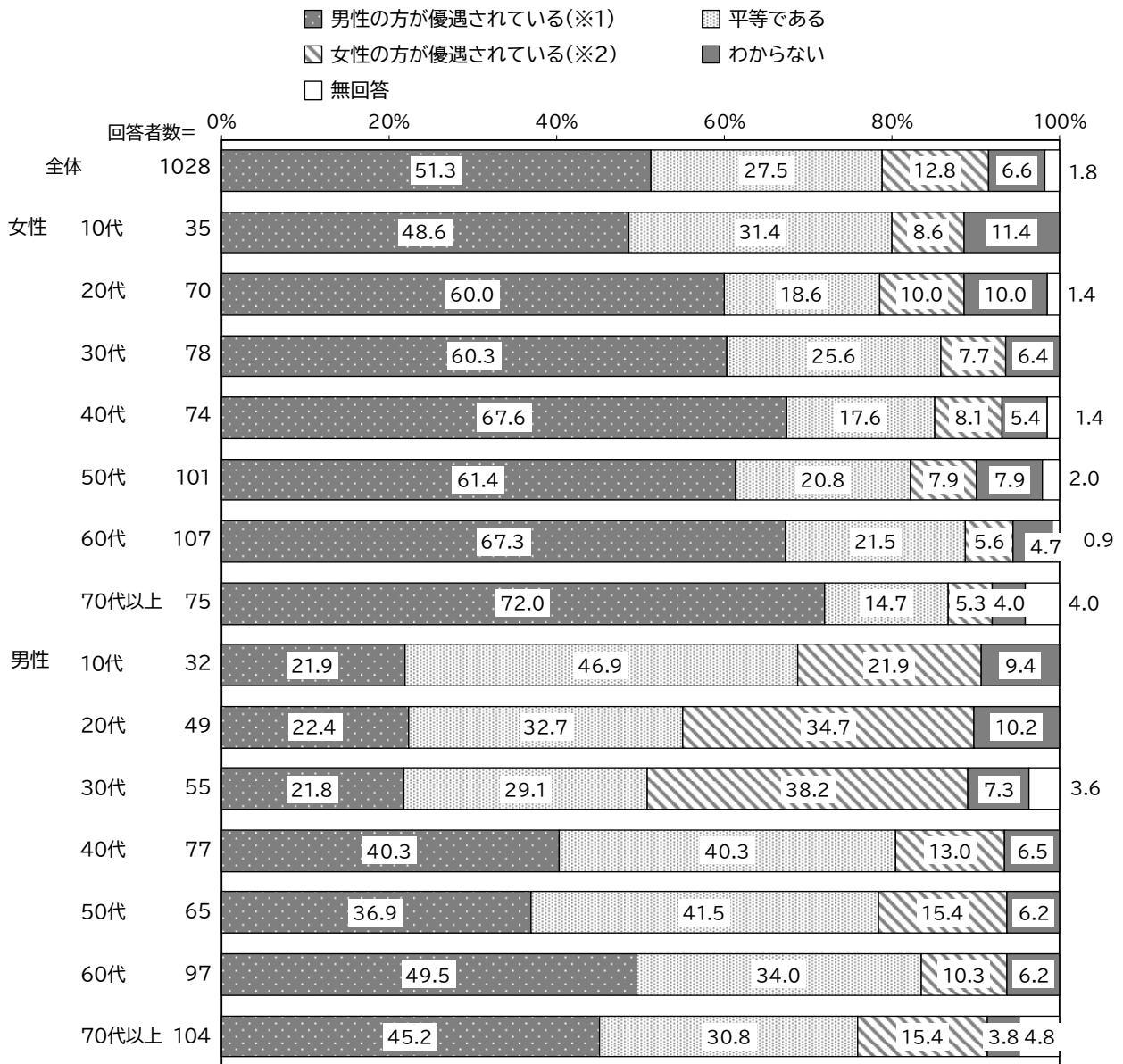
性別別でみると、いずれの項目においても、男性に比べ、女性で「男性の方が優遇されている（※1）」の割合が高く、特に『A 家庭』では約26ポイント高い。



※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計
 ※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

A 家庭

【性別・年代別】

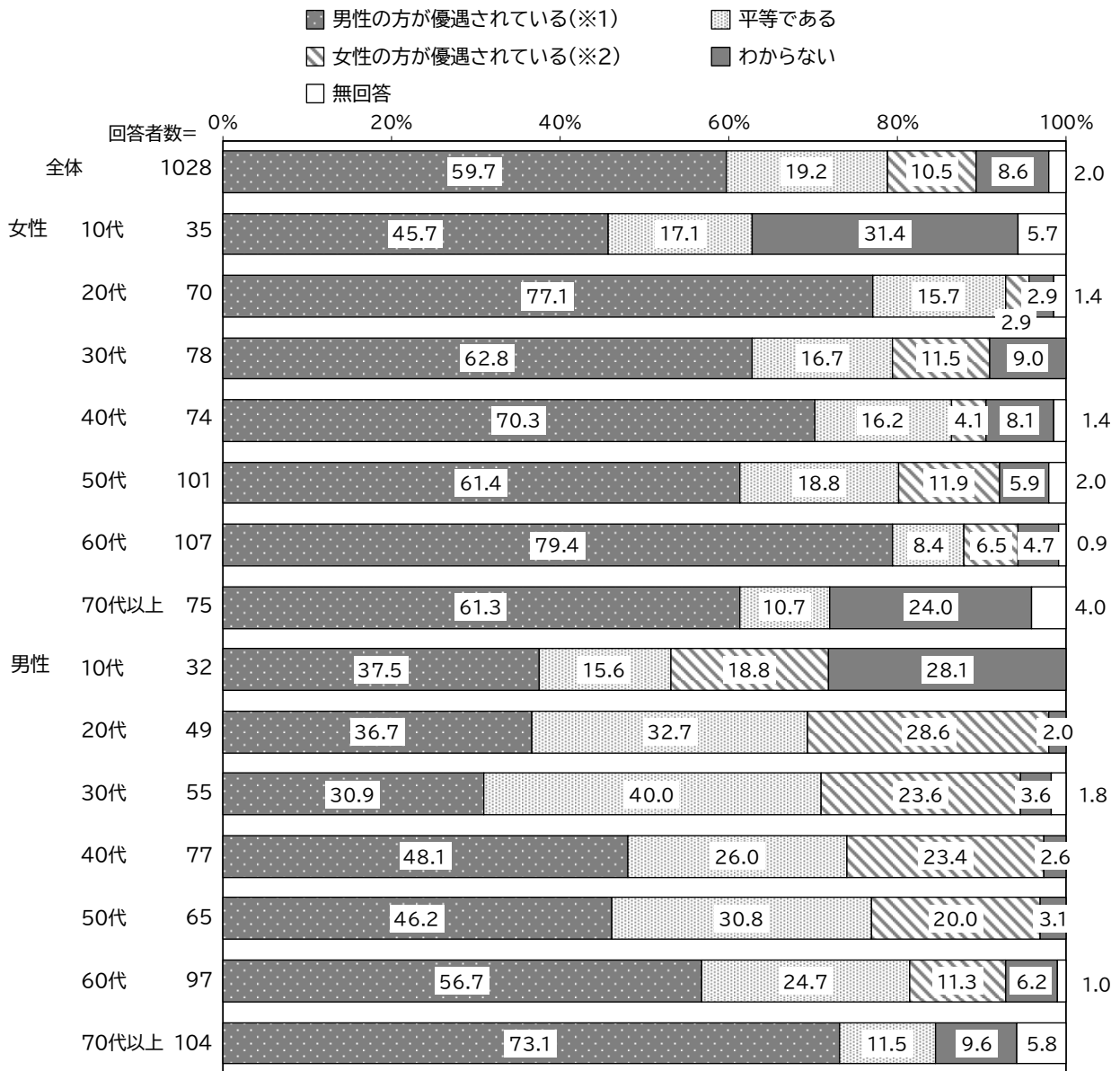


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

B 職場

【性別・年代別】

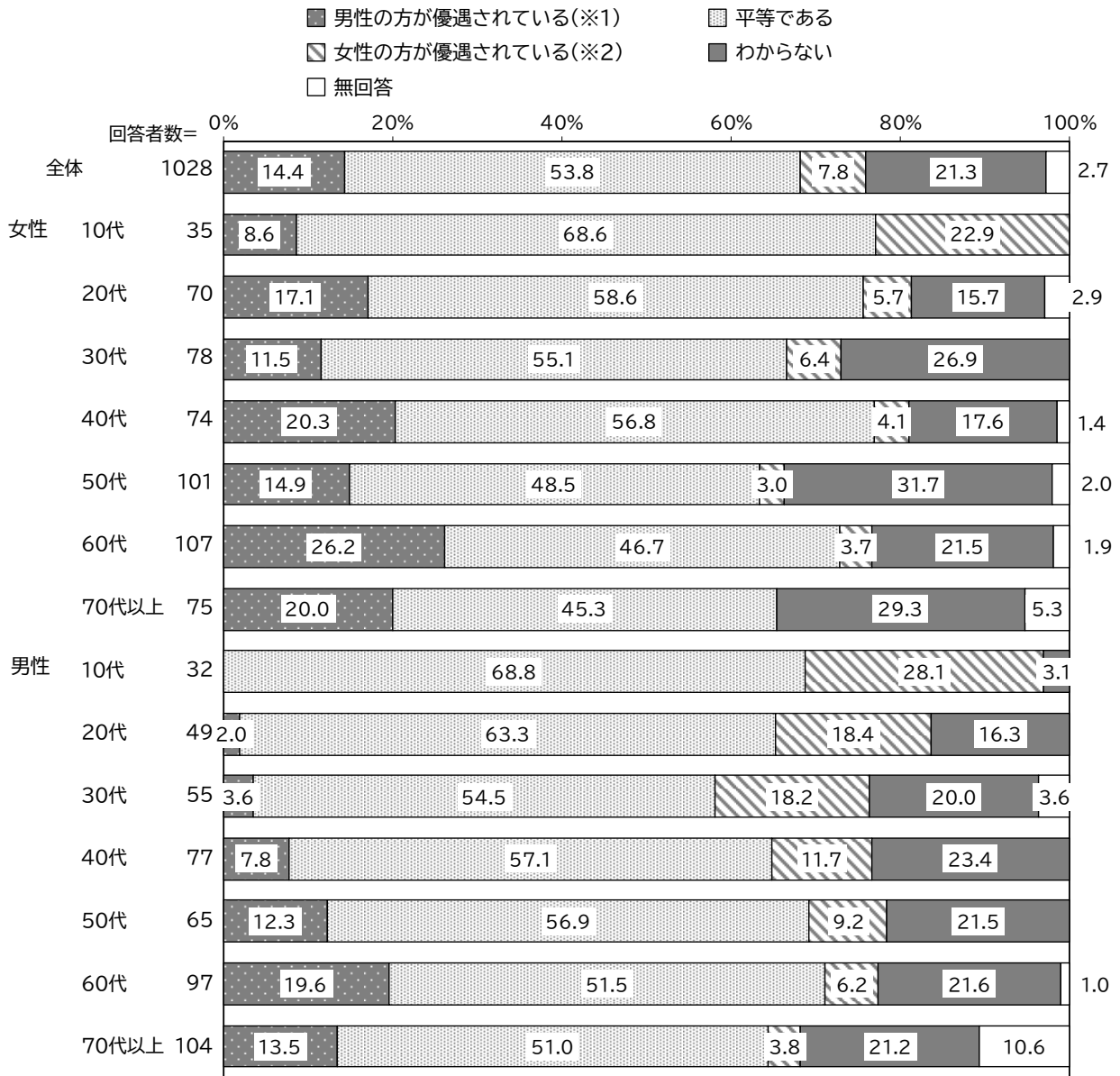


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

C 学校

【性別・年代別】

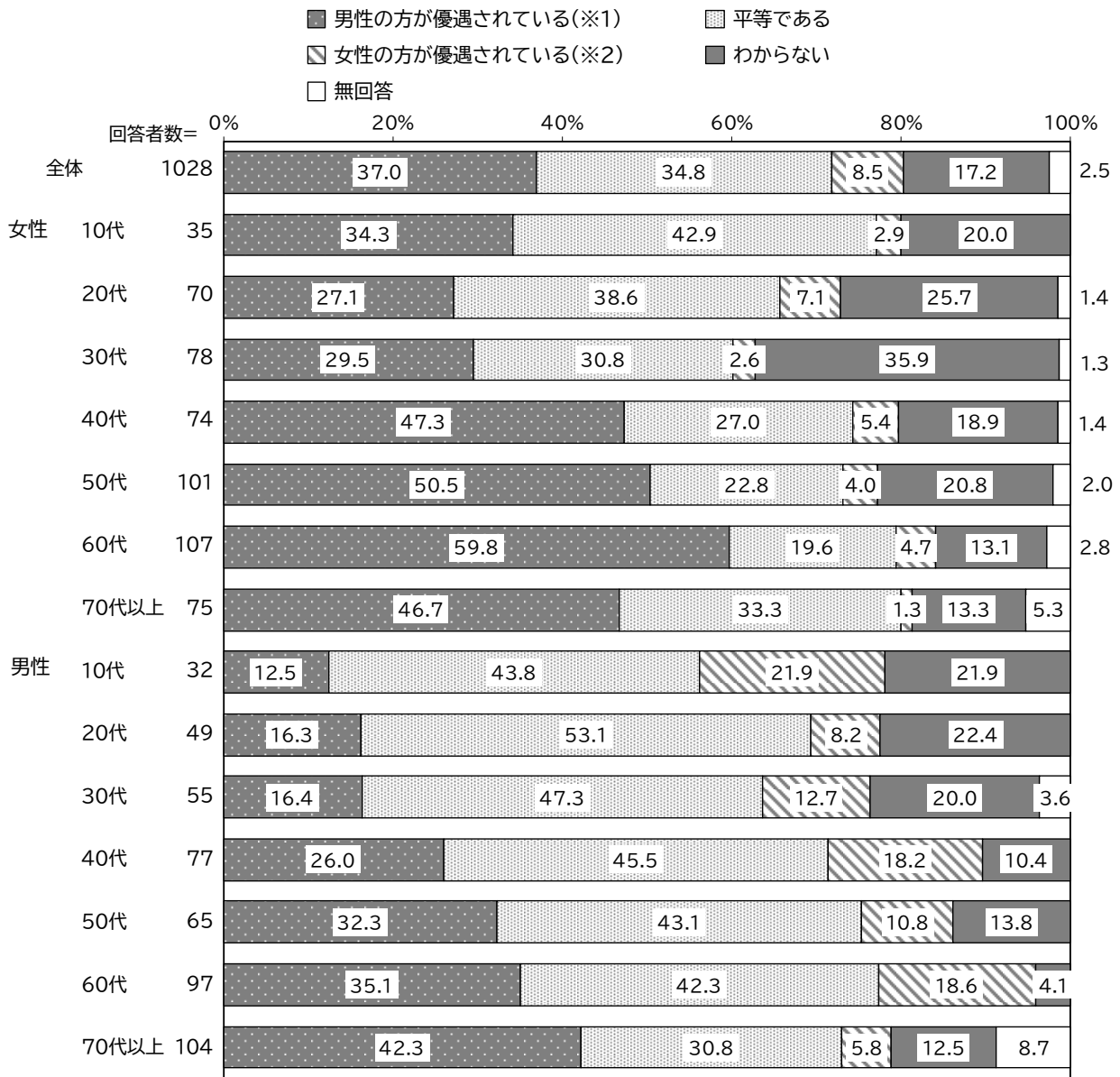


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

D 地域活動の場

【性別・年代別】

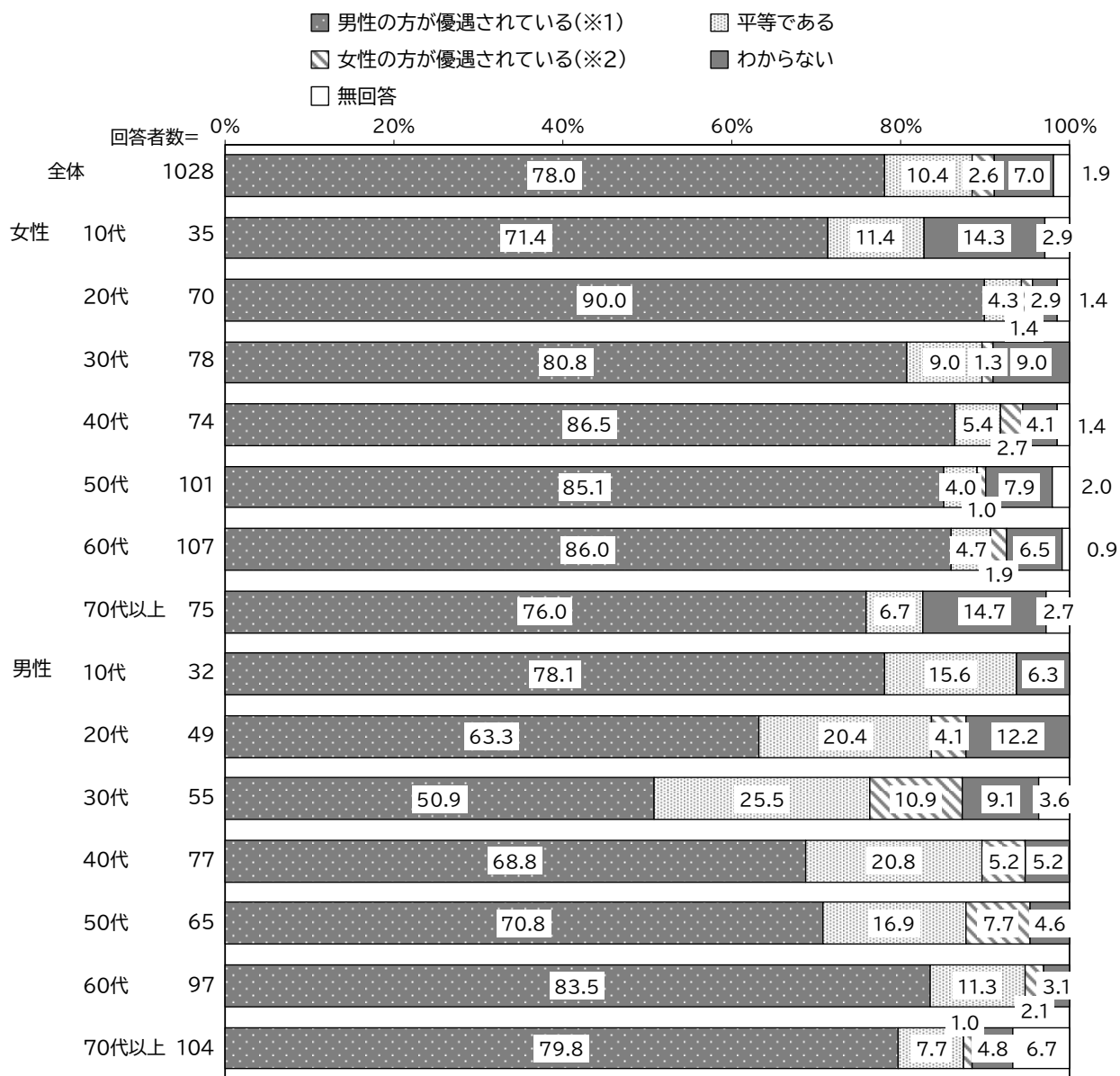


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

E 政治の場

【性別・年代別】

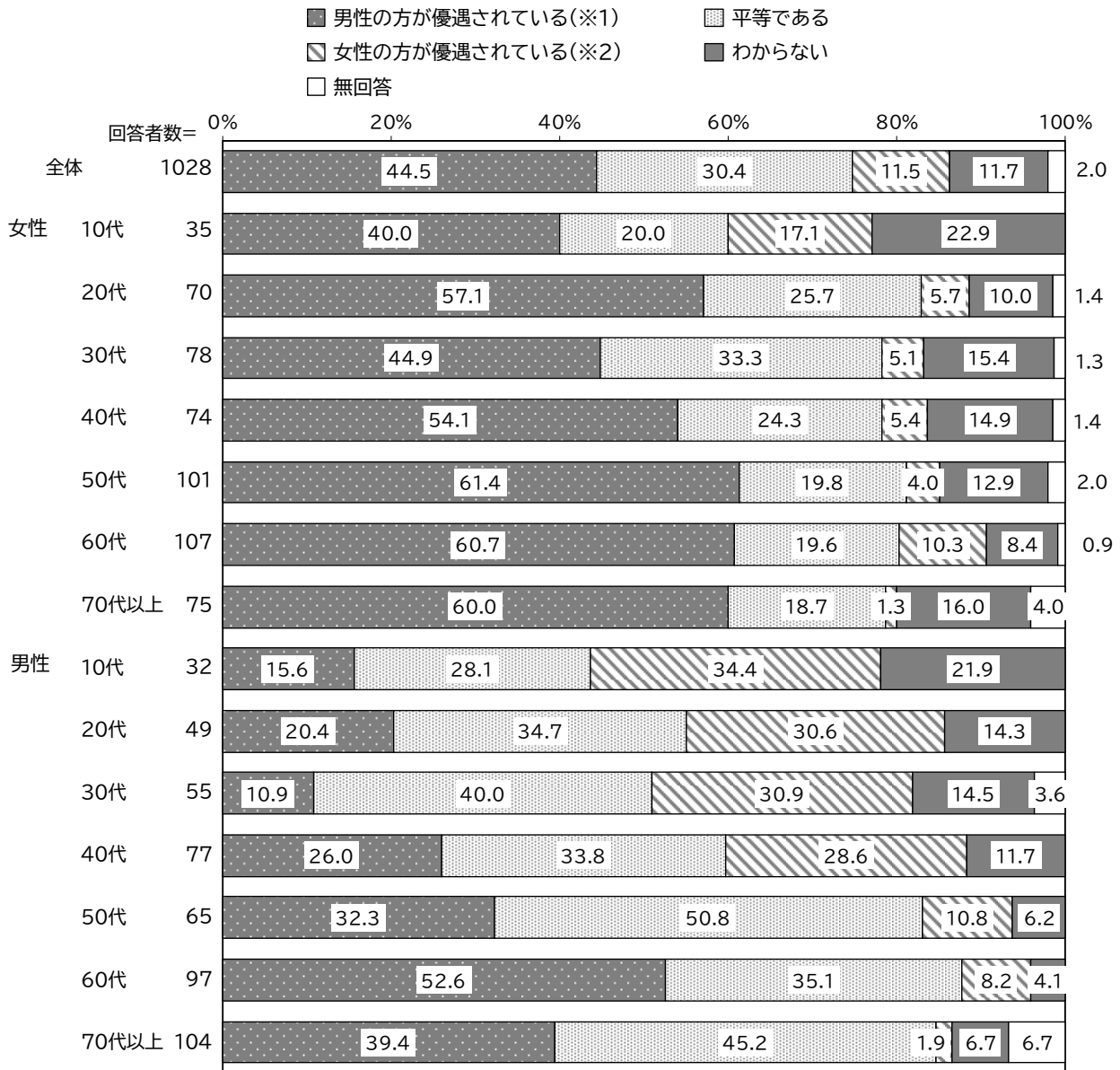


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

F 法律や制度

【性別・年代別】

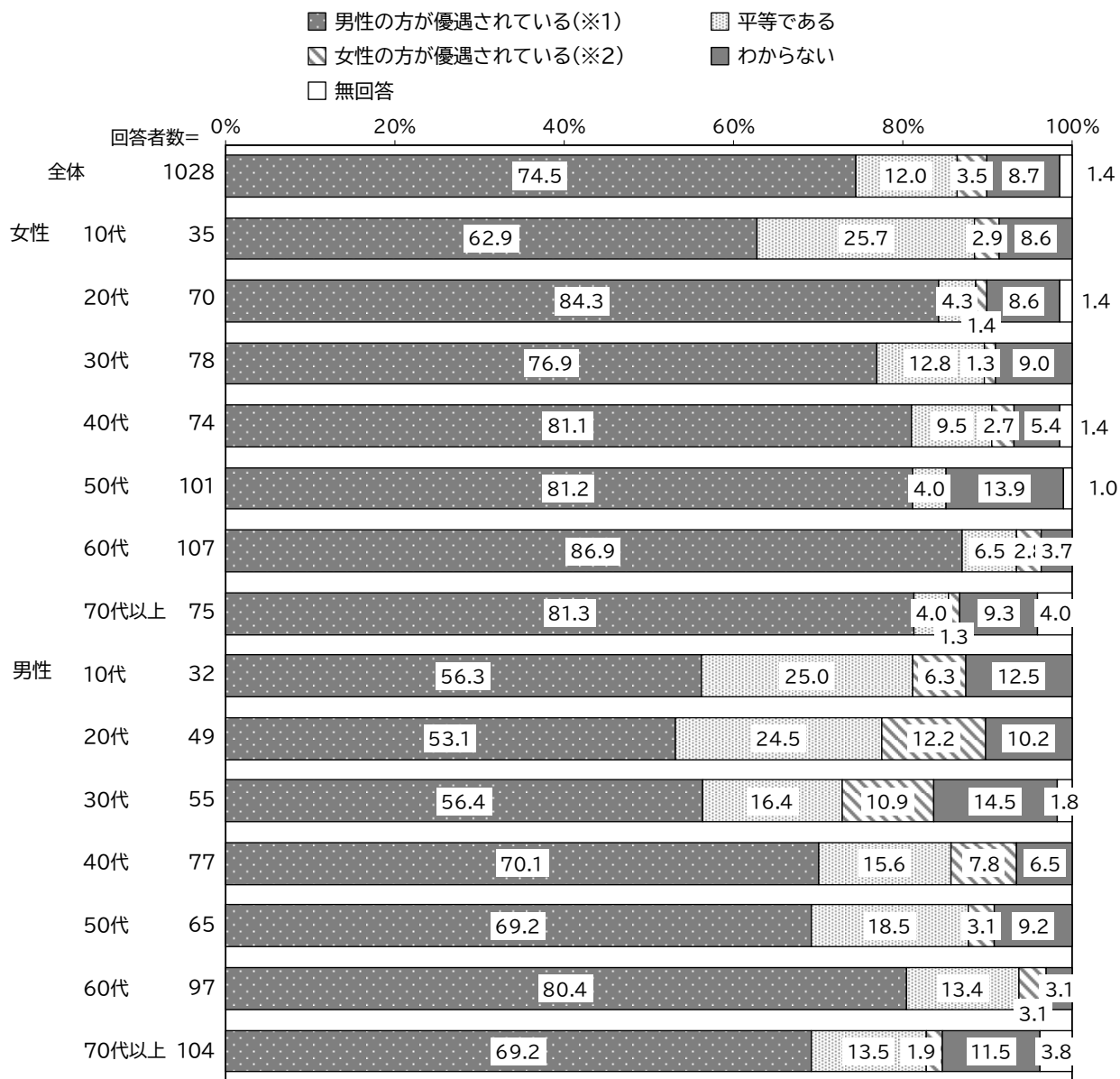


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

G しきたりや習慣

【性別・年代別】



※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

国・愛知県との比較でみると、「平等である」の割合は、『A 家庭』『B 職場』『C 学校』『D 地域活動の場』で国や愛知県より低い数値となっている。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年と比べて『B 職場』で「男性の方が優遇されている 男性が優遇されている A+B (※1)」の割合が8.8ポイント減少している。

【国・愛知県との比較・経年比較】

A 家庭

単位：％

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	A+B(※1) 男性の方が優遇されている	C+D(※2) 女性の方が優遇されている
国(R06.9)	9.3	51.4	30.0	7.8	1.2	-	0.3	60.7	9.0
女性	12.6	57.2	23.6	5.7	0.5	-	0.3	69.9	6.2
男性	5.4	44.6	37.4	10.3	2.0	-	0.2	50.0	12.3
愛知県(R06.8)	18.7	41.3	29.3	7.7	1.8	-	1.3	60.0	9.5
女性	24.7	47.0	20.4	5.9	1.2	-	0.7	71.7	7.1
男性	10.3	34.7	41.4	9.7	2.6	-	1.4	45.0	12.3
豊橋市(R07.8)	9.7	41.5	27.5	10.3	2.5	6.6	1.8	51.3	12.8
女性	15.9	47.8	20.7	6.5	0.9	6.7	1.5	63.7	7.4
男性	2.9	34.7	35.5	14.6	4.4	6.5	1.5	37.6	19.0
豊橋市(R05.8)	12.3	41.5	26.1	8.3	2.4	5.8	3.6	53.8	10.7
女性	15.6	47.5	20.3	5.7	1.5	5.9	3.5	63.1	7.2
男性	8.6	32.9	34.9	12.2	3.3	5.6	2.6	41.4	15.5
豊橋市(R03.8)	11.9	38.6	28.4	8.2	2.4	6.9	3.6	50.5	10.6
女性	15.9	45.3	20.9	6.1	1.3	7.0	3.6	61.2	7.4
男性	7.2	31.0	37.2	10.5	3.6	6.9	3.6	38.2	14.1
豊橋市(R01.8)	10.5	43.7	25.9	8.1	1.5	6.4	3.9	54.2	9.6
女性	14.2	49.1	18.1	7.0	1.6	6.6	3.3	63.3	8.6
男性	5.3	36.3	36.8	9.4	1.4	6.4	4.4	41.6	10.8
豊橋市(H28.8)	9.3	40.0	32.0	8.7	1.3	4.6	4.1	49.3	10.0
女性	12.8	45.9	24.3	6.8	1.4	4.5	4.1	58.7	8.2
男性	5.0	31.3	42.3	11.2	1.2	4.8	4.1	36.3	12.4
豊橋市(H26.9)	9.4	41.0	31.3	7.3	1.5	5.9	3.5	50.4	8.8
女性	13.6	44.4	23.4	6.5	1.2	6.8	4.1	58.0	7.7
男性	4.5	36.7	40.6	8.3	1.9	5.0	2.9	41.2	10.2
豊橋市(H23.6)	9.7	41.4	30.4	9.3	1.5	5.1	2.5	51.1	10.8
女性	13.1	47.3	23.2	8.6	1.2	4.3	2.3	60.4	9.8
男性	5.2	34.1	39.3	10.6	1.9	6.3	2.6	39.3	12.5
豊橋市(H20.5)	14.5	42.8	27.9	7.8	0.9	4.6	1.6	57.2	8.7
女性	18.6	47.3	21.7	5.5	0.6	5.0	1.4	65.8	6.1
男性	9.7	36.9	36.1	10.9	1.2	4.0	1.2	46.6	12.1
豊橋市(H17.5)	14.2	47.0	23.3	6.2	0.5	4.4	4.4	61.2	6.7
女性	20.0	48.4	18.1	4.9	0.5	4.2	3.9	68.4	5.4
男性	5.6	45.1	31.3	7.9	0.5	4.7	4.9	50.7	8.4
豊橋市(H13.8)	22.2	38.4	21.6	5.5	1.8	7.7	2.7	60.6	7.3
女性	28.4	37.3	17.0	4.5	1.4	8.5	3.0	65.7	5.9
男性	15.2	40.6	28.2	5.7	2.3	6.2	1.8	55.8	8.0

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

B 職場

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	A+B 男性の方が優遇されている(※1)	C+D 女性の方が優遇されている(※2)
国 (R06.9)	14.2	49.6	25.8	8.1	1.1	-	1.2	63.8	9.2
女性	17.2	52.6	22.8	5.6	0.4	-	1.4	69.8	6.0
男性	10.8	46.0	29.3	11.0	1.9	-	1.0	56.8	13.0
愛知県 (R06.8)	21.7	42.8	24.8	7.3	1.3	-	2.1	64.5	8.6
女性	26.6	44.9	21.4	4.9	0.6	-	1.6	71.5	5.5
男性	15.6	40.4	29.7	10.1	2.2	-	2.0	56.0	12.3
豊橋市 (R07.8)	16.4	43.3	19.2	8.7	1.8	8.6	2.0	59.7	10.5
女性	21.3	46.1	14.4	5.6	0.6	10.2	1.9	67.4	6.1
男性	10.9	40.3	24.8	12.3	3.3	6.7	1.7	51.1	15.7
豊橋市 (R05.8)	18.8	49.7	12.6	6.2	2.1	7.5	3.2	68.5	8.3
女性	20.0	54.0	11.1	2.0	0.7	9.2	3.0	74.0	2.7
男性	17.1	44.4	15.1	11.8	3.9	4.9	2.6	61.5	15.8
豊橋市 (R03.8)	17.0	47.9	14.2	7.0	1.1	8.7	4.1	64.9	8.1
女性	20.6	50.0	11.7	4.3	0.2	9.6	3.6	70.6	4.5
男性	12.6	45.9	17.2	10.3	2.1	7.4	4.6	58.5	12.4
豊橋市 (R01.8)	16.4	50.6	14.5	4.8	0.8	7.1	5.8	67.0	5.6
女性	19.8	51.1	13.0	2.5	0.2	8.0	5.4	70.9	2.7
男性	10.8	50.1	17.2	7.8	1.7	5.8	6.6	60.9	9.5
豊橋市 (H28.8)	15.9	44.0	19.2	6.4	1.2	7.2	6.2	59.9	7.6
女性	18.9	43.6	17.8	4.1	0.7	8.1	6.7	62.5	4.8
男性	12.0	44.5	21.1	9.6	1.9	6.0	5.0	56.5	11.5
豊橋市 (H26.9)	16.0	44.5	17.4	5.8	1.6	8.8	5.9	60.5	7.4
女性	20.2	43.3	13.8	3.8	0.7	11.9	6.3	63.5	4.5
男性	11.1	45.8	21.7	8.0	2.7	5.2	5.4	56.9	10.7
豊橋市 (H23.6)	14.6	50.1	17.7	6.5	0.4	7.2	3.5	64.7	6.9
女性	18.7	51.6	13.8	4.5	0.0	8.1	3.3	70.3	4.5
男性	9.1	48.6	22.9	9.1	0.9	6.3	3.2	57.7	10.0
豊橋市 (H20.5)	16.5	52.7	14.7	5.3	0.5	6.9	3.4	69.2	5.8
女性	19.5	52.0	12.0	3.4	0.5	9.4	3.3	71.5	3.9
男性	13.1	53.4	18.5	7.3	0.6	4.2	3.0	66.5	7.9
豊橋市 (H17.5)	15.9	50.3	13.5	5.1	0.6	7.0	7.7	66.2	5.7
女性	19.4	51.6	9.8	3.3	0.0	9.0	7.0	71.0	3.3
男性	11.2	48.6	19.2	7.7	1.2	4.2	7.9	59.8	8.9
豊橋市 (H13.8)	26.6	43.3	12.2	3.5	1.4	6.2	6.8	69.9	4.9
女性	32.3	43.0	9.1	2.2	1.4	6.3	5.7	75.3	3.6
男性	19.1	44.4	16.8	4.9	1.6	5.7	7.5	63.5	6.5

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

C 学校

単位：％

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている(A+B)(※1)	女性の方が優遇されている(C+D)(※2)
国(R06.9)	2.4	19.5	70.4	5.6	0.4	-	1.6	21.9	6.1
女性	2.7	24.0	67.4	4.0	-	-	1.9	26.7	4.0
男性	2.0	14.4	73.8	7.6	1.0	-	1.2	16.4	8.6
愛知県(R06.8)	6.1	20.3	62.8	7.0	0.6	-	3.2	26.4	7.6
女性	8.0	25.3	58.2	5.4	0.3	-	2.9	33.3	5.7
男性	3.8	14.3	68.7	8.9	1.0	-	3.4	18.1	9.9
豊橋市(R07.8)	1.5	12.9	53.8	7.0	0.8	21.3	2.7	14.4	7.8
女性	2.2	15.7	52.4	4.6	0.4	22.6	2.0	18.0	5.0
男性	0.6	9.8	55.7	9.8	1.3	19.8	2.9	10.4	11.1
豊橋市(R05.8)	2.5	15.5	52.3	5.1	1.4	18.4	4.8	18.0	6.5
女性	3.2	16.3	52.7	4.2	0.2	19.6	3.7	19.6	4.5
男性	1.6	14.1	52.0	6.6	2.6	17.4	5.6	15.8	9.2
豊橋市(R03.8)	3.0	15.9	54.4	4.8	0.6	16.2	5.2	18.9	5.4
女性	4.0	18.2	51.3	3.8	0.0	17.3	5.4	22.2	3.8
男性	1.5	13.1	57.9	5.9	1.3	15.1	5.1	14.6	7.2
豊橋市(R01.8)	2.2	15.8	53.9	3.0	0.7	17.4	7.1	18.0	3.7
女性	2.3	19.6	52.8	1.6	0.2	17.7	5.8	21.9	1.8
男性	1.7	10.5	55.1	4.7	1.4	17.7	8.9	12.2	6.1
豊橋市(H28.8)	1.8	13.8	53.0	3.6	0.6	18.1	9.1	15.6	4.2
女性	2.0	16.9	52.3	1.8	0.2	16.6	10.3	18.9	2.0
男性	1.7	9.3	54.3	6.2	1.2	20.1	7.2	11.0	7.4
豊橋市(H26.9)	1.6	13.0	52.6	2.8	1.0	19.8	9.2	14.6	3.8
女性	2.3	16.7	48.6	1.8	0.0	21.2	9.3	19.0	1.8
男性	0.8	8.5	57.7	4.1	2.1	18.1	8.7	9.3	6.2
豊橋市(H23.6)	2.4	11.6	58.4	5.4	0.2	16.7	5.5	14.0	5.6
女性	2.8	14.1	57.4	4.0	0.0	16.6	5.1	16.9	4.0
男性	1.9	7.8	59.8	7.3	0.4	17.3	5.4	9.7	7.7
豊橋市(H20.5)	2.2	13.6	59.1	4.6	0.6	16.0	3.9	15.8	5.2
女性	3.1	17.2	55.5	3.4	0.3	16.8	3.6	20.3	3.7
男性	1.2	9.3	64.3	6.0	1.0	14.7	3.6	10.5	6.9
豊橋市(H17.5)	2.1	12.2	56.0	3.2	0.7	17.7	8.1	14.3	3.9
女性	2.4	14.8	52.9	2.1	0.3	20.2	7.2	17.3	2.4
男性	1.4	8.4	61.9	4.4	1.2	13.8	8.9	9.8	5.6
豊橋市(H13.8)	3.7	15.9	54.8	3.2	1.5	13.2	7.7	19.6	4.7
女性	5.7	19.9	49.1	2.4	0.8	15.8	6.3	25.6	3.2
男性	1.3	10.9	62.3	4.7	1.8	10.6	8.5	12.2	6.5

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

D 地域活動の場

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	A+B 男性の方が優遇されている(※1)	C+D 女性の方が優遇されている(※2)
国 (R06.9)	8.8	38.2	40.3	9.3	1.2	-	2.2	47.0	10.5
女性	11.8	41.6	37.0	7.2	0.5	-	1.9	53.4	7.7
男性	5.3	34.3	44.0	11.8	2.1	-	2.5	39.6	13.9
愛知県 (R06.8)	12.9	35.3	40.5	8.2	0.8	-	2.3	48.2	9.0
女性	17.2	40.8	33.1	6.5	0.3	-	2.0	58.0	6.8
男性	7.1	27.7	51.5	10.5	1.4	-	1.8	34.8	11.9
豊橋市 (R07.8)	5.4	31.6	34.8	7.8	0.7	17.2	2.5	37.0	8.5
女性	8.0	36.3	28.7	3.9	0.2	20.7	2.2	44.3	4.1
男性	2.5	26.7	42.2	11.9	1.3	13.2	2.3	29.2	13.2
豊橋市 (R05.8)	7.6	33.9	32.4	5.4	1.1	15.6	4.0	41.5	6.5
女性	8.4	37.4	28.0	3.7	0.5	18.1	4.0	45.8	4.2
男性	6.6	29.3	38.8	7.2	2.0	12.8	3.3	35.9	9.2
豊橋市 (R03.8)	7.7	32.2	34.2	6.3	0.7	13.8	5.0	39.9	7.0
女性	9.6	36.8	28.5	3.8	0.2	15.7	5.4	46.4	4.0
男性	5.4	27.2	40.8	9.2	1.0	11.8	4.6	32.6	10.2
豊橋市 (R01.8)	5.1	32.4	35.0	6.3	1.0	14.6	5.5	37.5	7.3
女性	5.6	36.9	29.1	5.8	0.6	16.9	5.2	42.5	6.4
男性	4.4	25.8	42.9	7.2	1.7	12.2	5.8	30.2	8.9
豊橋市 (H28.8)	4.8	33.6	36.0	6.9	0.5	11.9	6.4	38.4	7.4
女性	6.7	37.7	30.5	4.7	0.5	12.8	7.2	44.4	5.2
男性	2.4	28.0	43.1	10.0	0.5	11.0	5.0	30.4	10.5
豊橋市 (H26.9)	5.2	30.1	34.0	7.7	0.9	16.2	5.9	35.3	8.6
女性	6.6	33.3	27.9	5.8	0.2	20.4	5.8	39.9	6.0
男性	3.5	26.4	41.0	10.1	1.7	11.7	5.6	29.9	11.8
豊橋市 (H23.6)	7.0	35.1	33.4	5.9	0.1	14.5	4.0	42.1	6.0
女性	8.5	39.5	25.9	5.0	0.2	17.1	4.0	48.0	5.2
男性	5.2	28.5	44.1	7.1	0.0	11.7	3.5	33.7	7.1
豊橋市 (H20.5)	5.5	28.2	39.3	9.0	0.9	13.1	3.9	33.8	9.9
女性	7.2	34.9	33.7	5.9	0.6	14.4	3.3	42.1	6.6
男性	3.6	20.6	46.2	12.7	1.0	11.9	4.0	24.2	13.7
豊橋市 (H17.5)	5.4	30.3	37.3	7.3	0.2	12.3	7.2	35.7	7.5
女性	6.4	33.9	32.6	6.4	0.0	14.0	6.8	40.2	6.4
男性	4.0	24.8	45.3	8.9	0.5	9.6	7.0	28.7	9.3
豊橋市 (H13.8)	10.5	33.9	30.1	7.3	1.2	12.1	5.0	44.4	8.5
女性	13.2	36.9	24.3	4.3	1.0	15.2	5.1	50.1	5.3
男性	7.5	30.5	37.2	10.9	1.3	8.5	4.1	38.0	12.2

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

E 政治の場

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない	無回答	A+B 男性の方が優遇されている (※1)	C+D 女性の方が優遇されている (※2)
国 (R06.9)	44.1	43.8	9.4	1.9	0.3	-	0.6	87.9	2.1
女性	50.7	41.6	5.6	1.2	0.1	-	0.9	92.3	1.3
男性	36.4	46.3	13.8	2.7	0.5	-	0.3	82.7	3.2
愛知県 (R06.8)	48.0	38.4	9.7	1.6	0.5	-	1.8	86.4	2.1
女性	56.4	36.3	4.9	0.6	0.3	-	1.4	92.7	0.9
男性	36.8	41.6	16.0	3.2	0.8	-	1.6	78.4	4.0
豊橋市 (R07.8)	37.5	40.6	10.4	1.6	1.1	7.0	1.9	78.0	2.6
女性	44.6	38.7	5.9	0.6	0.7	8.0	1.5	83.3	1.3
男性	29.4	43.0	15.7	2.7	1.5	5.8	1.9	72.4	4.2
豊橋市 (R05.8)	46.9	33.5	8.3	1.1	0.7	5.8	3.7	80.4	1.8
女性	54.2	31.4	4.7	0.2	0.2	5.9	3.2	85.6	0.5
男性	37.8	36.8	12.8	2.3	1.3	5.3	3.6	74.7	3.6
豊橋市 (R03.8)	41.8	34.9	8.6	1.2	0.4	8.9	4.2	76.7	1.6
女性	49.6	31.8	4.3	0.9	0.0	9.0	4.5	81.4	0.9
男性	32.8	38.7	13.3	1.5	0.8	9.0	3.8	71.5	2.3
豊橋市 (R01.8)	36.2	40.4	8.8	0.6	0.3	9.0	4.7	76.6	0.9
女性	43.1	38.4	4.9	0.2	-	9.1	4.3	81.5	0.2
男性	26.6	43.8	13.9	1.1	0.8	8.9	5.0	70.4	1.9

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

F 法律や制度

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	A+B 男性の方が優遇されている(※1)	C+D 女性の方が優遇されている(※2)
国 (R06.9)	21.2	57.0	16.3	3.4	0.5	-	1.6	78.2	3.9
女性	26.0	59.2	11.8	1.7	0.1	-	1.1	85.3	1.8
男性	15.6	54.4	21.5	5.5	0.9	-	2.1	70.0	6.4
愛知県 (R06.8)	19.5	37.5	31.5	8.0	1.5	-	1.9	57.0	9.5
女性	24.6	44.7	23.4	5.2	0.4	-	1.6	69.3	5.6
男性	12.5	28.3	42.4	12.1	3.0	-	1.8	40.8	15.1
豊橋市 (R07.8)	13.1	31.3	30.4	8.8	2.7	11.7	2.0	44.5	11.5
女性	19.3	36.5	23.0	5.7	0.6	13.3	1.7	55.7	6.3
男性	6.3	25.9	39.2	11.9	5.2	9.6	1.9	32.2	17.1
豊橋市 (R05.8)	15.5	30.2	24.5	7.7	2.5	15.6	4.0	45.6	10.2
女性	18.1	33.4	19.6	4.5	0.5	20.3	3.7	51.5	5.0
男性	11.8	26.6	31.6	12.2	5.3	9.2	3.3	38.5	17.4
豊橋市 (R03.8)	17.0	29.4	29.1	7.0	1.0	12.0	4.4	46.4	8.0
女性	20.6	33.4	20.9	4.9	0.0	15.0	5.2	54.0	4.9
男性	12.6	25.1	38.7	9.2	2.1	8.7	3.6	37.7	11.3
豊橋市 (R01.8)	12.2	35.2	28.4	4.6	0.9	11.9	6.8	47.4	5.5
女性	16.3	39.4	22.5	2.3	0.2	13.2	6.2	55.7	2.5
男性	6.4	30.2	36.6	8.0	1.9	9.4	7.5	36.6	9.9
豊橋市 (H28.8)	7.8	35.3	32.0	5.7	1.4	11.9	6.0	43.1	7.1
女性	10.6	38.7	25.8	4.0	0.2	14.4	6.3	49.3	4.2
男性	4.1	30.9	39.7	8.1	3.1	8.9	5.3	35.0	11.2
豊橋市 (H26.9)	7.3	31.9	33.5	7.1	1.4	13.2	5.6	39.2	8.5
女性	10.0	35.8	25.4	5.6	0.2	17.2	5.8	45.8	5.8
男性	4.1	27.4	42.7	8.9	2.9	8.7	5.2	31.5	11.8
豊橋市 (H23.6)	7.3	31.5	32.7	8.8	0.9	14.7	4.1	38.8	9.7
女性	10.3	36.0	24.7	6.3	0.3	18.4	4.0	46.3	6.6
男性	3.0	25.7	43.2	12.3	1.7	10.4	3.7	28.7	14.0
豊橋市 (H20.5)	6.7	32.5	34.5	7.9	0.9	13.9	3.6	39.2	8.8
女性	9.5	40.6	25.4	3.9	0.3	17.0	3.3	50.1	4.2
男性	3.4	23.4	45.4	12.9	1.4	10.1	3.4	26.8	14.3
豊橋市 (H17.5)	6.5	35.8	30.2	7.7	0.8	12.4	6.6	42.3	8.4
女性	9.4	42.3	21.8	5.7	0.3	14.5	5.9	51.8	6.0
男性	2.6	26.4	42.5	10.7	1.4	9.3	7.0	29.0	12.1
豊橋市 (H13.8)	13.1	34.6	29.8	5.0	1.4	11.4	4.8	47.7	6.4
女性	18.7	39.6	18.3	3.6	0.6	14.4	4.7	58.3	4.2
男性	6.2	29.2	44.4	7.0	2.3	7.0	3.9	35.4	9.3

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

G しきたりや習慣

単位：％

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	A+B 男性の方が優遇されている(※1)	C+D 女性の方が優遇されている(※2)
国 (R04.11)	24.1	57.8	12.9	3.1	0.3	-	1.9	81.8	3.3
女性	29.1	57.0	9.9	1.9	0.2	-	2.0	86.0	2.1
男性	18.2	58.7	16.4	4.4	0.4	-	1.9	76.9	4.8
愛知県 (R06.8)	32.7	47.5	14.1	2.9	0.7	-	2.1	80.2	3.6
女性	41.5	45.7	9.1	1.7	0.1	-	1.7	87.2	1.8
男性	21.0	51.1	20.2	4.6	1.4	-	1.8	72.1	6.0
豊橋市 (R07.8)	28.0	46.5	12.0	2.6	0.9	8.7	1.4	74.5	3.5
女性	35.7	45.2	8.0	1.1	0.6	8.3	1.1	80.9	1.7
男性	19.6	48.0	16.7	4.4	1.3	9.0	1.0	67.6	5.6
豊橋市 (R05.8)	27.0	46.5	9.7	3.0	1.2	9.1	3.5	73.4	4.3
女性	26.7	49.5	6.9	1.7	0.5	11.4	3.2	76.2	2.2
男性	27.3	42.4	13.8	4.9	2.3	6.3	3.0	69.7	7.2
豊橋市 (R03.8)	28.5	44.5	11.4	2.9	0.7	8.3	3.7	73.0	3.6
女性	34.1	42.4	8.5	2.2	0.4	8.5	3.8	76.5	2.6
男性	21.8	47.2	14.6	3.6	1.0	8.2	3.6	69.0	4.6
豊橋市 (R01.8)	26.5	45.2	10.6	2.2	0.3	9.4	5.7	71.7	2.5
女性	32.4	42.5	8.5	1.9	0.2	9.5	5.2	74.9	2.1
男性	17.7	50.1	14.1	2.8	0.6	8.3	6.4	67.8	3.4
豊橋市 (H28.8)	17.7	50.1	15.3	3.3	0.5	7.8	5.4	67.8	3.8
女性	22.3	49.2	12.3	2.5	0.4	7.9	5.4	71.5	2.9
男性	11.5	51.7	18.9	4.5	0.7	7.7	5.0	63.2	5.2
豊橋市 (H26.9)	18.6	49.7	13.8	2.7	0.7	9.4	5.1	68.3	3.4
女性	23.2	47.6	10.3	1.8	0.2	10.8	6.1	70.8	2.0
男性	13.4	51.5	18.3	3.7	1.4	8.0	3.9	64.9	5.1
豊橋市 (H23.6)	18.8	50.0	14.4	2.3	0.4	10.7	3.4	68.8	2.7
女性	24.4	49.6	10.3	1.3	0.0	11.1	3.3	74.0	1.3
男性	11.0	51.0	20.1	3.7	0.9	10.4	3.0	62.0	4.6
豊橋市 (H20.5)	21.0	49.9	14.5	2.7	0.7	8.3	2.8	70.9	3.4
女性	26.2	50.2	9.7	1.6	0.5	9.5	2.3	76.4	2.0
男性	14.9	50.2	20.4	4.2	0.8	6.7	2.8	65.1	5.0
豊橋市 (H17.5)	22.6	49.2	12.0	2.6	0.0	7.8	5.9	71.8	2.6
女性	28.8	47.1	9.4	1.5	0.0	8.0	5.2	75.9	1.5
男性	13.6	53.3	15.9	4.0	0.0	7.2	6.1	66.8	4.0
豊橋市 (H13.8)	39.0	41.2	7.7	1.6	0.6	6.7	3.1	80.2	2.2
女性	46.7	35.5	5.3	1.2	0.2	8.3	2.8	82.2	1.4
男性	28.9	49.6	10.6	2.1	1.0	4.4	3.4	78.5	3.1

※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

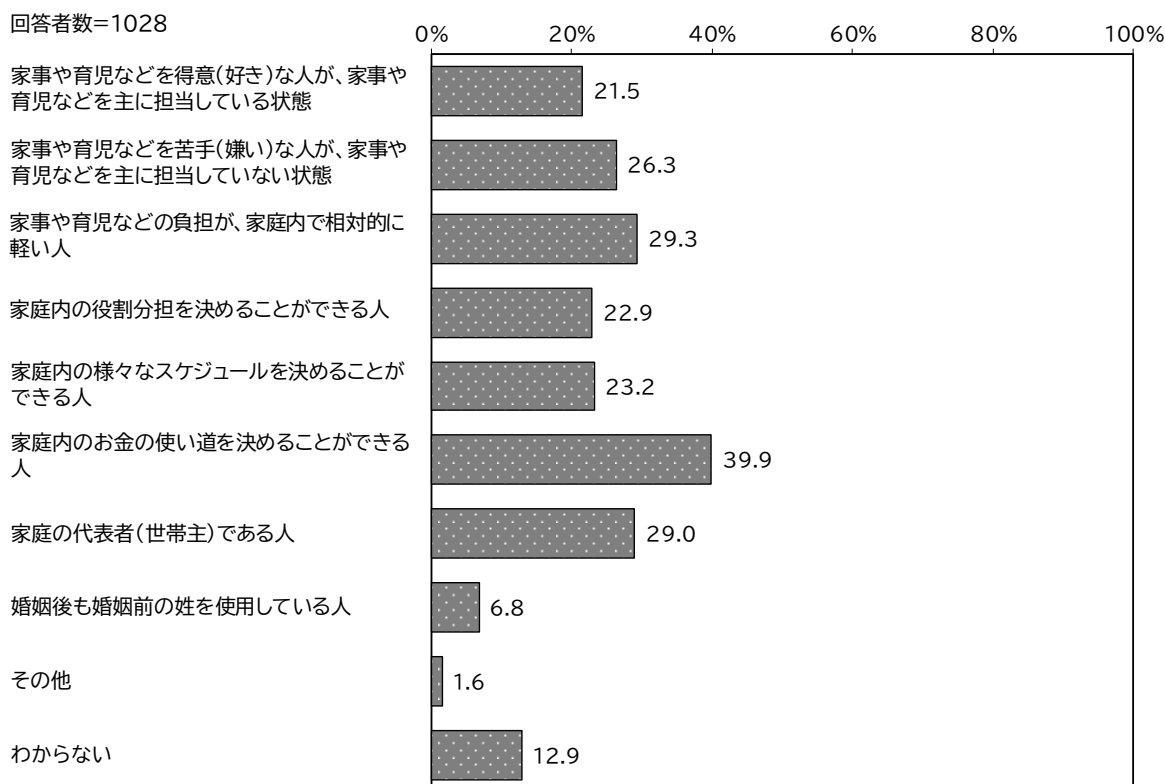
(3) 家庭において優遇されていると思う理由

問2-1. 家庭において、一般的にどのような状態や人が「優遇」されていると思いますか。【あてはまるものすべてに○】

※優遇とは家庭内で決定権を持っていることや、希望を通すことができること。

「家庭内のお金の使い道を決めることができる人」の割合が39.9%と最も高く、次いで「家事や育児などの負担が、家庭内で相対的に軽い人」の割合が29.3%、「家庭の代表者（世帯主）である人」の割合が29.0%となっている。

性別別でみると、男性に比べ、女性で「家事や育児などの負担が、家庭内で相対的に軽い人」「家事や育児などを苦手（嫌い）な人が、家事や育児などを主に担当していない状態」「婚姻後も婚姻前の姓を使用している人」の割合が高い。



【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	家事や育児などを得意(好き)な人が、家事や育児などを主に担当している状態	家事や育児などを苦手(嫌い)な人が、家事や育児などを主に担当していない状態	家事や育児などの負担が、家庭内で相対的に軽い人	家庭内の役割分担を決めることができる人	家庭内の様々なスケジュールを決めることができる人	家庭内のお金の使い道を決めることができる人	家庭の代表者(世帯主)である人	婚姻後も婚姻前の姓を使用している人	その他	わからない	無回答
女性	540	19.8	30.4	35.9	19.8	21.1	39.8	30.6	9.3	2.4	10.7	0.9
男性	479	23.4	21.9	21.7	25.9	24.8	40.1	27.6	4.2	0.6	15.4	1.5

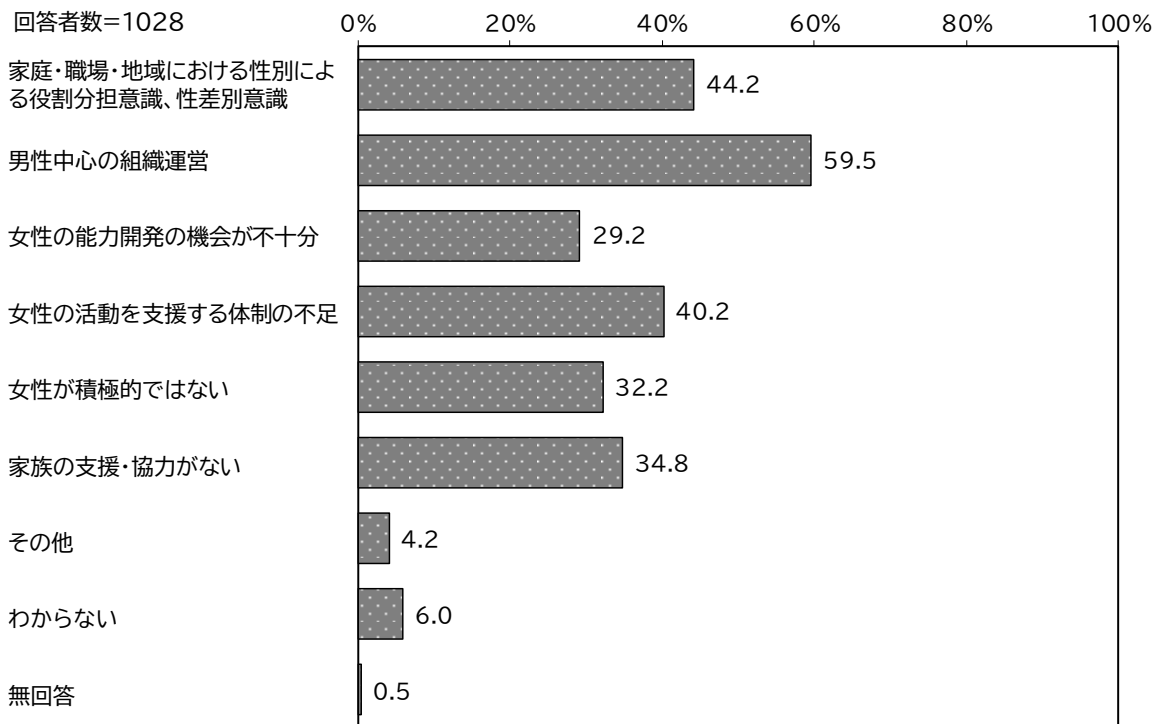
3 意思決定の場への女性の参画について

(1) 政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由

問3. 豊橋市では、現在、政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い状況にあります。その理由は何だと思えますか。
【あてはまるものをすべてに○】

「男性中心の組織運営」の割合が59.5%と最も高く、次いで「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」の割合が44.2%、「女性の活動を支援する体制の不足」の割合が40.2%となっている。

性別別でみると、男性に比べ、女性で「家族の支援・協力がない」「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」「女性の活動を支援する体制の不足」「男性中心の組織運営」の割合が高い。



【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援する体制の不足	女性が積極的ではない	家族の支援・協力がない	その他	わからない	無回答
女性	540	50.4	62.4	31.3	44.8	26.3	43.0	4.6	5.6	0.4
男性	479	37.6	56.8	27.1	34.9	39.0	25.7	3.8	6.1	0.4

性別・年代別でみると、女性はその年代も「男性中心の組織運営」の割合が高い。また、男性はその年代も「女性が積極的ではない」の割合が同年代の女性より高い傾向がある。

他に比べ、女性10代・20代で「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」の割合が、女性10代・60代・70代以上、男性10代・60代・70代以上で「女性の能力開発の機会が不十分」の割合が、女性60代・70代以上、男性60代・70代以上で「女性の活動を支援する体制の不足」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：％

区分	回答者数(件)	家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援する体制の不足	女性が積極的ではない	家族の支援・協力が無い	その他	わからない	無回答
女性 10代	35	60.0	60.0	34.3	31.4	40.0	20.0	0.0	8.6	0.0
20代	70	57.1	57.1	22.9	42.9	12.9	45.7	5.7	7.1	0.0
30代	78	50.0	61.5	24.4	39.7	30.8	48.7	6.4	3.8	0.0
40代	74	40.5	62.2	23.0	39.2	24.3	39.2	8.1	4.1	0.0
50代	101	53.5	62.4	29.7	46.5	24.8	44.6	5.9	6.9	0.0
60代	107	51.4	71.0	39.3	50.5	29.0	49.5	2.8	2.8	0.0
70代以上	75	44.0	57.3	44.0	53.3	28.0	37.3	1.3	8.0	2.7
男性 10代	32	37.5	40.6	37.5	15.6	40.6	9.4	0.0	9.4	0.0
20代	49	40.8	49.0	18.4	22.4	34.7	16.3	4.1	4.1	0.0
30代	55	23.6	32.7	25.5	25.5	40.0	18.2	10.9	12.7	0.0
40代	77	23.4	64.9	14.3	28.6	36.4	26.0	6.5	1.3	0.0
50代	65	38.5	47.7	16.9	30.8	46.2	30.8	1.5	7.7	0.0
60代	97	47.4	66.0	41.2	42.3	40.2	33.0	3.1	6.2	0.0
70代以上	104	44.2	69.2	31.7	51.9	36.5	28.8	1.0	4.8	1.9

豊橋市の令和5年の調査との比較でみると、「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」「男性中心の組織運営」「女性の活動を支援する体制の不足」「家族の支援・協力が無い」で割合が減少している。

【経年比較】

単位：％

	家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援する体制の不足	女性が積極的ではない	家族の支援・協力が無い	その他	わからない	無回答
豊橋市（R07.8）	44.2	59.5	29.2	40.2	32.2	34.8	4.2	6.0	0.5
女性	50.4	62.4	31.3	44.8	26.3	43.0	4.6	5.6	0.4
男性	37.6	56.8	27.1	34.9	39.0	25.7	3.8	6.1	0.4
豊橋市（R05.8）	47.4	62.0	29.2	46.5	32.1	40.2	2.8	3.2	1.7
女性	52.7	65.1	29.7	48.0	30.0	45.3	3.0	3.2	1.0
男性	41.1	58.2	29.3	45.1	34.9	33.9	2.6	3.0	1.3
豊橋市（R03.8）	56.6	61.9	31.1	50.3	34.4	42.6	3.3	5.2	0.5
女性	61.4	66.6	32.3	54.0	35.0	49.6	3.6	4.7	0.4
男性	50.8	56.4	29.5	46.2	33.8	34.4	3.1	5.9	0.5
豊橋市（R01.8）	51.8	58.0	27.9	50.0	34.0	41.0	3.3	4.7	1.1
女性	59.2	58.8	29.3	50.3	35.9	48.5	3.5	3.5	1.0
男性	41.0	57.6	26.0	49.0	32.7	30.2	2.8	6.6	1.4
豊橋市（H28.8）	44.1	55.7	30.7	48.6	36.0	35.8	2.8	5.4	0.5
女性	48.8	54.1	33.2	51.5	34.8	46.1	2.9	4.9	0.4
男性	38.8	57.9	27.3	44.7	37.6	22.5	2.9	6.0	0.5
豊橋市（H26.9）	45.2	52.8	25.1	45.9	31.1	31.8	3.4	5.9	2.9
女性	48.3	51.1	26.2	45.3	32.3	36.5	2.7	5.6	4.0
男性	41.6	54.6	23.9	47.0	28.9	26.2	4.1	6.2	1.7

4 家庭・仕事・地域活動のバランスについて

(1) 平日・休日の活動時間

問4. 次のA～Gの項目について、1日の中で平均してどのくらいの時間をあてていますか。【平日と休日、それぞれについて時間数を記入】(まったくしない場合は「0」を、30分する場合は「0.5」のように記入してください)

平日では、男女とも『A 仕事(収入の得られる労働)』の時間が最も長くなっている。

『B 家事(掃除・洗濯・炊事など)』、『C 子育て(乳幼児から学生まで)』、『D 介護・看護』の家庭内の活動は、いずれも平日休日ともに女性が男性よりも2倍以上時間が長くなっている。

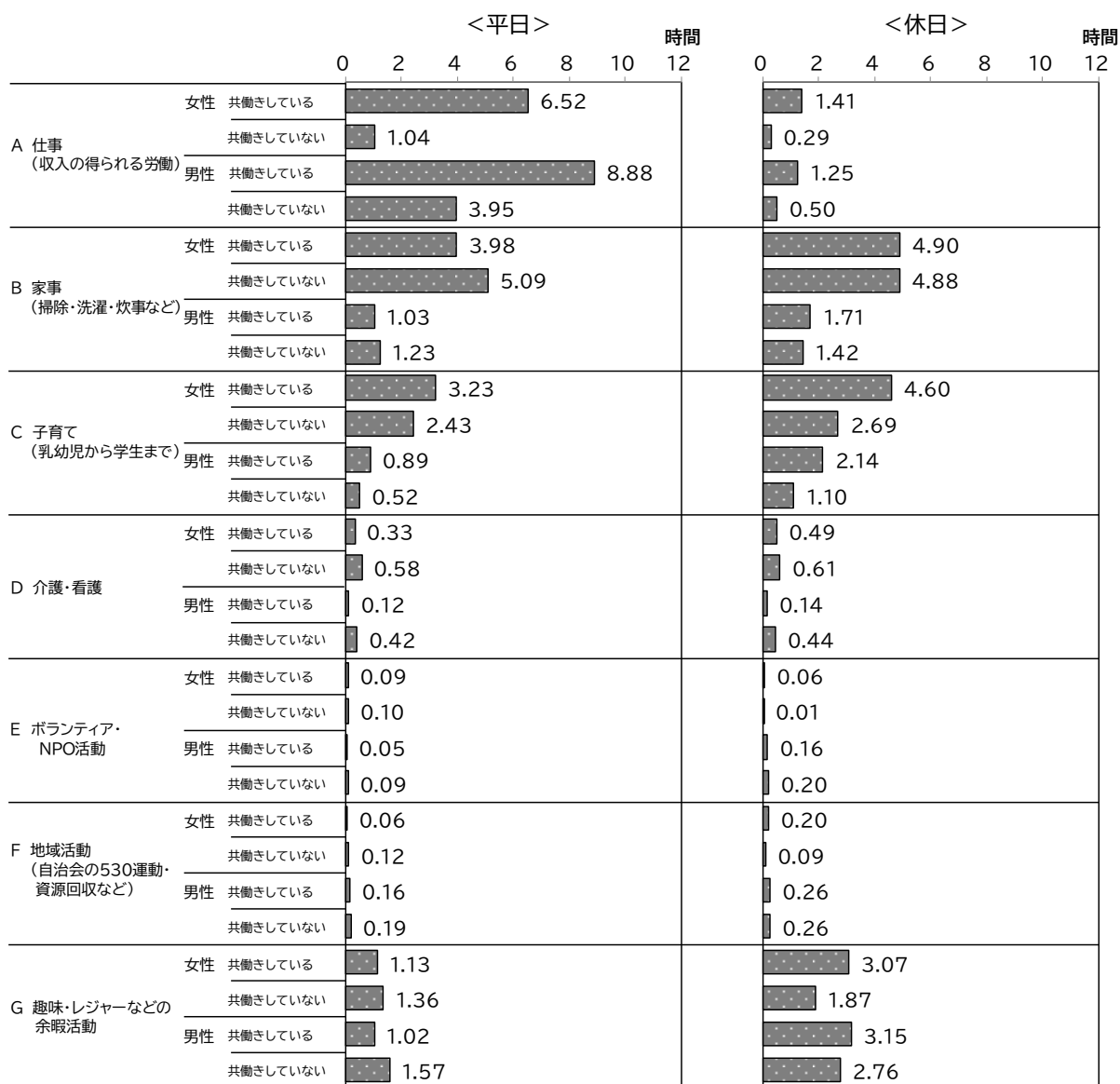
単位：時間

	平日			休日		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
A 仕事(収入の得られる労働)	5.43	4.54	6.41	1.07	1.16	0.96
B 家事(掃除・洗濯・炊事など)	2.43	3.57	1.17	2.90	4.07	1.61
C 子育て(乳幼児から学生まで)	1.31	2.03	0.51	1.97	2.71	1.12
D 介護・看護	0.39	0.52	0.24	0.41	0.54	0.26
E ボランティア・NPO活動	0.08	0.10	0.06	0.11	0.08	0.12
F 地域活動(自治会の530運動・資源回収など)	0.11	0.06	0.15	0.22	0.21	0.24
G 趣味・レジャーなどの余暇活動	1.50	1.43	1.56	3.42	3.17	3.67

性別・共働き別でみると、『B 家事（掃除・洗濯・炊事など）』については、女性の共働きしている人は平日 3.98 時間、休日 4.90 時間で休日の方が長い。男性の共働きしている人は平日 1.03 時間、休日 1.71 時間で女性に比べ短い。また、女性の共働きしていない人では、平日 5.09 時間、休日 4.88 時間でほとんど差がなかった。

『C 子育て（乳幼児から学生まで）』については、男性の共働きしている人は平日 0.89 時間、休日 2.14 時間で、共働きしていない人の平日 0.52 時間、休日 1.10 時間と比べ、長くなっている。

【性別・共働き別】



※ 女性 共働きしている 回答者数 = 219 :共働きしていない 回答者数 = 115
 ※ 男性 共働きしている 回答者数 = 169 :共働きしていない 回答者数 = 128

豊橋市の令和5年調査との比較でみると、平日・休日ともに『D 介護・看護』、『F 地域活動（自治会の530運動・資源回収など）』、『G 趣味・レジャーなどの余暇活動』項目で時間が長くなっている。

【経年比較】

<平日>

単位：時間

	A 仕事 (収入の得られる労働)	B 家事 (掃除・洗濯・炊事等)	C 子育て (乳幼児から学生まで)	D 介護・看護	E ボランティア・NPO活動	F 地域活動 (自治会の530運動・資源回収など)	G 趣味・レジャーなどの余暇活動
豊橋市 (R07.8)	5.43	2.43	1.31	0.39	0.08	0.11	1.50
女性	4.54	3.57	2.03	0.52	0.10	0.06	1.43
男性	6.41	1.17	0.51	0.24	0.06	0.15	1.56
豊橋市 (R05.8)	5.70	2.53	1.37	0.32	0.08	0.08	1.40
女性	5.12	3.51	2.13	0.44	0.05	0.07	1.46
男性	6.52	1.23	0.41	0.17	0.11	0.10	1.32
豊橋市 (R03.8)	5.29	2.41	1.15	0.26	0.08	0.08	1.28
女性	4.45	3.46	1.84	0.31	0.09	0.08	1.16
男性	6.25	1.21	0.38	0.19	0.07	0.09	1.41
豊橋市 (R01.8)	5.80	2.47	1.86	0.28	0.12	0.25	1.31
女性	4.90	3.39	2.85	0.41	0.15	0.29	1.20
男性	7.04	1.00	0.33	0.08	0.06	0.20	1.50
豊橋市 (H28.8)	5.56	2.54	1.32	0.36	0.12	0.18	1.27
女性	4.56	3.78	2.04	0.52	0.14	0.21	1.24
男性	6.83	0.87	0.41	0.17	0.04	0.13	1.31
豊橋市 (H26.9)	5.35	2.34	1.70	0.31	0.06	0.17	1.26
女性	4.34	3.67	2.87	0.40	0.07	0.17	1.23
男性	6.45	0.74	0.39	0.17	0.05	0.17	1.31

<休日>

単位：時間

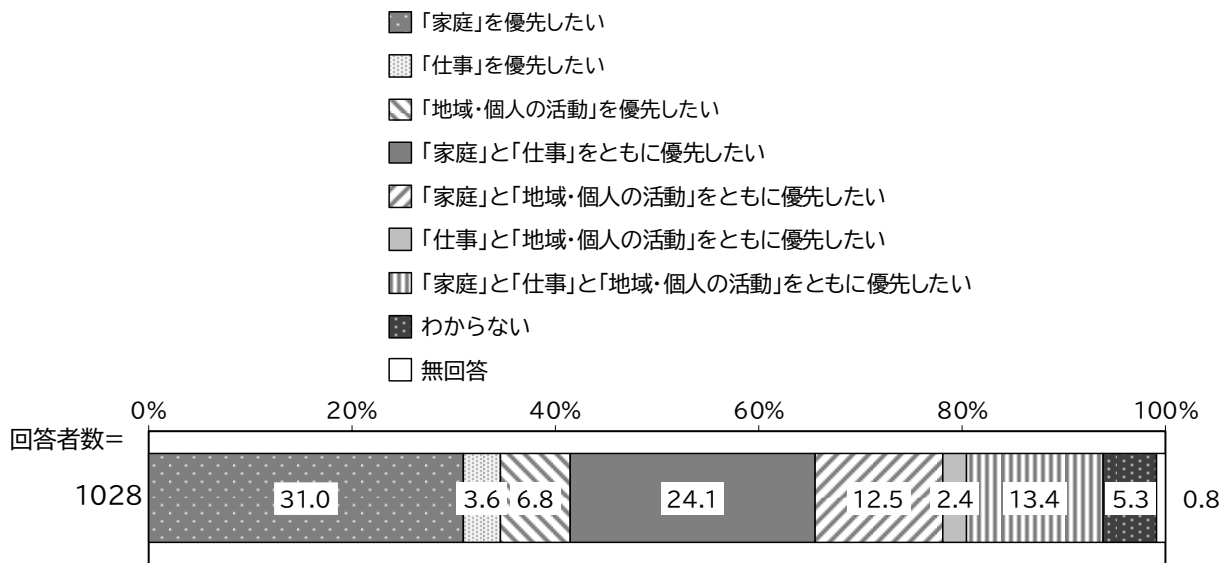
	A 仕事 (収入の得られる労働)	B 家事 (掃除・洗濯・炊事等)	C 子育て (乳幼児から学生まで)	D 介護・看護	E ボランティア・NPO活動	F 地域活動 (自治会の530運動・資源回収など)	G 趣味・レジャーなどの余暇活動
豊橋市 (R07.8)	1.07	2.90	1.97	0.41	0.11	0.22	3.42
女性	1.16	4.07	2.71	0.54	0.08	0.21	3.17
男性	0.96	1.61	1.12	0.26	0.12	0.24	3.67
豊橋市 (R05.8)	1.55	3.00	2.09	0.35	0.14	0.17	3.30
女性	1.59	4.14	2.89	0.47	0.11	0.17	3.09
男性	1.52	1.49	1.09	0.21	0.17	0.17	3.59
豊橋市 (R03.8)	1.03	2.92	1.72	0.31	0.08	0.15	2.93
女性	1.03	4.03	2.42	0.35	0.05	0.09	2.43
男性	1.04	1.63	0.93	0.25	0.11	0.22	3.45
豊橋市 (R01.8)	1.20	2.83	2.48	0.29	0.16	0.39	3.16
女性	1.23	3.82	3.43	0.41	0.17	0.37	2.91
男性	1.18	1.32	1.00	0.12	0.17	0.42	3.47
豊橋市 (H28.8)	1.19	2.74	1.89	0.42	0.09	0.32	2.76
女性	1.18	3.87	2.58	0.54	0.09	0.30	2.37
男性	1.18	1.27	1.04	0.28	0.09	0.32	3.25
豊橋市 (H26.9)	1.06	2.66	2.31	0.35	0.05	0.27	2.81
女性	0.96	3.99	3.49	0.49	0.04	0.22	2.55
男性	1.20	1.06	1.00	0.14	0.06	0.34	3.06

(2) 希望の家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度

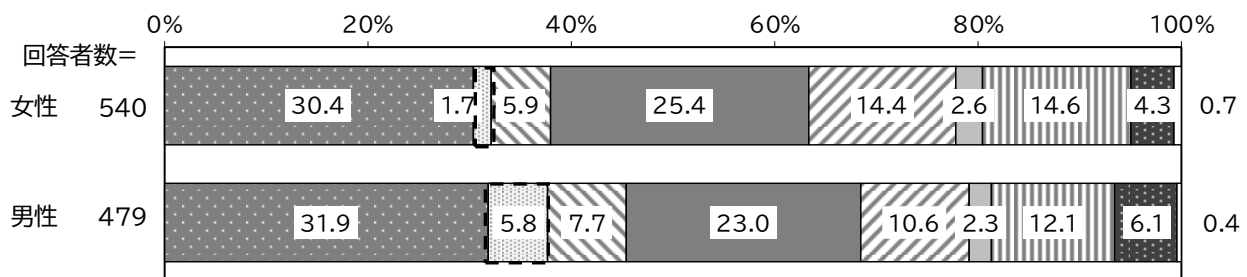
問5. 生活の中での「家庭」「仕事」「地域・個人の活動(※)」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。【あてはまるもの1つに○】
 ※個人の活動とは文化活動、学習、趣味、付き合い等のことです。

「家庭」を優先したい」の割合が31.0%と最も高く、次いで「家庭」と「仕事」をともに優先したい」の割合が24.1%、「家庭」と「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい」の割合が13.4%となっている。

性別別でみると、大きな差異はみられないが、「仕事」を優先したい」は女性1.7%に対し男性5.8%と4.1ポイントの差がある。

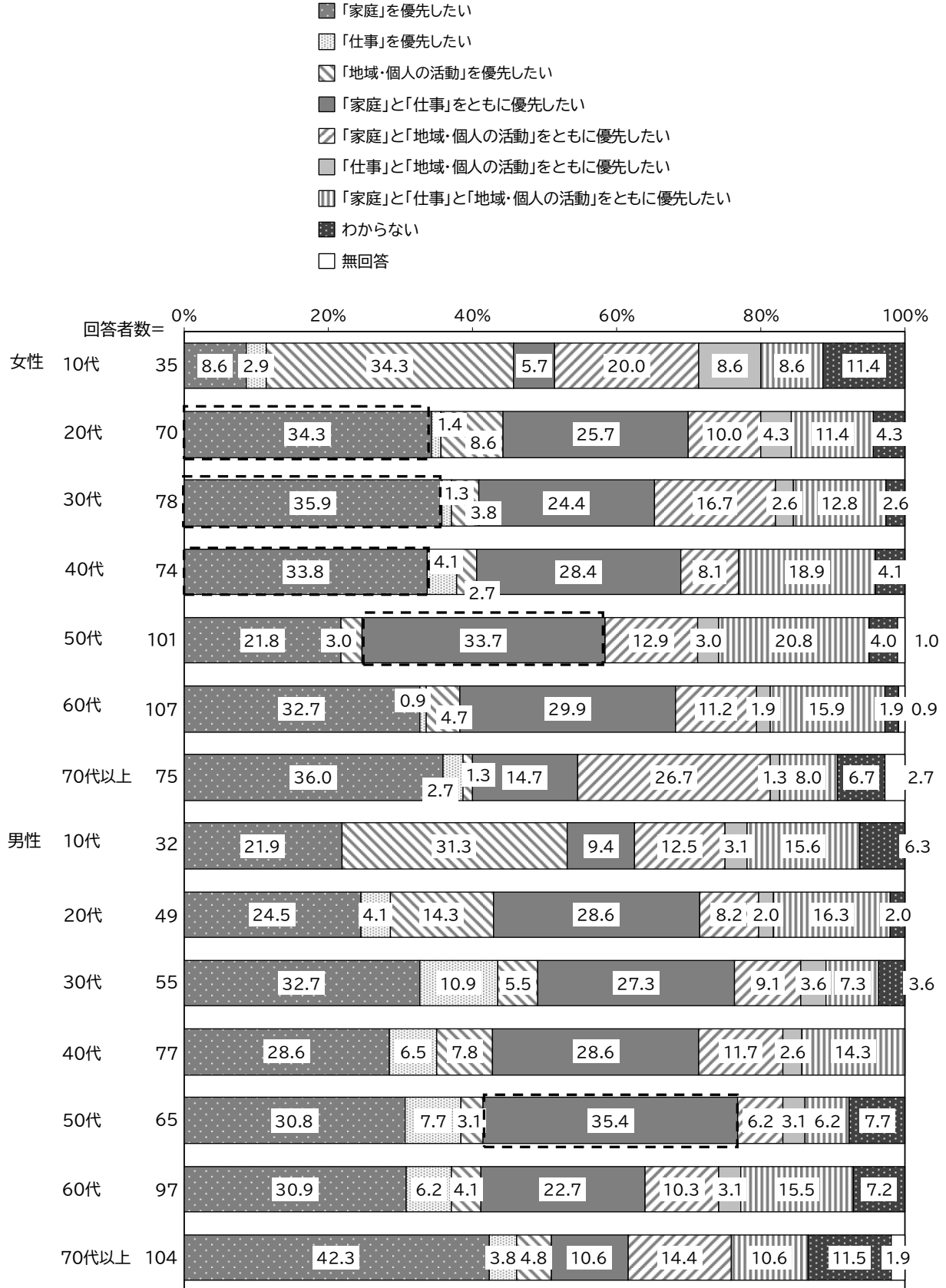


【性別別】



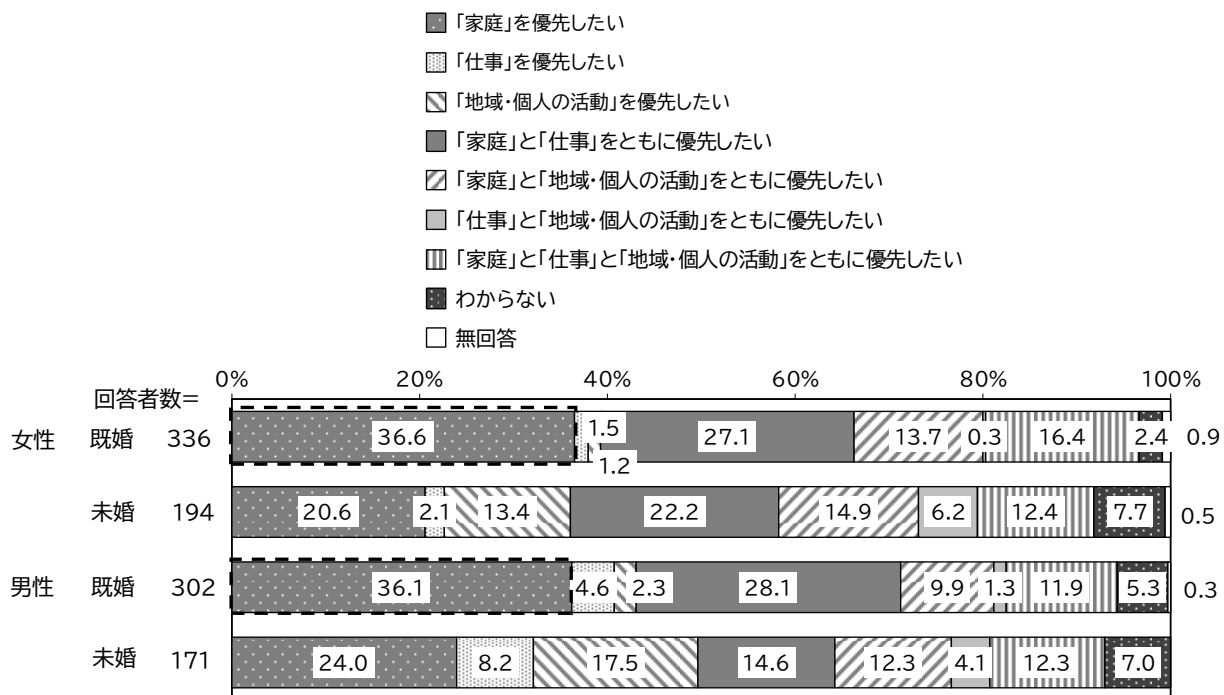
性別・年代別でみると、女性 20代～40代で「家庭」を優先したい」の割合が、女性 50代、男性 50代で「家庭」と「仕事」をともに優先したい」の割合が高い。

【性別・年代別】



性別・婚姻別で見ると、他に比べ、女性男性ともに既婚で「家庭」を優先したい」の割合が高い。

【性別・婚姻別】



国・愛知県との比較でみると、国、県に比べ、豊橋市で「家庭」を優先したいの割合が高く、「仕事」を優先したいが低くなっている。

【国・愛知県との比較・経年比較】

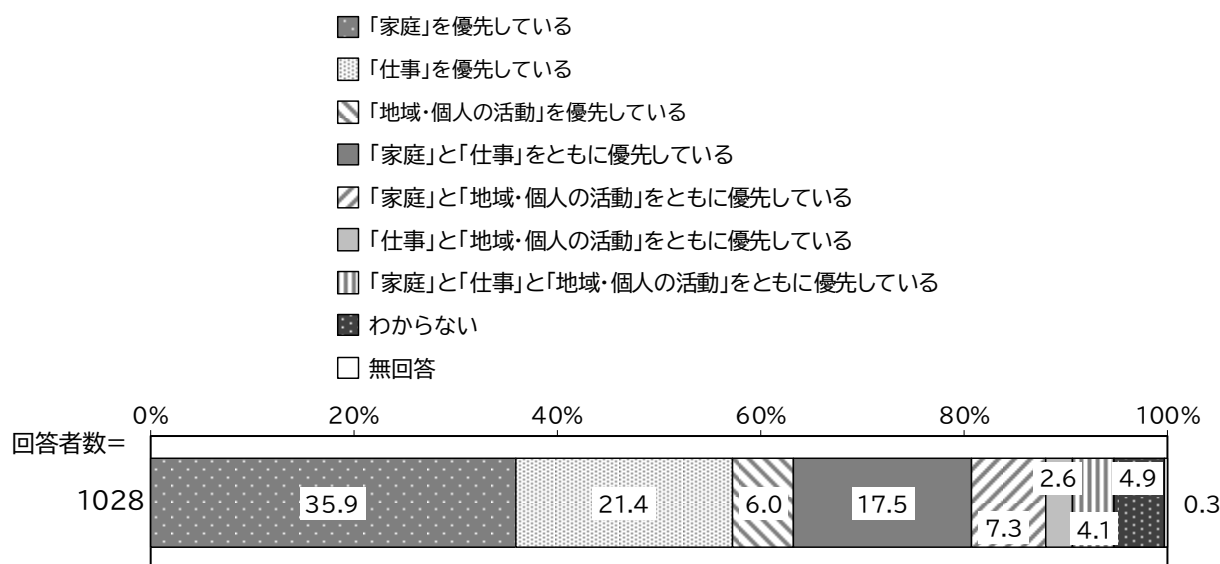
単位：%

	「家庭」を優先したい	「仕事」を優先したい	「地域・個人の活動」を優先したい	「家庭」と「仕事」をともに優先したい	「家庭」と「地域・個人の活動」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい	「家庭」と「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先したい	その他	わからない	無回答
国 (R01.9)	28.4	9.9	4.7	28.7	10.1	3.3	13.1	—	1.9	—
女性	35.1	5.0	3.6	27.2	10.9	2.3	14.4	—	1.5	—
男性	20.7	15.5	5.8	30.4	9.3	4.4	11.6	—	2.3	—
愛知県 (R06.8)	24.9	6.8	3.5	33.7	7.1	3.3	18.0	1.0	—	1.6
女性	27.2	3.8	3.0	32.3	7.5	2.7	21.4	0.7	—	1.3
男性	22.2	10.7	3.8	37.0	6.9	4.4	13.7	1.0	—	0.4
豊橋市 (R07.8)	31.0	3.6	6.8	24.1	12.5	2.4	13.4	—	5.3	0.8
女性	30.4	1.7	5.9	25.4	14.4	2.6	14.6	—	4.3	0.7
男性	31.9	5.8	7.7	23.0	10.6	2.3	12.1	—	6.1	0.4
豊橋市 (R05.8)	31.0	5.1	6.2	21.3	11.6	3.5	15.5	—	3.6	2.2
女性	32.4	2.0	4.5	23.3	11.1	3.0	18.1	—	4.2	1.5
男性	29.6	9.2	8.9	19.4	11.2	4.3	12.2	—	3.0	2.3
豊橋市 (R03.8)	25.7	5.2	5.2	23.8	16.2	2.7	15.0	—	4.8	1.2
女性	25.6	2.9	5.4	25.6	15.7	2.7	17.5	—	3.6	1.1
男性	25.9	7.7	5.1	21.8	16.9	2.8	12.3	—	6.2	1.3
豊橋市 (R01.8)	29.7	6.2	2.7	29.7	13.6	3.0	8.4	—	5.7	0.9
女性	30.9	5.2	2.9	30.7	12.0	2.9	9.7	—	4.9	0.8
男性	28.5	7.2	2.5	28.8	15.5	3.3	6.4	—	6.6	1.1
豊橋市 (H28.8)	36.4	8.5	0.5	36.8	5.0	1.1	4.4	—	5.7	1.6
女性	40.5	4.7	0.5	36.2	4.9	0.7	5.4	—	5.8	1.3
男性	30.9	13.6	0.5	38.0	5.0	1.7	3.3	—	5.5	1.4
豊橋市 (H26.9)	40.1	7.1	0.3	33.8	3.7	1.0	4.1	—	6.2	3.7
女性	44.1	4.0	0.2	33.3	3.5	0.3	3.8	—	5.8	5.0
男性	35.5	10.9	0.4	33.8	4.1	1.7	4.5	—	6.8	2.3
豊橋市 (H23.6)	31.5	6.2	0.6	35.6	7.5	1.2	10.7	—	5.2	1.6
女性	36.7	3.8	0.2	34.8	7.3	0.0	10.4	—	5.3	1.5
男性	24.8	9.1	1.1	36.3	8.0	2.8	11.4	—	5.2	1.3

(3) 現状の家庭・仕事・地域・個人の活動の優先度

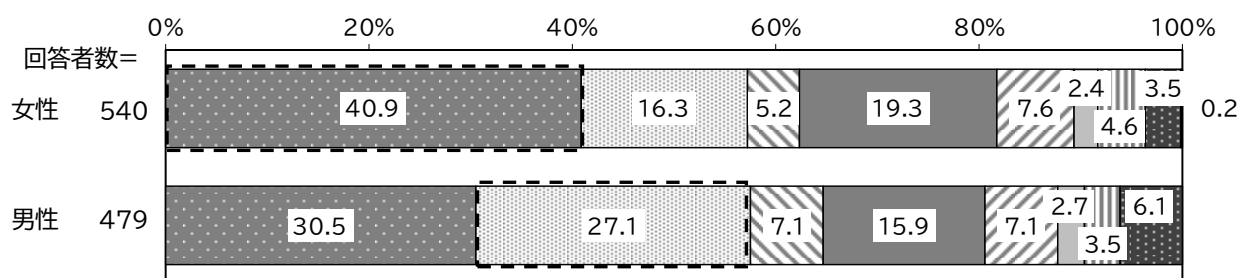
問6. 生活の中での「家庭」「仕事」「地域・個人の活動」の優先度について、現在の状況に最も近いものはどれですか。【あてはまるもの1つに○】

「家庭」を優先している」の割合が35.9%と最も高く、次いで「仕事」を優先している」の割合が21.4%、「家庭」と「仕事」をともに優先している」の割合が17.5%となっている。



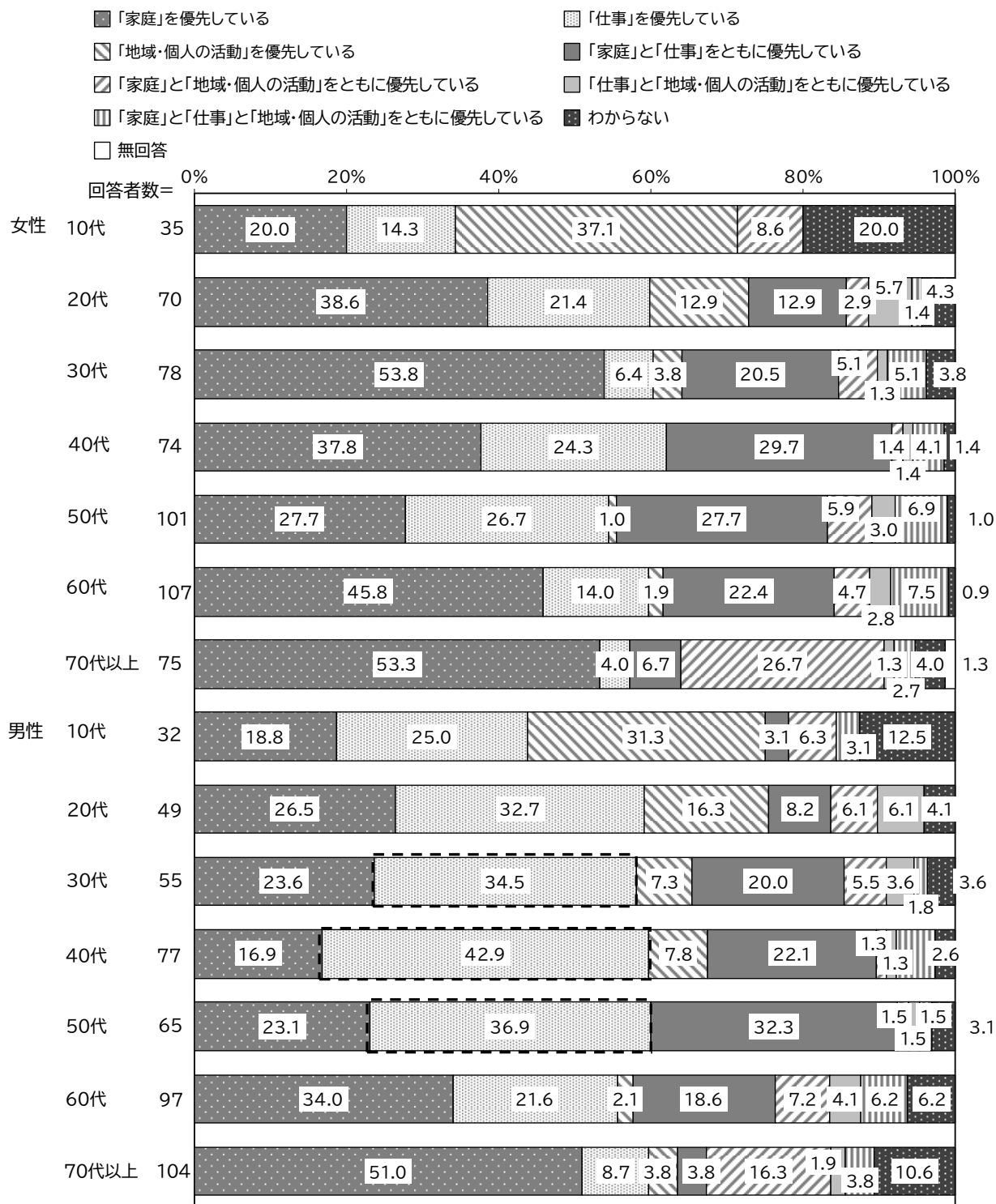
【性別別】

性別別でみると、男性に比べ、女性で「家庭」を優先している」の割合が、女性に比べ、男性で「仕事」を優先している」の割合が高い。



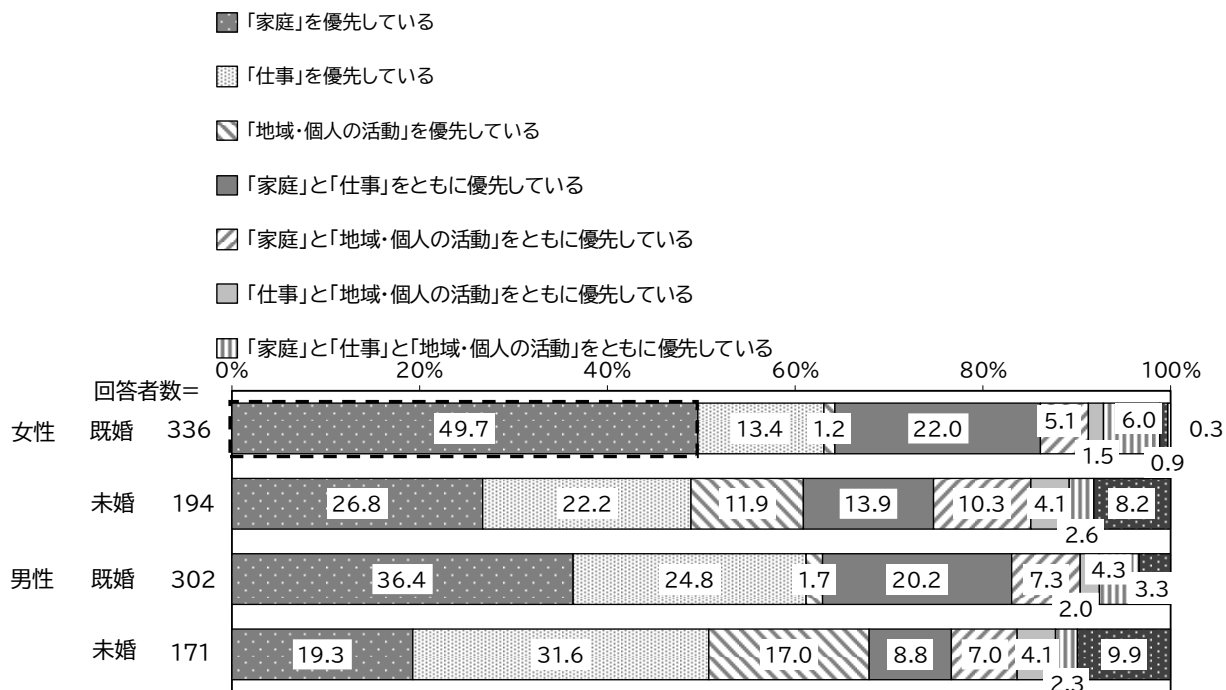
性別・年代別でみると、問5の希望に最も近いものを聞いた設問では、男性 30 代で「家庭」を優先したい」の割合が高かったが、現実では「仕事」を優先している」の割合が高く、男性 40・50 代で希望は「家庭」と「仕事」をともに優先したい」の割合が高かったが、現実では「仕事」を優先している」の割合が高い。

【性別・年代別】



性別・婚姻別でみると、他に比べ、女性既婚で「家庭」を優先している」の割合が高い。

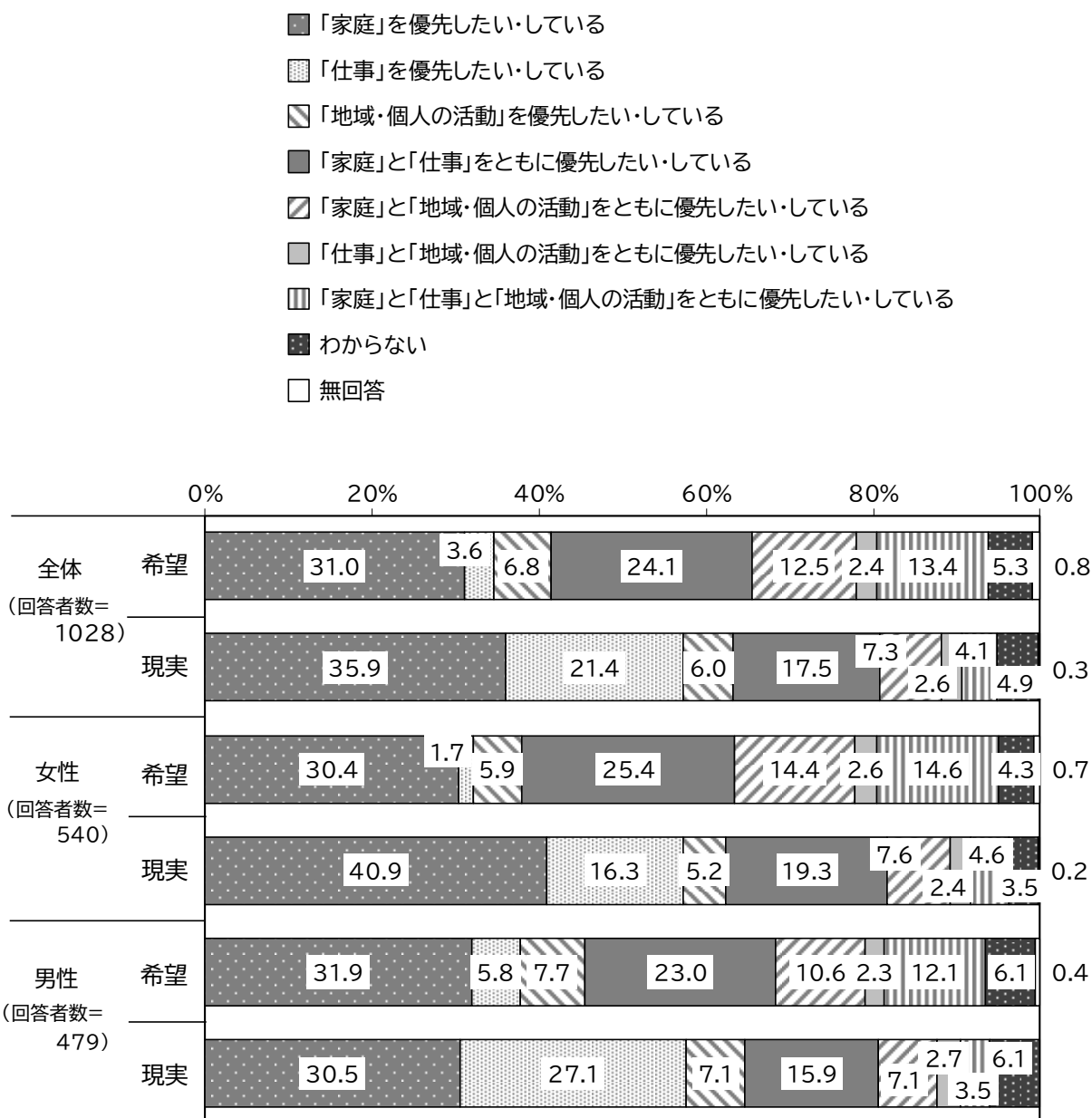
【性別・婚姻別】



「家庭」、「仕事」、「地域活動」との優先度について希望と現実について比較すると、全体では、「仕事」を優先」の割合が希望の3.6%に対し、現実には21.4%と上回っており、「家庭」と「仕事」をともに優先している」と「家庭」と「地域・個人の活動」をともに優先している」「家庭」と「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先している」において、現実には希望に対し下回っている。

性別別でみると、男女ともに希望に対し現実の「仕事」を優先している」の割合が上回っており、「家庭」と「仕事」をともに優先」の割合が下回る傾向は、全体と同様になっているが、女性の「家庭」を優先している」の割合については、希望が30.4%に対して現実が40.9%と約11ポイント上回っている。

【「家庭」、「仕事」、「地域活動」の関わり方（希望と現実） 性別別】



国・愛知県との比較でみると、国・愛知県に比べ、豊橋市で「家庭」を優先している」の割合が高い。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年に比べ、令和7年で「家庭」を優先している」の割合が増加している。

【国・愛知県との比較・経年比較】

単位：％

	「家庭」を優先している	「仕事」を優先している	「地域・個人の活動」を優先している	「家庭」と「仕事」をともに優先している	「家庭」と「地域・個人の活動」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先している	「家庭」と「仕事」と「地域・個人の活動」をともに優先している	その他	わからない	無回答
国 (R01.9)	30.3	25.9	4.5	21.0	8.1	3.1	5.1	—	1.9	—
女性	39.9	16.6	3.7	21.0	9.6	2.1	5.3	—	1.6	—
男性	19.4	36.5	5.5	21.0	6.4	4.2	4.8	—	2.3	—
愛知県 (R06.8)	26.7	32.3	2.8	23.5	3.2	3.5	4.2	1.7	—	2.1
女性	37.5	22.4	2.9	22.1	4.2	2.7	4.9	1.7	—	1.7
男性	12.3	46.7	2.4	26.5	2.0	4.6	3.4	1.2	—	1.0
豊橋市 (R07.8)	35.9	21.4	6.0	17.5	7.3	2.6	4.1	—	4.9	0.3
女性	40.9	16.3	5.2	19.3	7.6	2.4	4.6	—	3.5	0.2
男性	30.5	27.1	7.1	15.9	7.1	2.7	3.5	—	6.1	0.0
豊橋市 (R05.8)	32.0	23.7	5.9	18.8	7.3	3.0	4.6	—	3.5	1.2
女性	36.9	19.8	5.0	21.3	6.7	2.2	4.2	—	3.0	1.0
男性	25.7	29.3	7.2	16.1	7.2	4.3	5.3	—	4.3	0.7
豊橋市 (R03.8)	31.0	22.4	5.8	19.1	7.0	4.1	5.0	4.4	—	1.2
女性	36.5	19.1	4.5	20.2	6.5	4.0	4.7	3.4	—	1.1
男性	24.6	26.2	7.2	17.9	7.7	4.1	5.4	5.6	—	1.3
豊橋市 (R01.8)	29.6	25.2	3.4	22.2	7.8	4.0	3.1	—	3.9	0.8
女性	35.9	22.5	2.7	21.9	6.6	3.1	3.3	—	3.5	0.6
男性	22.7	28.3	4.7	21.6	9.1	5.5	2.5	—	4.4	1.1
豊橋市 (H28.8)	34.8	29.6	0.7	22.2	4.0	1.2	2.4	—	4.3	0.6
女性	42.5	21.6	0.5	23.8	3.8	0.4	2.5	—	4.5	0.4
男性	24.6	40.4	1.0	20.6	4.3	2.4	2.2	—	4.3	0.2
豊橋市 (H26.9)	38.3	26.7	0.5	20.6	2.7	0.8	1.8	—	5.3	3.3
女性	45.9	18.9	0.3	21.7	2.8	—	1.3	—	4.5	4.5
男性	29.7	35.5	0.8	19.0	2.5	1.7	2.3	—	6.4	1.9
豊橋市 (H23.6)	32.5	21.7	0.6	30.3	4.3	1.0	4.1	—	3.6	1.8
女性	42.6	14.6	0.0	29.9	5.5	0.3	2.7	—	3.0	1.5
男性	19.2	31.1	1.5	31.3	3.0	1.9	5.8	—	4.3	1.7

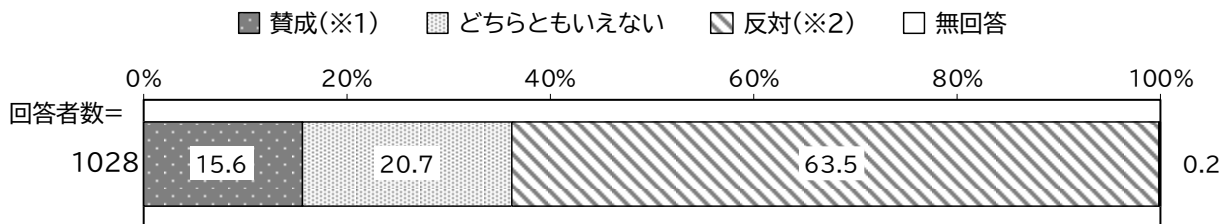
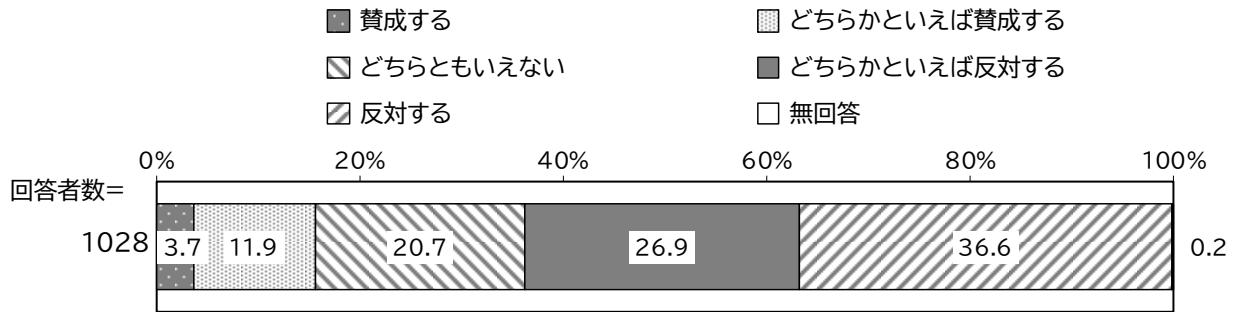
5 男女の働き方について

(1) 性別役割分担意識

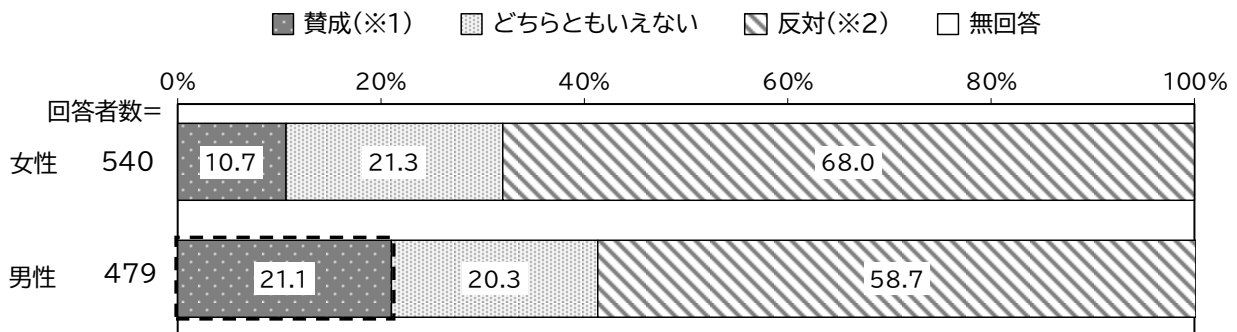
問7. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。
【あてはまるもの1つに○】

「賛成（※1）」の割合が15.6%、「反対（※2）」の割合が63.5%、「どちらともいえない」の割合が20.7%となっている。

性別別でみると、女性に比べ、男性で「賛成（※1）」の割合が高い。



【性別別】

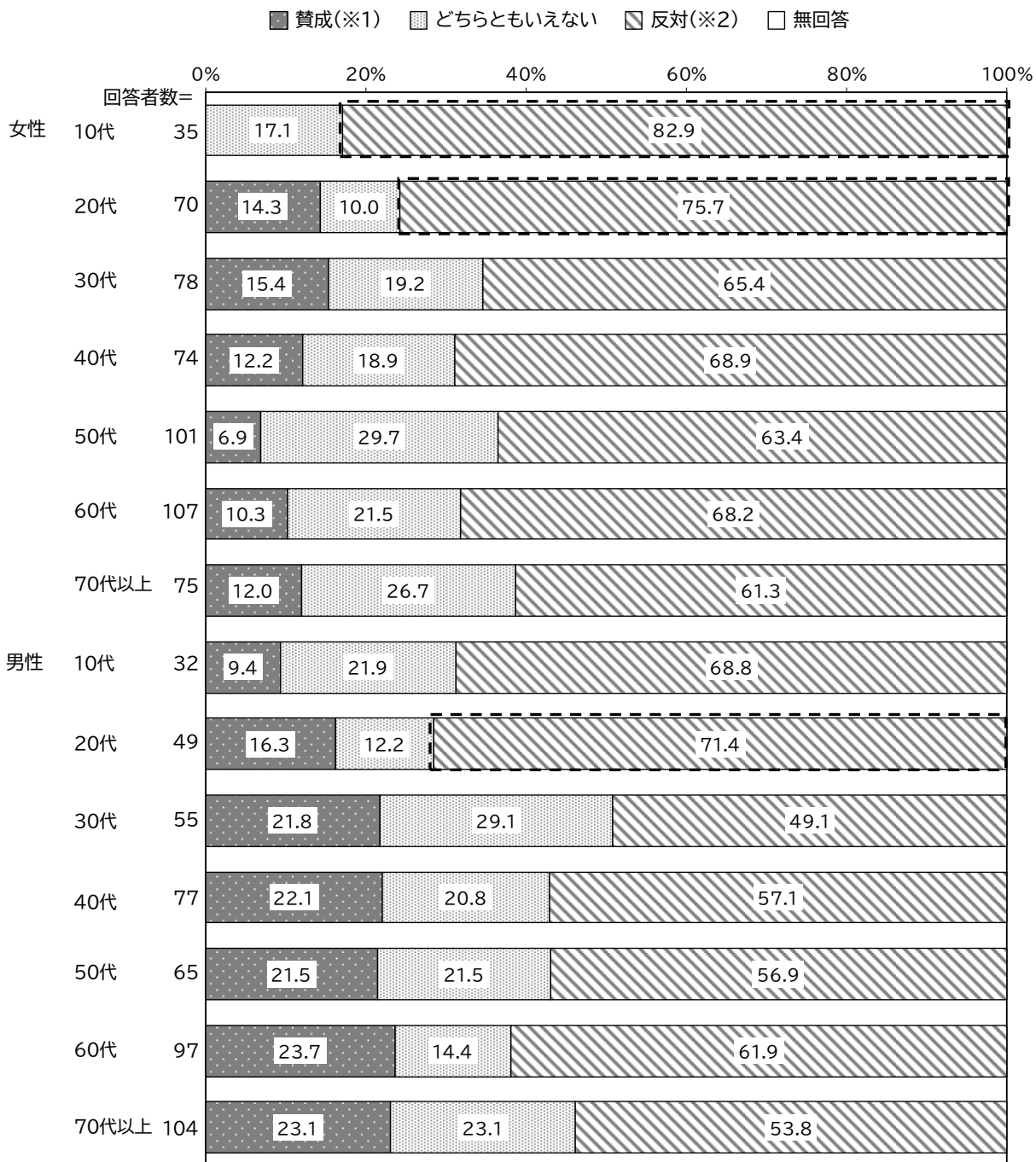


※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計

※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

性別・年代別でみると、他に比べ、女性10代・20代、男性20代で「反対（※2）」の割合が高い。

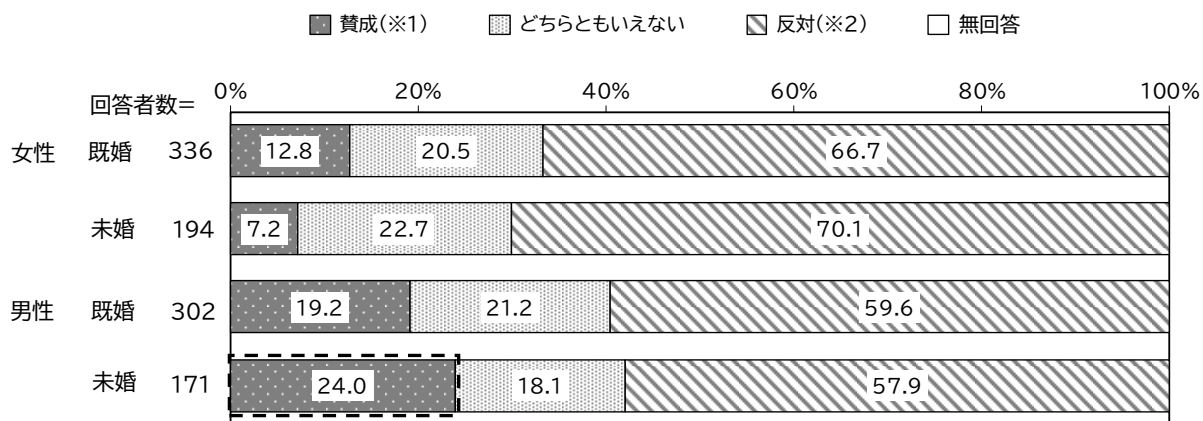
【性別・年代別】



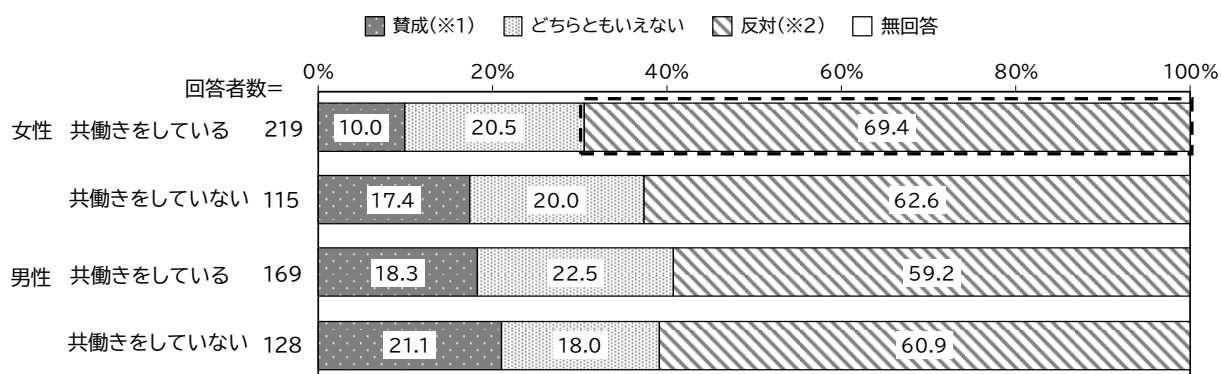
※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計
 ※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

性別・婚姻別で見ると、他に比べ、男性未婚で「賛成（※1）」の割合が高い。
 性別・共働き別で見ると、他に比べ、共働きしている女性で「反対（※2）」の割合が高い。

【性別・婚姻別】



【性別・共働き別】



※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計
 ※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

国・愛知県との比較でみると、国・愛知県に比べ、豊橋市で「賛成・肯定的（A+B）」の割合が低く、「反対・否定的（C+D）」の割合は国・愛知県と同水準となった。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、過去の調査に比べ、令和7年は「反対・否定的（C+D）」の割合が最も高くなっており、「賛成・肯定的（A+B）」の割合は令和3年が最も低くなっている。

【国・愛知県との比較・経年比較】

単位：%

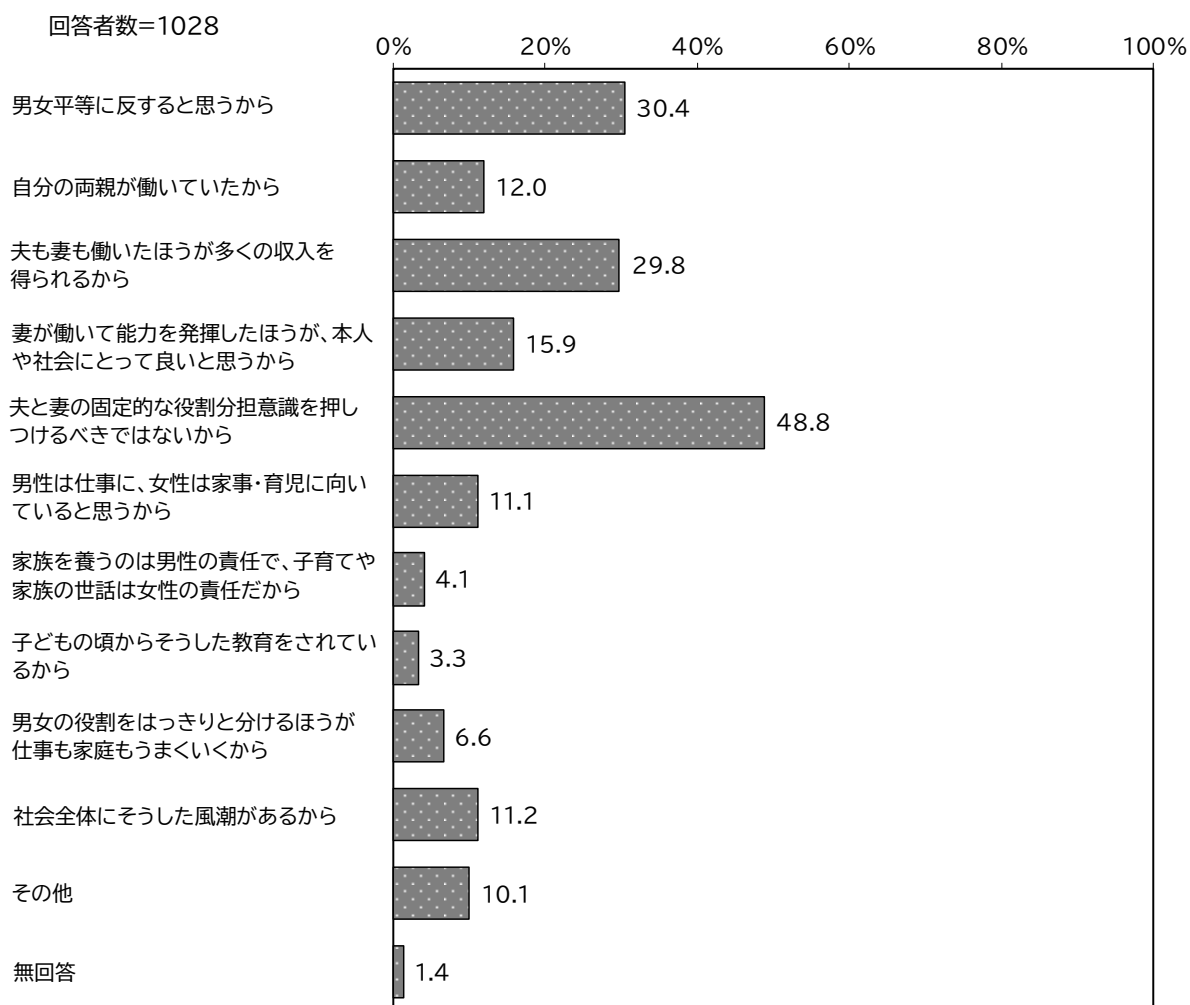
	賛成する そう思う (A)	どちらかといえば賛成する どちらかといえばそう思う (B)	どちらともいえない	どちらかといえば反対する どちらかといえばそうは思わない (C)	反対する そうは思わない (D)	わからない	無回答	賛成・肯定的 (A+B)	反対・否定的 (C+D)
国 (R06.9)	4.5	28.6	—	37.7	27.1	—	2.1	33.1	64.8
女性	3.5	25.8	—	39.7	29.5	—	1.5	29.3	69.2
男性	5.6	31.9	—	35.4	24.3	—	2.8	37.5	59.7
愛知県 (R06.8)	4.9	29.6	—	40.4	23.5	—	1.6	34.5	63.9
女性	4.3	27.1	—	42.0	25.6	—	1.0	31.4	67.6
男性	5.5	34.1	—	38.0	20.8	—	1.6	39.6	58.8
豊橋市 (R07.8)	3.7	11.9	20.7	26.9	36.6	—	0.2	15.6	63.5
女性	2.8	8.0	21.3	28.7	39.3	—	0.0	10.7	68.0
男性	4.8	16.3	20.3	25.3	33.4	—	0.0	21.1	58.7
豊橋市 (R05.8)	2.6	12.9	23.0	27.8	32.9	—	0.8	15.5	60.7
女性	2.0	10.4	23.8	28.0	35.1	—	0.7	12.4	63.1
男性	3.6	16.8	22.0	28.3	29.3	—	0.0	20.4	57.6
豊橋市 (R03.8)	3.0	11.3	28.0	28.6	29.0	—	0.1	14.3	57.6
女性	2.7	9.2	24.4	30.0	33.6	—	—	11.9	63.7
男性	3.3	13.8	31.8	27.2	23.6	—	0.3	17.2	50.8
豊橋市 (R01.8)	3.4	19.0	36.3	22.0	18.5	—	0.8	22.4	40.5
女性	1.4	16.5	35.3	24.1	22.1	—	0.6	17.9	46.2
男性	5.8	23.3	38.2	19.4	12.2	—	1.1	29.1	31.6
豊橋市 (H28.8)	5.3	20.2	42.1	18.4	13.4	—	0.6	25.5	31.8
女性	5.6	17.7	42.2	18.7	15.3	—	0.5	23.3	34.0
男性	4.8	23.7	41.9	17.9	11.2	—	0.5	28.5	29.1
豊橋市 (H26.9)	5.9	23.0	39.2	17.1	12.6	—	2.2	28.9	29.7
女性	4.5	19.4	39.1	20.2	13.9	—	2.8	23.9	34.1
男性	7.4	27.2	39.8	13.4	10.9	—	1.4	34.6	24.3
豊橋市 (H23.6)	7.2	31.3	26.4	12.6	20.7	—	1.9	38.5	33.3
女性	5.1	27.9	27.7	13.3	24.9	—	1.2	33.0	38.2
男性	9.9	35.9	24.8	11.4	15.6	—	2.4	45.8	27.0
豊橋市 (H20.5)	6.4	28.2	28.3	15.1	21.4	—	0.6	34.6	36.5
女性	5.1	23.6	29.6	17.5	24.0	—	0.2	28.7	41.5
男性	8.3	34.5	27.2	11.9	17.5	—	0.6	42.9	29.4
豊橋市 (H17.5)	7.4	31.0	28.3	11.7	19.1	—	2.6	38.4	30.8
女性	5.9	28.7	29.5	13.7	20.0	—	2.3	34.5	33.7
男性	9.8	33.4	26.9	9.1	18.0	—	2.8	43.2	27.1
豊橋市 (H13.8)	9.4	30.8	27.5	13.3	18.3	—	0.6	40.2	31.6
女性	6.7	27.8	27.4	17.0	20.5	—	0.6	34.5	37.5
男性	12.7	33.9	28.7	9.3	15.0	—	0.5	46.6	24.3

(2) 性別役割分担意識について思う理由

問7-1. 問7でそう思われるのはなぜですか。

【あてはまるものをすべてに○】

「夫と妻の固定的な役割分担意識を押しつけるべきではないから」の割合が48.8%と最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」の割合が30.4%、「夫も妻も働いたほうが多くの収入を得られるから」の割合が29.8%となっている。



性別別でみると、男性に比べ、女性で「固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから」「男女平等に反すると思うから」の割合が高い。また、女性に比べ、男性で「男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから」、「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」の割合が高い。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も働いていたから	夫も妻も働いたほうが多くの収入を得られるから	妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから	男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから	家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	子どもの頃からそうした教育をされているから	男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
女性	540	33.3	13.5	30.4	14.4	56.1	9.4	3.7	3.9	4.6	11.5	10.9	1.7
男性	479	26.9	10.4	29.4	17.7	40.9	13.2	4.4	2.5	9.0	11.1	9.4	0.4

性別・年代別でみると、全体的に「固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから」が多いが、他に比べ、女性 10 代で「男女平等に反すると思うから」・「自分の両親も働いていたから」の割合が、女性 10 代・20 代、男性 40 代で「夫も妻も働いたほうが多くの収入を得られるから」の割合が高い。また、男性 60 代・70 代以上で「妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから」の割合が、男性 50 代で「男女の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」の割合が、女性 70 代以上、男性 60 代で「社会全体にそうした風潮があるから」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も働いていたから	夫も妻も働いたほうが多くの収入を得られるから	個人や社会にとって良いと思うから、妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから	男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから	家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	子どもの頃からそうした教育をされているから	男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
女性 10代	35	60.0	31.4	37.1	14.3	54.3	2.9	0.0	0.0	2.9	2.9	8.6	0.0
20代	70	42.9	18.6	44.3	14.3	58.6	5.7	4.3	4.3	4.3	7.1	10.0	0.0
30代	78	23.1	12.8	25.6	12.8	51.3	10.3	1.3	3.8	6.4	9.0	11.5	0.0
40代	74	35.1	9.5	33.8	16.2	55.4	8.1	2.7	1.4	6.8	10.8	17.6	0.0
50代	101	24.8	7.9	26.7	11.9	58.4	9.9	3.0	4.0	1.0	10.9	15.8	2.0
60代	107	42.1	18.7	31.8	17.8	60.7	10.3	7.5	7.5	5.6	13.1	6.5	1.9
70代以上	75	20.0	5.3	18.7	13.3	50.7	14.7	4.0	2.7	5.3	21.3	5.3	6.7
男性 10代	32	31.3	21.9	21.9	9.4	53.1	6.3	0.0	0.0	9.4	9.4	9.4	0.0
20代	49	34.7	10.2	32.7	10.2	59.2	8.2	4.1	2.0	8.2	2.0	8.2	0.0
30代	55	23.6	12.7	27.3	10.9	38.2	12.7	1.8	1.8	5.5	14.5	12.7	0.0
40代	77	26.0	9.1	39.0	16.9	39.0	15.6	3.9	1.3	9.1	3.9	14.3	0.0
50代	65	26.2	9.2	33.8	13.8	35.4	13.8	0.0	3.1	16.9	13.8	9.2	0.0
60代	97	25.8	10.3	26.8	25.8	39.2	14.4	5.2	4.1	7.2	20.6	6.2	0.0
70代以上	104	26.0	7.7	24.0	23.1	36.5	14.4	9.6	2.9	7.7	8.7	7.7	1.9

性別・共働き別でみると、他に比べ、共働きの有無にかかわらず女性で「固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから」の割合が高い。

性別役割分担意識別でみると、他に比べ、否定的な女性で「固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから」の割合が、肯定的な女性、肯定的な男性で「男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから」の割合が高い。

【性別・共働き別】

単位：％

区分	回答者数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も働いていたから	夫も妻も働いたほうが多くの収入を得られるから	妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから	男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから	家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	子どもの頃からそうした教育をされているから	男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
女性 共働きしている	219	35.2	12.3	37.4	19.6	<u>61.2</u>	6.4	1.4	1.8	1.8	6.8	13.7	0.0
共働きしていない	115	27.8	13.0	23.5	7.8	<u>49.6</u>	17.4	8.7	7.0	10.4	18.3	5.2	3.5
男性 共働きしている	169	27.2	9.5	35.5	17.8	<u>38.5</u>	11.8	3.0	1.2	6.5	12.4	9.5	0.0
共働きしていない	128	28.9	8.6	26.6	24.2	<u>41.4</u>	12.5	8.6	3.9	7.0	11.7	7.0	0.8

【性別役割分担意識別】

単位：％

区分	回答者数(件)	男女平等に反すると思うから	自分の両親も働いていたから	夫も妻も働いたほうが多くの収入を得られるから	妻が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとって良いと思うから	固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから	男性は仕事に、女性は家事・育児に向いていると思うから	家族を養うのは男性の責任で、子育てや家族の世話は女性の責任だから	子どもの頃からそうした教育をされているから	男女の役割をはっきりと分けるほうが仕事も家庭もうまくいくから	社会全体にそうした風潮があるから	その他	無回答
女性 肯定的	58	6.9	6.9	17.2	8.6	10.3	<u>50.0</u>	24.1	19.0	24.1	12.1	19.0	0.0
どちらとも いえない	115	7.8	9.6	21.7	3.5	47.0	10.4	1.7	1.7	3.5	11.3	26.1	7.0
否定的	367	45.5	15.8	35.1	18.8	<u>66.2</u>	2.7	1.1	2.2	1.9	11.4	4.9	0.3
男性 肯定的	101	3.0	2.0	9.9	4.0	5.9	<u>54.5</u>	16.8	9.9	30.7	12.9	10.9	0.0
どちらとも いえない	97	9.3	9.3	25.8	6.2	41.2	7.2	4.1	1.0	7.2	7.2	24.7	1.0
否定的	281	41.6	13.9	37.7	26.7	<u>53.4</u>	0.4	0.0	0.4	1.8	11.7	3.6	0.4

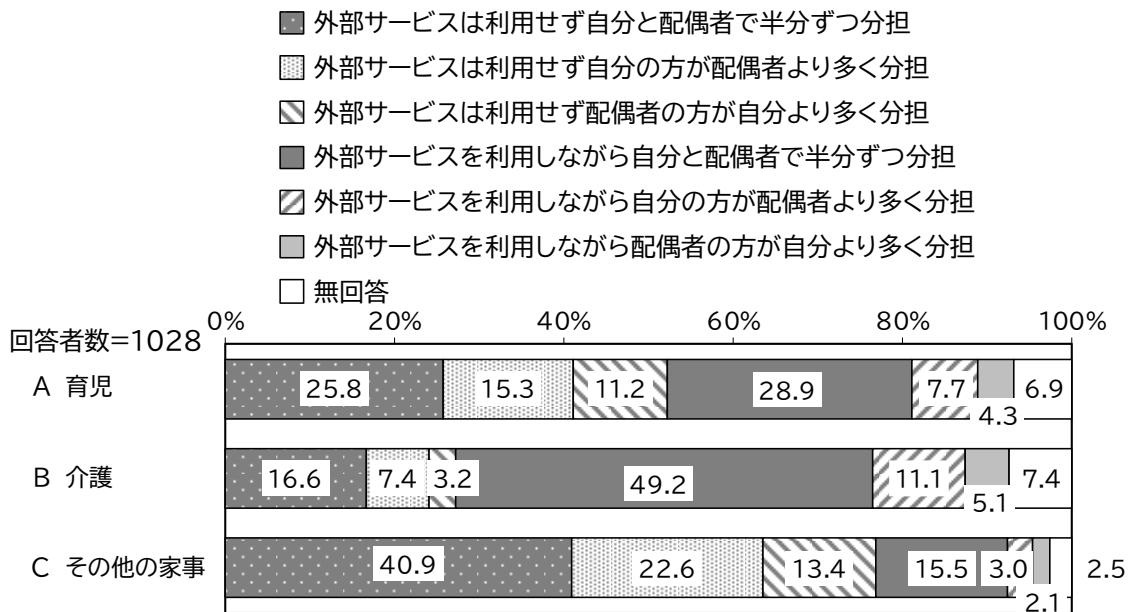
(3) 家事分担についての考え方

問8 次のA～Cの項目について、あなたと配偶者・パートナーとどのように家事を分担したいと思いますか。

【保育所、訪問介護、家事代行など外部サービスの利用も含め、あなたの気持ちに最も近いもので各項目あてはまるものを1つに○】

なお、配偶者・パートナーがいる、いないにかかわらず、育児・介護・家事をしている、していないにかかわらず、お答えください。

家事の分担について、配偶者パートナーとの分担については、「自分と配偶者で半分ずつ分担（※1）」の割合が『A 育児』が54.7%、『B 介護』が65.9%、『C その他の家事』が56.3%と半数以上となっており、「外部サービスを利用する（※5）」割合は、『B 介護』が65.4%と高くなっている。

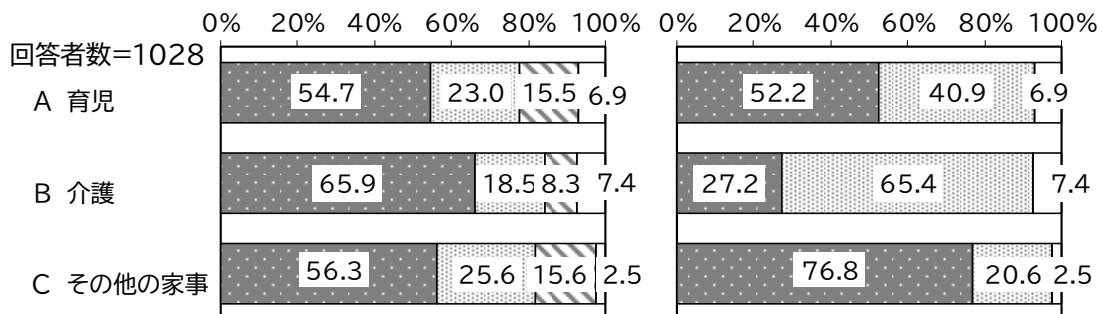


【分担別】

- 自分と配偶者で半分ずつ分担(※1)
- ▨ 自分の方が配偶者より多く分担(※2)
- ▧ 配偶者の方が自分より多く分担(※3)
- 無回答

【外部サービス利用別】

- 外部サービスは利用しない(※4)
- ▨ 外部サービスを利用する(※5)
- 無回答



※1：「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担」の計

※2：「外部サービスは利用せず自分の方が配偶者より多く分担」と「外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担」の計

※3：「外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担」と「外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担」の計

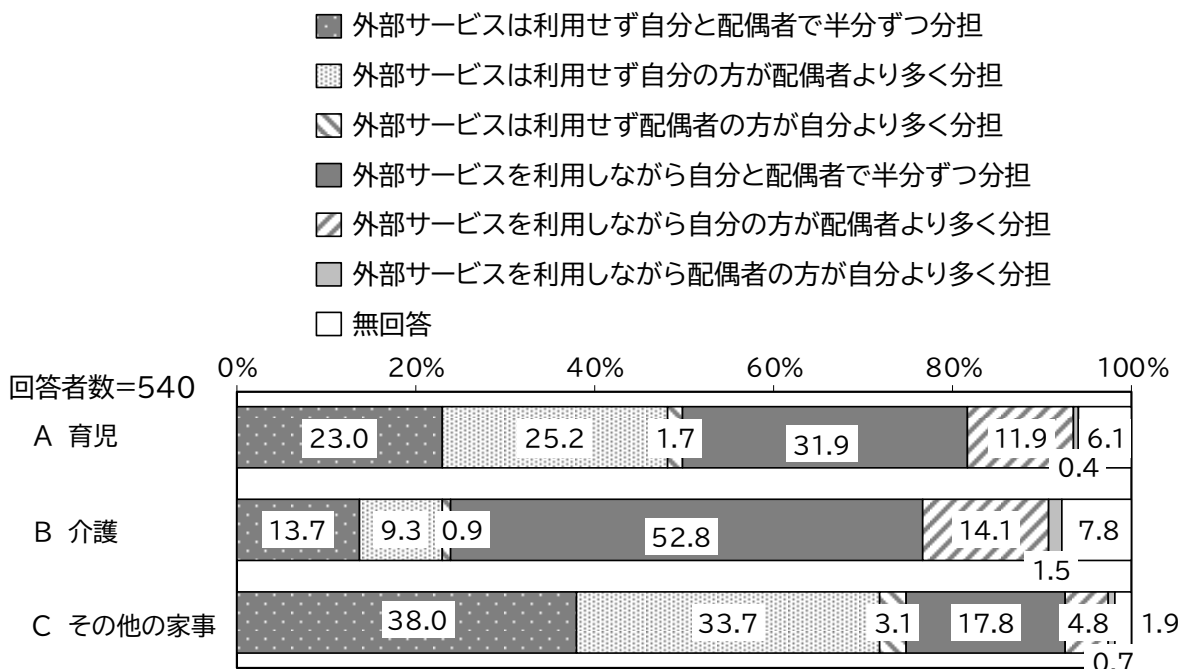
※4：「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担」の計

※5：「外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担」と「外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担」の計

性別別でみると、どの項目も女性の方が男性より「自分の方が配偶者より多く分担（※3）」の割合が高い。

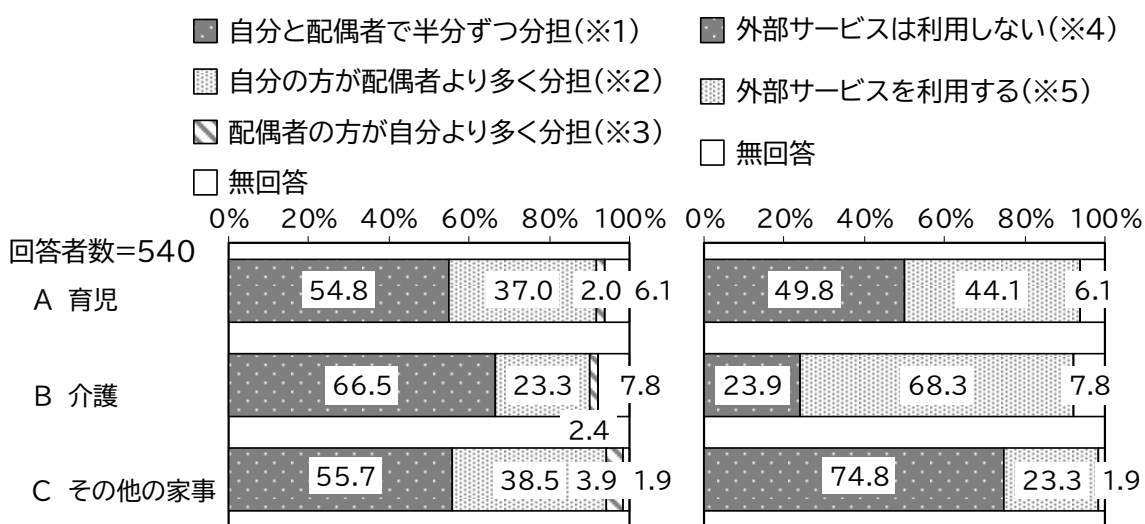
【性別別】

<女性>



【分担別】

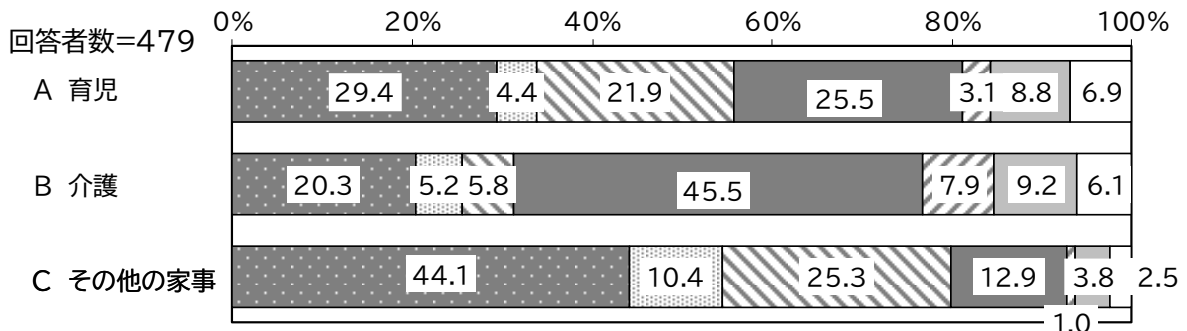
【外部サービス利用別】



※1：「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担」の計
 ※2：「外部サービスは利用せず自分の方が配偶者より多く分担」と「外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担」の計
 ※3：「外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担」と「外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担」の計
 ※4：「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担」の計
 ※5：「外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担」と「外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担」の計

<男性>

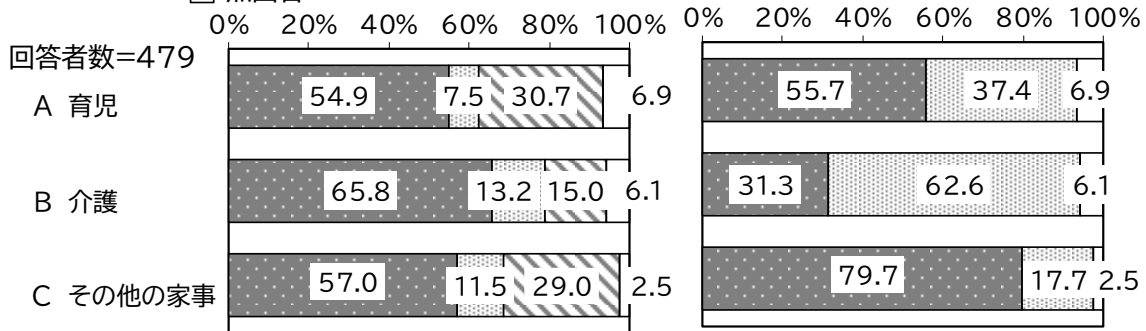
- 外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担
- ▨ 外部サービスは利用せず自分の方が配偶者より多く分担
- ▩ 外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担
- 外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担
- ▨ 外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担
- ▩ 外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担
- 無回答



【分担別】

【外部サービス利用別】

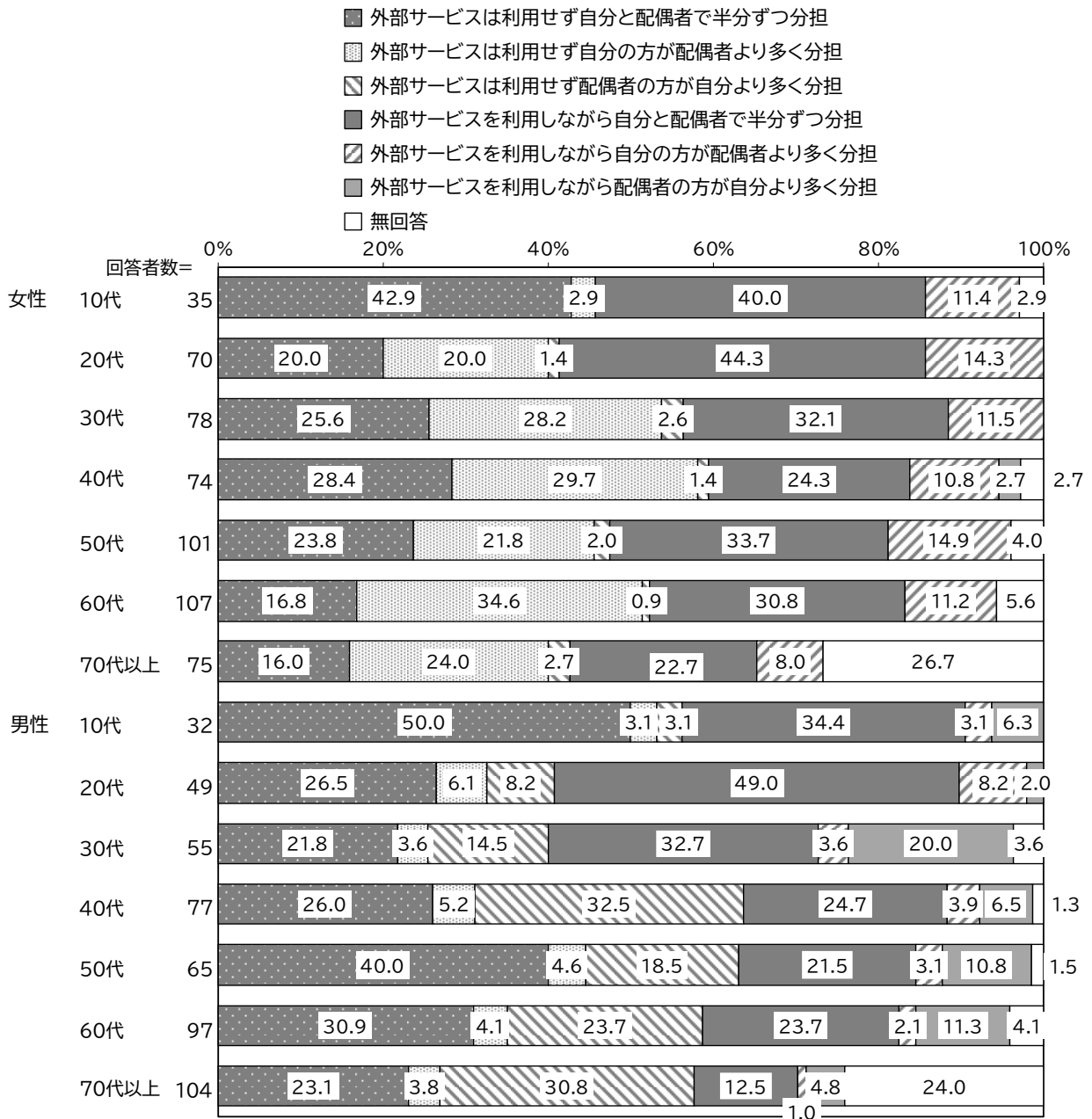
- 自分と配偶者で半分ずつ分担(※1)
- ▨ 自分の方が配偶者より多く分担(※2)
- ▩ 配偶者の方が自分より多く分担(※3)
- 無回答
- 外部サービスは利用しない(※4)
- ▨ 外部サービスを利用する(※5)



※1：「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担」の計
 ※2：「外部サービスは利用せず自分の方が配偶者より多く分担」と「外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担」の計
 ※3：「外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担」と「外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担」の計
 ※4：「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスは利用せず自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスは利用せず配偶者の方が自分より多く分担」の計
 ※5：「外部サービスを利用しながら自分と配偶者で半分ずつ分担」と「外部サービスを利用しながら自分の方が配偶者より多く分担」と「外部サービスを利用しながら配偶者の方が自分より多く分担」の計

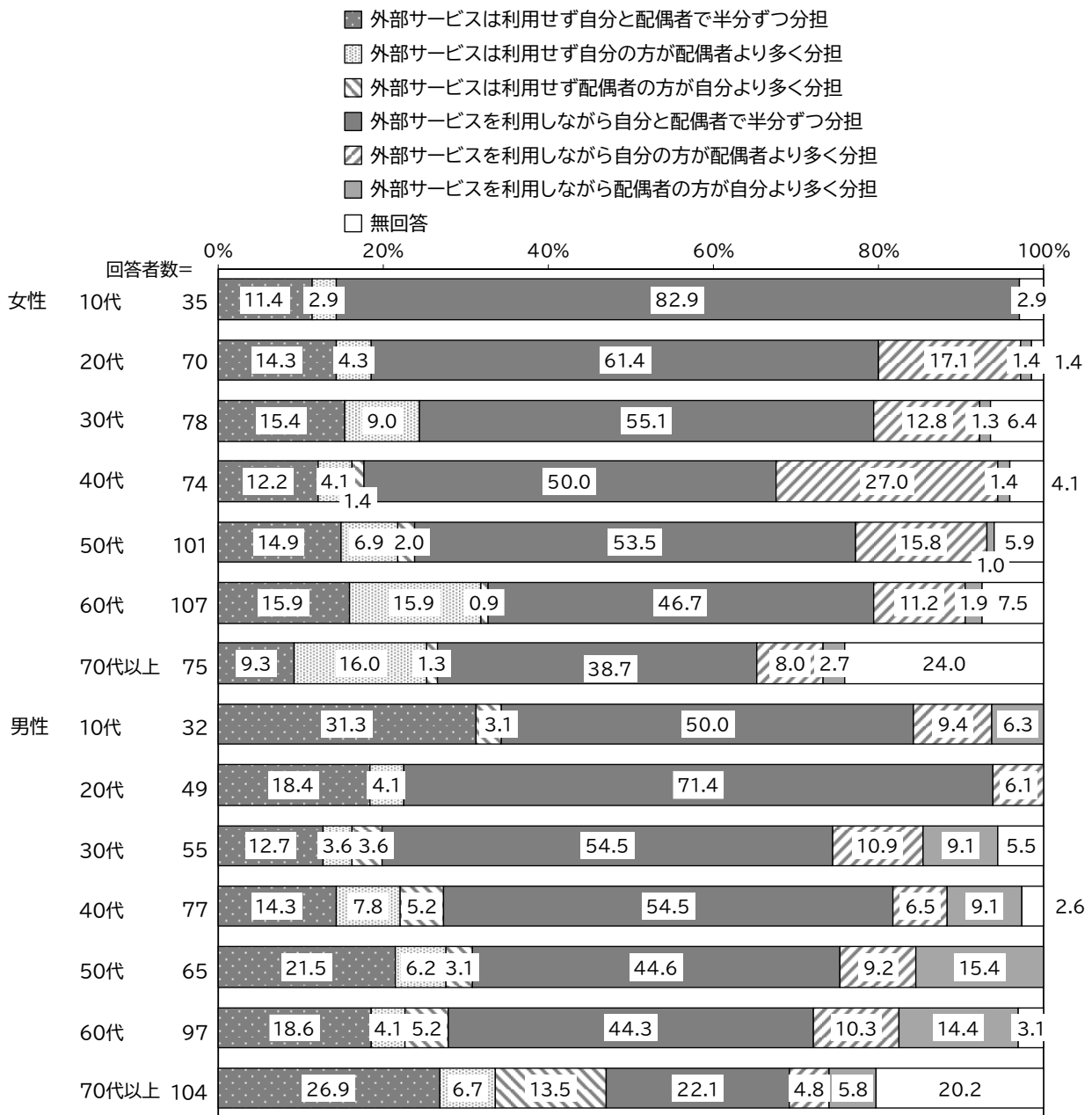
A 育児

【性別・年代別】



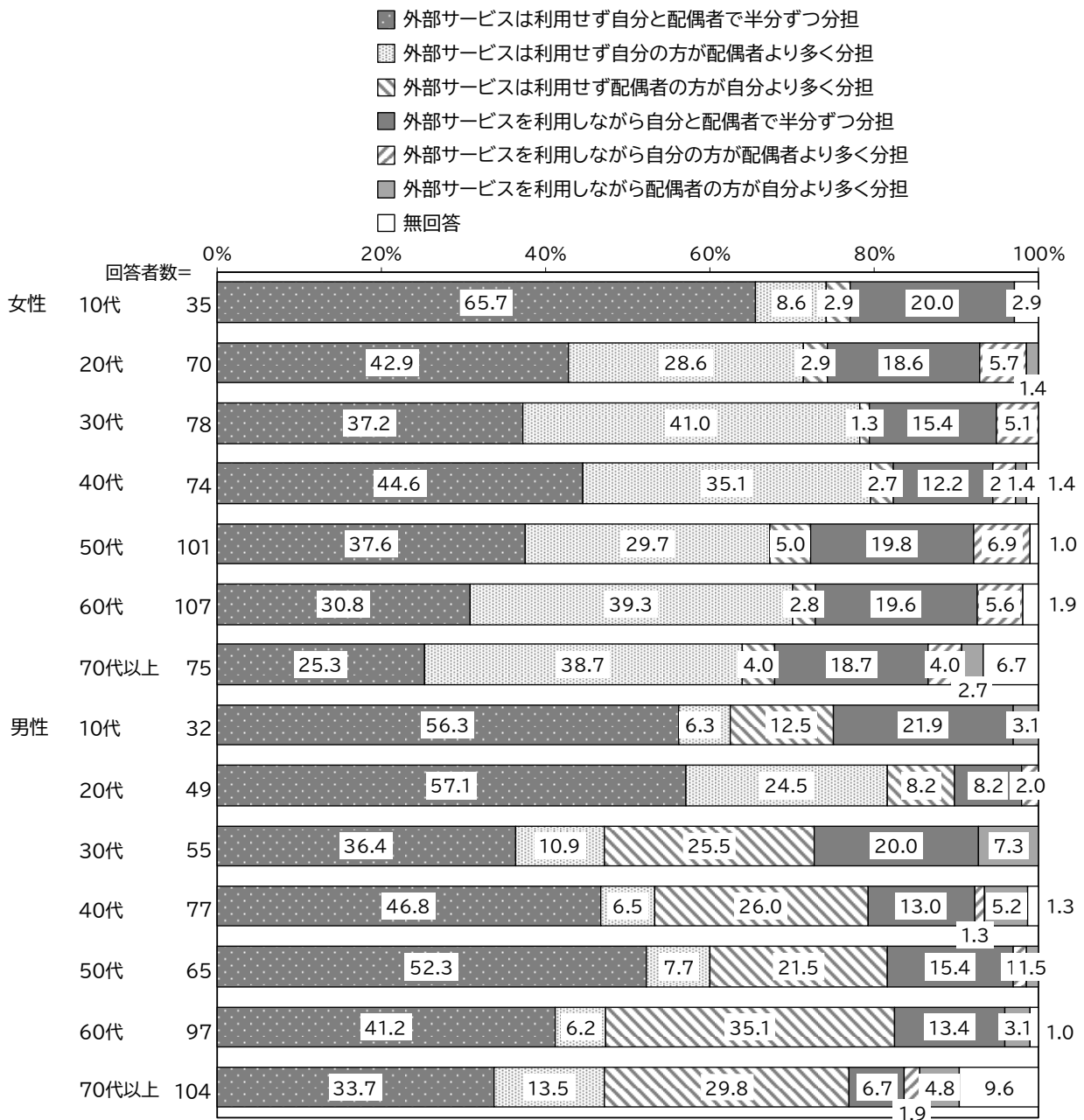
B 介護

【性別・年代別】



C その他の家事

【性別・年代別】

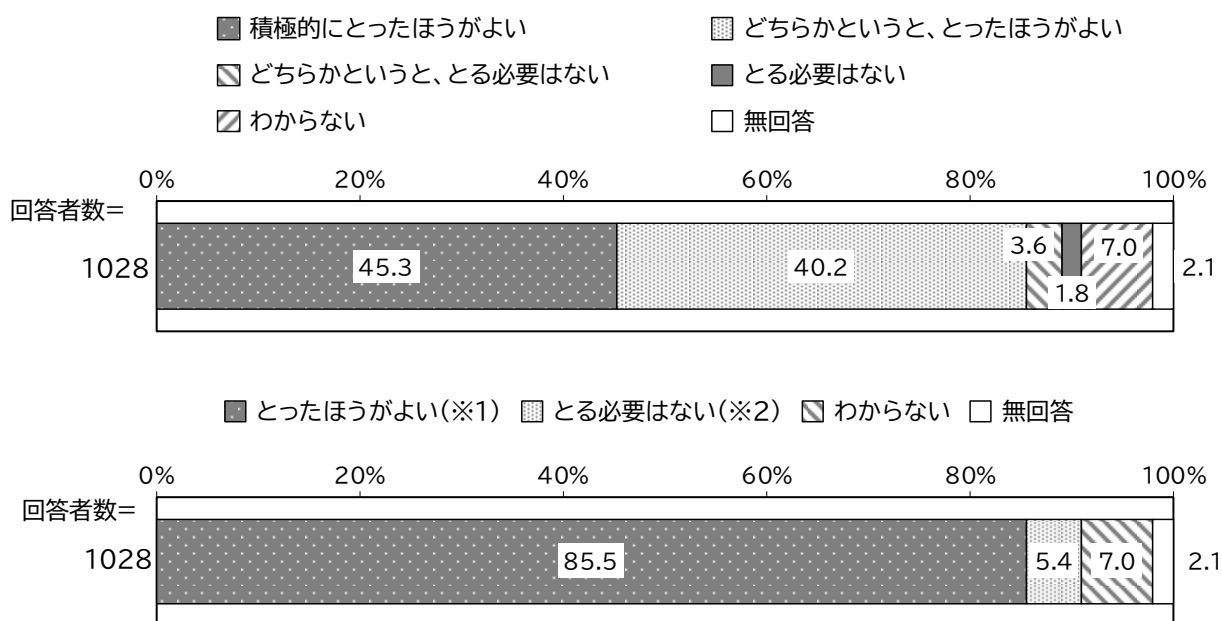


(4) 男性が育児や介護で休みをとることについての考え方

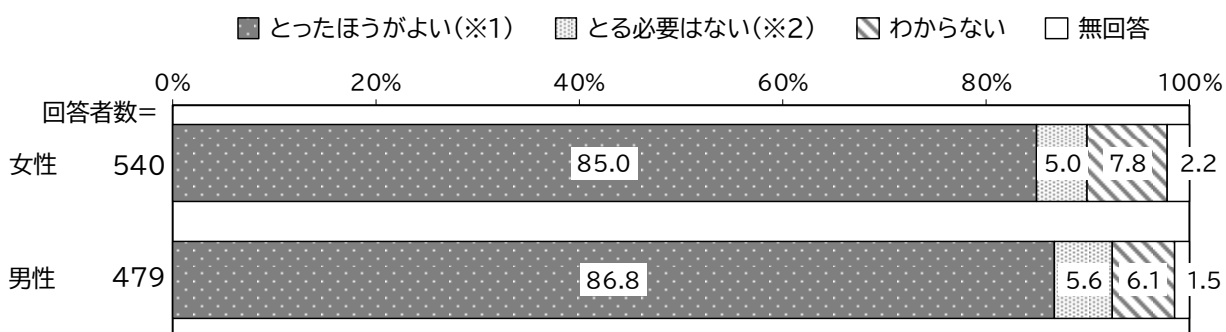
問9. 男性が育児や介護で休みをとることについて、どのように思いますか。
【あてはまるもの1つに○】

「とったほうがよい(※1)」の割合が85.5%、「とる必要はない(※2)」の割合が5.4%、「わからない」が7.0%となっている。

性別別でみると、大きな差異はみられない。



【性別別】

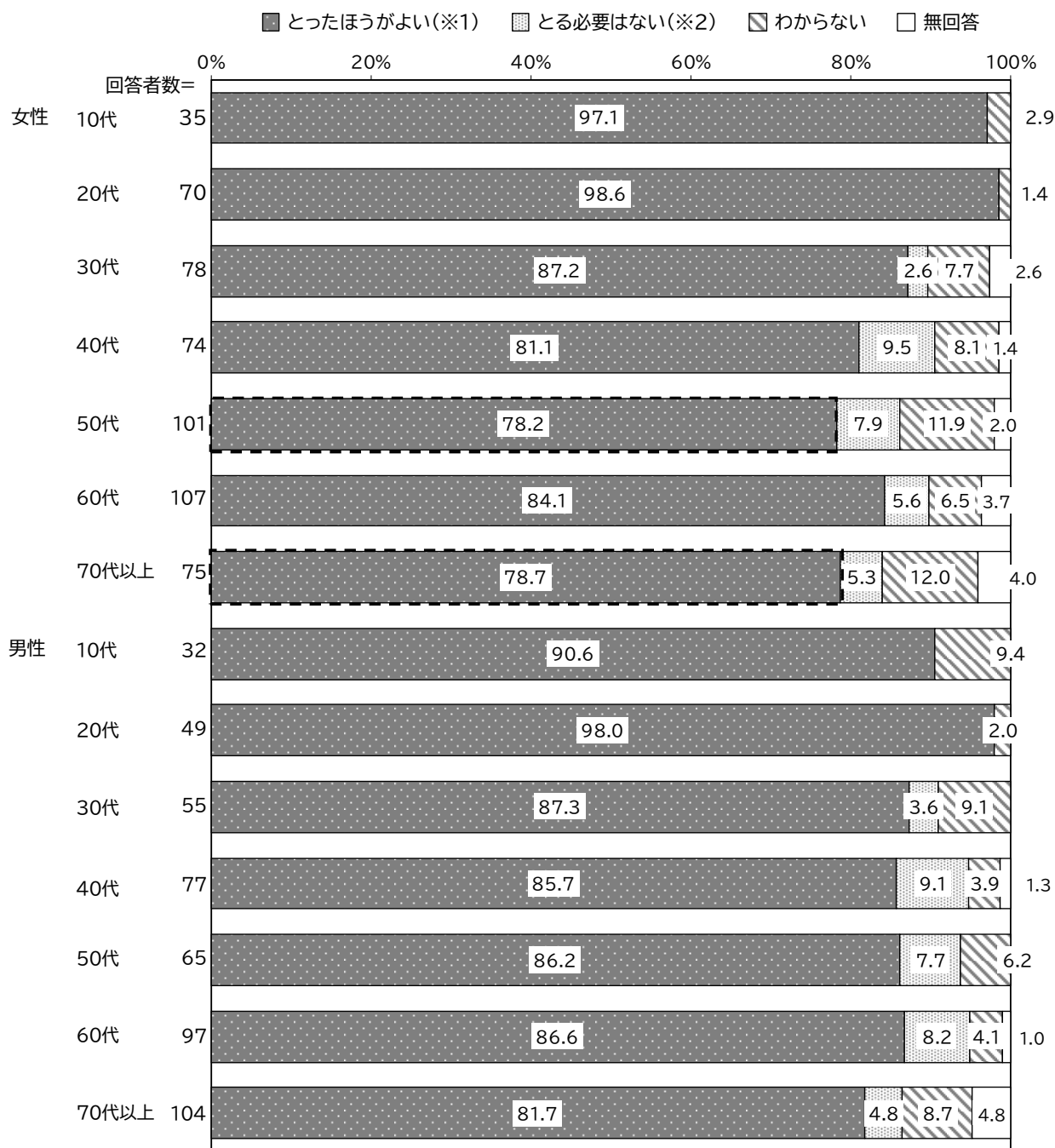


※1: 「積極的にとったほうがよい」と「どちらかというと、とったほうがよい」の計

※2: 「どちらかというと、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

性別・年代別でみると、他に比べ、女性 50 代と女性 70 代以上で「とったほうがよい（※1）」の割合がやや低い。

【性別・年代別】



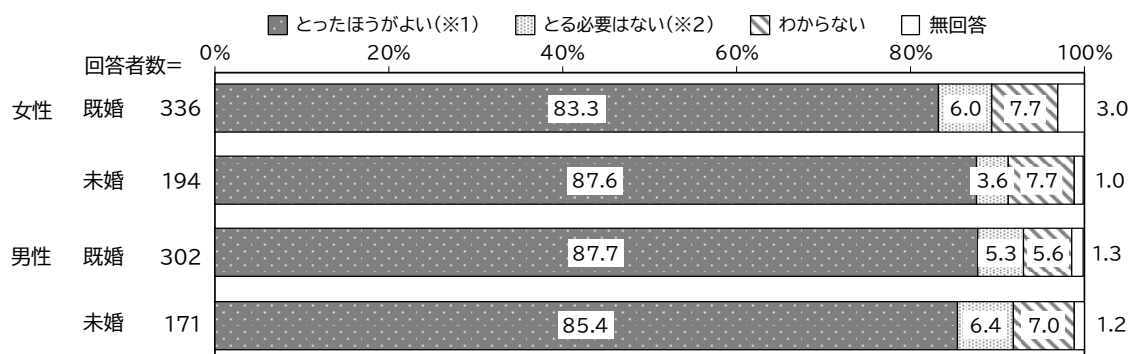
※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」の計
 ※2：「どちらかという、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

性別・婚姻別でみると、大きな差異はみられない。

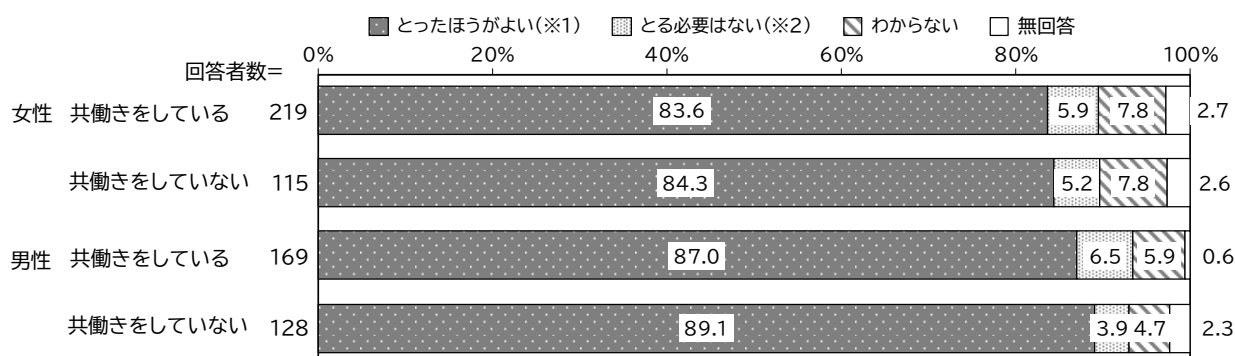
性別・共働き別でみると、大きな差異はみられない。

性別役割分担意識別でみると、男女ともに肯定的で「とる必要はない(※2)」の割合が高く、否定的で「とったほうがよい(※1)」の割合が高い。

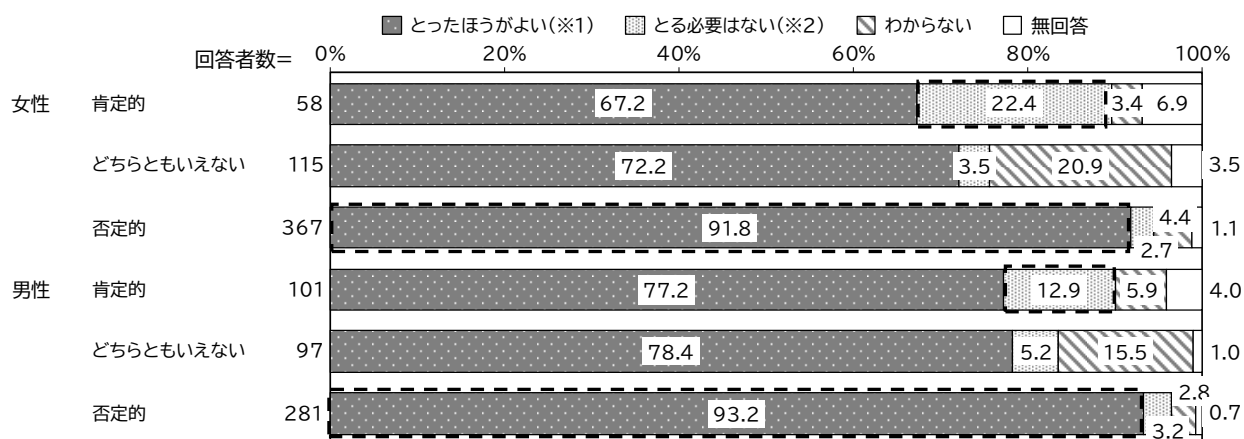
【性別・婚姻別】



【性別・共働き別】



【性別役割分担意識別】



※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」の計

※2：「どちらかという、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

豊橋市の過去の調査との比較でみると、「とったほうがよい(※1)」の割合が前回(令和5年)から1.5ポイントの減少となっている。

【経年比較】

単位：%

	積極的にとったほうがよい	どちらかというのとったほうがよい	どちらかというのとる必要はない	とる必要はない	わからない	無回答	とったほうがよい※1	とる必要はない※2
豊橋市(R07.8)	45.3	40.2	3.6	1.8	7.0	2.1	85.5	5.4
女性	48.5	36.5	3.3	1.7	7.8	2.2	85.0	5.0
男性	42.0	44.9	3.8	1.9	6.1	1.5	86.8	5.6
豊橋市(R05.8)	50.2	36.8	4.7	1.2	6.2	0.8	87.0	5.9
女性	52.7	34.9	5.0	1.2	5.9	0.2	87.6	6.2
男性	46.7	40.1	4.6	1.3	6.6	0.7	86.8	5.9
豊橋市(R03.8)	46.5	38.3	7.2	1.1	6.4	0.6	84.7	8.2
女性	51.1	34.5	6.1	1.6	5.6	1.1	85.7	7.6
男性	41.3	42.8	8.2	0.5	7.2	-	84.1	8.7
豊橋市(R01.8)	37.4	45.9	6.3	1.8	7.6	1.0	83.3	8.1
女性	40.6	43.9	7.2	1.4	6.2	0.6	84.5	8.6
男性	33.2	49.0	5.0	2.2	8.9	1.7	82.2	7.2
豊橋市(H28.8)	27.4	47.5	12.0	2.7	8.3	2.0	74.9	14.7
女性	30.6	46.5	10.3	2.5	8.6	1.4	77.1	12.8
男性	23.4	48.8	14.8	2.6	7.9	2.4	72.2	17.4
豊橋市(H26.9)	29.2	47.5	7.5	2.3	10.5	3.1	76.7	9.8
女性	34.8	43.1	6.3	1.5	10.3	4.0	77.9	7.8
男性	22.7	52.6	8.5	3.3	10.9	1.9	75.3	11.8
豊橋市(H23.6)	27.3	43.9	14.4	2.7	10.0	1.7	71.2	17.1
女性	29.4	44.8	13.4	1.8	9.0	1.7	74.1	15.3
男性	24.8	42.3	16.0	3.5	11.7	1.7	67.2	19.4

※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかというのとったほうがよい」の計

※2：「どちらかというのとる必要はない」と「とる必要はない」の計

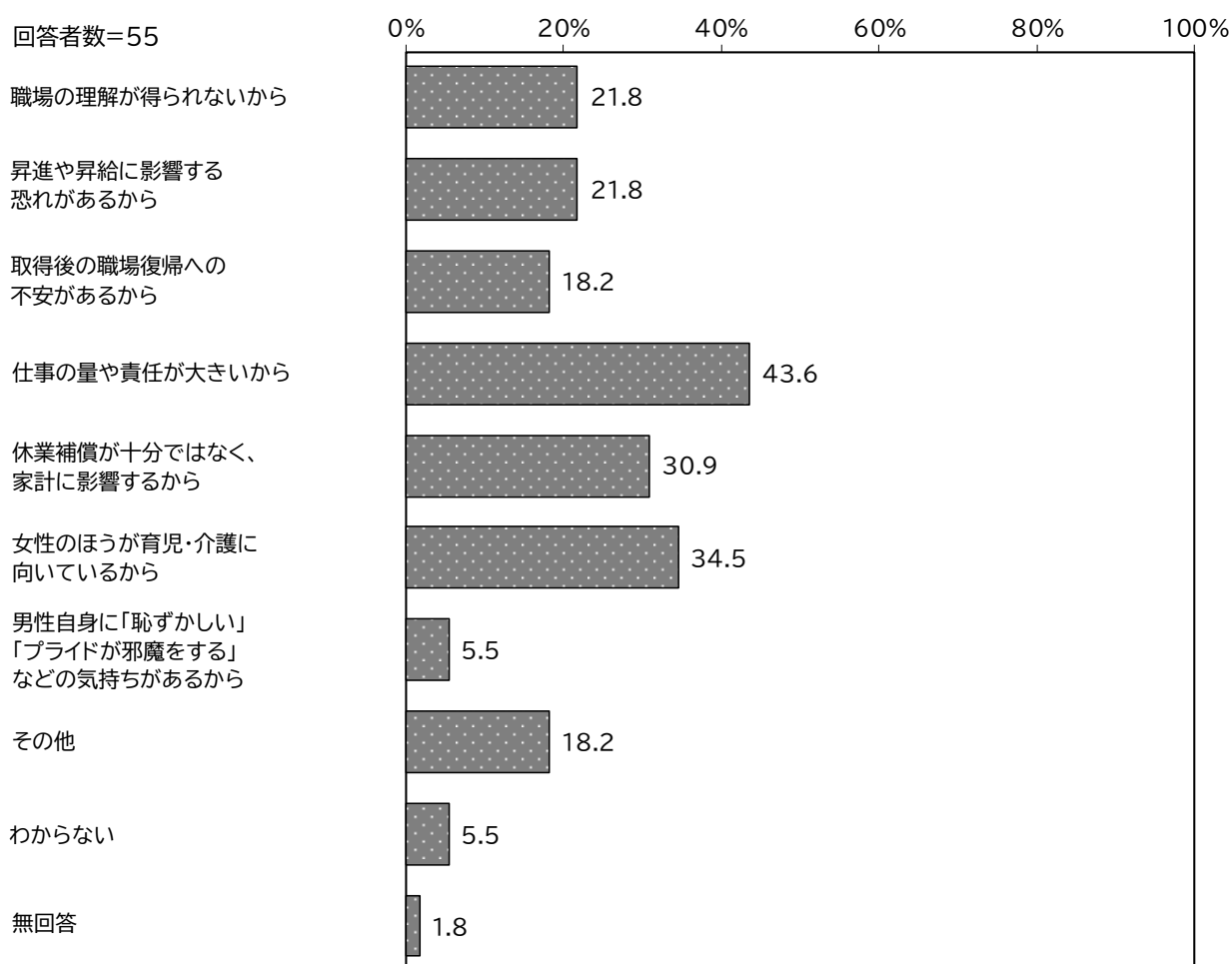
(5) 男性の育児や介護での休みについて思う理由

《問9で「3.どちらかという、休みをとる必要はない」、「4.休みをとる必要はない」と回答した方にお聞きします。》

問9-1. 問9でそう思われるのはなぜですか。【あてはまるものをすべてに○】

「仕事の量や責任が大きいから」の割合が43.6%と最も高く、次いで「女性のほうが育児・介護に向いているから」の割合が34.5%、「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」の割合が30.9%となっている。

性別別でみると、女性に比べ、男性で「職場の理解が得られないから」「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」「取得後の職場復帰への不安があるから」の割合が高い。



【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいためから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性	27	7.4	14.8	14.8	44.4	22.2	33.3	7.4	29.6	3.7	3.7
男性	27	37.0	29.6	22.2	44.4	40.7	33.3	3.7	7.4	7.4	0.0

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいためから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性 10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	2	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40代	7	0.0	28.6	14.3	28.6	14.3	42.9	0.0	28.6	0.0	0.0
50代	8	12.5	25.0	37.5	62.5	25.0	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5
60代	6	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	16.7	50.0	0.0	0.0
70代以上	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0
男性 10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	2	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
40代	7	14.3	57.1	42.9	57.1	85.7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
50代	5	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
60代	8	37.5	12.5	12.5	50.0	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0
70代以上	5	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0

豊橋市の令和5年の調査との比較でみると、「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」、「仕事の量や責任が大きいから」の割合が増加し、「職場の理解が得られないから」、「取得後の職場復帰への不安があるから」、「女性のほうが育児・介護に向いているから」、「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」の割合が減少している。

【経年比較】

単位：％

	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
豊橋市（R07.8）	21.8	21.8	18.2	43.6	30.9	34.5	5.5	18.2	5.5	1.8
女性	7.4	14.8	14.8	44.4	22.2	33.3	7.4	29.6	3.7	3.7
男性	37.0	29.6	22.2	44.4	40.7	33.3	3.7	7.4	7.4	0.0
豊橋市（R05.8）	32.6	16.3	25.6	41.9	30.2	37.2	9.3	18.6	2.3	0.0
女性	28.0	20.0	20.0	36.0	24.0	32.0	8.0	28.0	4.0	0.0
男性	38.9	11.1	33.3	50.0	38.9	44.4	11.1	5.6	0.0	0.0
豊橋市（R03.8）	30.4	26.1	29.0	30.4	31.9	46.4	14.5	14.5	1.4	-
女性	26.5	26.5	20.6	26.5	23.5	47.1	14.7	26.5	2.9	-
男性	35.3	26.5	35.3	35.3	41.2	47.1	11.8	2.9	-	-
豊橋市（R01.8）	33.8	26.8	23.9	36.6	31.0	42.3	11.3	4.2	-	5.6
女性	31.0	28.6	31.0	28.6	38.1	47.6	9.5	4.8	-	2.4
男性	38.5	19.2	15.4	50.0	15.4	34.6	15.4	0.0	-	11.5
豊橋市（H28.8）	32.2	28.1	30.8	52.1	32.9	41.1	11.6	6.2	-	2.7
女性	28.2	29.6	32.4	45.1	28.2	46.5	14.1	7.0	-	2.8
男性	37.0	27.4	30.1	57.5	38.4	35.6	9.6	5.5	-	2.7
豊橋市（H26.9）	66.1	46.3	46.5	46.5	41.4	16.5	27.2	2.9	5.0	3.0
女性	73.5	50.1	49.1	47.3	46.8	15.9	33.3	3.3	3.2	3.8
男性	57.7	41.9	43.5	45.4	35.1	17.1	19.8	2.5	7.2	1.9
豊橋市（H23.6）	63.9	42.6	44.4	46.3	43.4	17.5	30.9	3.9	2.2	1.4
女性	68.3	45.8	46.4	43.8	47.3	16.1	37.5	3.8	2.0	1.3
男性	58.3	38.4	42.3	50.1	38.2	19.2	21.8	4.1	2.6	1.5

※平成28年調査では、「どちらかというと、とる必要はない」「とる必要はない」と回答した人が答えている。

(6) 女性が仕事をする事について

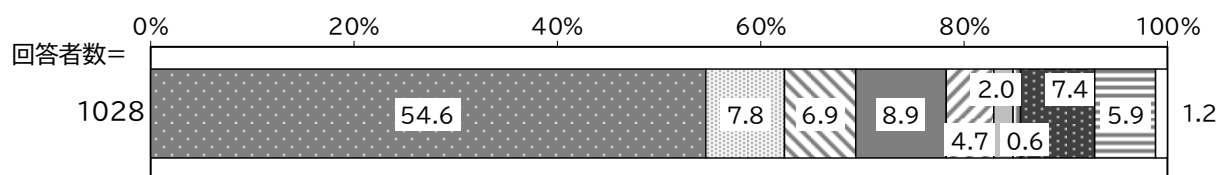
問10. 女性が仕事をする事について、どのように思いますか。

【あてはまるもの1つに○】

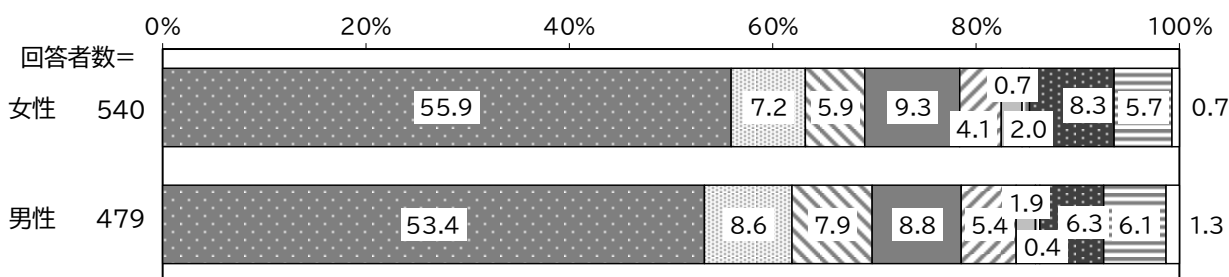
「子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい」の割合が54.6%と最も高く、次いで「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイム（社会保険料等の扶養の範囲内）で仕事に就くのがよい」の割合が8.9%となっている。

性別別でみると、大きな差異はみられない。

- 子どもができたら産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい
- ▨ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらフルタイムの仕事に就くのがよい
- ▧ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲を超える)で仕事に就くのがよい
- 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲内)で仕事に就くのがよい
- ▩ 子どもができるまでは仕事をするのがよい
- 結婚するまでは仕事をするのがよい
- ▨ 女性は仕事をしない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



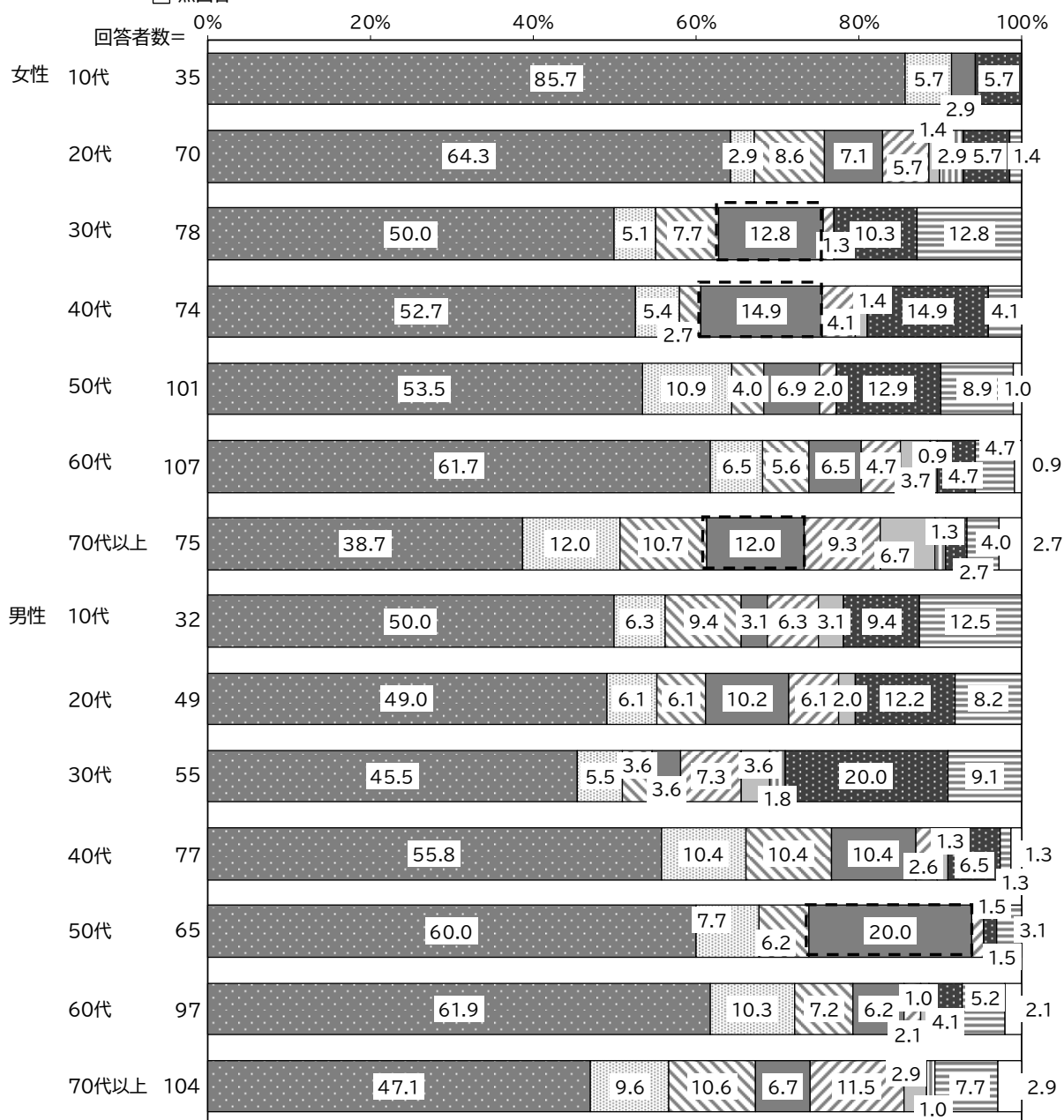
【性別別】



性別・年代別でみると、他に比べ、女性 30 代、女性 40 代、女性 70 代以上、男性 50 代で「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイム（社会保険料等の扶養の範囲内）の仕事に就くのがよい」の割合が高い。

【性別・年代別】

- 子どもができれば産休・育休・時短勤務などを利用して、仕事をずっと続けるのがよい
- ▨ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらフルタイムの仕事に就くのがよい
- ▧ 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲を超える)で仕事に就くのがよい
- 子育てを機に退職し、子どもが成長したらパートタイム(社会保険料等の扶養の範囲内)で仕事に就くのがよい
- ▩ 子どもができるまでは仕事をするのがよい
- ▨ 結婚するまでは仕事をするのがよい
- ▨ 女性は仕事をしない方がよい
- その他
- ▨ わからない
- 無回答



豊橋市の令和5年の調査との比較でみると、令和7年の調査は大きな差はみられなかった。

令和5年、令和7年は「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい」は「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイム（社会保険料等の扶養の範囲を超える）で仕事に就くのがよい」と「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイム（社会保険料等の扶養の範囲内）で仕事に就くのがよい」の合計

【経年比較】

単位：%

	子どもが育ったらパートタイムで仕事を続けるのがよい (平成28年までは)産休・育休などを取得しながらフルタイムで仕事を続けるのがよい	子どもが育ったら産休・育休・時短勤務などを 利用して、仕事をずっと続けるのがよい	子育てを機に退職し、子どもが育ったら フルタイムの仕事に就くのがよい	子育てを機に退職し、子どもが育ったら パートタイムの仕事に就くのがよい	子どもができるまでは仕事をするのがよい	結婚するまでは仕事をするのがよい	女性は仕事をしない方がよい	その他	わからない	無回答
豊橋市 (R07.8)	54.6	7.8	15.9	8.9	4.7	2.0	0.6	7.4	5.9	
女性	55.9	7.2	15.2	9.3	4.1	2.0	0.7	8.3	5.7	
男性	53.4	8.6	16.7	8.8	5.4	1.9	0.4	6.3	6.1	
豊橋市 (R05.8)	55.2	6.5	14.5	5.8	1.7	0.4	8.6	5.8	1.5	
女性	57.2	5.9	14.6	5.2	0.5	0.5	9.2	6.2	0.7	
男性	53.3	6.9	15.1	6.3	3.0	0.3	8.2	5.6	1.3	
豊橋市 (R03.8)	52.6	6.0	15.7	5.8	1.7	0.4	9.8	6.7	1.4	
女性	54.5	3.6	16.1	6.7	1.6	0.2	9.6	5.6	2.0	
男性	50.3	8.7	15.4	4.9	1.8	0.5	10.0	7.7	0.8	
豊橋市 (R01.8)	49.2	7.9	18.6	5.5	1.4	0.8	8.2	6.8	1.6	
女性	50.3	7.0	19.8	5.4	1.4	0.2	9.1	5.4	1.4	
男性	47.4	9.4	17.5	6.1	0.8	1.7	6.6	8.6	1.9	
豊橋市 (H28.8)	31.9	12.7	24.9	8.6	3.7	0.2	8.4	6.0	3.6	
女性	31.2	12.6	24.5	8.8	4.1	0.4	9.7	5.2	3.4	
男性	32.1	13.4	25.8	8.4	3.3	0.0	6.7	6.9	3.3	
豊橋市 (H26.9)	44.4	10.0	20.6	7.0	2.8	0.5	3.2	6.1	5.3	
女性	42.1	9.3	23.2	6.3	3.6	0.3	3.8	5.6	5.6	
男性	47.0	10.9	17.5	7.8	1.9	0.8	2.5	6.8	4.9	

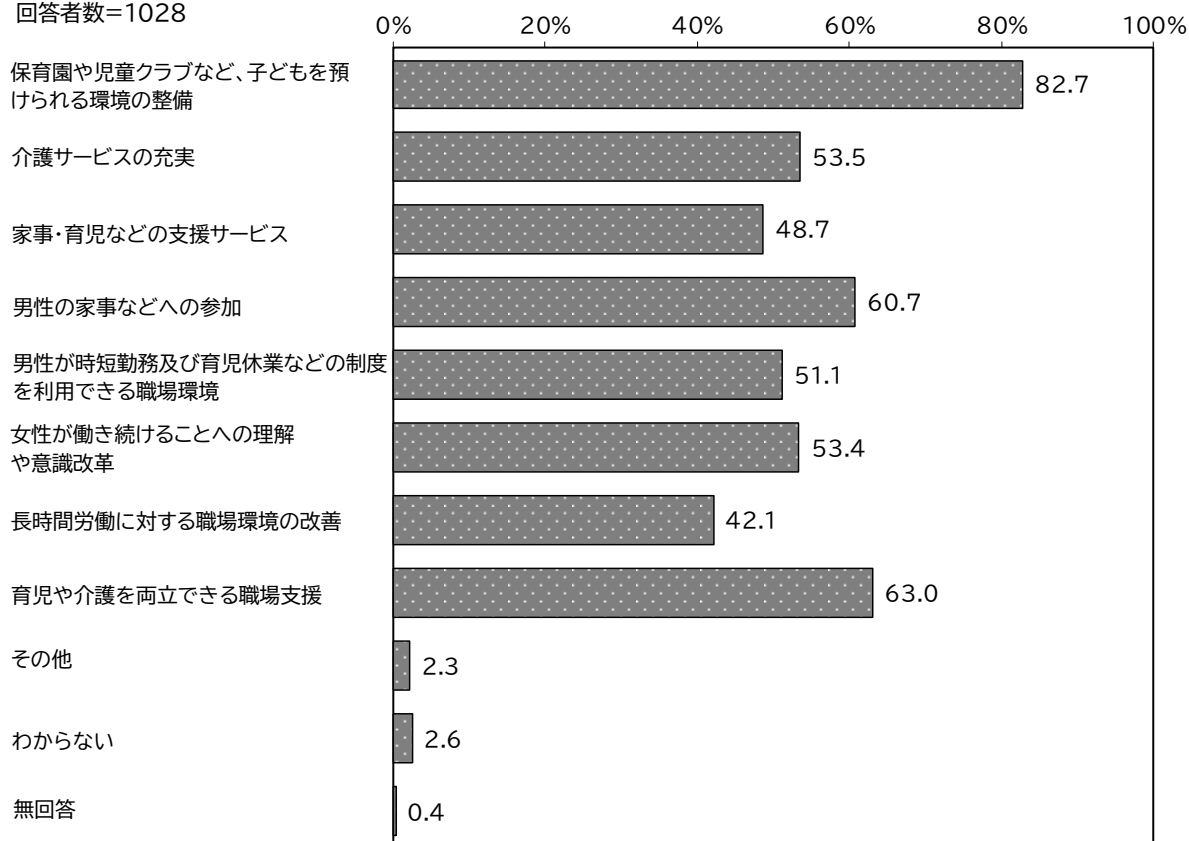
(7) 女性が働き続けるために必要と思うこと

問11. 働くことを希望する女性が働き続けるために、家庭、仕事、地域などで何が必要だと思いますか。【あてはまるものをすべてに○】

「保育園や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が82.7%と最も高く、次いで「育児や介護を両立できる職場支援」の割合が63.0%、「男性の家事などへの参加」の割合が60.7%となっている。

性別別でみると、女性は具体的な回答項目の全てで、男性より回答の割合が高い。

回答者数=1028



【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	保育園や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護サービスの充実	家事・育児などの支援サービス	男性の家事などへの参加	男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境	女性が働き続けることへの理解や意識改革	長時間労働に対する職場環境の改善	育児や介護を両立できる職場支援	その他	わからない	無回答
女性	540	85.2	57.6	50.0	67.4	53.9	60.4	44.4	68.9	1.5	2.0	0.4
男性	479	80.6	49.1	47.4	53.7	48.2	45.9	39.7	57.0	3.3	2.9	0.0

性別・年代別でみると、他に比べ、女性10代・20代、男性30代で「家事・育児などの支援サービス」の割合が、女性10代～60代、男性20代・40代で「男性の家事などへの参加」の割合が、女性10代～60代で「女性が働き続けることへの理解や意識改革」が、女性10代～60代、男性20代で「育児や介護を両立できる職場支援」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	保育園や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護サービスの充実	家事・育児などの支援サービス	男性の家事などへの参加	男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境	女性が働き続けることへの理解や意識改革	長時間労働に対する職場環境の改善	育児や介護を両立できる職場支援	その他	わからない	無回答
女性 10代	35	91.4	60.0	<u>74.3</u>	<u>74.3</u>	65.7	<u>60.0</u>	51.4	<u>82.9</u>	0.0	0.0	0.0
20代	70	81.4	44.3	<u>62.9</u>	<u>72.9</u>	67.1	<u>65.7</u>	58.6	<u>71.4</u>	2.9	4.3	0.0
30代	78	89.7	43.6	52.6	<u>70.5</u>	59.0	<u>59.0</u>	52.6	<u>64.1</u>	3.8	1.3	0.0
40代	74	82.4	58.1	41.9	<u>64.9</u>	54.1	<u>60.8</u>	41.9	<u>77.0</u>	0.0	0.0	0.0
50代	101	80.2	61.4	44.6	<u>70.3</u>	46.5	<u>60.4</u>	53.5	<u>67.3</u>	2.0	3.0	1.0
60代	107	90.7	72.9	50.5	<u>67.3</u>	49.5	<u>62.6</u>	34.6	<u>68.2</u>	0.9	1.9	0.0
70代以上	75	82.7	56.0	38.7	54.7	46.7	53.3	24.0	60.0	0.0	2.7	1.3
男性 10代	32	78.1	28.1	37.5	53.1	50.0	31.3	46.9	50.0	0.0	3.1	0.0
20代	49	81.6	30.6	51.0	<u>61.2</u>	63.3	46.9	53.1	<u>71.4</u>	2.0	2.0	0.0
30代	55	80.0	38.2	<u>61.8</u>	36.4	49.1	38.2	50.9	50.9	3.6	1.8	0.0
40代	77	81.8	50.6	53.2	<u>62.3</u>	58.4	45.5	44.2	51.9	9.1	3.9	0.0
50代	65	75.4	43.1	40.0	52.3	38.5	43.1	40.0	47.7	4.6	1.5	0.0
60代	97	83.5	66.0	48.5	54.6	47.4	49.5	28.9	62.9	3.1	2.1	0.0
70代以上	104	80.8	56.7	40.4	52.9	39.4	52.9	31.7	59.6	0.0	4.8	0.0

性別・婚姻別でみると、他に比べ、男性既婚で「男性の家事などへの参加」、「男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境」、「長時間労働に対する職場環境の改善」、男性未婚で「保育園や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」「介護サービスの充実」の割合が低い。

性別・共働き別でみると、他に比べ、共働きしている女性で「男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境」「長時間労働に対する職場環境の改善」の割合が高い。

【性別・婚姻別】

単位：％

区分	回答者数(件)	保育園や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護サービスの充実	家事・育児などの支援サービス	男性の家事などへの参加	男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境	女性が働き続けることへの理解や意識改革	長時間労働に対する職場環境の改善	育児や介護を両立できる職場支援	その他	わからない	無回答
女性 既婚	336	86.3	56.0	49.4	69.0	53.0	60.4	44.6	67.9	2.1	1.2	0.3
未婚	194	84.0	61.3	51.5	65.5	56.7	61.3	45.4	71.6	0.5	2.6	0.0
男性 既婚	302	84.8	52.6	46.0	52.6	46.7	45.4	36.1	58.3	3.3	2.0	0.0
未婚	171	74.3	43.9	50.9	56.7	51.5	47.4	46.8	55.0	2.9	3.5	0.0

【性別・共働き別】

単位：％

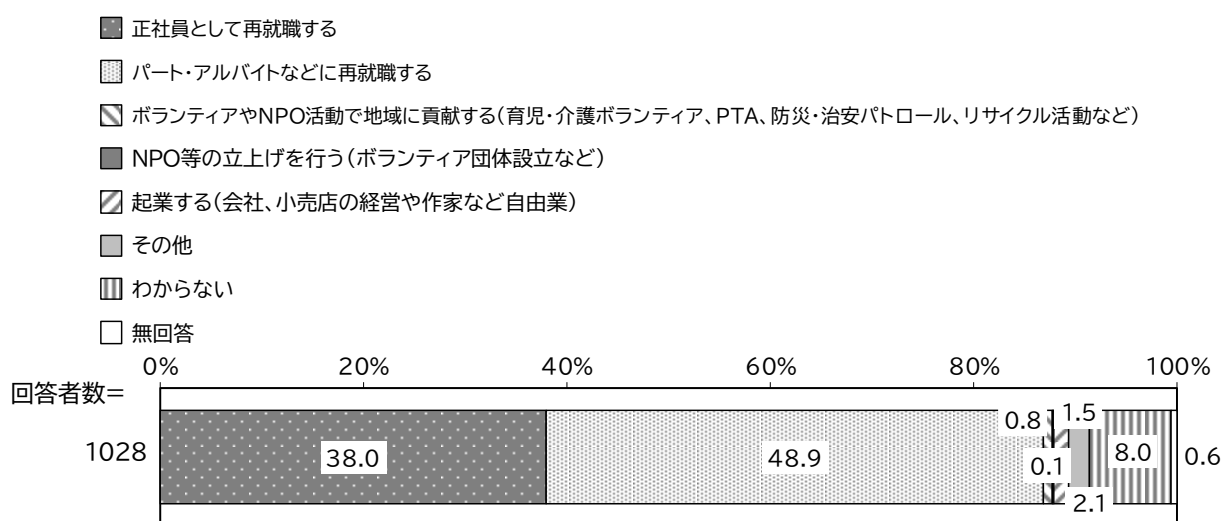
区分	回答者数(件)	保育園や児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護サービスの充実	家事・育児などの支援サービス	男性の家事などへの参加	男性が時短勤務及び育児休業などの制度を利用できる職場環境	女性が働き続けることへの理解や意識改革	長時間労働に対する職場環境の改善	育児や介護を両立できる職場支援	その他	わからない	無回答
女性 共働きしている	219	85.8	55.3	53.0	69.4	55.7	61.6	51.1	69.4	3.2	0.9	0.5
共働きしていない	115	87.8	58.3	43.5	68.7	48.7	58.3	33.0	66.1	0.0	1.7	0.0
男性 共働きしている	169	82.8	47.9	43.8	52.1	45.6	40.2	36.1	52.1	4.1	1.8	0.0
共働きしていない	128	86.7	57.8	49.2	52.3	49.2	52.3	35.9	67.2	2.3	2.3	0.0

(8) 離職した女性が社会で活動する際に希望する活動

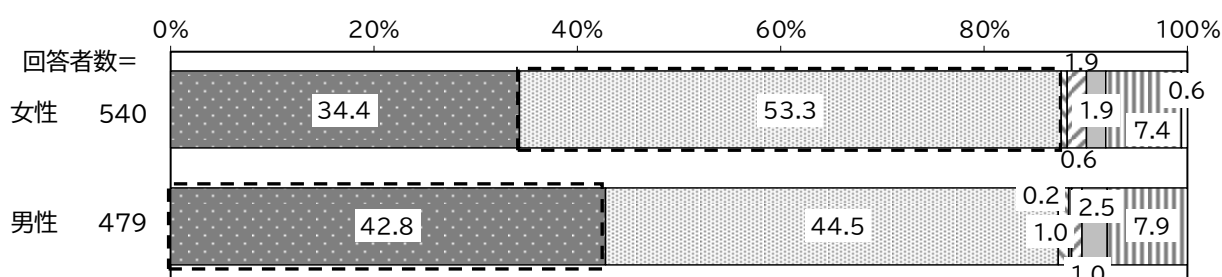
問12. 結婚や出産、育児を理由に仕事を辞める女性があります。
離職した女性が、再び社会で活動することを希望する場合にどんな活動をする
と思いますか。【あてはまるもの1つに○】

「パート・アルバイトなどに再就職する」の割合が48.9%と最も高く、次いで「正社員として再就職する」の割合が38.0%となっている。

性別別でみると、男性に比べ、女性で「パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が高い。
また、女性に比べ、男性で「正社員として再就職する」の割合が高い。



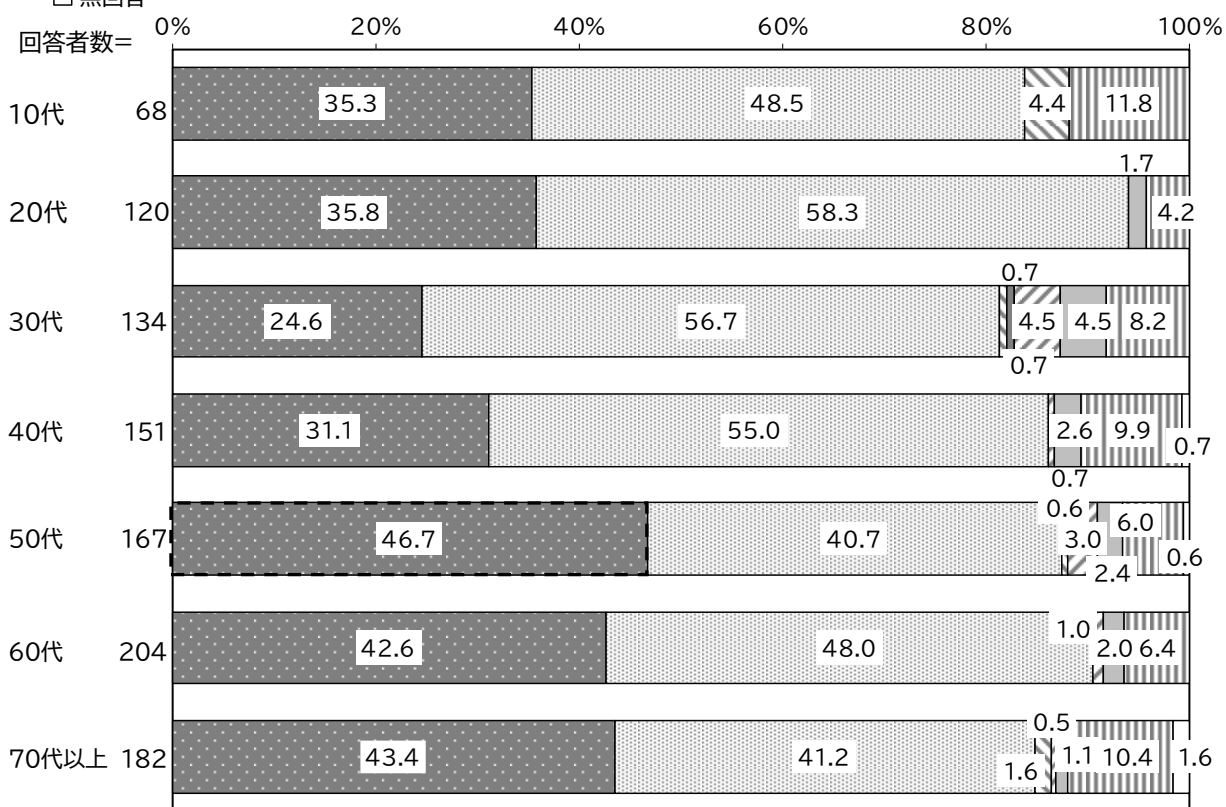
【性別別】



年代別でみると、他に比べ、50代で「正社員として再就職する」の割合が高い。

【年代別】

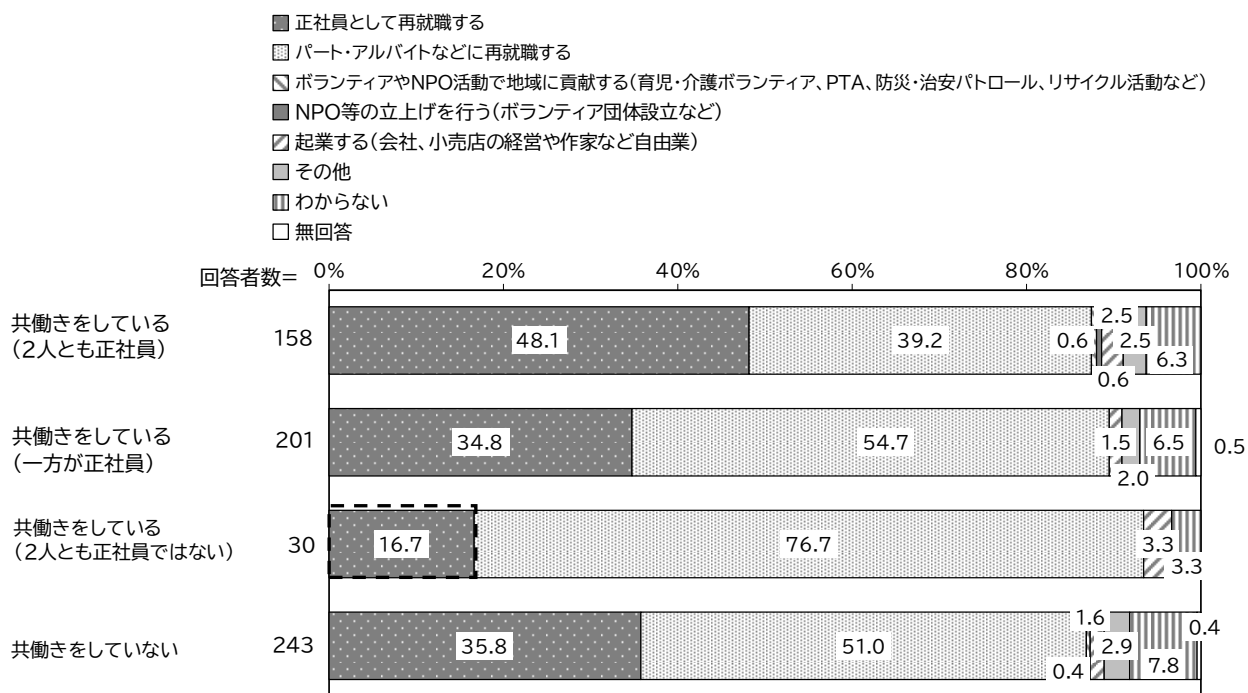
- 正社員として再就職する
- ▨ パート・アルバイトなどに再就職する
- ▩ ボランティアやNPO活動で地域に貢献する(育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、リサイクル活動など)
- NPO等の立上げを行う(ボランティア団体設立など)
- ▨ 起業する(会社、小売店の経営や作家など自由業)
- その他
- ▩ わからない
- 無回答



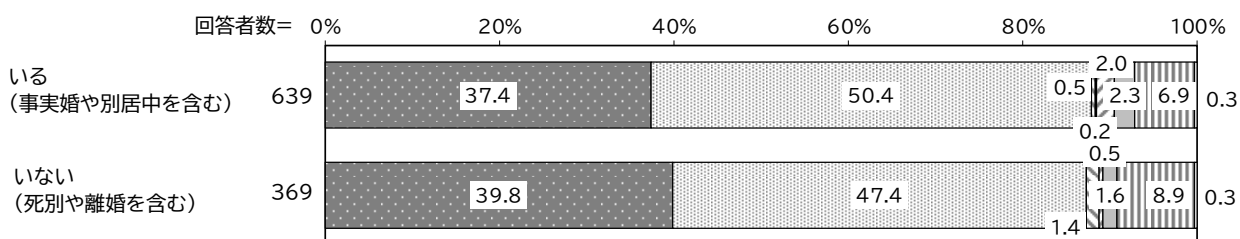
共働き別でみると、他に比べ、共働きをしている（2人とも正社員ではない）で「正社員として再就職する」の割合が低くなっている。

配偶者の有無別でみると、大きな差異はみられない。

【共働き別】



【配偶者の有無別】

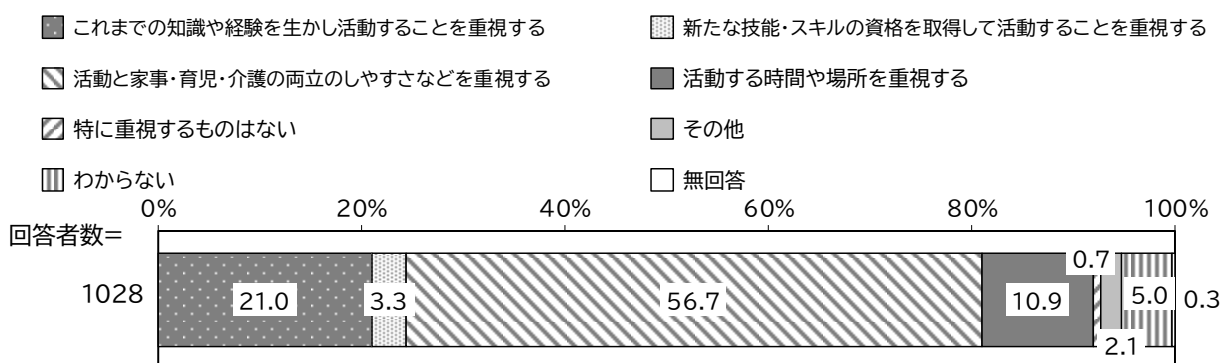


(9) 離職した女性が社会で活動する際に重視にすること

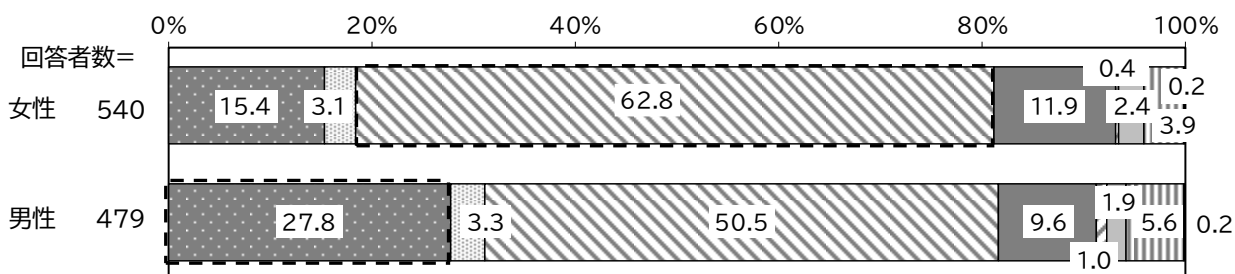
問12-1. 結婚や出産、育児を理由に仕事を辞める女性があります。
 離職した女性が、再び社会で活動することを希望する場合に何を重視する
 と思いますか。【あてはまるもの1つに○】

「活動と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視する」の割合が56.7%と最も高く、次いで「これまでの知識や経験を生かし活動することを重視する」の割合が21.0%となっている。

性別別で見ると、女性が男性より「活動と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視する」の割合が高く、男性は女性より「これまでの知識や経験を生かし活動することを重視する」の割合が高くなっている。

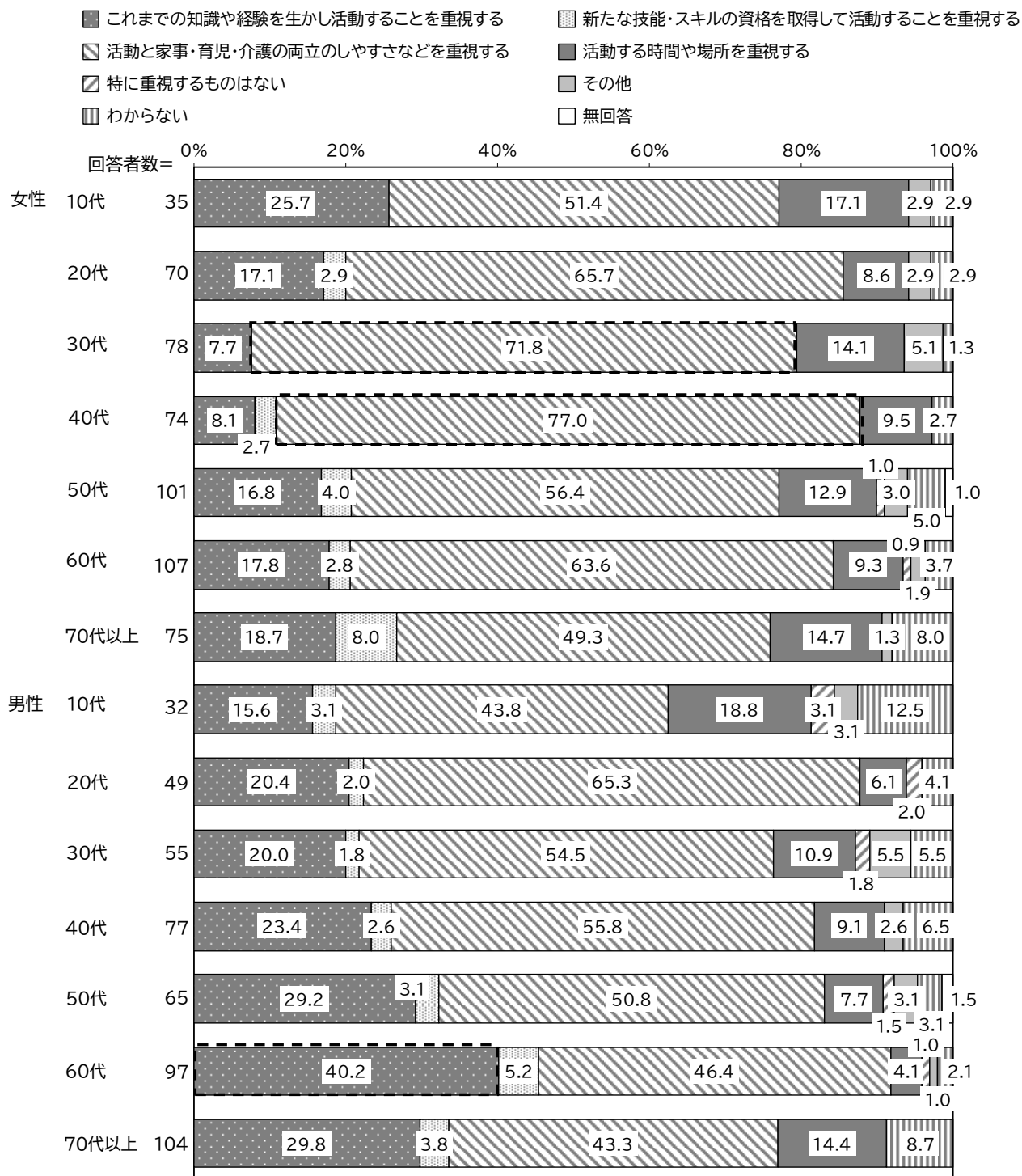


【性別別】



性別・年代別でみると、他に比べ、女性 30 代・40 代で「活動と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視する」の割合が高い。また、男性 60 代で「これまでの知識や経験を生かし活動することを重視する」の割合が高い。

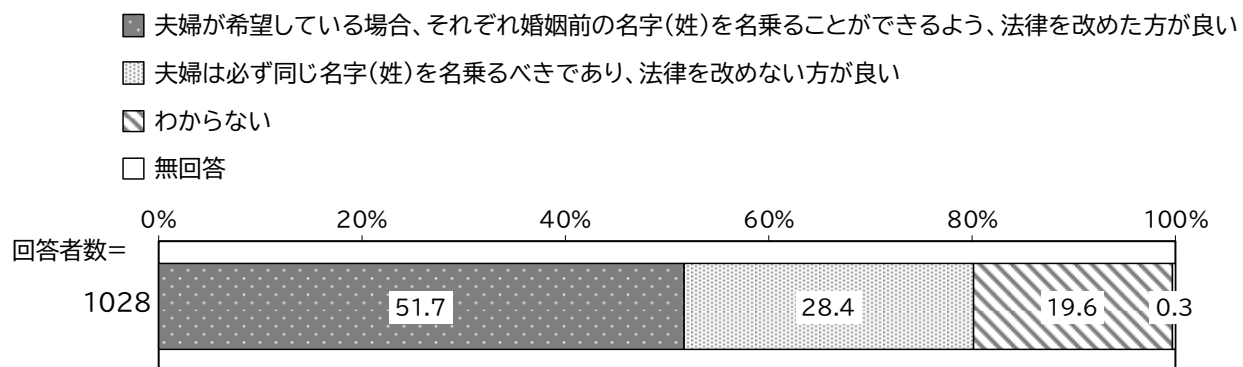
【性別・年代別】



(10) 選択的夫婦別姓について

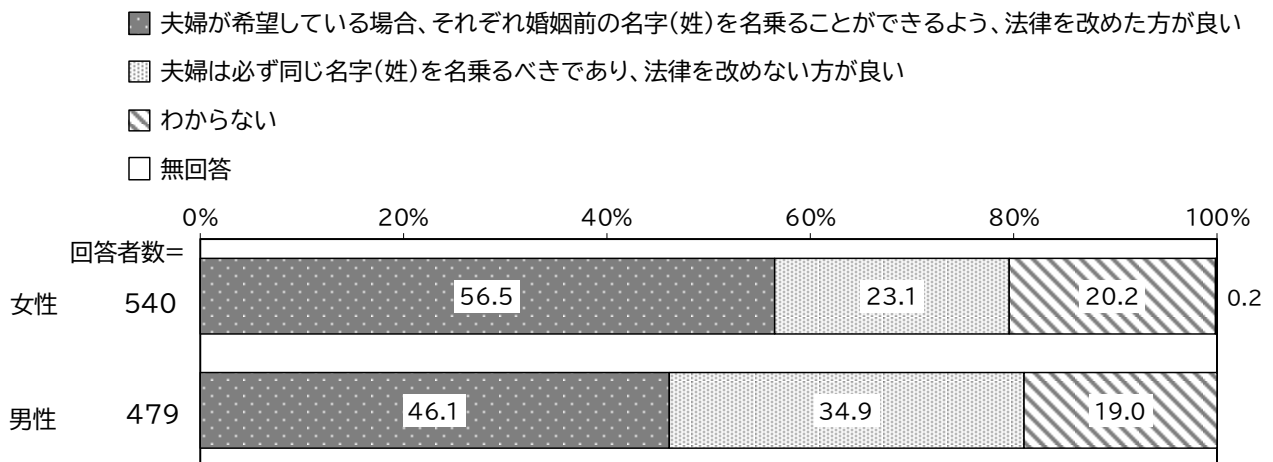
問13. 結婚した際の夫婦の名字(姓)について、現在は必ず同じ名字(姓)を名乗らなければならないことになっていますが、『夫婦が同じ名字(姓)を名乗ることのほか、夫婦が希望する場合には、それぞれの婚姻前の名字(姓)を名乗ることができるように法律を改めた方が良い』(選択的夫婦別姓)という意見があります。
このことについてあなたはどのように思いますか。【あてはまるもの1つに○】

「夫婦が希望している場合、それぞれ婚姻前の名字(姓)を名乗ることができるよう、法律を改めた方が良い」の割合が51.7%、「夫婦は必ず同じ名字(姓)を名乗るべきであり、法律を改めない方が良い」の割合が28.4%、「わからない」の割合が19.6%となっている。



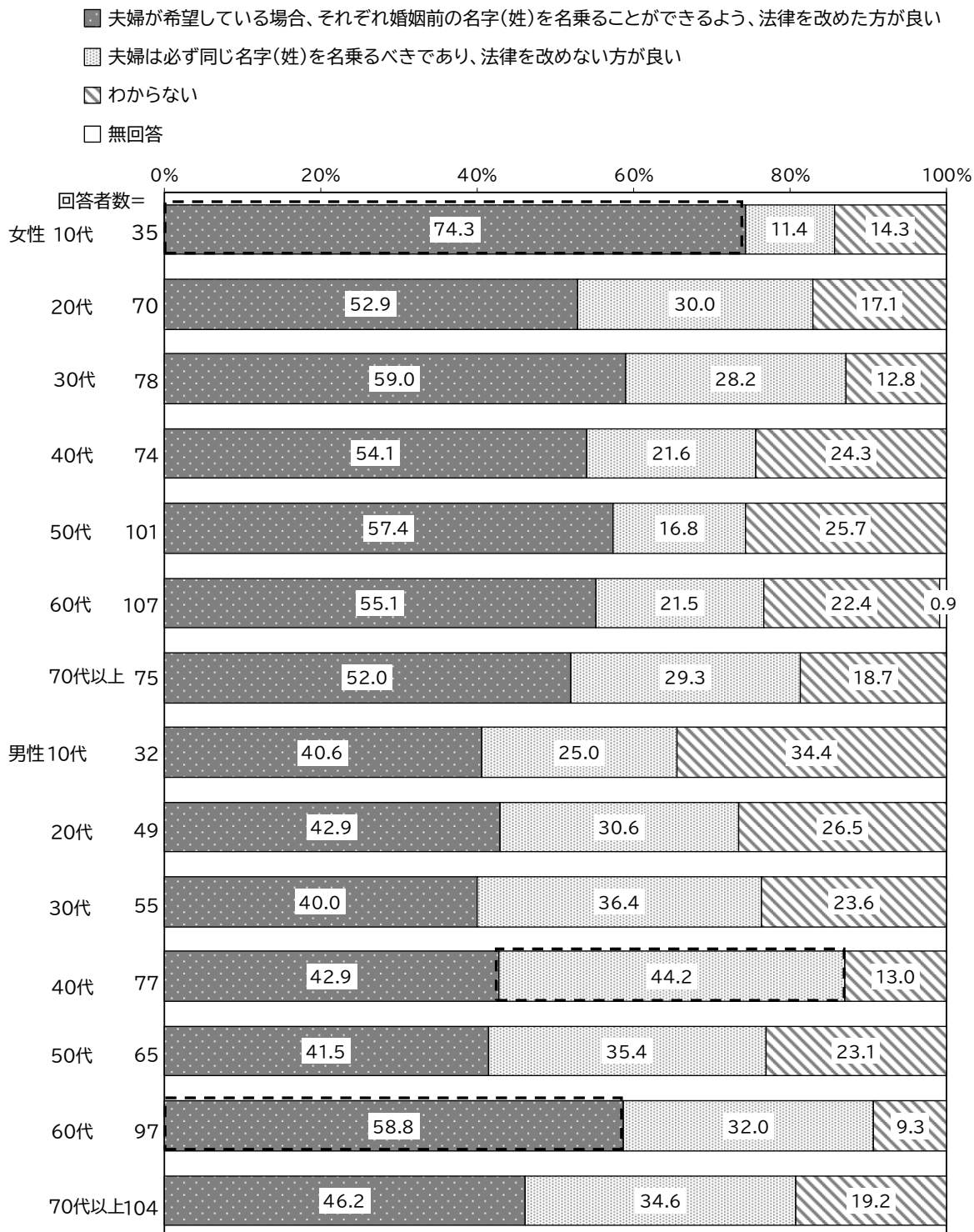
性別別でみると、女性の方が「夫婦が希望している場合、それぞれ婚姻前の名字(姓)を名乗ることができるよう、法律を改めた方が良い」の割合が56.5%で男性の46.1%と比べて約10ポイント高くなっている。

【性別別】



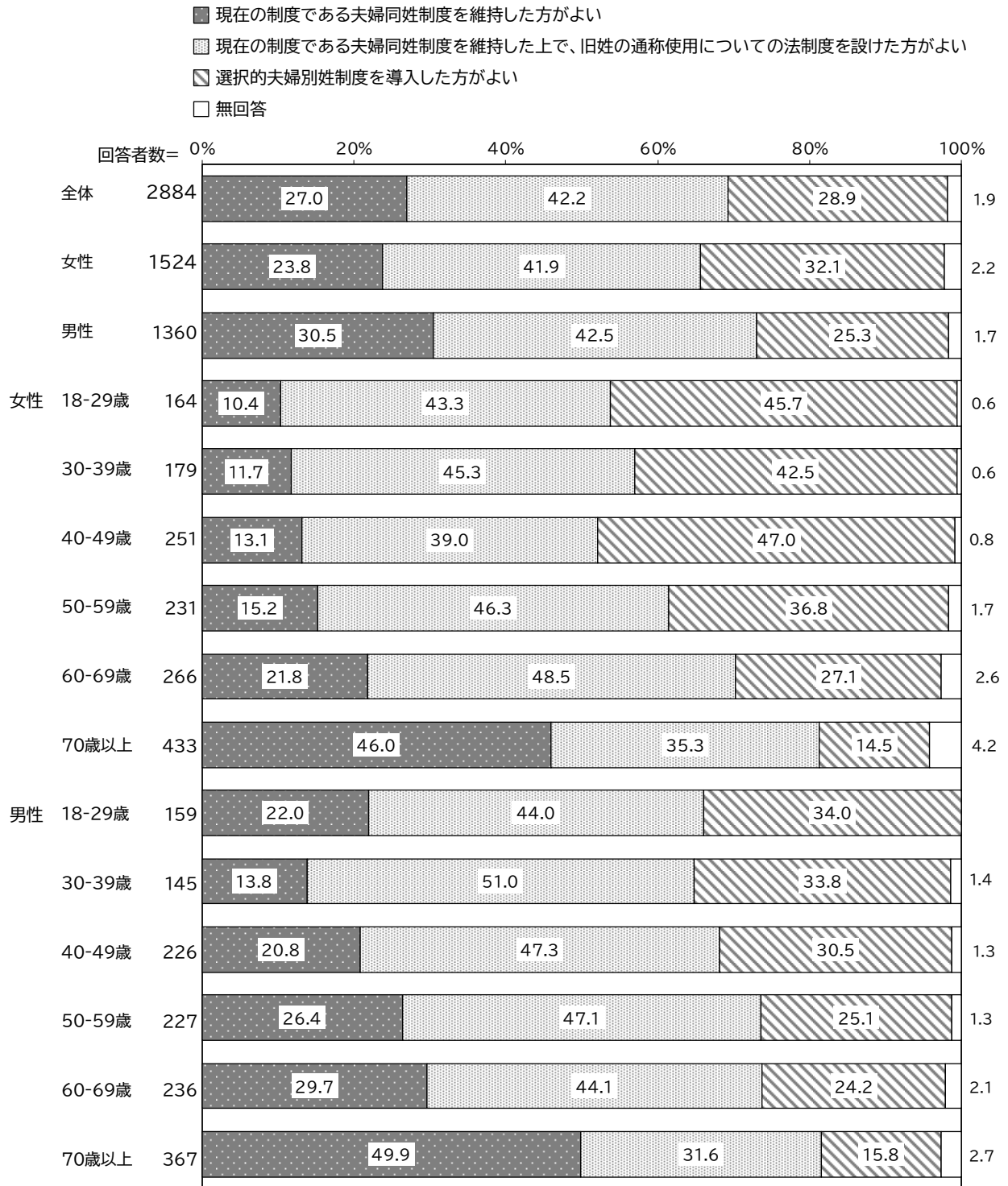
性別・年代別でみると、他に比べ、女性 10 代は「夫婦が希望している場合、それぞれ婚姻前の名字(姓)を名乗ることができるよう、法律を改めた方が良い」の割合が高く、男性では男性 60 代が高くなっている。男性 40 代は他に比べ、「夫婦は必ず同じ名字(姓)を名乗るべきであり、法律を改めない方が良い」の割合が高い。

【性別・年代別】



参考

【全国の夫婦同姓制度・選択的夫婦別姓制度・旧姓の通称使用についての考え方】



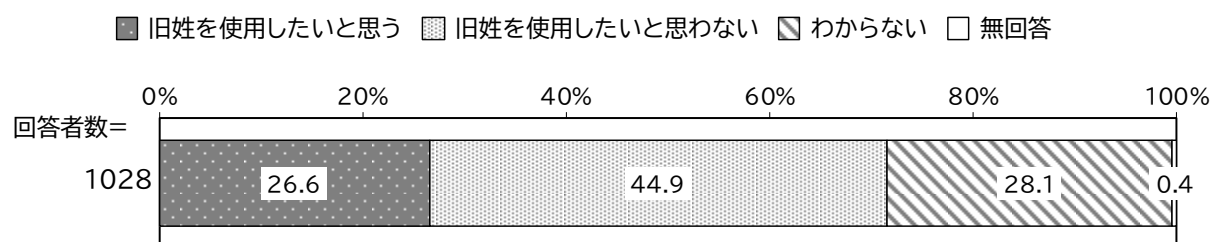
出典：内閣府 令和3年「家族の法制に関する世論調査」

法務省民事局 令和3年「家族の法制に関する世論調査」夫婦の氏に関する調査結果の整理

(11) 旧姓の利用意向

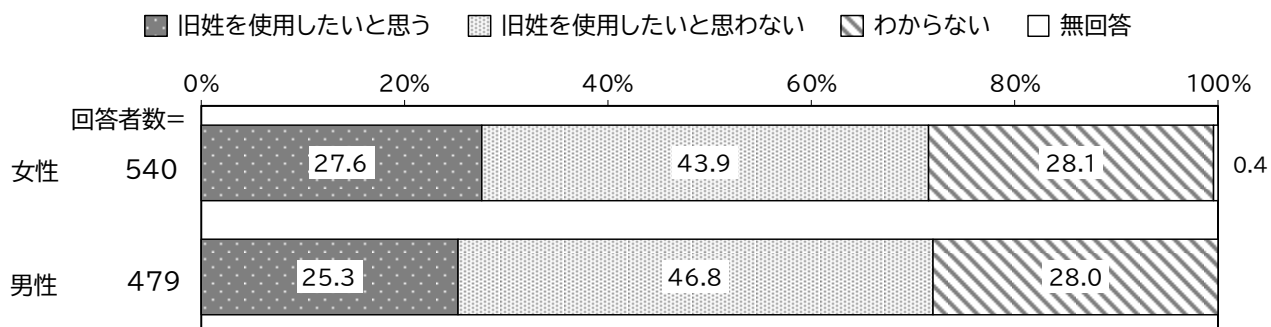
問13-1. あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字（姓）が変わったとした場合、働くときに旧姓を使用したいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

「旧姓を使用したいと思わない」の割合が44.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.1%、「旧姓を使用したいと思う」が26.6%となっている。



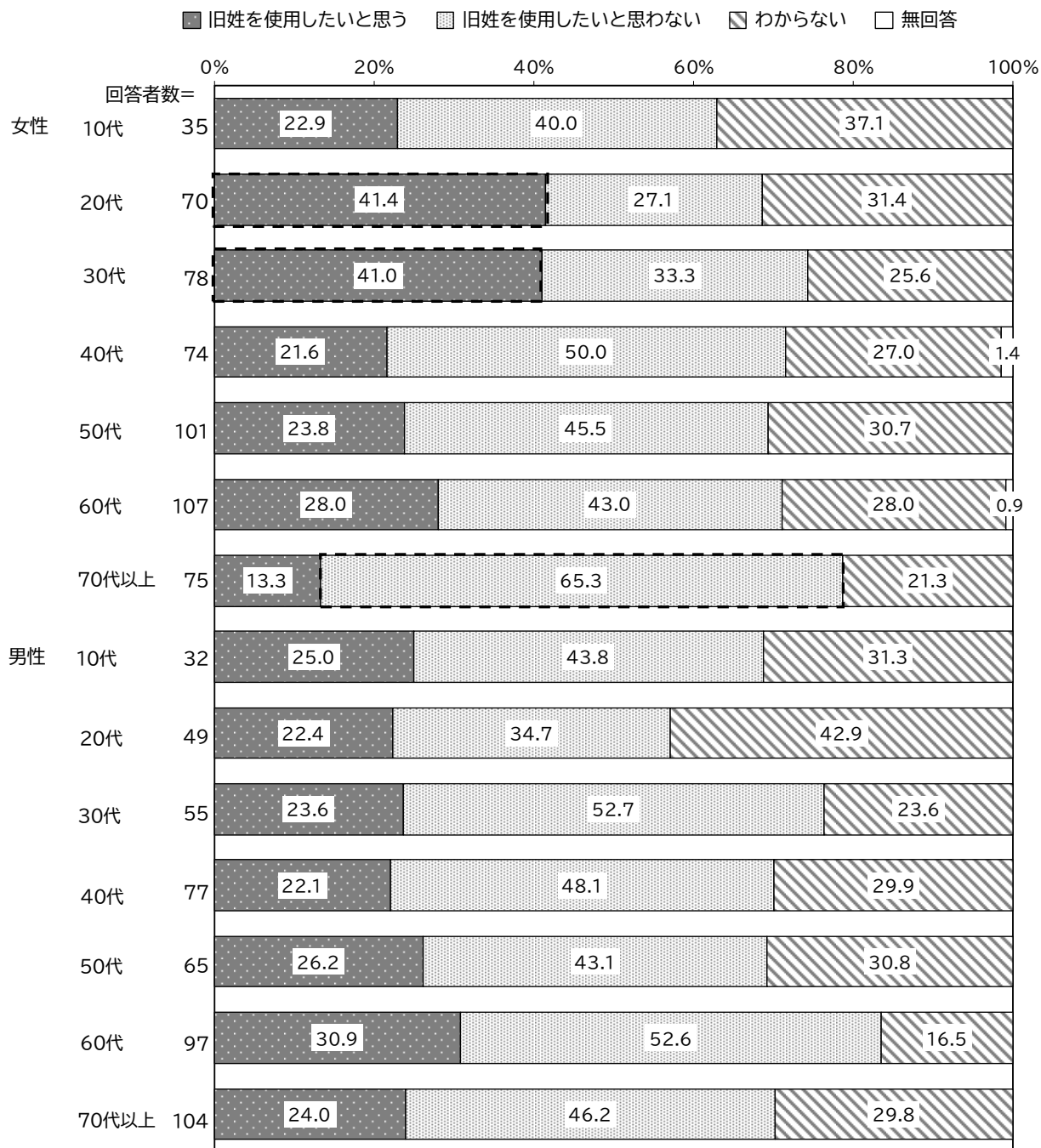
性別別でみると、大きな差異はみられなかった。

【性別別】



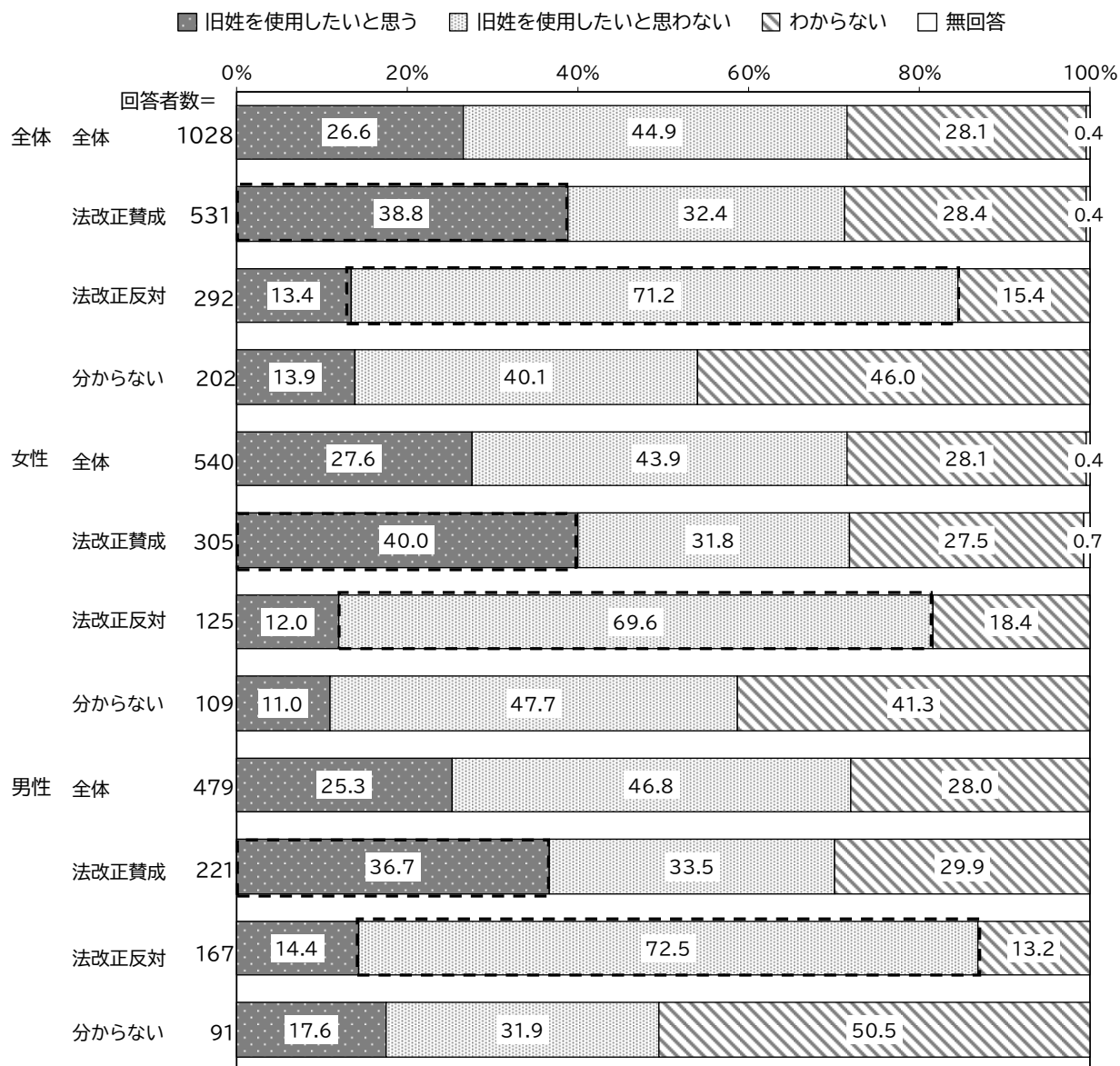
性別・年代別でみると、他に比べ、女性 20 代・30 代で「旧姓を使用したいと思う」の割合が高い。また、女性 70 代以上で「旧姓を使用したいと思わない」の割合が高い。

【性別・年代別】



性別・問13 選択的夫婦別姓についての回答別でみると、選択的夫婦別姓に賛成と回答した人は「旧姓を使用したいと思う」の割合が高い。また、選択的夫婦別姓に反対と回答した人は「旧姓を使用したいと思わない」の割合が高い。

【性別・問13 選択的夫婦別姓についての回答別】

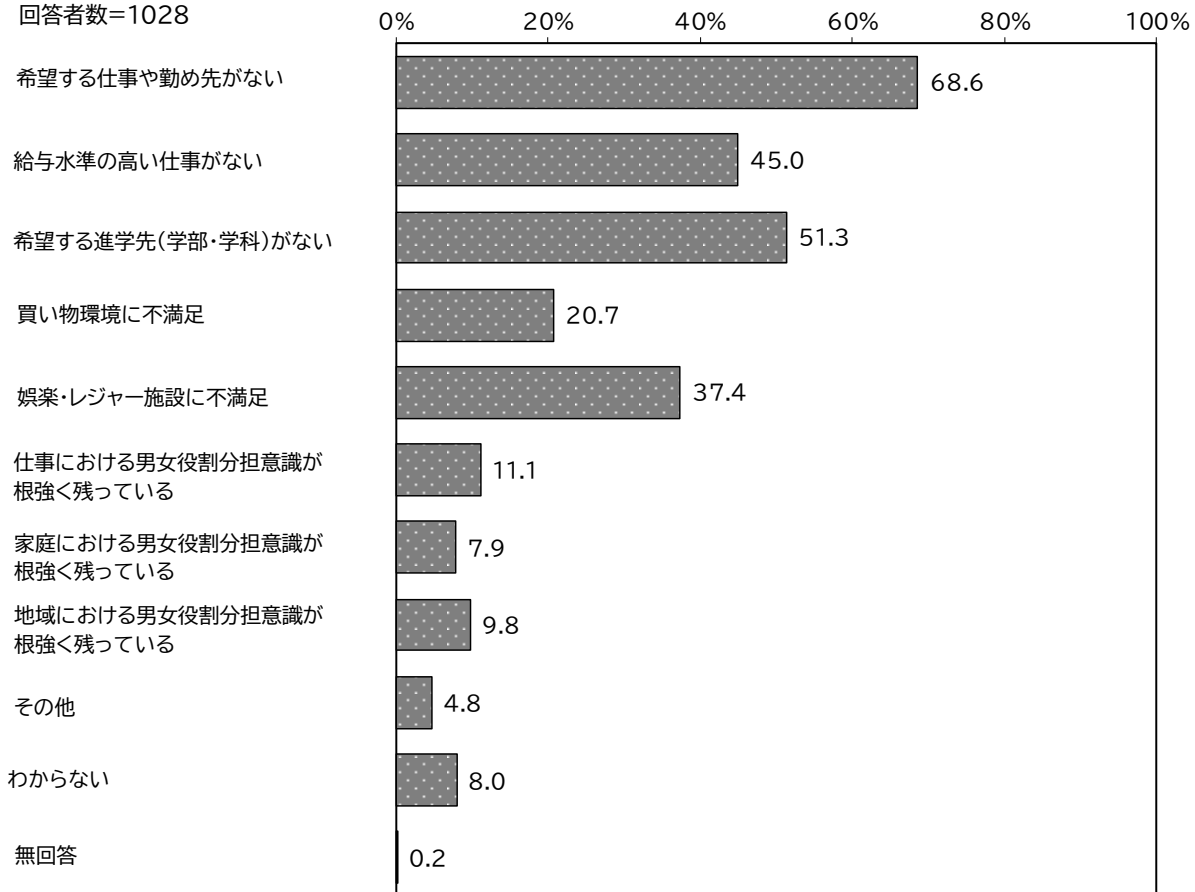


(12) 豊橋市から大都市圏への流出について

問14. 豊橋市から若い世代が大都市圏へ流出する状況が進んでいます。その理由について、どのように思いますか。【あてはまるものをすべてに○】

「希望する仕事や勤め先がない」の割合が68.6%と最も高く、次いで「希望する進学先(学部・学科)がない」の割合が51.3%、「給与水準の高い仕事がない」の割合が45.0%となっている。

回答者数=1028



性別別でみると、他に比べ、女性で「仕事における男女役割分担意識が根強く残っている」「家庭における男女役割分担意識が根強く残っている」の割合が高くなっている。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	希望する仕事や勤め先がない	給与水準の高い仕事がない	希望する進学先(学部・学科)がない	買い物環境に不満足	娯楽・レジャー施設に不満足	仕事における男女役割分担意識が根強く残っている	家庭における男女役割分担意識が根強く残っている	その他	わからない	無回答
女性	540	66.7	44.4	52.8	20.4	36.3	13.3	10.9	13.1	4.3	8.0
男性	479	71.4	45.9	50.1	21.1	38.8	8.6	4.6	6.3	5.4	7.3

性別・年代別でみると、全体的に「希望する仕事や勤め先がない」が高いが、他に比べ、女10代、男性10代で「希望する進学先（学部・学科）がない」の割合が、女性10代～30代、男性20代で「娯楽・レジャー施設に不満足」の割合が高い。また、女性60代で「仕事における男女役割分担意識が根強く残っている」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	希望する仕事や勤め先がない	給与水準の高い仕事がない	希望する進学先(学部・学科)がない	買い物環境に不満足	娯楽・レジャー施設に不満足	仕事における男女役割分担意識が根強く残っている	家庭における男女役割分担意識が根強く残っている	その他	わからない	無回答
女性 10代	35	77.1	31.4	74.3	11.4	54.3	0.0	0.0	0.0	2.9	5.7
20代	70	54.3	48.6	44.3	24.3	50.0	8.6	11.4	12.9	4.3	5.7
30代	78	66.7	55.1	51.3	26.9	53.8	9.0	6.4	12.8	6.4	7.7
40代	74	63.5	45.9	60.8	27.0	36.5	12.2	8.1	13.5	8.1	2.7
50代	101	73.3	44.6	52.5	17.8	29.7	15.8	11.9	17.8	4.0	8.9
60代	107	71.0	46.7	57.0	17.8	30.8	19.6	15.9	16.8	3.7	8.4
70代以上	75	61.3	30.7	38.7	14.7	13.3	17.3	14.7	8.0	0.0	14.7
男性 10代	32	65.6	43.8	65.6	3.1	37.5	0.0	0.0	0.0	3.1	12.5
20代	49	69.4	46.9	36.7	10.2	63.3	4.1	0.0	0.0	4.1	4.1
30代	55	61.8	52.7	50.9	29.1	45.5	3.6	0.0	1.8	14.5	3.6
40代	77	70.1	46.8	41.6	23.4	41.6	2.6	0.0	0.0	3.9	7.8
50代	65	67.7	41.5	55.4	24.6	35.4	9.2	9.2	7.7	3.1	6.2
60代	97	80.4	52.6	53.6	27.8	26.8	11.3	7.2	14.4	7.2	6.2
70代以上	104	74.0	38.5	51.0	17.3	35.6	17.3	8.7	9.6	2.9	10.6

性別・婚姻別でみると、他に比べ、女性既婚で「家庭における男女役割分担意識が根強く残っている」の割合が、男女未婚で「娯楽・レジャー施設に不満足」の割合が高い。

性別・共働き別でみると、他に比べ、共働きしていない女性で「家庭における男女役割分担意識が根強く残っている」の割合が、共働きしていない男性で「希望する仕事や勤め先がない」、「娯楽・レジャー施設に不満足」の割合が高い。

【性別・婚姻別】

単位：％

区分	回答者数(件)	希望する仕事や勤め先がない	給与水準の高い仕事がない	希望する進学先(学部・学科)がない	買い物環境に不満足	娯楽・レジャー施設に不満足	仕事における男女役割分担意識が根強く残っている	家庭における男女役割分担意識が根強く残っている	その他	わからない	無回答
女性 既婚	336	65.5	44.9	53.0	20.8	33.9	15.5	13.1	16.7	5.4	8.0
未婚	194	67.5	44.3	53.6	19.6	39.7	10.3	7.7	7.7	2.6	7.7
男性 既婚	302	71.2	46.0	52.3	22.8	36.8	8.9	5.6	8.6	5.3	6.0
未婚	171	72.5	46.8	46.8	18.1	43.3	7.6	1.8	1.8	5.8	7.6

【性別・共働き別】

単位：％

区分	回答者数(件)	希望する仕事や勤め先がない	給与水準の高い仕事がない	希望する進学先(学部・学科)がない	買い物環境に不満足	娯楽・レジャー施設に不満足	仕事における男女役割分担意識が根強く残っている	家庭における男女役割分担意識が根強く残っている	その他	わからない	無回答
女性 共働きしている	219	69.4	47.0	55.3	22.4	37.0	16.0	11.9	17.4	6.8	5.0
共働きしていない	115	59.1	41.7	49.6	18.3	28.7	13.9	15.7	15.7	2.6	13.0
男性 共働きしている	169	69.2	46.2	51.5	23.1	33.7	4.1	3.0	6.5	5.3	5.9
共働きしていない	128	74.2	46.1	54.7	22.7	39.8	15.6	9.4	11.7	5.5	5.5

6 子どもへの男女共同参画教育について

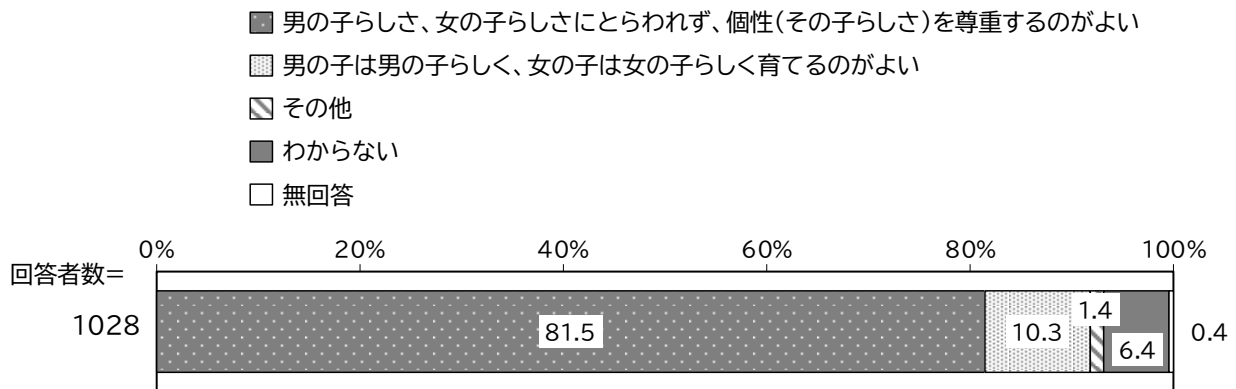
(1) 子育てについての考え方

問15. 子育ての方針について、どのように考えますか。

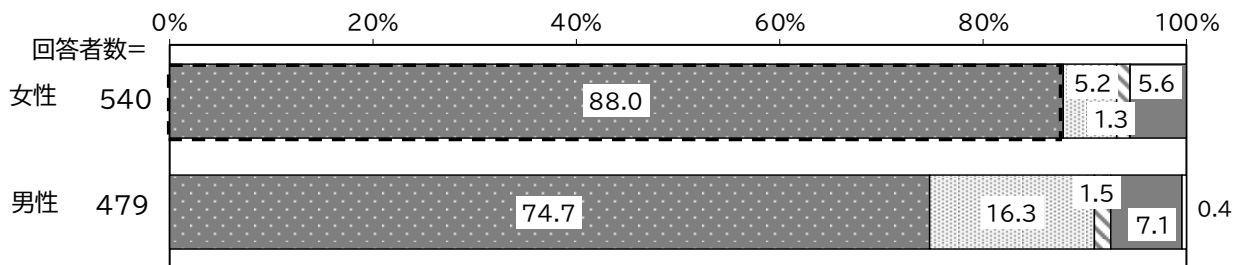
【あてはまるもの1つに○】

「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい」の割合が81.5%と最も高い。

性別別でみると、男性に比べ、女性で「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい」の割合が高い。

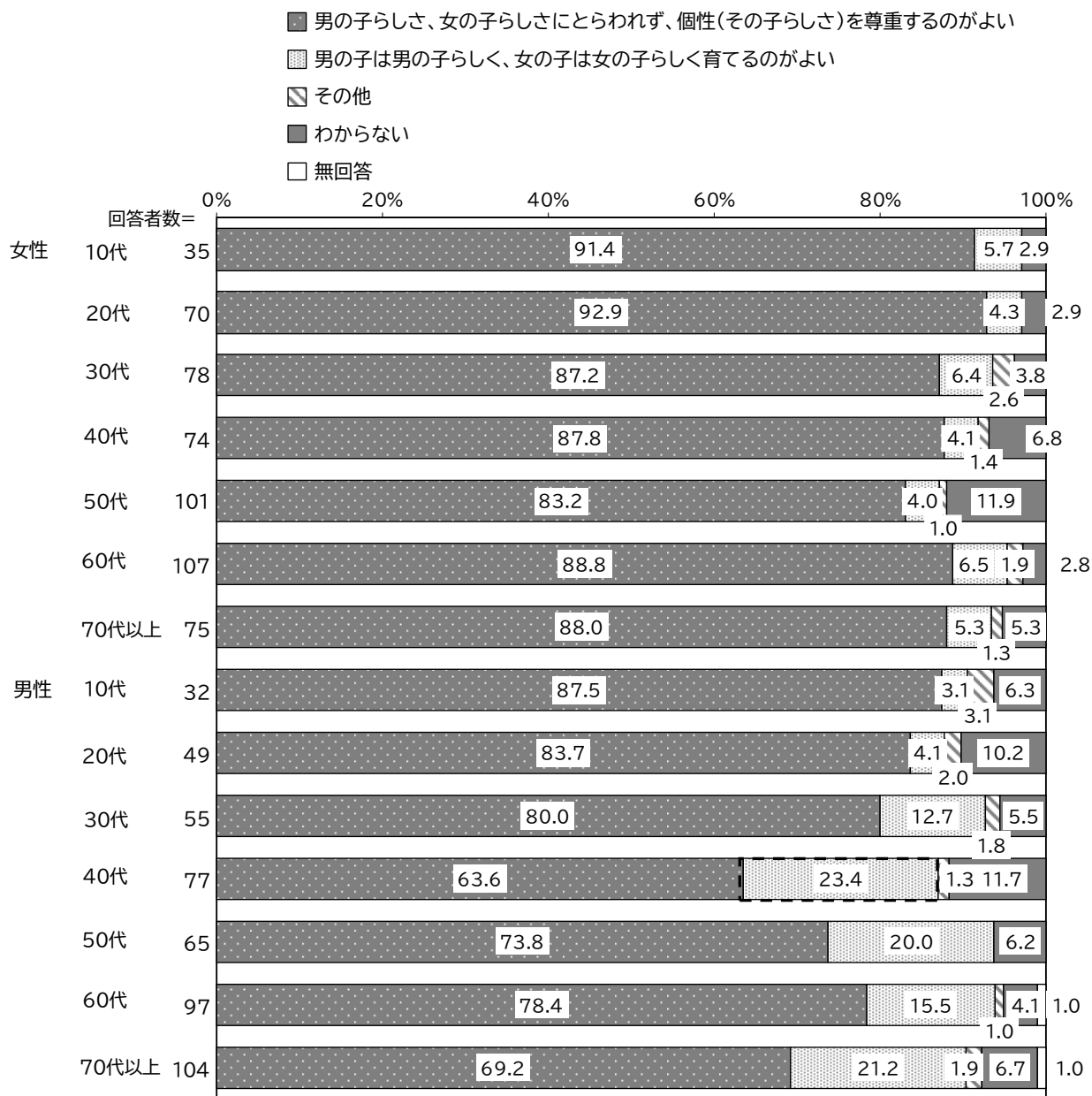


【性別別】



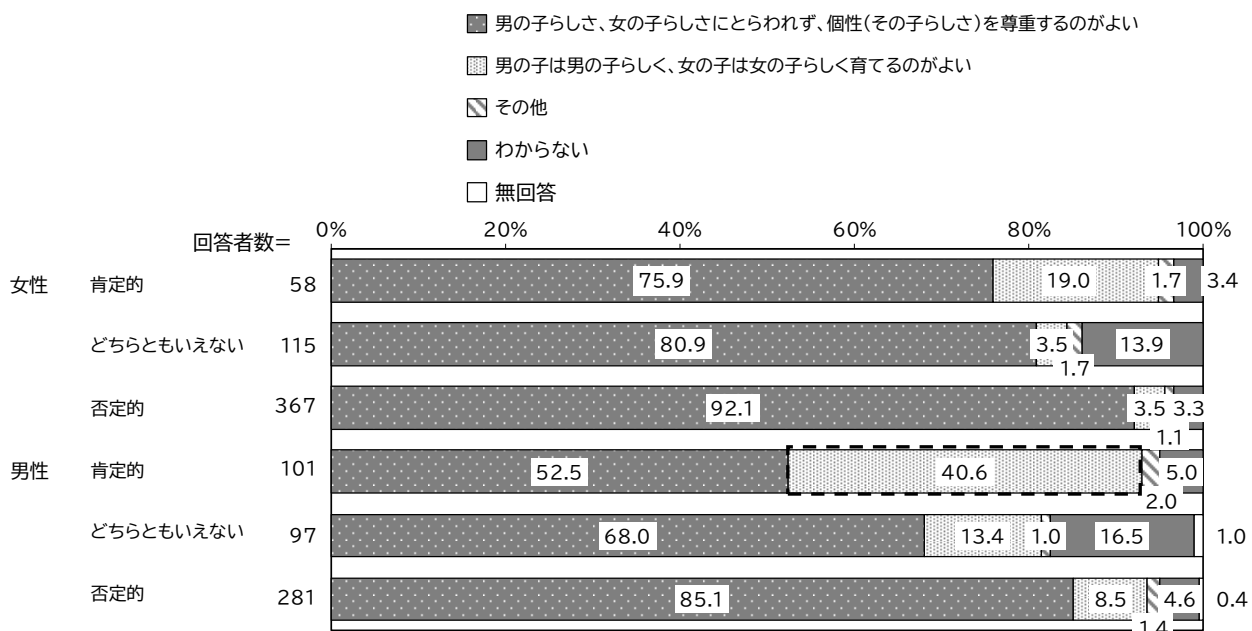
性別・年代別で見ると、他に比べ、男性 40 代で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」の割合が高い。

【性別・年代別】



性別役割分担意識別でみると、性別役割分担に肯定的な男性は、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」の割合が高い。

【性別役割分担意識別】



豊橋市の過去の調査との比較でみると、過去の調査に比べ、令和3年で「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい」の割合が最も高くなっている。

【経年比較】

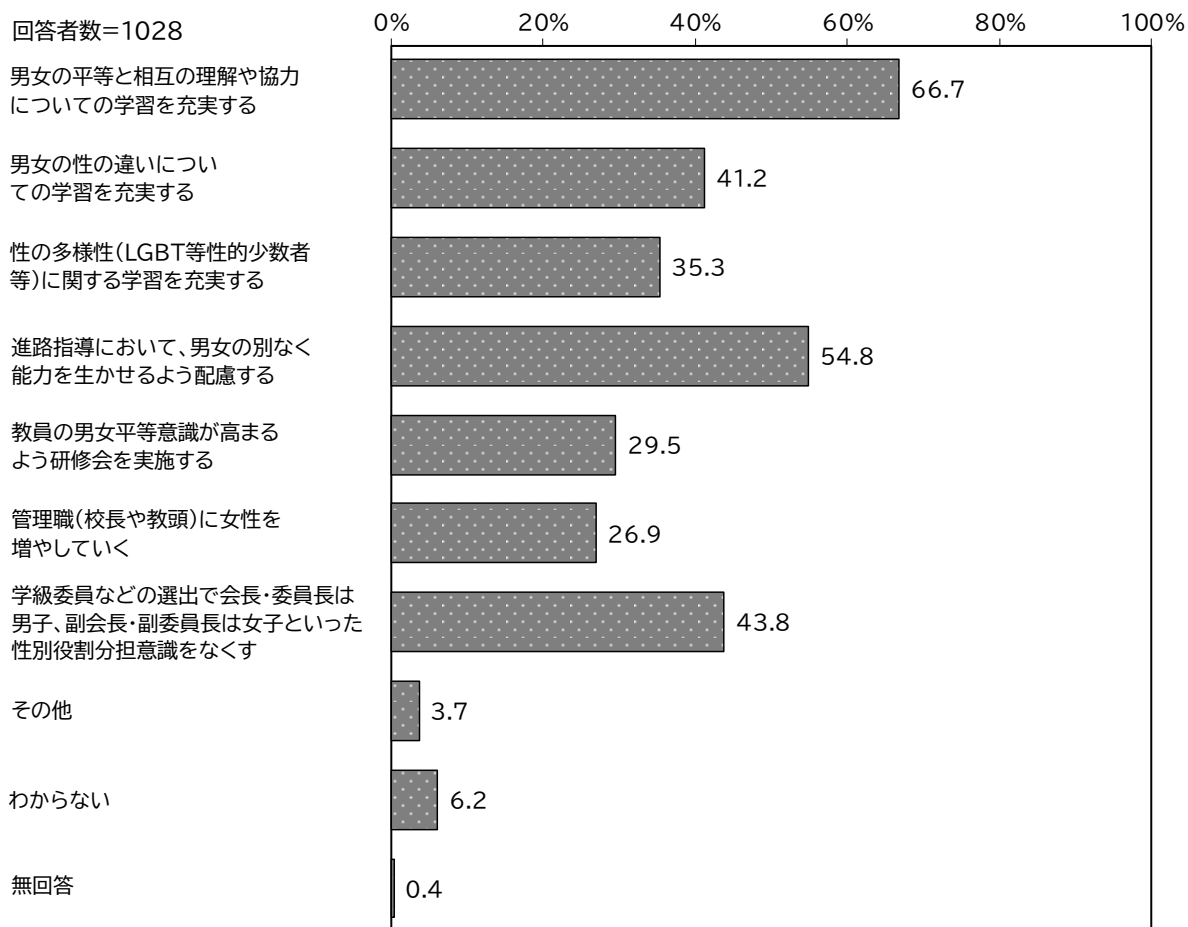
単位：％

	男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい	その他	わからない	無回答
豊橋市（R07.8）	81.5	10.3	1.4	6.4	0.4
女性	88.0	5.2	1.3	5.6	0.0
男性	74.7	16.3	1.5	7.1	0.4
豊橋市（R05.8）	81.7	10.4	1.5	5.5	0.8
女性	87.1	6.2	2.0	4.0	0.7
男性	76.0	15.8	1.0	7.2	0.2
豊橋市（R03.8）	84.3	9.7	1.3	4.2	0.6
女性	89.7	5.8	1.1	2.7	0.7
男性	78.5	14.1	1.5	5.6	0.3
豊橋市（R01.8）	81.9	10.8	1.8	4.6	0.9
女性	88.2	6.0	1.4	4.1	0.2
男性	73.4	17.7	1.9	5.0	1.9
豊橋市（H28.8）	76.1	14.4	3.3	4.4	1.7
女性	80.4	9.5	4.1	4.3	1.6
男性	70.1	21.3	2.4	4.8	1.4
豊橋市（H26.9）	69.5	20.6	1.9	4.8	3.3
女性	73.0	15.8	2.5	4.8	4.0
男性	65.0	26.4	1.2	4.9	2.5
豊橋市（H23.6）	68.6	22.6	3.3	3.8	1.7
女性	75.5	15.9	4.3	2.7	1.7
男性	60.3	30.9	2.2	5.4	1.3
豊橋市（H20.5）	62.3	28.0	4.1	3.2	2.4
女性	67.7	21.7	5.8	3.4	1.4
男性	56.0	36.7	2.2	3.0	2.2
豊橋市（H17.5）	55.9	33.9	3.3	3.3	3.6
女性	61.6	27.0	3.9	4.1	3.4
男性	48.4	43.5	2.3	2.3	3.5
豊橋市（H13.8）	61.5	29.1	3.4	3.5	2.6
女性	66.9	24.3	3.9	2.8	2.2
男性	54.8	36.2	2.8	3.6	2.6

(2) 男女平等のための学校教育のあり方

問16. 男女共同参画社会実現のために、学校教育の場で何が重要だと思いますか。
【あてはまるものをすべてに○】

「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が66.7%と最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が54.8%、「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」の割合が43.8%となっている。



性別別でみると、男性に比べ、女性で「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」「LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する」の割合が高い。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数（件）	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の性の違いについての学習を充実する	LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性	540	66.7	43.1	38.9	55.4	30.0	31.3	47.6	2.4	6.5	0.4
男性	479	67.4	39.2	31.3	54.1	28.4	22.5	39.5	5.2	5.4	0.2

性別・年代別でみると、他に比べ、女性 30 代で「男女の性の違いについての学習を充実する」の割合が、女性 70 代以上、男性 70 代以上で「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が、女性 20 代で「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数（件）	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の性の違いについての学習を充実する	LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性 10代	35	71.4	45.7	42.9	57.1	37.1	40.0	40.0	2.9	2.9	0.0
20代	70	65.7	48.6	38.6	44.3	28.6	<u>51.4</u>	48.6	0.0	4.3	0.0
30代	78	59.0	<u>53.8</u>	35.9	56.4	32.1	33.3	43.6	1.3	5.1	0.0
40代	74	63.5	39.2	39.2	48.6	21.6	27.0	45.9	5.4	4.1	1.4
50代	101	68.3	34.7	41.6	48.5	34.7	31.7	41.6	2.0	12.9	1.0
60代	107	71.0	47.7	42.1	63.6	29.0	22.4	56.1	4.7	2.8	0.0
70代以上	75	68.0	34.7	32.0	<u>68.0</u>	29.3	22.7	52.0	0.0	10.7	0.0
男性 10代	32	65.6	25.0	31.3	59.4	28.1	28.1	37.5	6.3	6.3	0.0
20代	49	67.3	46.9	28.6	49.0	28.6	18.4	34.7	2.0	2.0	0.0
30代	55	67.3	43.6	20.0	41.8	21.8	14.5	29.1	7.3	1.8	0.0
40代	77	68.8	46.8	33.8	53.2	19.5	23.4	31.2	6.5	7.8	0.0
50代	65	60.0	27.7	26.2	46.2	21.5	13.8	41.5	4.6	6.2	0.0
60代	97	74.2	41.2	43.3	51.5	35.1	26.8	39.2	8.2	4.1	0.0
70代以上	104	65.4	37.5	28.8	<u>69.2</u>	36.5	27.9	52.9	1.9	7.7	1.0

性別・婚姻別でみると、他に比べ、男性未婚で「LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する」「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」の割合が低い。

【性別・婚姻別】

単位：%

区分	回答者数（件）	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の性の違いについての学習を充実する	LGBT等性的少数者（性の多様性）に関する学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性 既婚	336	67.3	44.0	38.1	55.1	29.8	31.3	47.0	2.4	6.3	0.0
女性 未婚	194	66.0	41.8	39.2	55.7	29.9	33.0	48.5	2.1	6.7	1.0
男性 既婚	302	69.5	40.7	34.1	56.6	29.1	22.2	41.4	4.6	4.6	0.3
男性 未婚	171	64.9	38.0	27.5	50.3	27.5	23.4	36.3	5.3	5.8	0.0

豊橋市の令和5年の調査との比較でみると、令和7年はすべての具体的な回答項目で回答した割合が低くなっている。

【経年比較】

単位：%

	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	男女の性の違いについての学習を充実する	LGBT等性的少数者(性の多様性)に関する学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	学級委員などの選出で会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
豊橋市 (R07.8)	66.7	41.2	35.3	54.8	29.5	26.9	43.8	3.7	6.2	0.4
女性	66.7	43.1	38.9	55.4	30.0	31.3	47.6	2.4	6.5	0.4
男性	67.4	39.2	31.3	54.1	28.4	22.5	39.5	5.2	5.4	0.2
豊橋市 (R05.8)	74.1	45.2	42.7	58.8	30.7	29.6	45.6	3.3	5.5	11.0
女性	76.2	46.3	50.0	63.4	32.4	31.9	48.0	3.2	5.0	0.7
男性	72.0	45.1	34.2	53.3	27.6	26.0	42.4	3.6	6.3	0.3
豊橋市 (R03.8)	73.4	37.8	41.0	64.4	34.1	30.6	49.5	3.0	4.5	0.7
女性	73.8	35.4	45.3	67.3	32.7	32.3	53.6	2.5	4.7	1.1
男性	73.1	40.5	35.9	61.0	35.6	28.7	44.6	3.6	4.4	0.3

単位：%

	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
豊橋市 (R01.8)	64.5	55.5	25.9	24.6	—	44.9	2.9	5.1	1.9
女性	63.5	59.6	24.3	24.7	—	45.4	1.9	4.5	2.1
男性	65.4	50.7	28.8	24.1	—	44.0	3.0	5.8	1.9
豊橋市 (H28.8)	62.5	56.0	25.5	23.3	—	44.5	3.7	5.9	1.4
女性	62.3	57.5	23.6	25.4	—	44.7	2.5	6.5	0.9
男性	62.9	54.1	27.8	20.8	—	44.3	5.5	5.0	1.7
豊橋市 (H26.9)	57.7	48.7	13.7	14.5	5.5	28.7	2.4	6.5	2.9
女性	59.5	50.6	12.6	12.8	4.8	27.7	1.7	7.0	3.5
男性	55.7	46.8	15.1	16.1	6.4	29.1	3.3	6.0	2.3
豊橋市 (H23.6)	53.3	43.8	15.4	16.2	7.8	27.5	4.3	5.6	3.1
女性	55.1	46.4	12.9	14.8	6.1	29.7	3.2	6.8	3.0
男性	51.0	40.2	18.1	18.4	10.2	25.3	5.8	4.3	2.6
豊橋市 (H20.5)	51.0	47.8	15.3	20.5	6.7	36.1	3.5	—	2.9
女性	51.8	49.1	14.8	21.4	5.9	34.6	2.5	—	2.3
男性	50.6	46.0	16.7	18.8	7.7	36.9	5.0	—	3.6
豊橋市 (H17.5)	51.5	54.3	12.0	18.2	5.9	31.9	2.6	—	4.3
女性	53.9	54.9	10.7	20.0	5.4	29.3	2.1	—	4.2
男性	47.7	53.0	14.3	16.4	6.8	36.0	3.5	—	4.2
豊橋市 (H13.8)	51.0	57.6	13.3	15.7	6.5	31.0	2.1	—	3.8
女性	52.7	58.8	12.2	17.8	7.1	30.8	1.4	—	3.2
男性	48.8	55.8	15.2	12.7	5.9	31.0	3.1	—	4.1

※令和元年調査、平成28年調査では、過去の調査と回答できる個数が異なる。

(3) 進路選択に影響を与えるもの

問17. 例えば、大学の理学部・工学部に進学する女性は男性より少ない、看護学部・文学部に進学する男性は女性よりも少ないという現状があることがわかっています。

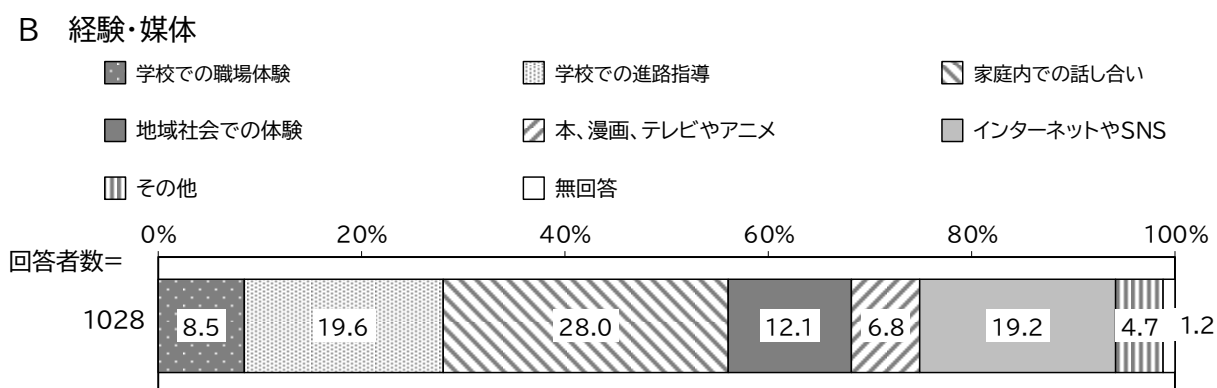
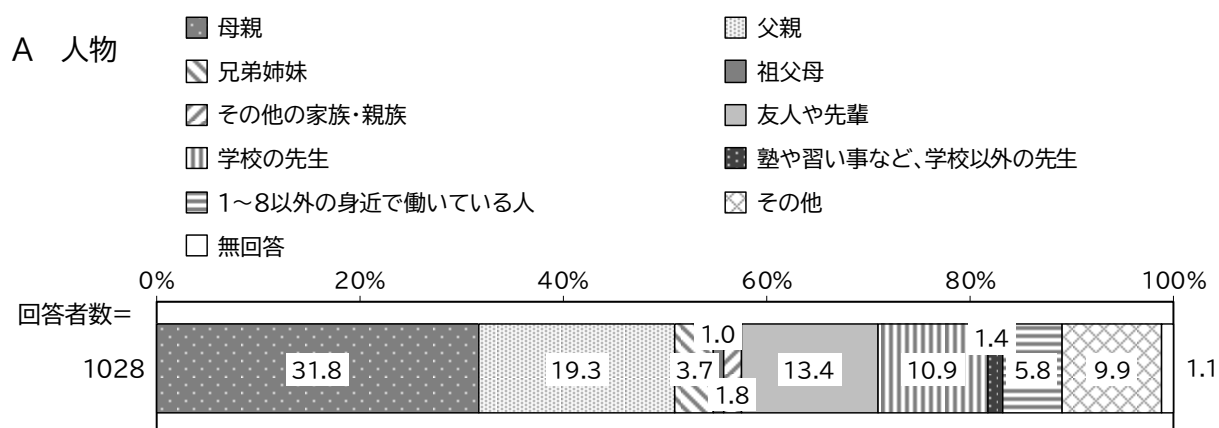
進路選択の一例としてこのような状況がありますが、あなたは、一般的に進路選択に影響を与えるのは次のうちどれだと思いますか。

A **人物** 進路選択に影響を与えるのは次のうちどんな【人物】だと思いますか。
【もっともあてはまると思うもの1つに○】

B **経験・媒体** 進路選択に影響を与えるのは次のうちどんな【経験・媒体】
だと思いますか。【もっともあてはまると思うもの1つに○】

人物では、「母親」の割合が31.8%と最も高く、次いで「父親」が19.3%、「友人や先輩」が13.4%となっている。

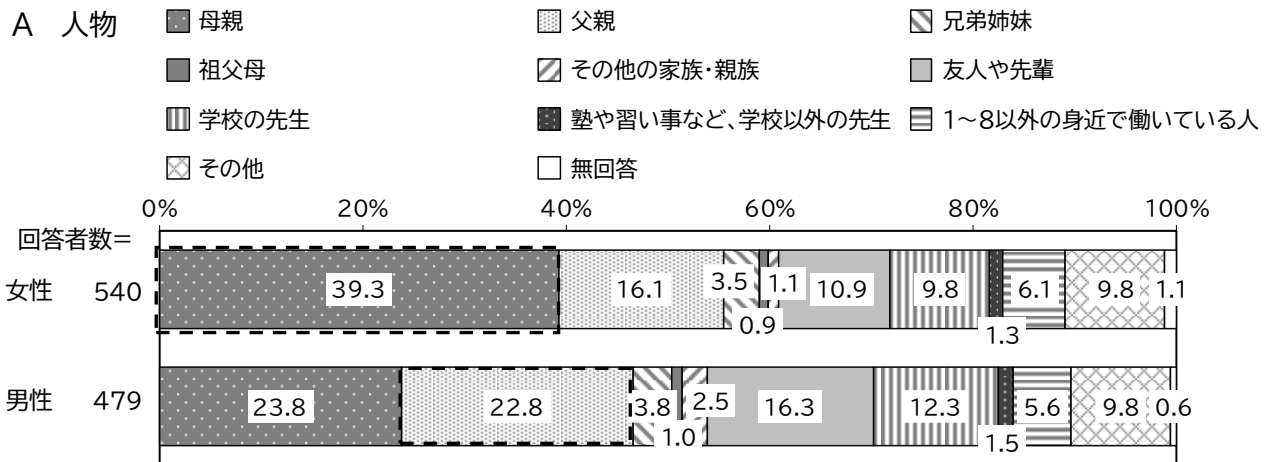
経験・媒体では、「家庭内の話し合い」の割合が28.0%と最も高く、次いで「学校での進路指導」が19.6%、「インターネットやSNS」が19.2%となっている。



【性別別】

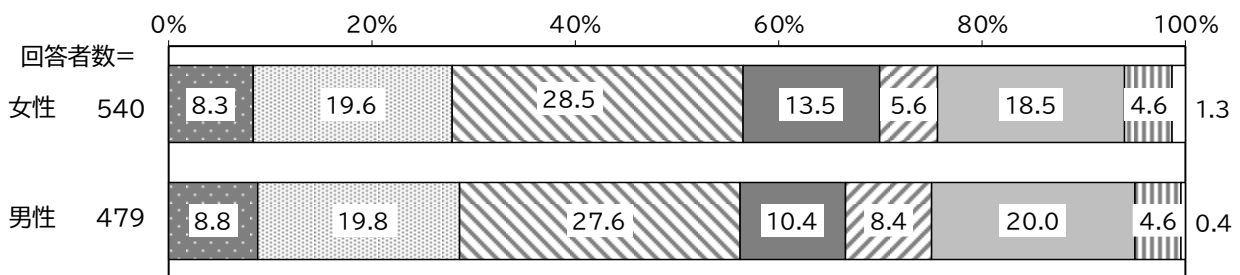
性別別でみると、人物では、女性は「母親」の割合が男性よりも高く、男性は「父親」の割合が女性よりも高くなっている。

経験・媒体では性別別で大きな差は見られなかった。



B 経験・媒体

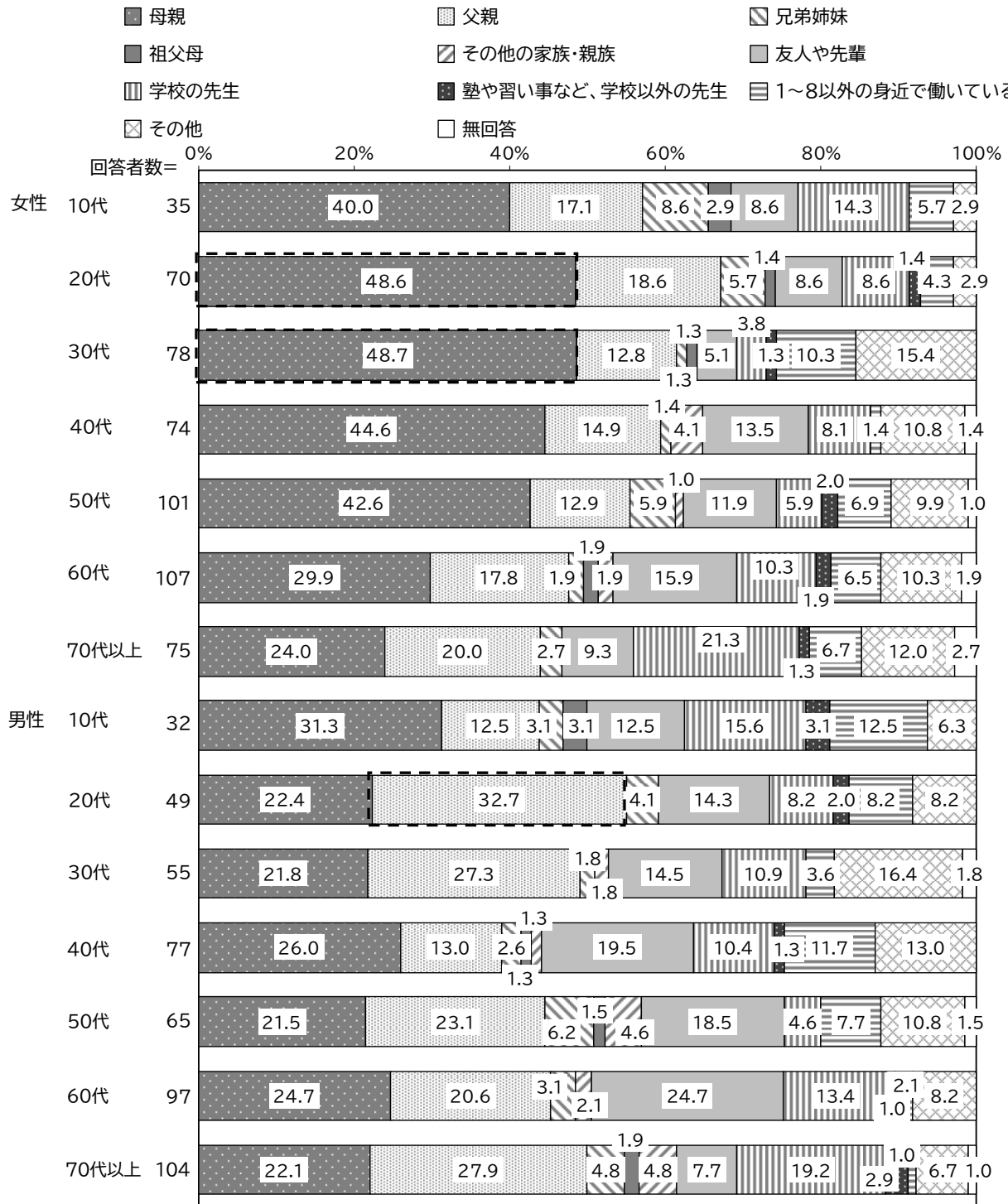
- 学校での職場体験
- 学校での進路指導
- 家庭内での話し合い
- 地域社会での体験
- 本、漫画、テレビやアニメ
- インターネットやSNS
- その他
- 無回答



【性別・年代別】

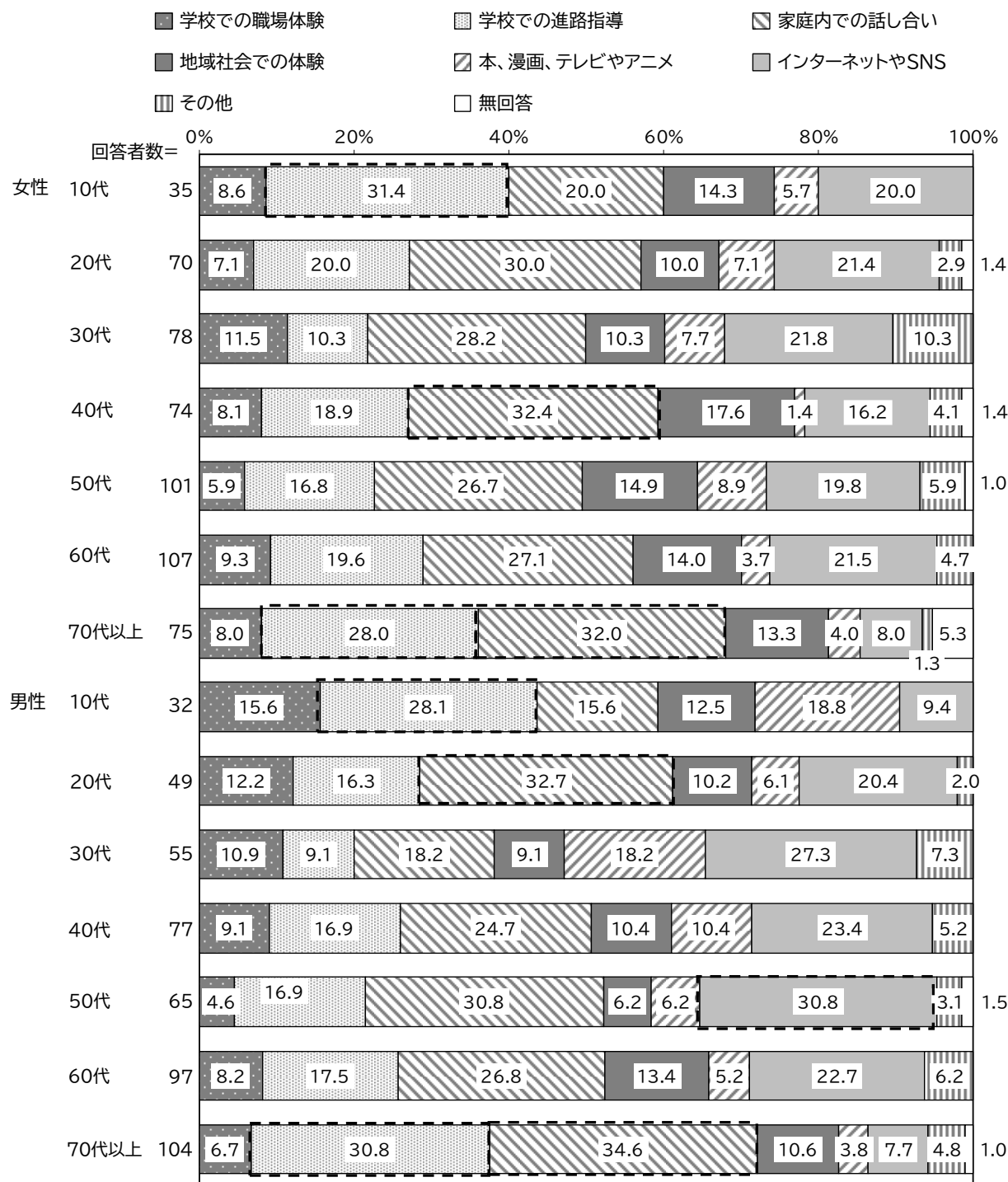
A 人物

性別・年代別で見ると、他に比べ、女性 20 代、女性 30 代で「母親」の割合が、男性 20 代で「父親」の割合が高い。



B 経験・媒体

性別・年代別で見ると、他に比べ、女性10代・70代以上、男性10代・70代以上で「学校での進路指導」の割合が、女性40代・70代以上、男性20代・70代以上で「家庭内での話し合い」の割合が、男性50代で「インターネットやSNS」の割合が高い。



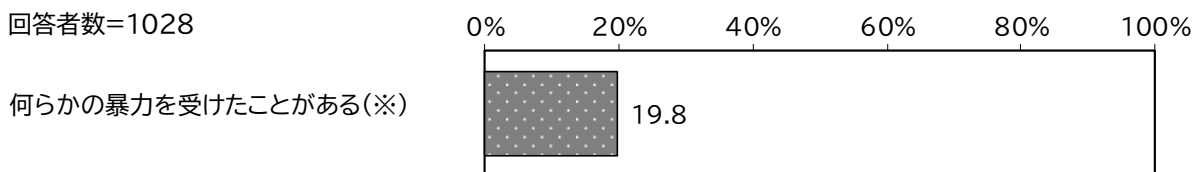
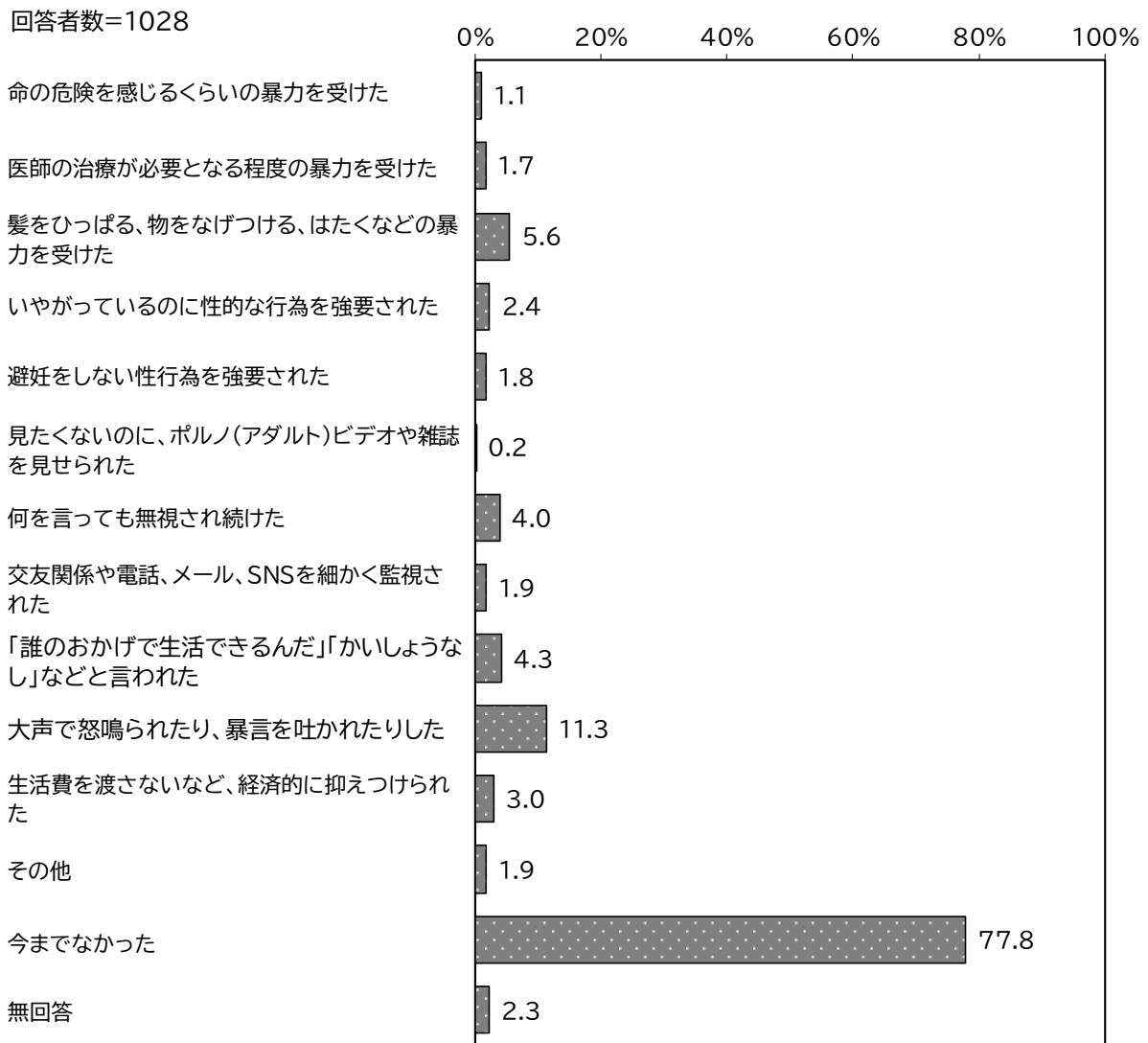
7 配偶者等からの暴力について

(1) 配偶者や交際相手から暴力を受けた経験

問18. これまでに、あなたの配偶者や交際相手から、次のような行為（DV）を受けた経験がありますか。【あてはまるものをすべてに○】

「今までなかった」の割合が77.8%と最も高い。

全体から「今までなかった」と無回答を除いた「何らかの暴力を受けたことがある（※）」人の割合は19.8%となっている。



※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

性別別でみると、男性に比べ、女性で「何らかの暴力を受けたことがある（※）」割合が高く、男性の14.0%に対し25.1%と約11ポイント高くなっている。また、女性に比べ、男性で「今までなかった」の割合が高い。

具体的な暴力の内容は、男女共に「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした」が最も高く、女性は「髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた」、「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた」が続き、男性は「何を言っても無視され続けた」「髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた」が続いた。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた	いやがっているのに性的な行為を強要された	避妊をしない性行為を強要された	見たくないのに、ポルノ(アダルト)ビデオや雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話、メール、SNSを細かく監視された	「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた	大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした	生活費を渡さないなど、経済的に抑えつけられた	その他	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある(※)
女性	540	1.1	2.6	8.3	4.4	3.0	0.4	3.7	2.4	6.7	14.4	4.8	2.4	72.8	2.0	25.2
男性	479	0.8	0.6	2.5	0.2	0.4	0.0	4.2	1.3	1.7	7.7	1.0	1.5	83.7	2.3	14.0

【性別別「何らかの暴力を受けたことがある（※）」方の被害内容の内訳】

区分	回答者数(件)	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた	いやがっているのに性的な行為を強要された	避妊をしない性行為を強要された	見たくないのに、ポルノ(アダルト)ビデオや雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話、メール、SNSを細かく監視された	「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた	大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした	生活費を渡さないなど、経済的に抑えつけられた	その他
女性	136	4.4	10.3	33.1	17.6	11.8	1.5	14.7	9.6	26.5	57.4	19.1	9.6
男性	67	6.0	4.5	17.9	1.5	3.0	0.0	29.9	9.0	11.9	55.2	7.5	10.4

※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

性別・年代別でみると、他に比べ、女性 40 代・60 代で「髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた」の割合が、女性 30 代で「避妊をしない性行為を強要された」の割合が、男性 30 代で「何を言っても無視され続けた」、女性 40 代 70 代以上で「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた」の割合が、女性 40 代～60 代で「大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

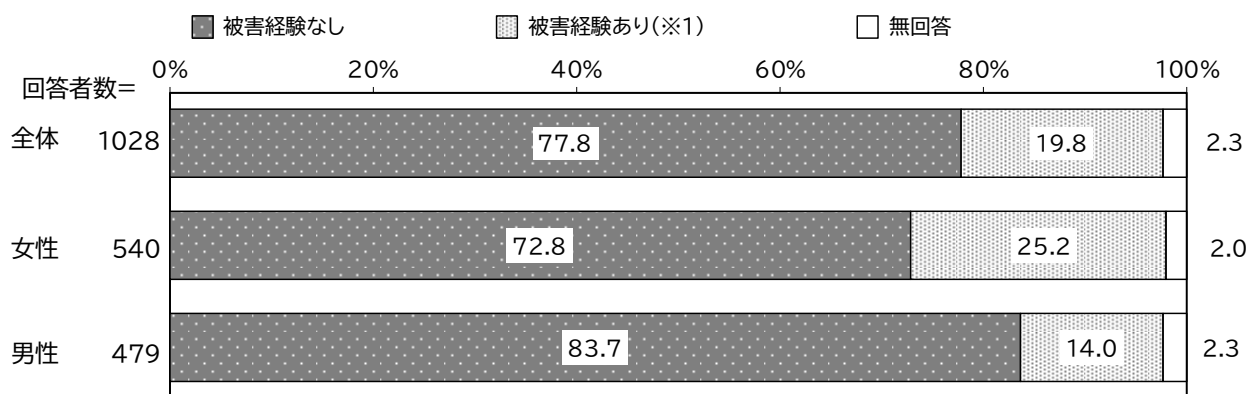
区分	回答者数(件)	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた	いやがっているのに性的な行為を強要された	避妊をしない性行為を強要された	見たくないのに、ポルノ(アダルト)ビデオや雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話、メール、SNSを細かく監視された	「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」などと言われた	大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした	生活費を渡さないなど、経済的に抑えつけられた	その他	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある(※)
女性 10代	35	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.7	2.9	2.9	88.6	2.9	8.6
20代	70	1.4	1.4	4.3	4.3	4.3	0.0	2.9	4.3	4.3	8.6	2.9	1.4	82.9	0.0	17.1
30代	78	0.0	1.3	7.7	5.1	9.0	0.0	2.6	2.6	6.4	9.0	1.3	3.8	75.6	1.3	23.1
40代	74	2.7	2.7	10.8	0.0	1.4	1.4	5.4	1.4	8.1	20.3	4.1	1.4	70.3	0.0	29.7
50代	101	1.0	2.0	9.9	5.0	2.0	1.0	5.0	4.0	6.9	20.8	7.9	4.0	73.3	0.0	26.7
60代	107	1.9	7.5	13.1	5.6	0.0	0.0	3.7	1.9	6.5	18.7	6.5	1.9	64.5	1.9	33.6
70代以上	75	0.0	0.0	5.3	8.0	4.0	0.0	4.0	1.3	9.3	9.3	5.3	1.3	66.7	9.3	24.0
男性 10代	32	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	3.1	3.1	6.3	12.5	0.0	0.0	84.4	0.0	15.6
20代	49	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	93.9	0.0	6.1
30代	55	1.8	1.8	1.8	0.0	1.8	0.0	7.3	1.8	0.0	12.7	1.8	1.8	78.2	3.6	18.2
40代	77	1.3	1.3	5.2	1.3	1.3	0.0	5.2	3.9	1.3	13.0	1.3	3.9	77.9	1.3	20.8
50代	65	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	3.1	1.5	1.5	90.8	0.0	9.2
60代	97	2.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.0	5.2	1.0	2.1	84.5	1.0	14.4
70代以上	104	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	3.8	1.0	2.9	7.7	0.0	0.0	80.8	6.7	12.5

※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

性別別DV被害の有無を見ると、「被害経験あり（※1）」は女性の25.2%に対し男性14.0%と女性が男性より高い割合となっている。

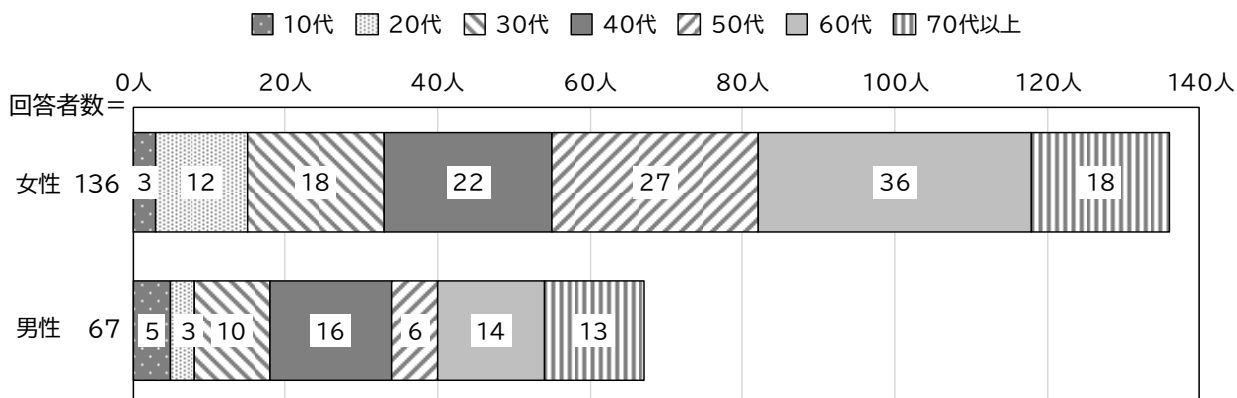
被害件数で見ると、男性67人に対し女性136人と女性が男性の約2倍となっており、20代、50代、60代は女性の被害の人数が男性と比べより多くなっている。

【性別別DV被害の有無】



※1 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

【性別別DV被害人数（※2）】



※2 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた件数

性別・婚姻別でみると、他に比べ、女性未婚で「医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた」、
「髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた」の割合が高い。

【性別・婚姻別】

単位：%

区分	回答者数(件)	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	髪をひっぱる、物をなげつける、はたくなどの暴力を受けた	いやがっているのに性的な行為を強要された	避妊をしない性行為を強要された	見たくないのに、ポルノ(アダルト)ビデオや雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話、メール、SNSを細かく監視された	「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」などと言われた	大声で怒鳴られたり、暴言を吐かれたりした	生活費を渡さないなど、経済的に抑えつけられた	その他	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある(※)
女性 既婚	336	0.6	1.5	7.1	3.9	2.4	0.6	3.3	1.5	6.0	16.1	3.6	2.7	73.5	1.5	25.0
女性 未婚	194	2.1	4.6	10.8	5.7	4.1	0.0	4.6	4.1	8.2	11.3	7.2	2.1	72.7	1.5	25.8
男性 既婚	302	0.0	0.3	1.3	0.0	0.3	0.0	4.3	0.3	1.0	6.6	0.7	1.3	85.4	2.3	12.3
男性 未婚	171	1.8	1.2	4.7	0.6	0.6	0.0	4.1	2.9	2.9	8.8	1.2	1.8	81.9	1.8	16.4

※全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年に比べ、令和7年で「何らかの暴力を受けたことがある（※）」の割合が約4ポイント増加した。

【経年比較】

単位：％

	命の危険を感じるくらい の暴行を受けた	医師の治療が必要となる 程度の暴行を受けた	髪をひっぱる、物をなげつけ る、はたかなどの暴力を受けた	いやがっているのに性的 行為を強要された	避妊をしない性行為を強 要された	見たくないのに、ポルノビ デオやポルノ雑誌を見せら れた	何を言っても無視され続 けた	交友関係や電話を細かく 監視された	「だれのおかげで生活でき るんだ」とか「かいしょんじ 」と言われた	大声でとらわれたり、暴言 を吐かれた	生活費をわたされないなど 、経済的におさえつけられ た	医師の治療が必要でない 程度の暴行を受けた	今までなかった（※）その ようなこと	無回答 H20調査では該 当なし（※）	何らかの暴力を受けたこ とがある
豊橋市 (R07.8)	1.1	1.7	5.6	2.4	1.8	0.2	4.0	1.9	4.3	11.3	3.0	1.9	77.8	2.3	19.8
女性	1.1	2.6	8.3	4.4	3.0	0.4	3.7	2.4	6.7	14.4	4.8	2.4	72.8	2.0	25.2
男性	0.8	0.6	2.5	0.2	0.4	0.0	4.2	1.3	1.7	7.7	1.0	1.5	83.7	2.3	14.0
豊橋市 (R05.8)	1.1	5.5	—	0.6	—	2.5	1.1	3.3	2.2	3.9	9.5	2.8	79.4	4.7	15.9
女性	1.2	7.9	—	1.0	—	4.5	2.0	3.2	3.2	6.2	14.1	4.7	74.0	3.0	23.0
男性	1.0	2.6	—	0.0	—	0.0	0.0	3.3	0.7	1.0	3.9	0.3	86.8	6.3	6.9
豊橋市 (R03.8)	1.7	1.2	—	2.5	—	0.2	2.9	2.3	3.7	8.6	2.6	—	81.2	4.3	14.5
女性	2.2	2.0	—	4.5	—	0.4	3.1	3.1	5.4	12.1	4.7	—	77.4	2.7	20.0
男性	0.8	0.3	—	—	—	—	2.6	1.3	1.8	4.4	0.3	—	86.2	6.2	7.7
豊橋市 (R01.8)	1.5	2.3	—	3.4	—	0.9	3.9	3.7	5.1	12.8	3.8	—	74.9	6.1	19.0
女性	2.3	3.3	—	5.8	—	1.4	3.3	5.2	6.8	19.0	5.4	—	69.9	4.3	25.8
男性	0.0	0.6	—	0.3	—	0.3	4.4	1.4	2.5	4.4	1.4	—	82.3	8.0	9.7
豊橋市 (H28.8)	1.1	1.8	—	2.6	—	0.6	3.2	2.7	3.5	8.6	2.5	—	78.8	6.4	14.8
女性	1.6	3.1	—	4.7	—	1.1	3.2	4.1	5.8	13.9	4.0	—	71.5	7.0	21.5
男性	0.5	0.2	—	—	—	—	3.3	1.0	0.7	1.7	0.7	—	88.8	4.8	6.4
豊橋市 (H26.9)	0.7	1.6	—	2.7	—	0.4	4.0	2.8	4.4	10.5	2.7	—	73.7	9.1	17.2
女性	1.3	2.8	—	5.0	—	0.8	4.5	4.1	6.8	15.4	4.6	—	68.2	6.6	25.2
男性	—	0.2	—	—	—	—	3.1	1.4	1.7	4.5	0.4	—	80.4	11.8	7.8
豊橋市 (H23.6)	1.7	1.4	—	4.3	—	0.8	5.6	3.7	5.3	13.2	3.9	—	73.3	4.3	22.4
女性	2.5	2.0	—	6.6	—	0.8	4.6	4.3	7.5	17.9	6.3	—	67.8	3.5	28.7
男性	0.6	0.6	—	1.1	—	0.6	6.7	2.8	2.4	6.9	0.6	—	80.3	5.2	14.5
豊橋市 (H20.5)	1.1	1.9	—	4.0	—	0.9	5.9	4.2	5.8	13.9	3.3	3.1	—	76.5	23.5
女性	1.9	3.1	—	6.2	—	1.1	5.1	4.2	7.3	18.9	5.5	4.8	—	70.4	29.6
男性	0.2	0.4	—	1.2	—	0.6	6.9	4.2	4.0	8.1	0.8	0.8	—	83.7	16.3
豊橋市 (H17.5)	0.6	0.9	—	3.1	—	0.3	3.7	3.7	4.0	9.7	2.4	3.3	72.2	9.9	17.9
女性	1.0	1.3	—	5.2	—	0.3	3.9	3.9	5.4	13.8	3.6	5.2	67.6	8.6	23.8
男性	0.0	0.2	—	0.2	—	0.2	3.3	3.3	2.1	4.2	0.7	0.7	78.7	11.4	9.9
豊橋市 (H13.8)	1.0	1.4	—	4.3	—	0.6	3.5	2.8	3.9	8.3	2.2	3.9	68.5	15.6	15.9
女性	1.8	2.4	—	6.9	—	1.0	3.9	3.4	5.7	12.6	3.4	5.9	65.1	12.6	22.3
男性	0.0	0.0	—	1.0	—	0.3	2.8	2.1	1.6	3.1	0.5	1.6	74.4	18.3	7.3

※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

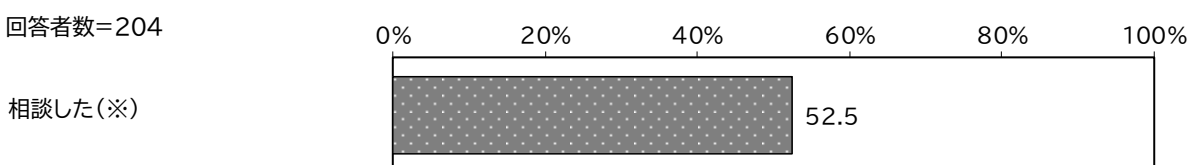
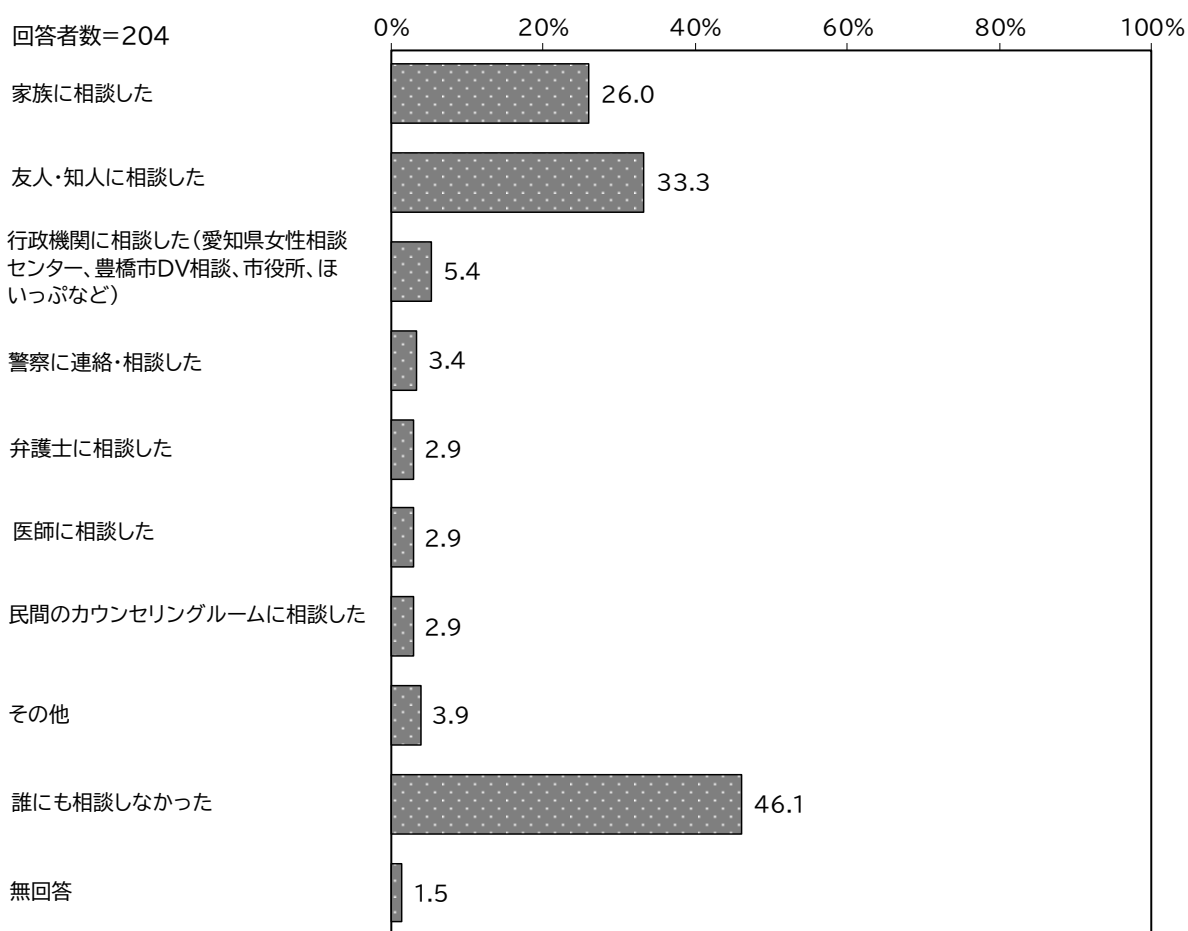
(2) 暴力行為 (DV) についての相談相手

《問18で、1から12を選んだ方にのみお聞きします》

問18-1. これまでに配偶者や交際相手から受けた行為 (DV) について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
【あてはまるものをすべてに○】

「だれにも相談しなかった」の割合が46.1%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」の割合が33.3%、「家族に相談した」の割合が26.0%となっている。

全体から「だれにも相談しなかった」と無回答を除いた「相談した(※)」人の割合は52.5%となっている。



※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

性別別でみると、男性に比べ、女性で「家族に相談した」「友人・知人に相談した」の割合が、女性に比べ、男性で「だれにも相談しなかった」の割合が高い。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した(愛知県女性相談センター、豊橋市DV相談、市役所、ほいつぶなど)	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリンググループに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した(※)
女性	135	32.4	36.8	7.4	5.1	3.7	4.4	3.7	3.7	39.0	1.5	59.6
男性	68	13.4	26.9	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	4.5	61.2	1.5	37.3

※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した(愛知県女性相談センター、豊橋市DV相談、市役所、ほいつぶなど)	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した(※)
女性 10代	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
20代	12	50.0	50.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	83.3
30代	18	33.3	33.3	5.6	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	38.9	0.0	61.1
40代	22	31.8	36.4	9.1	4.5	0.0	9.1	9.1	9.1	40.9	0.0	59.1
50代	27	37.0	37.0	11.1	0.0	11.1	7.4	3.7	3.7	37.0	0.0	63.0
60代	36	33.3	44.4	8.3	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	30.6	5.6	63.9
70代以上	18	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.2	0.0	27.8
男性 10代	5	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	60.0
20代	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
30代	10	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	70.0	0.0	30.0
40代	16	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	62.5	0.0	37.5
50代	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	16.7	16.7
60代	14	28.6	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	50.0	0.0	50.0
70代以上	13	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.9	0.0	23.1

※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

性別・婚姻別でみると、他に比べ、女性未婚で「友人・知人に相談した」の割合が高い。また、男性既婚で「だれにも相談しなかった」の割合が高い。

【性別・婚姻別】

単位：%

区分	回答者数(件)	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した(愛知県女性相談センター、豊橋市DV相談所、ほいつぶなど)	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリンググループに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した(※)
女性 既婚	84	32.1	27.4	6.0	4.8	3.6	6.0	3.6	4.8	42.9	2.4	54.8
女性 未婚	50	32.0	54.0	10.0	6.0	4.0	2.0	4.0	2.0	32.0	0.0	68.0
男性 既婚	37	10.8	18.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.0	0.0	27.0
男性 未婚	28	17.9	35.7	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	10.7	46.4	3.6	50.0

※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年調査に比べ、令和7年調査で「行政機関」「民間のカウンセリングルーム」の割合が高くなっている。また、「だれにも相談しなかった」は平成23年調査以降で令和7年調査が最も高くなった。

【経年比較】

単位：％

	家族	友人・知人	行政機関	警察	弁護士	医師	民間のカウンセリングルーム	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した(※)
豊橋市 (R07.8)	26.0	33.3	5.4	3.4	2.9	2.9	2.9	3.9	46.1	1.5	52.5
女性	32.4	36.8	7.4	5.1	3.7	4.4	3.7	3.7	39.0	1.5	59.6
男性	13.4	26.9	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	4.5	61.2	1.5	37.3
豊橋市 (R05.8)	28.7	45.4	3.7	6.5	3.7	4.6	0.0	6.5	32.4	11.0	67.6
女性	33.3	46.7	3.3	5.6	3.3	5.6	0.0	6.7	31.1	3.3	68.9
男性	5.6	38.9	5.6	11.1	5.6	0.0	0.0	5.6	38.9	16.7	61.1
豊橋市 (R03.8)	27.9	32.0	7.4	1.6	-	3.3	1.6	4.1	45.1	4.1	57.4
女性	33.7	37.1	9.0	2.2	-	1.1	1.1	5.6	40.4	2.2	65.2
男性	10.0	16.7	-	-	-	10.0	3.3	-	63.3	6.7	33.3
豊橋市 (R01.8)	32.5	45.2	3.0	4.8	4.8	4.2	3.0	3.0	41.6	0.0	58.4
女性	35.2	48.0	2.4	4.8	1.6	4.8	2.4	3.2	37.6	0.0	62.4
男性	20.0	37.1	0.0	0.0	14.3	0.0	2.9	2.9	57.1	0.0	42.9
豊橋市 (H28.8)	28.6	38.1	3.4	3.4	0.7	2.0	1.4	4.1	41.5	1.4	57.1
女性	31.9	42.9	4.2	4.2	0.8	1.7	1.7	4.2	36.1	0.8	63.1
男性	14.8	18.5	-	-	-	3.7	-	3.7	63.0	3.7	33.3
豊橋市 (H26.9)	30.9	36.6	2.1	2.1	4.1	1.0	0.5	2.1	38.7	2.1	79.4
女性	32.9	40.8	2.6	2.6	4.6	1.3	0.7	2.6	32.9	2.0	88.1
男性	22.5	20.0	-	-	2.5	-	-	-	60.0	2.5	45.0
豊橋市 (H23.6)	27.2	36.2	5.3	2.9	2.5	2.9	2.5	2.5	43.6	1.6	54.8
女性	31.2	40.5	6.4	2.3	2.9	2.3	2.3	2.9	37.6	1.7	60.7
男性	17.9	23.9	3.0	4.5	1.5	4.5	3.0	1.5	59.7	1.5	38.8
豊橋市 (H20.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	53.3	6.9	39.9
女性	-	-	-	-	-	-	-	-	51.6	5.8	42.6
男性	-	-	-	-	-	-	-	-	56.1	9.8	34.1
豊橋市 (H17.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	29.1	50.3	20.6
女性	-	-	-	-	-	-	-	-	28.8	47.9	23.3
男性	-	-	-	-	-	-	-	-	31.0	57.1	11.9

※全体から「誰にも相談しなかった」「無回答」を除いた割合

(3) 相談をしなかった理由

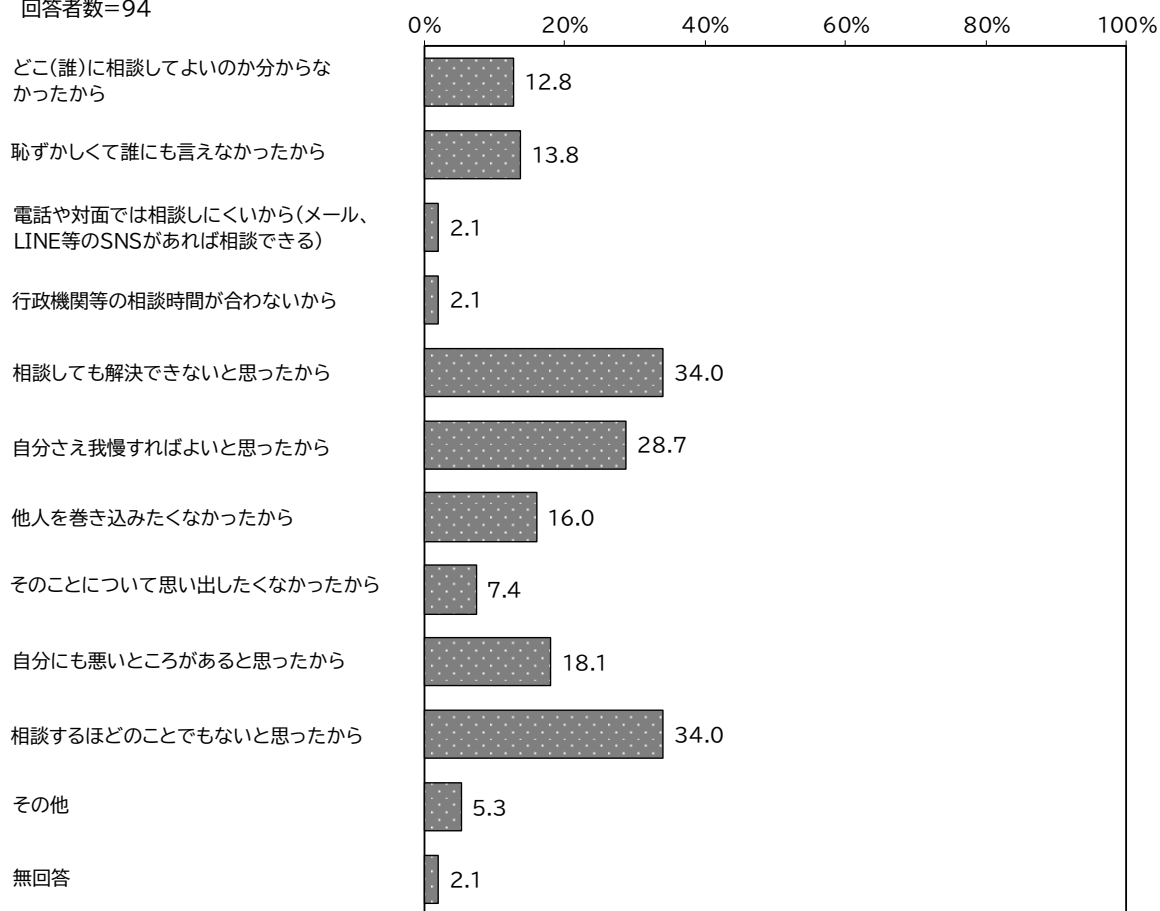
《問18-1で「9. 誰にも相談しなかった」と答えた方のみお聞きします》

問18-2 誰にも相談しなかった理由は何ですか。

【あてはまるものをすべてに○】

「相談しても解決できないと思ったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が34.0%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればよいと思ったから」の割合が28.7%となっている。

回答者数=94



性別別でみると、男性に比べ、女性で「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「相談しても解決できないと思ったから」の割合が、女性に比べ、男性で「相談するほどのことでもないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「自分さえ我慢すればよいと思ったから」の割合が高い。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	電話や対面では相談しにくいから (メール、ライン等のSNSがあれば相談できる)	行政機関等の相談時間が合わないから	相談しても解決できないと思ったから	自分さえ我慢すればよいと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
女性	52	13.5	<u>21.2</u>	3.8	1.9	<u>40.4</u>	25.0	15.4	9.6	7.7	23.1	5.8	1.9
男性	41	12.2	4.9	0.0	2.4	26.8	<u>34.1</u>	14.6	4.9	<u>31.7</u>	<u>48.8</u>	4.9	2.4

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年調査に比べ、令和7年調査で「自分さえ我慢すればよいと思ったから」の割合が増加した。

【経年比較】

単位：%

区分	どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	電話や対面では相談しにくいから (メール、ライン等のSNSがあれば相談できる)	行政機関等の相談時間が合わないから	相談しても解決できないと思ったから	自分さえ我慢すればよいと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
豊橋市 (R07.8)	12.8	13.8	2.1	2.1	34.0	28.7	16.0	7.4	18.1	34.0	5.3	2.1
女性	13.2	20.8	3.8	1.9	39.6	24.5	17.0	9.4	7.5	22.6	5.7	1.9
男性	12.2	4.9	0.0	2.4	26.8	34.1	14.6	4.9	31.7	48.8	4.9	2.4
豊橋市 (R05.8)	11.4	14.3	2.9	2.9	42.9	20.0	11.4	20.0	22.9	42.9	2.9	2.9
女性	10.7	14.3	3.6	3.6	42.9	25.0	14.3	25.0	14.3	42.9	3.6	3.6
男性	14.3	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0
豊橋市 (R03.8)	12.7	18.2	0.0	1.8	43.6	38.2	16.4	5.5	23.6	45.5	7.3	3.6
女性	8.3	16.7	—	2.8	41.7	36.1	13.9	5.6	16.7	44.4	11.1	2.8
男性	21.1	21.1	—	—	47.4	42.1	21.1	5.3	36.8	47.4	—	5.3

過去の調査と項目が異なるため、参考とする。

【経年比較】

単位：%

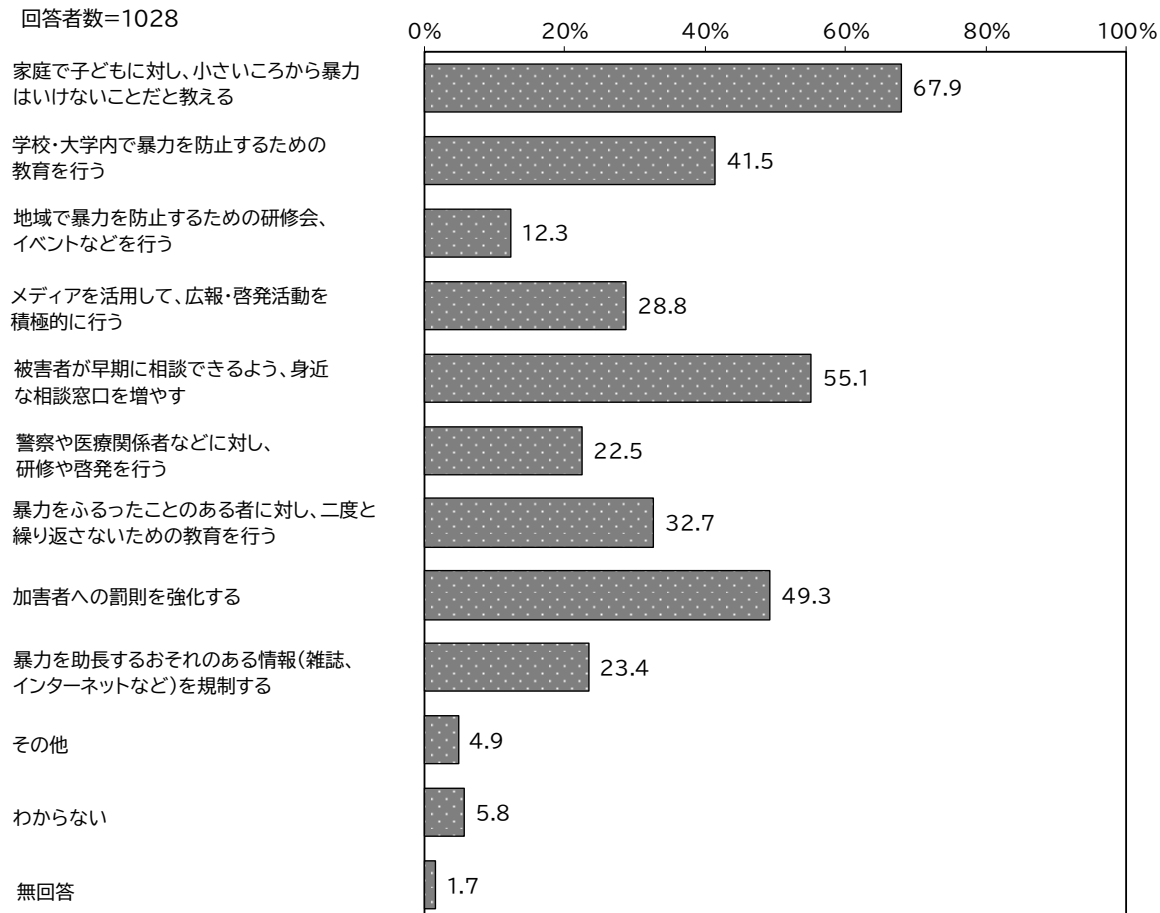
	どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談しても解決できないと思ったから	相談したことがわかると、もっとひどい暴力をうけると思ったから	相談した相手の言動により、かえって不快な思いをと思ったから	自分さえ我慢すればよいと思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
豊橋市 (R01.8)	11.6	13.0	42.0	—	8.7	31.9	8.7	13.0	10.1	23.2	44.9	4.3	1.4
女性	10.6	17.0	48.9	—	12.8	38.3	8.5	14.9	10.6	8.5	42.6	6.4	0.0
男性	15.0	5.0	25.0	—	0.0	20.0	10.0	10.0	5.0	50.0	55.0	0.0	5.0
豊橋市 (H28.8)	11.5	14.8	52.5	—	6.6	41.0	13.1	13.1	9.8	31.1	24.6	9.8	—
女性	11.6	16.3	53.5	—	7.0	39.5	9.3	14.0	14.0	25.6	20.9	11.6	—
男性	11.8	11.8	47.1	—	5.9	41.2	23.5	11.8	—	47.1	35.3	5.9	—
豊橋市 (H26.9)	4.0	16.0	38.7	—	4.0	32.0	6.7	14.7	4.0	25.3	44.0	9.3	1.3
女性	6.0	18.0	42.0	—	6.0	38.0	6.0	14.0	6.0	20.0	32.0	10.0	—
男性	—	12.5	33.3	—	—	20.8	8.3	16.7	—	33.3	66.7	8.3	4.2
豊橋市 (H23.6)	5.7	15.1	33.0	0.9	2.8	25.5	6.6	9.4	4.7	30.2	52.8	—	0.9
女性	7.7	18.5	30.8	0.0	4.6	27.7	6.2	9.2	1.5	23.1	49.2	—	1.5
男性	2.5	7.5	37.5	0.0	0.0	22.5	7.5	10.0	10.0	42.5	60.0	—	0.0
豊橋市 (H20.5)	12.2	12.2	41.5	8.2	4.8	30.6	5.4	12.2	8.8	31.3	40.8	2.7	0.0
女性	12.2	10.2	42.9	8.2	4.1	29.6	5.1	11.2	10.2	25.5	38.8	3.1	0.0
男性	13.0	17.4	39.1	8.7	6.5	30.4	6.5	15.2	6.5	43.5	43.5	2.2	0.0
豊橋市 (H17.5)	5.5	29.1	36.4	9.1	3.6	41.8	9.1	12.7	10.9	23.6	29.1	1.8	1.8
女性	4.8	31.0	31.0	11.9	4.8	40.5	9.5	14.3	14.3	19.0	23.8	2.4	0.0
男性	7.7	23.1	53.8	0.0	0.0	46.2	7.7	7.7	0.0	38.5	46.2	0.0	7.7
豊橋市 (H13.8)	6.8	22.7	47.7	6.8	4.5	34.1	13.6	15.9	9.1	36.4	38.6	6.8	2.3
女性	9.1	21.2	54.5	9.1	6.1	33.3	12.1	15.2	12.1	33.3	39.4	3.0	0.0
男性	0.0	30.0	30.0	0.0	0.0	30.0	20.0	20.0	0.0	50.0	40.0	20.0	10.0

(4) 男女間における暴力(DV)を防止するために必要なこと

問19. 配偶者や交際相手からの暴力(DV)を防止するために何が重要だと思いますか。
【あてはまるものをすべてに○】

「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が67.9%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が55.1%、「加害者への罰則を強化する」の割合が49.3%となっている。

回答者数=1028



性別別でみると、男性に比べ、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を規制する」の割合が高い。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数（件）	暴力をふるったことのある者に対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を規制する	その他	わからない	無回答
女性	540	70.7	42.6	12.2	28.9	60.6	23.9	36.9	49.1	26.9	5.2	4.8	1.3	
男性	479	65.3	40.9	12.3	28.8	49.1	20.9	27.8	50.1	19.4	4.6	6.7	1.7	

性別・年代別でみると、他に比べ、女性 10・20 代で「加害者への罰則を強化する」の割合が、女性 60 代で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が、男性 20 代で「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を規制する	加害者への罰則を強化する	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	その他	わからない	無回答
女性 10代	35	62.9	71.4	34.3	28.6	60.0	31.4	8.6	45.7	62.9	2.9	0.0	0.0
20代	70	58.6	67.1	45.7	25.7	60.0	31.4	14.3	44.3	58.6	2.9	1.4	0.0
30代	78	73.1	59.0	41.0	34.6	65.4	28.2	21.8	48.7	73.1	9.0	6.4	0.0
40代	74	67.6	51.4	35.1	17.6	47.3	31.1	10.8	40.5	67.6	6.8	5.4	0.0
50代	101	69.3	48.5	35.6	25.7	60.4	32.7	13.9	46.5	69.3	5.0	6.9	0.0
60代	107	77.6	39.3	42.1	24.3	72.0	26.2	8.4	41.1	77.6	4.7	3.7	2.8
70代以上	75	78.7	24.0	21.3	12.0	53.3	22.7	6.7	32.0	78.7	4.0	6.7	5.3
男性 10代	32	46.9	53.1	37.5	25.0	34.4	31.3	15.6	37.5	46.9	3.1	9.4	0.0
20代	49	75.5	61.2	42.9	30.6	57.1	42.9	16.3	46.9	75.5	6.1	2.0	0.0
30代	55	56.4	58.2	23.6	20.0	40.0	21.8	7.3	36.4	56.4	10.9	7.3	0.0
40代	77	58.4	55.8	28.6	20.8	45.5	29.9	9.1	46.8	58.4	6.5	7.8	1.3
50代	65	69.2	49.2	21.5	18.5	46.2	24.6	9.2	38.5	69.2	3.1	10.8	0.0
60代	97	70.1	46.4	27.8	17.5	55.7	28.9	16.5	43.3	70.1	3.1	6.2	1.0
70代以上	104	69.2	39.4	23.1	20.2	52.9	26.9	12.5	36.5	69.2	1.9	4.8	5.8

性別・婚姻別で見ると、他に比べ、男女共未婚で「加害者への罰則を強化する」の割合が高い。

【性・婚姻別】

単位：%

区分	回答者数(件)	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を規制する	その他	わからない	無回答
女性 既婚	336	72.9	42.9	13.1	29.8	57.7	19.6	35.4	45.8	29.2	6.0	4.2	1.5
女性 未婚	194	67.0	42.3	11.3	27.8	66.0	32.0	39.2	<u>56.2</u>	22.7	3.6	5.7	0.5
男性 既婚	302	67.9	39.1	10.9	28.1	53.0	18.2	25.5	48.3	24.2	3.6	7.3	2.0
男性 未婚	171	61.4	45.6	15.2	31.0	43.9	25.7	32.2	<u>55.0</u>	11.7	6.4	4.7	0.6

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年調査に比べ、令和7年調査で「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」「加害者への罰則を強化する」の割合が増加している。

【経年比較】

単位：%

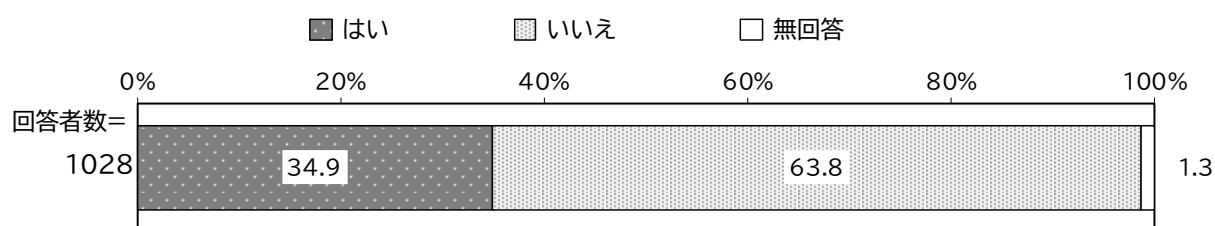
	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を規制する	その他	わからない	無回答
豊橋市（R07.8）	67.9	41.5	12.3	28.8	55.1	22.5	32.7	49.3	23.4	4.9	5.8	1.7
女性	70.7	42.6	12.2	28.9	60.6	23.9	36.9	49.1	26.9	5.2	4.8	1.3
男性	65.3	40.9	12.3	28.8	49.1	20.9	27.8	50.1	19.4	4.6	6.7	1.7
豊橋市（R05.8）	72.3	44.7	16.9	25.0	57.3	23.4	34.7	45.8	26.3	3.9	6.9	2.9
女性	76.5	47.3	16.3	28.7	60.9	23.0	37.9	46.3	30.0	3.7	5.2	2.2
男性	67.4	41.8	17.4	20.4	53.0	23.7	30.6	45.7	21.4	3.9	9.5	2.6
豊橋市（R03.8）	73.5	44.9	15.7	26.3	60.2	21.1	36.2	47.9	27.2	3.7	5.5	2.0
女性	76.5	46.0	15.7	28.3	65.7	24.0	40.1	52.7	31.6	4.0	5.2	1.1
男性	70.5	43.8	15.9	24.1	53.8	17.9	31.8	42.6	22.3	3.3	5.9	2.8
豊橋市（R01.8）	73.1	38.6	10.4	26.9	56.3	18.6	28.3	43.7	26.9	3.4	3.7	2.7
女性	74.4	39.0	7.8	29.9	61.4	18.8	30.5	41.6	27.6	3.1	3.1	2.5
男性	70.9	37.7	13.9	22.4	50.7	19.1	24.9	46.0	24.9	3.6	4.4	3.3
豊橋市（H28.8）	76.7	36.8	11.1	25.5	53.9	19.1	30.9	40.8	26.1	3.7	3.5	2.5
女性	78.6	37.7	9.9	24.1	54.8	17.3	33.7	37.7	30.5	3.2	3.2	2.7
男性	74.6	36.1	12.7	28.0	52.9	21.1	27.5	45.5	20.6	4.5	3.8	1.9
豊橋市（H26.9）	76.2	32.7	9.0	20.6	51.5	16.1	28.0	36.6	28.1	3.1	4.0	3.8
女性	78.9	35.5	7.3	21.1	55.6	16.3	30.7	35.8	32.7	2.5	3.6	3.6
男性	72.8	28.9	11.1	20.2	46.8	16.3	25.0	37.9	22.7	3.9	4.5	3.9

(5) 豊橋市DV相談の認知度

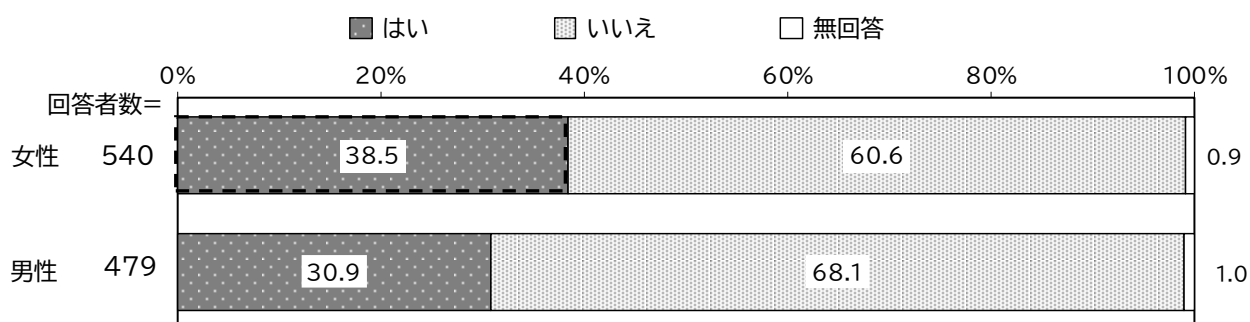
問20. 豊橋市にDV相談（電話相談・面接相談）があることを知っていましたか。

「はい」の割合が34.9%、「いいえ」の割合が63.8%となっている。
性別別でみると、男性に比べ、女性で「はい」の割合が高い。

(参考) 豊橋市DV相談窓口への相談件数は、令和3年度359件、令和4年度373件、
令和5年度260件、令和6年度231件となっています。

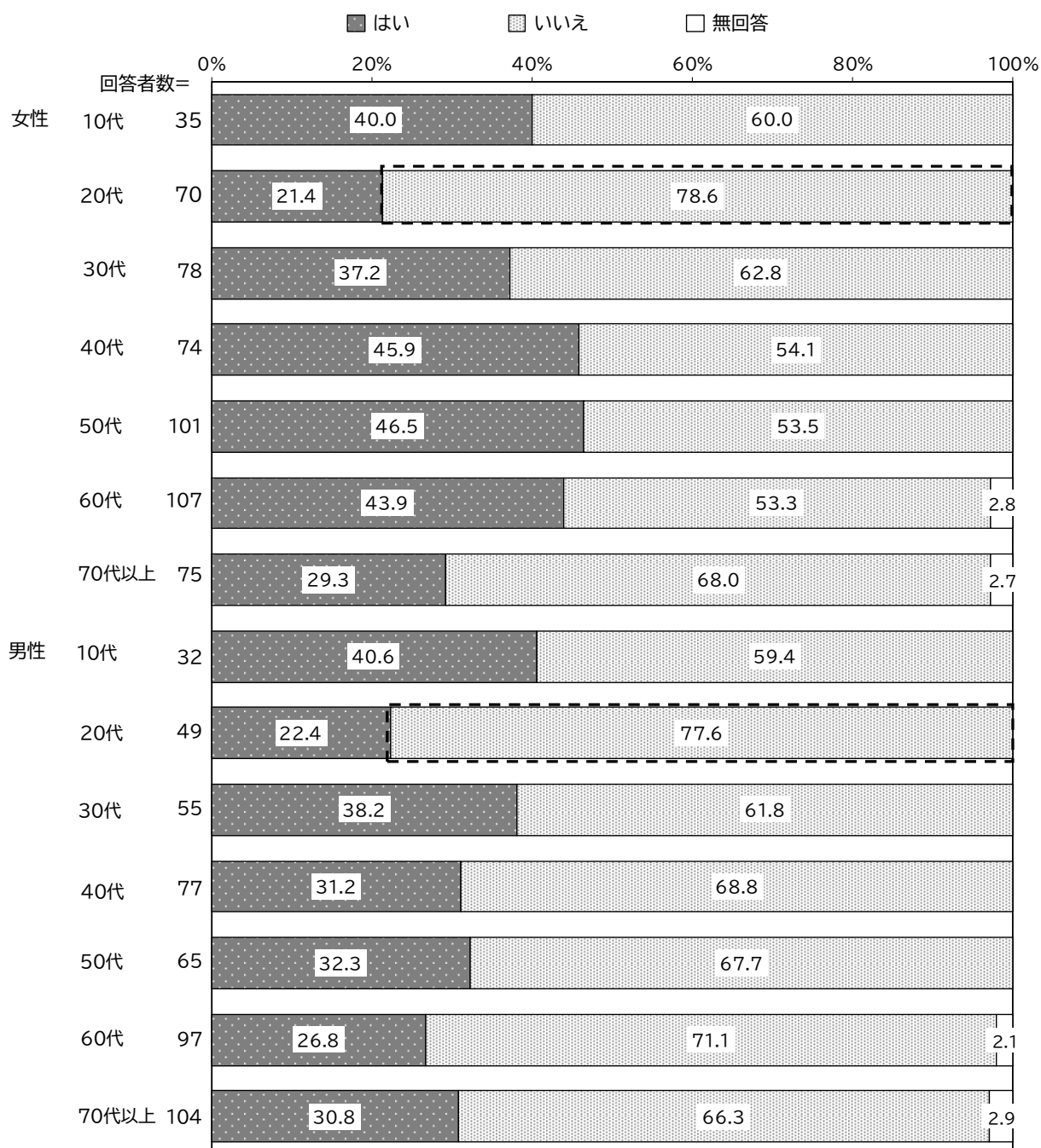


【性別別】



性別・年代別で見ると、他に比べ、男女20代で「いいえ」の割合が高い。

【性別・年代別】



豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年調査に比べ、令和7年調査で「はい」の割合が減少している。

【経年比較】

単位：％

	はい	いいえ	無回答
豊橋市（R07.8）	34.9	63.8	1.3
女性	38.5	60.6	0.9
男性	30.9	68.1	1.0
豊橋市（R05.8）	38.0	59.6	2.4
女性	43.8	55.0	1.2
男性	30.9	66.8	2.3
豊橋市（R03.8）	36.2	61.5	2.3
女性	40.8	57.2	2.0
男性	31.0	66.4	2.6
豊橋市（R01.8）	30.2	67.6	2.2
女性	34.2	64.1	1.6
男性	24.4	72.6	3.0
豊橋市（H28.8）	32.9	61.9	5.3
女性	37.8	57.5	4.7
男性	26.3	68.2	5.5
豊橋市（H26.9）	28.8	65.1	6.0
女性	33.7	60.2	6.1
男性	23.3	70.9	5.8

9 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について

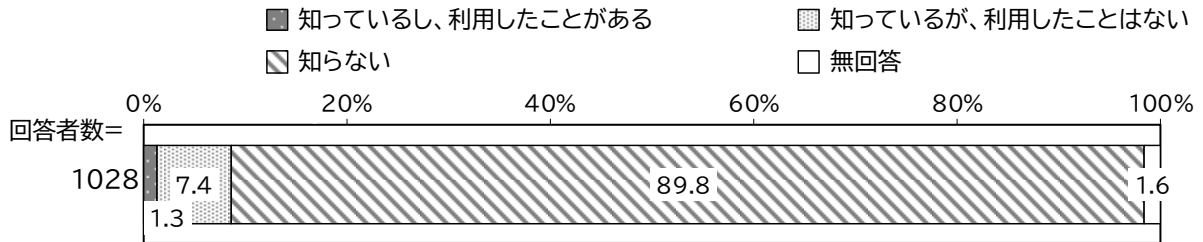
(1) 男女共同参画センター「パルモ」の認知度

問21. 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」を知っていますか。

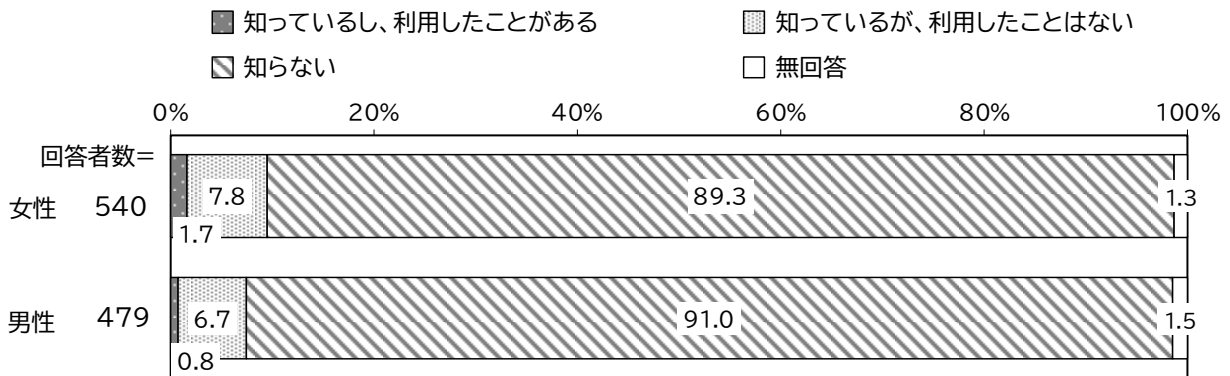
「知らない」の割合が89.8%と最も高い。

性別別でみると、大きな差異はみられない。

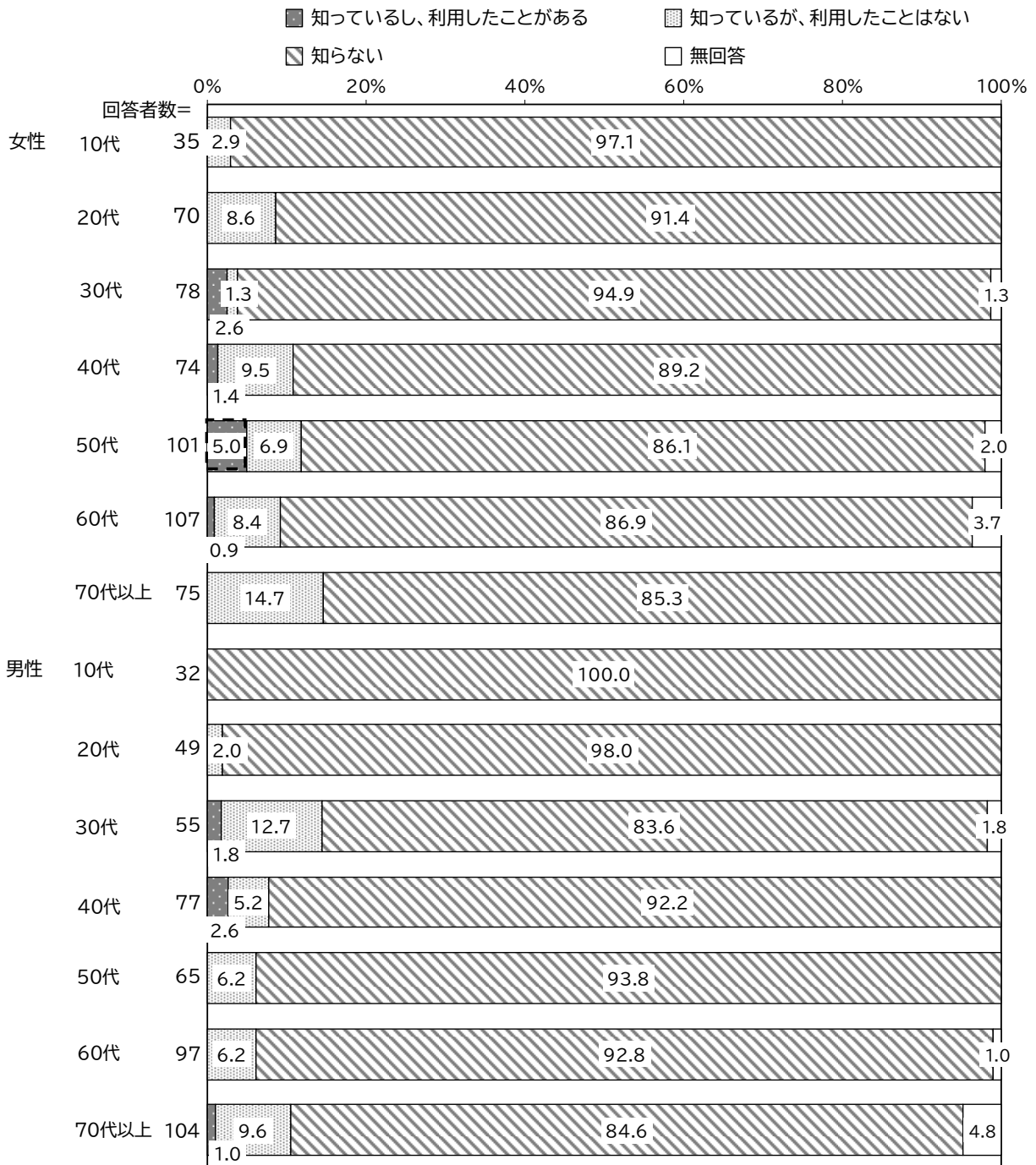
性別・年代別でみると、女性50代で「知っているし、利用したことがある」の割合が高い。



【性別別】



【性別・年代別】



過去の調査と項目が異なるため、参考とする。

【経年比較】

単位：％

	知っているし、 利用したこと がある	知っているが、 利用したこと はない	知らない	無回答
豊橋市（R07.8）	1.3	7.4	89.8	1.6
女性	1.7	7.8	89.3	1.3
男性	0.8	6.7	91	1.5

単位：％

	はい	いいえ	利用したこと はないが、知っ ている	無回答
豊橋市（R05.8）	1.9	91.4	6.1	0.6
女性	3.0	92.3	4.7	0.0
男性	0.7	92.4	6.6	0.3
豊橋市（R03.8）	2.9	90.6	5.8	0.7
女性	3.1	89.9	6.7	0.2
男性	2.6	91.3	4.9	1.3
豊橋市（R01.8）	2.5	93.0	—	4.5
女性	3.7	92.6	—	3.7
男性	1.1	93.1	—	5.8
豊橋市（H28.8）	3.5	92.5	—	3.9
女性	5.6	89.9	—	4.5
男性	1.0	96.2	—	2.9
豊橋市（H26.9）	6.2	87.1	—	6.7
女性	7.5	85.9	—	6.6
男性	4.9	88.7	—	6.4
豊橋市（H23.6）	4.2	93.2	—	2.6
女性	5.5	92.5	—	2.0
男性	2.2	95.2	—	2.6
豊橋市（H20.5）	9.4	83.4	—	7.1
女性	13.1	80.2	—	6.7
男性	5.0	87.3	—	7.7
豊橋市（H17.5）	8.9	85.4	—	5.7
女性	11.2	85.5	—	3.3
男性	5.4	85.5	—	9.1
豊橋市（H13.8）	11.8	81.4	—	6.8
女性	16.2	79.7	—	4.1
男性	6.2	84.5	—	9.3

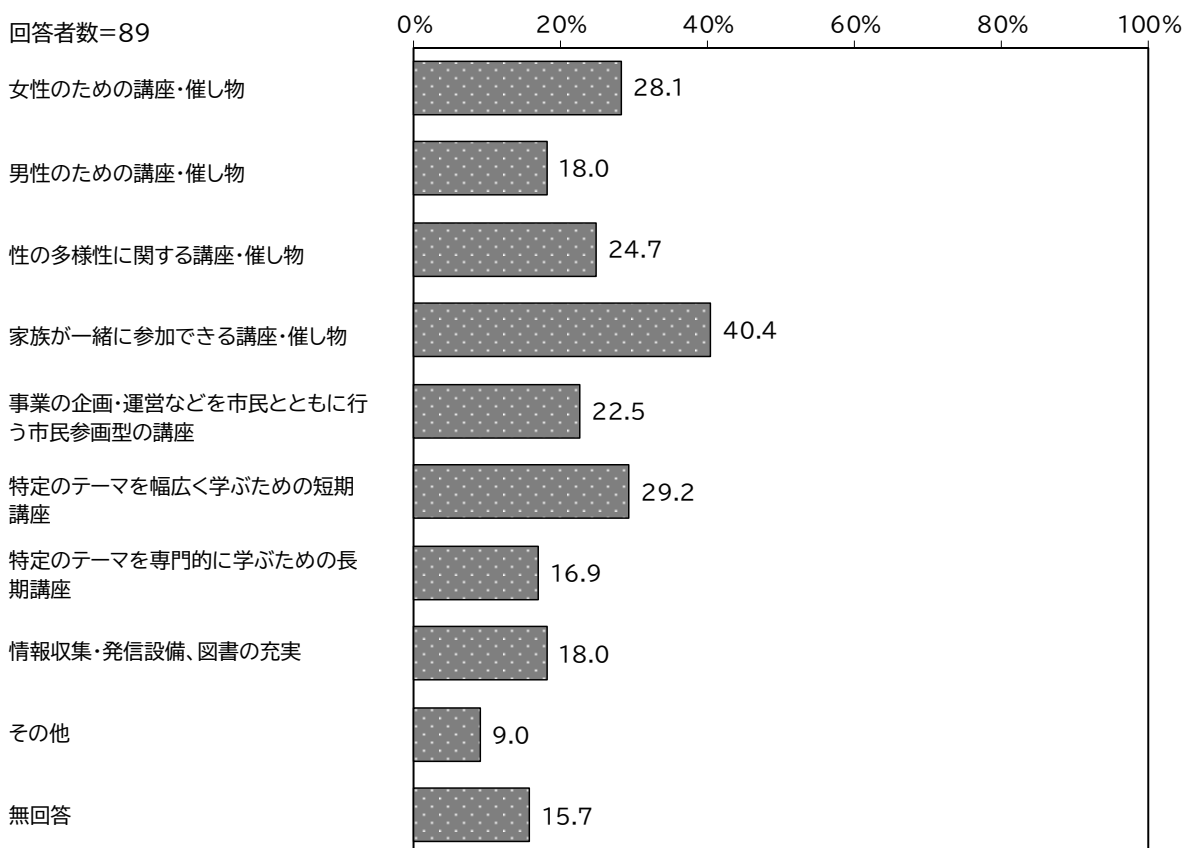
(2) 充実してほしい内容

《問21で「1. 知っているし、利用したことがある」「2. 知っているが、利用したことはない」と答えた方のみお聞きします》

問21-1. 今後、男女共同参画センターの事業として、どんなことを充実してほしいと思いますか。【あてはまるものをすべてに○】

「家族と一緒に参加できる講座・催し物」の割合が40.4%と最も高く、次いで「特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座」の割合が29.2%、「女性のための講座・催し物」の割合が28.1%となっている。

性別別でみると、男性に比べ、女性で「女性のための講座・催し物」の割合が高い。



【性別別】

単位：%

区分	回答者数(件)	女性のための講座・催し物	男性のための講座・催し物	性の多様性に関する講座・催し物	家族と一緒に参加できる講座・催し物	事業の企画・運営などを市民とともに行う市民参画型の講座	特定のテーマを幅広く学ぶための短期講座	特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座	情報収集・発信設備、図書の充実	その他	無回答
女性	51	35.3	13.7	21.6	41.2	23.5	33.3	19.6	17.6	5.9	11.8
男性	36	16.7	22.2	27.8	36.1	19.4	22.2	11.1	19.4	13.9	22.2

過去の調査と回答条件が異なるため、参考とする。

【経年比較】

単位：%

	女性のための講座	男性のための講座	性の多様性に関する講座・催し物	家族が一緒に参加できる催し物・講座	事業の企画・運営などを市民とともにを行う市民参画型の講座	特定のテーマを幅広く学ぶための短期講座（1～3回）	特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座	特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座（※1）	情報の収集・発信、図書の内容	開館日時や催し物の曜日・時間をかえてほしい	地域に出向いて講座	その他	特にない	無回答
豊橋市（R07.8）	28.1	18.0	24.7	40.4	22.5	29.2	16.9	18.0	—	—	9.0	—	15.7	
女性	35.3	13.7	21.6	41.2	23.5	33.3	19.6	17.6	—	—	5.9	—	11.8	
男性	16.7	22.2	27.8	36.1	19.4	22.2	11.1	19.4	—	—	13.9	—	22.2	
豊橋市（R05.8）	50.0	14.3	—	42.9	42.9	35.7	35.7	28.6	—	—	14.3	0.0	0.0	
女性	41.7	16.7	—	50.0	50.0	41.7	41.7	33.3	—	—	16.7	0.0	0.0	
男性	100.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	
豊橋市（R03.8）	29.2	20.8	—	29.2	29.2	45.8	16.7	4.2	—	—	16.7	4.2	—	
女性	42.9	21.4	—	28.6	35.7	57.1	21.4	7.1	—	—	14.3	—	—	
男性	10.0	20.0	—	30.0	20.0	30.0	10.0	—	—	—	20.0	10.0	—	
豊橋市（R01.8）	31.8	22.7	—	31.8	31.8	22.7	18.2	18.2	—	—	0.0	4.5	0.0	
女性	33.3	11.1	—	33.3	33.3	27.8	22.2	22.2	—	—	0.0	5.6	0.0	
男性	25.0	75.0	—	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	
豊橋市（H28.8）	31.4	17.1	—	45.7	14.3	48.6	20.0	31.4	—	—	5.7	11.4	2.9	
女性	35.5	16.1	—	51.6	16.1	51.6	22.6	35.5	—	—	6.5	6.5	3.2	
男性	—	25.0	—	—	—	25.0	—	—	—	—	—	50.0	—	
豊橋市（H26.9）	20.0	11.4	—	41.4	14.3	31.4	12.9	15.7	—	—	7.1	18.6	1.4	
女性	24.4	6.7	—	35.6	8.9	42.2	17.8	8.9	—	—	6.7	17.8	2.2	
男性	12.0	20.0	—	52.0	24.0	12.0	4.0	28.0	—	—	8.0	20.0	—	
豊橋市（H23.6）	20.0	13.3	—	37.8	20.0	51.1	28.9	15.6	—	—	6.7	15.6	2.2	
女性	21.2	9.1	—	39.4	21.2	57.6	33.3	18.2	—	—	6.1	9.1	3.0	
男性	10.0	30.0	—	40.0	20.0	40.0	20.0	10.0	—	—	10.0	30.0	0.0	
豊橋市（H20.5）	—	15.3	—	37.8	10.8	34.2	15.3	23.4	11.7	14.4	10.8	15.3	4.5	
女性	—	14.3	—	39.3	7.1	38.1	16.7	21.4	13.1	11.9	8.3	16.7	4.8	
男性	—	20.0	—	32.0	24.0	24.0	12.0	32.0	8.0	24.0	16.0	8.0	4.0	
豊橋市（H17.5）	—	17.0	—	25.5	12.8	28.7	24.5	28.7	12.8	16.0	4.3	14.9	5.3	
女性	—	13.0	—	24.6	13.0	36.2	26.1	33.3	17.4	18.8	5.8	11.6	1.4	
男性	—	30.4	—	30.4	13.0	8.7	21.7	17.4	0.0	8.7	0.0	21.7	13.0	
豊橋市（H13.8）	—	8.3	—	16.9	6.7	14.4	6.4	20.2	5.2	9.0	4.1	16.9	35.9	
女性	—	7.1	—	15.8	6.7	17.9	8.3	23.5	7.7	12.0	3.2	15.4	32.5	
男性	—	10.1	—	19.1	6.2	9.8	4.1	15.5	2.3	5.2	5.7	18.6	39.8	

※1：平成20年以前の選択肢は「情報収集・発信の充実」

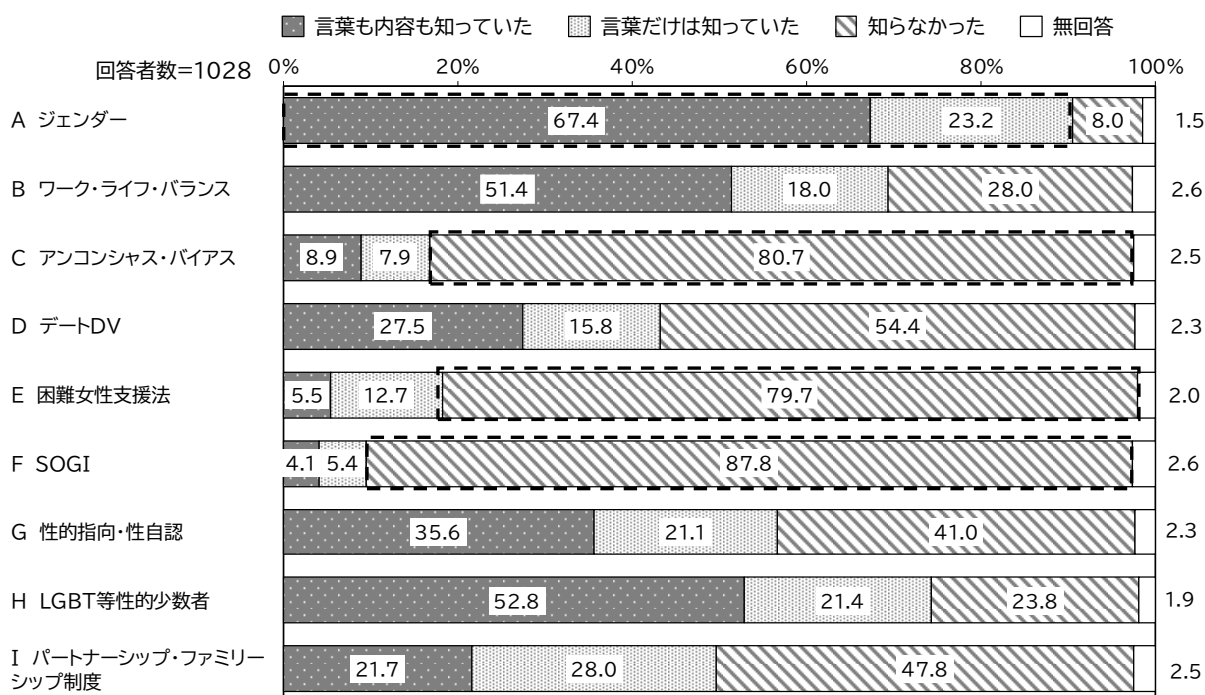
10 男女共同参画及び性の多様性を尊重する社会づくりについて

(1) 用語の認知度

問22. 次の用語について知っていましたか。

【A～Iの各項目について、あてはまるものを1つに○】

『A ジェンダー』で「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」を合わせた“言葉の認知”の割合が高く、9割を超えている。一方、『C アンコンシャス・バイアス』『E 困難女性支援法』『F SOGI』で「知らなかった」の割合が8割程度と高くなっている。



性別別でみると、大きな差異はみられない。

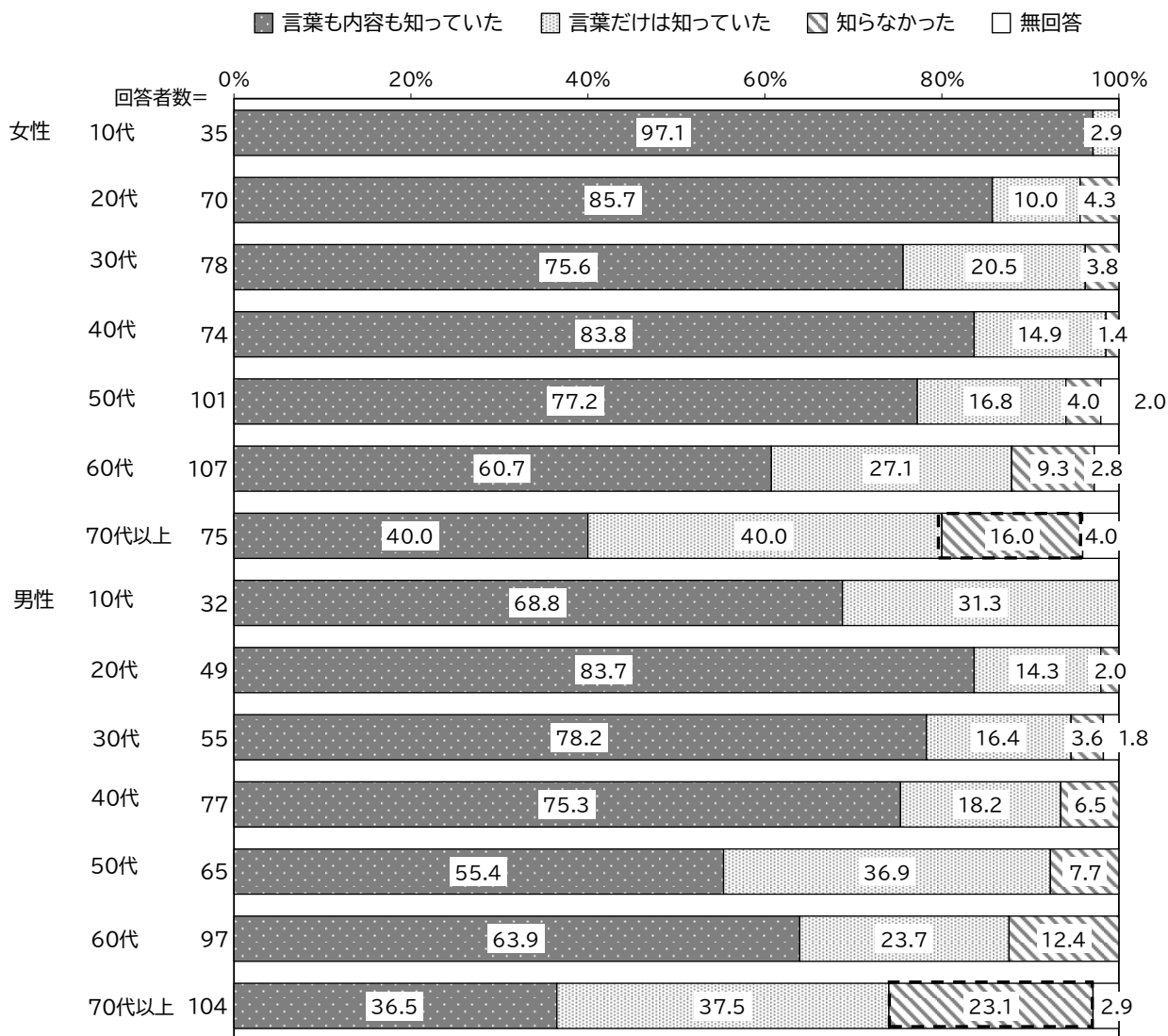
【性別別】



A ジェンダー

性別・年代別で見ると、他に比べ、男女70代以上で「知らなかった」の割合が高い。

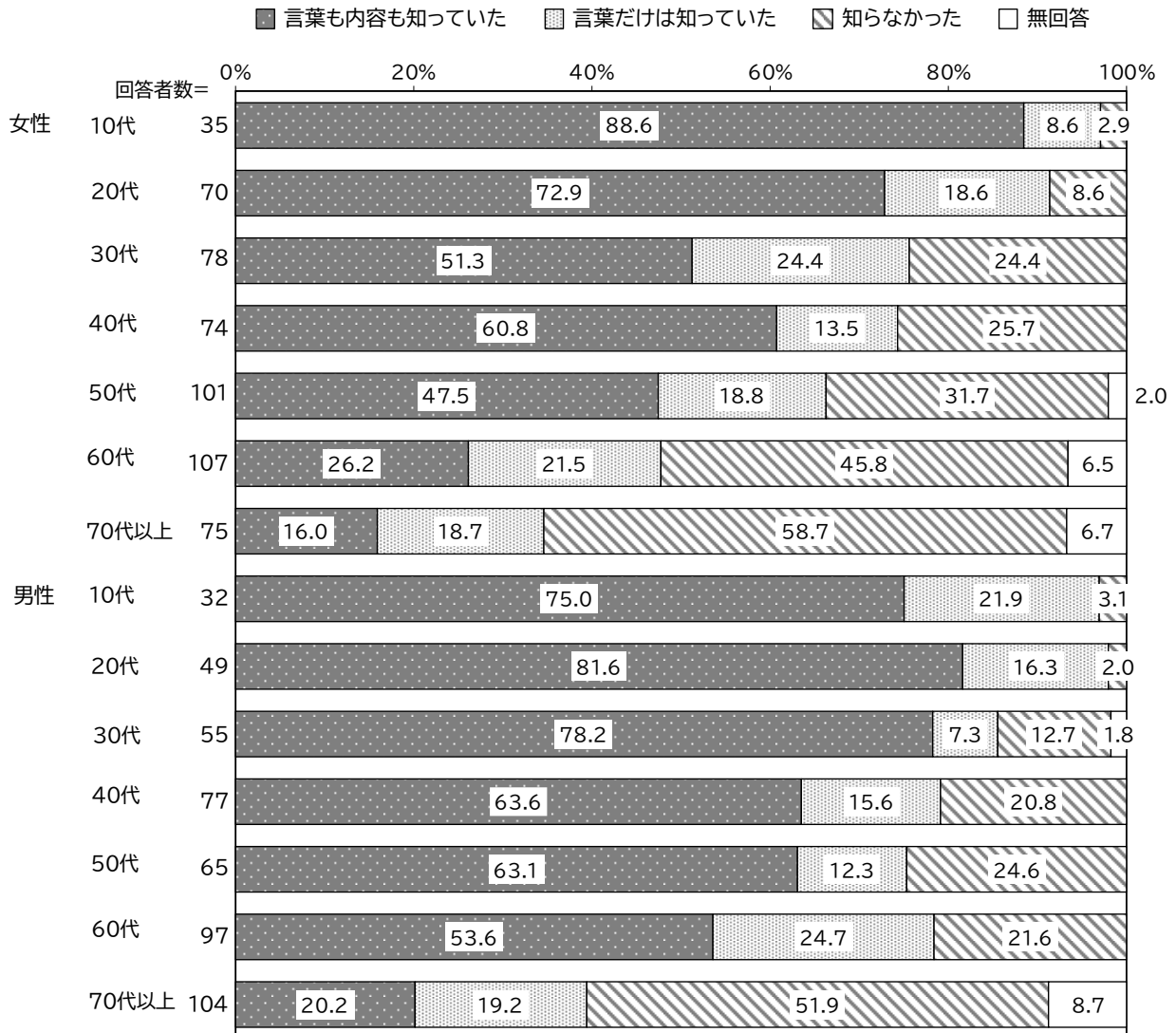
【性別・年代別】



B ワーク・ライフ・バランス

性別・年代別で見ると、男女ともに、年齢が上がるにつれ、「知らなかった」の割合が高くなる傾向にある

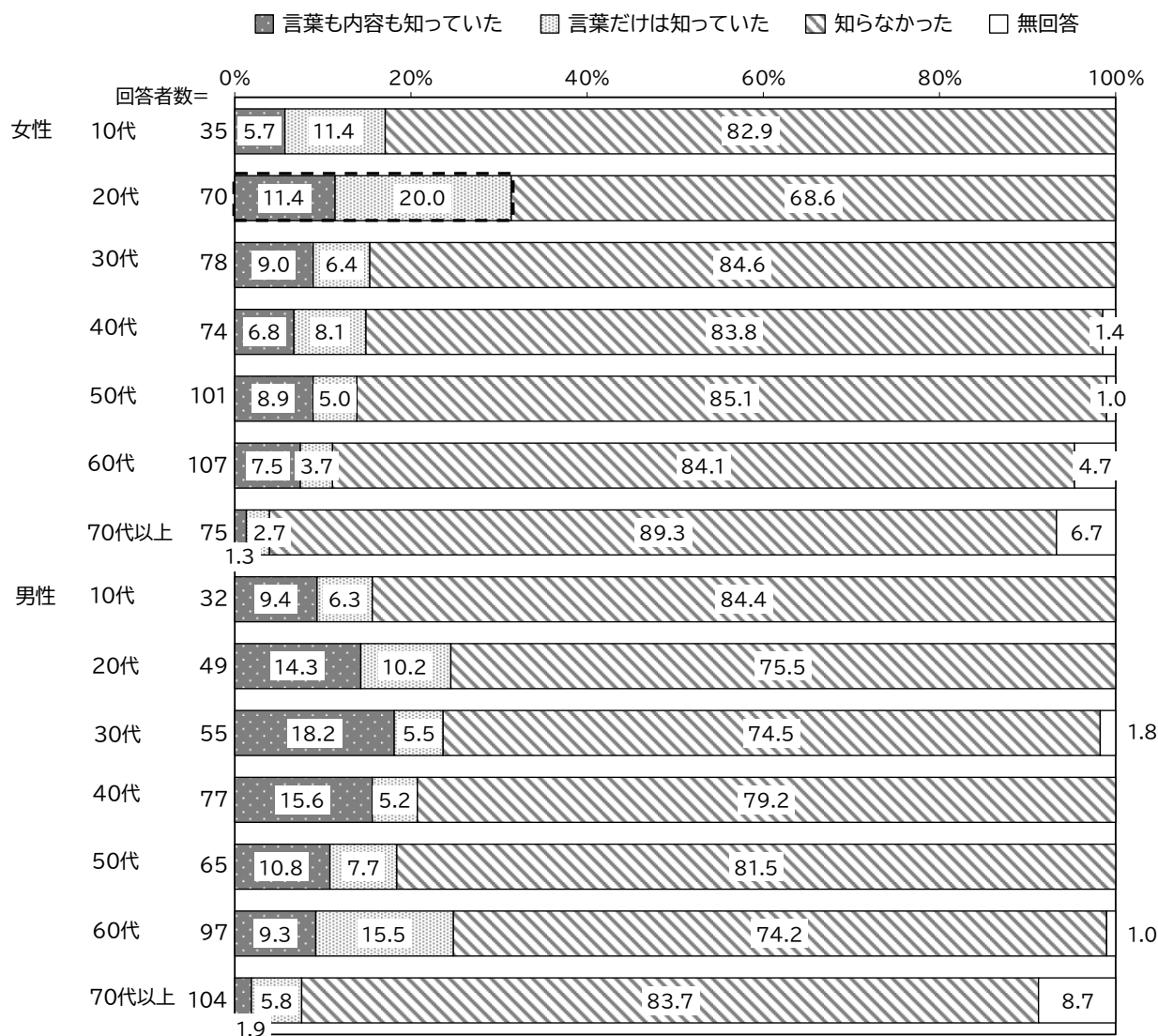
【性別・年代別】



C アンコンシャス・バイアス

性別・年代別でみると、他に比べ、女性 20 代で「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」を合わせた“言葉の認知”の割合が高い。

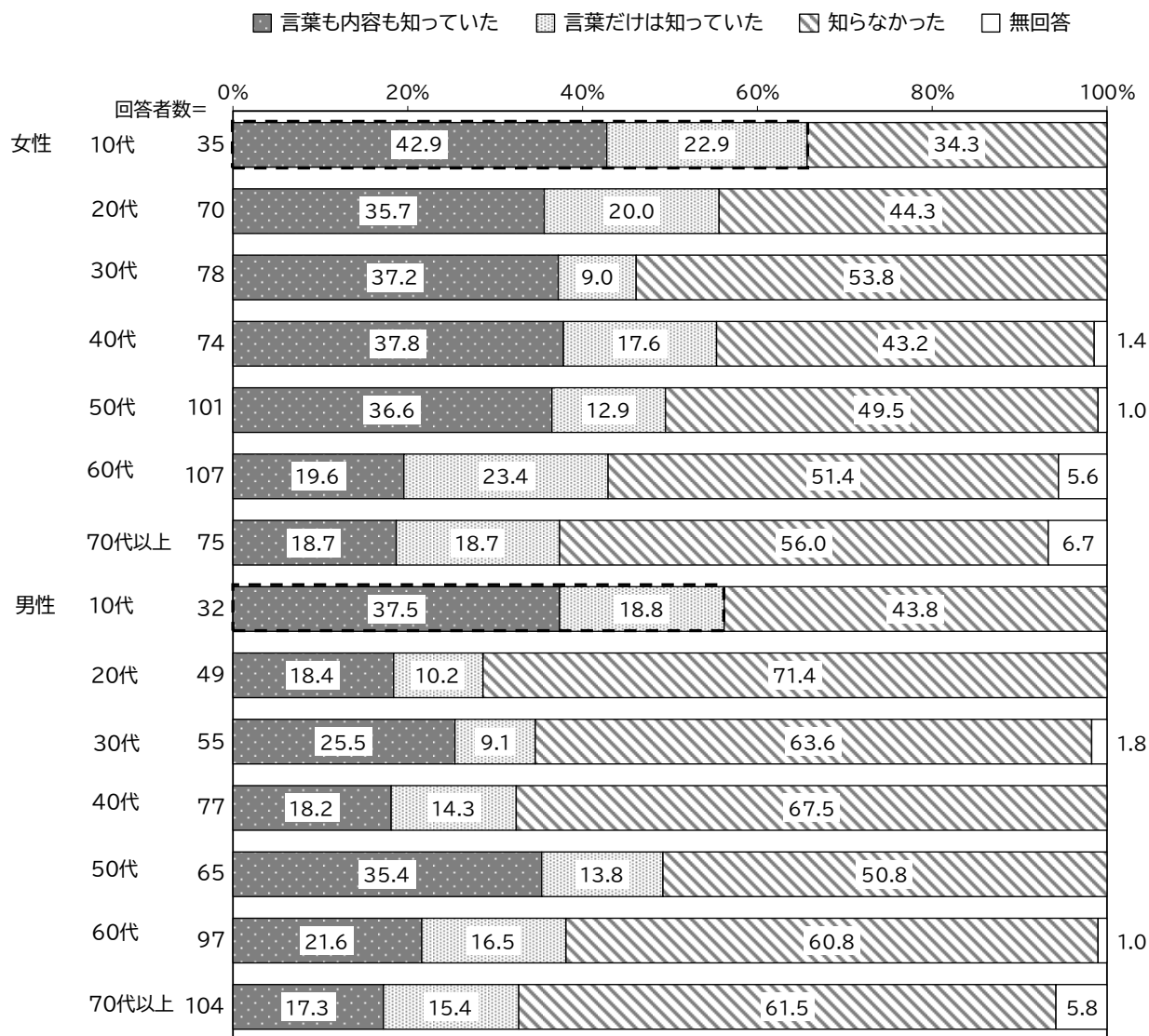
【性別・年代別】



D デートDV

性別・年代別で見ると、他に比べ、男女 10 代で「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」を合わせた“言葉の認知”の割合が高い。

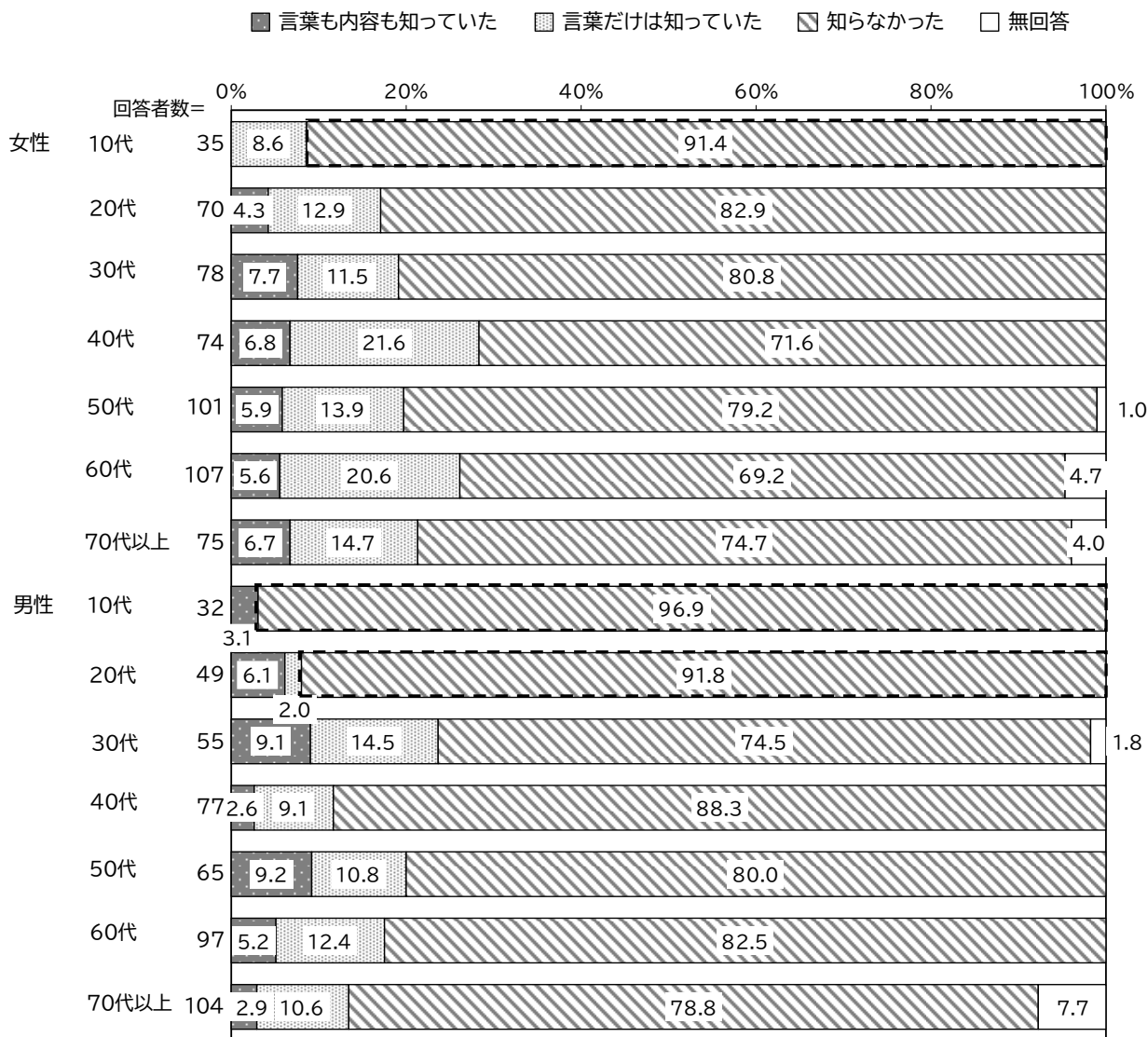
【性別・年代別】



E 困難女性支援法

性別・年代別でみると、他に比べ、男女10代、男性20代で「知らなかった」の割合が高い。

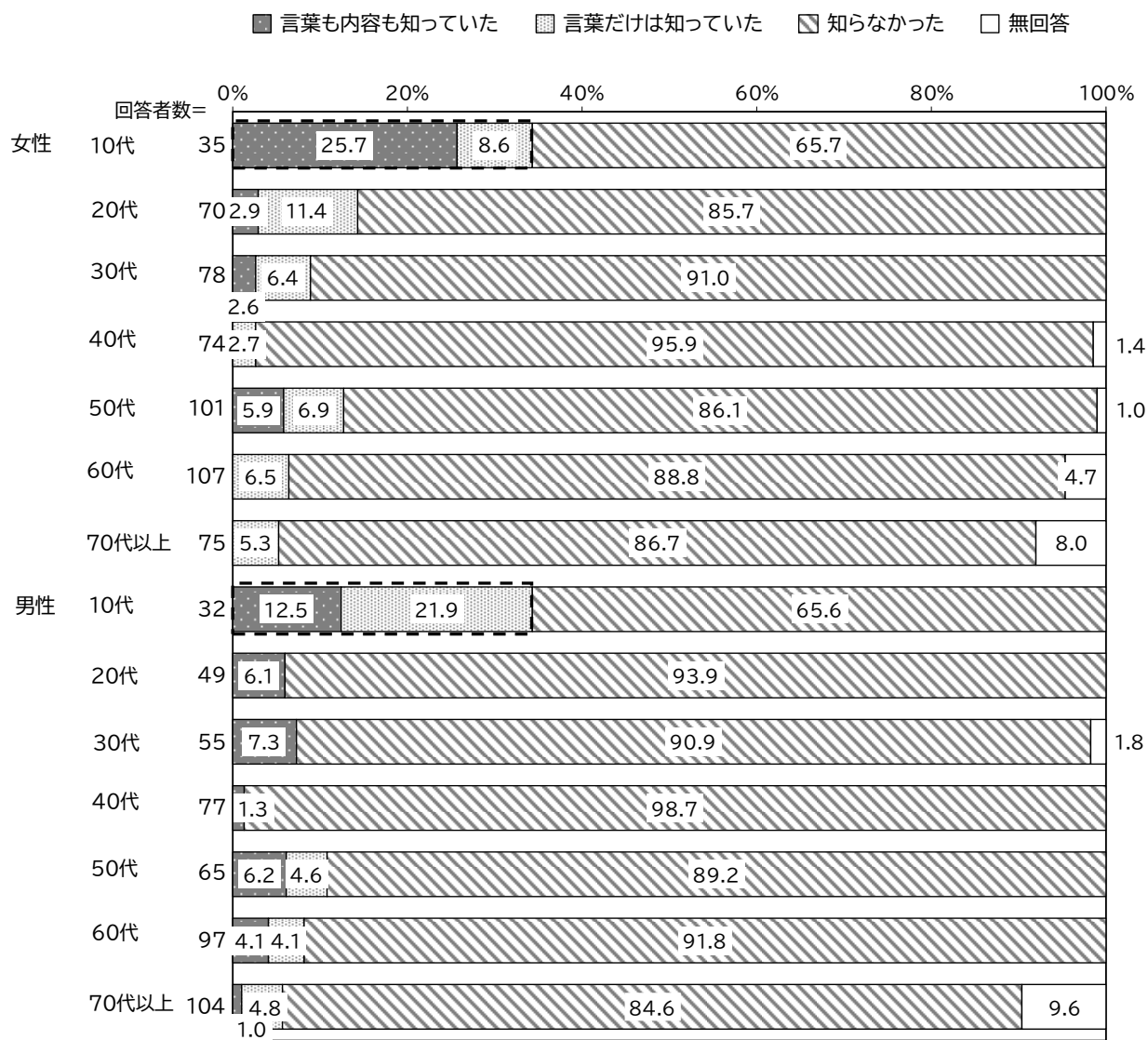
【性別・年代別】



F SOGI

性別・年代別でみると、他に比べ、男女 10 代で「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」を合わせた“言葉の認知”の割合が高い。

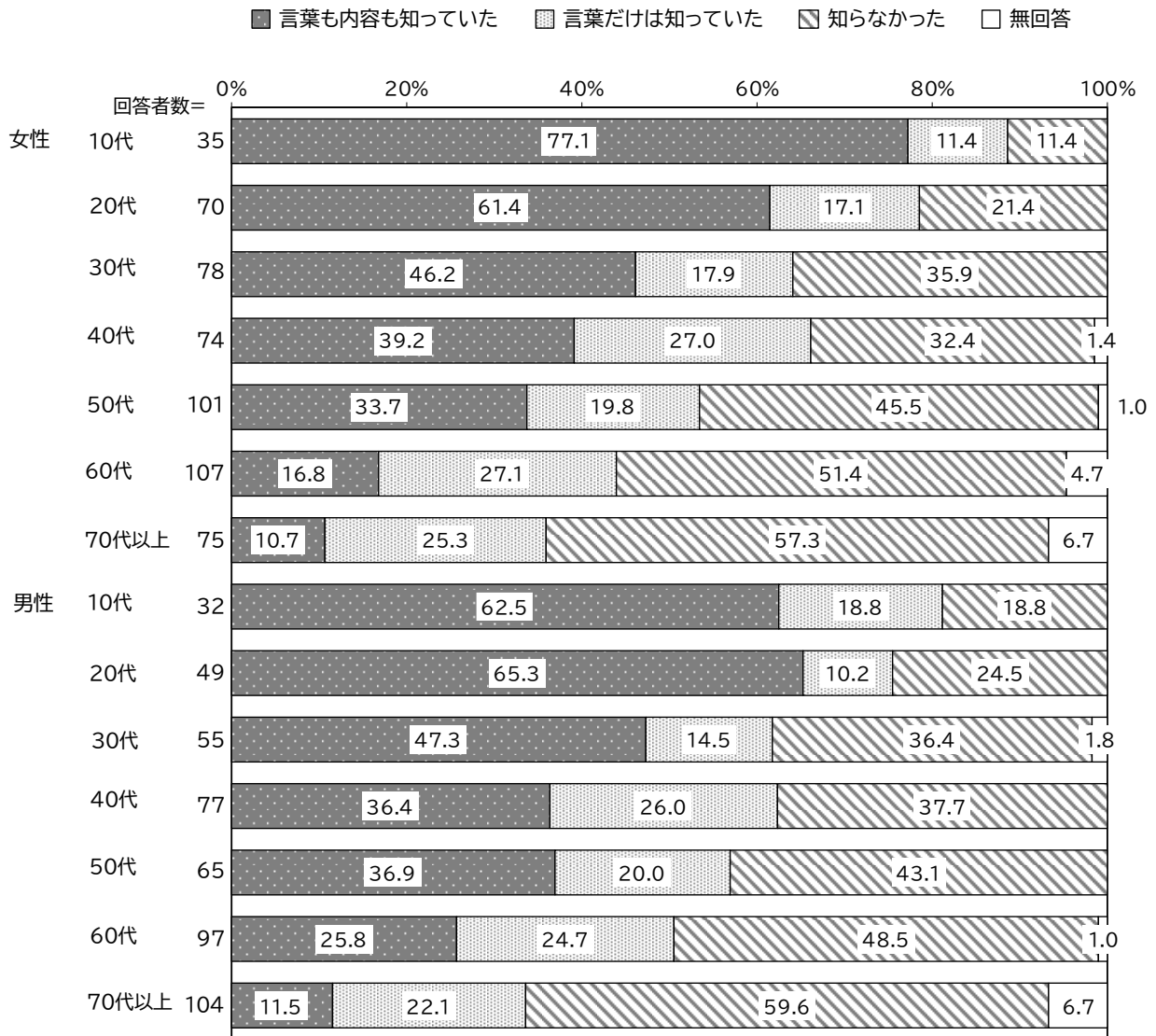
【性別・年代別】



G 性的指向・性自認

性別・年代別で見ると、男女ともに、年齢が上がるにつれ、「知らなかった」の割合が高くなる傾向にある。

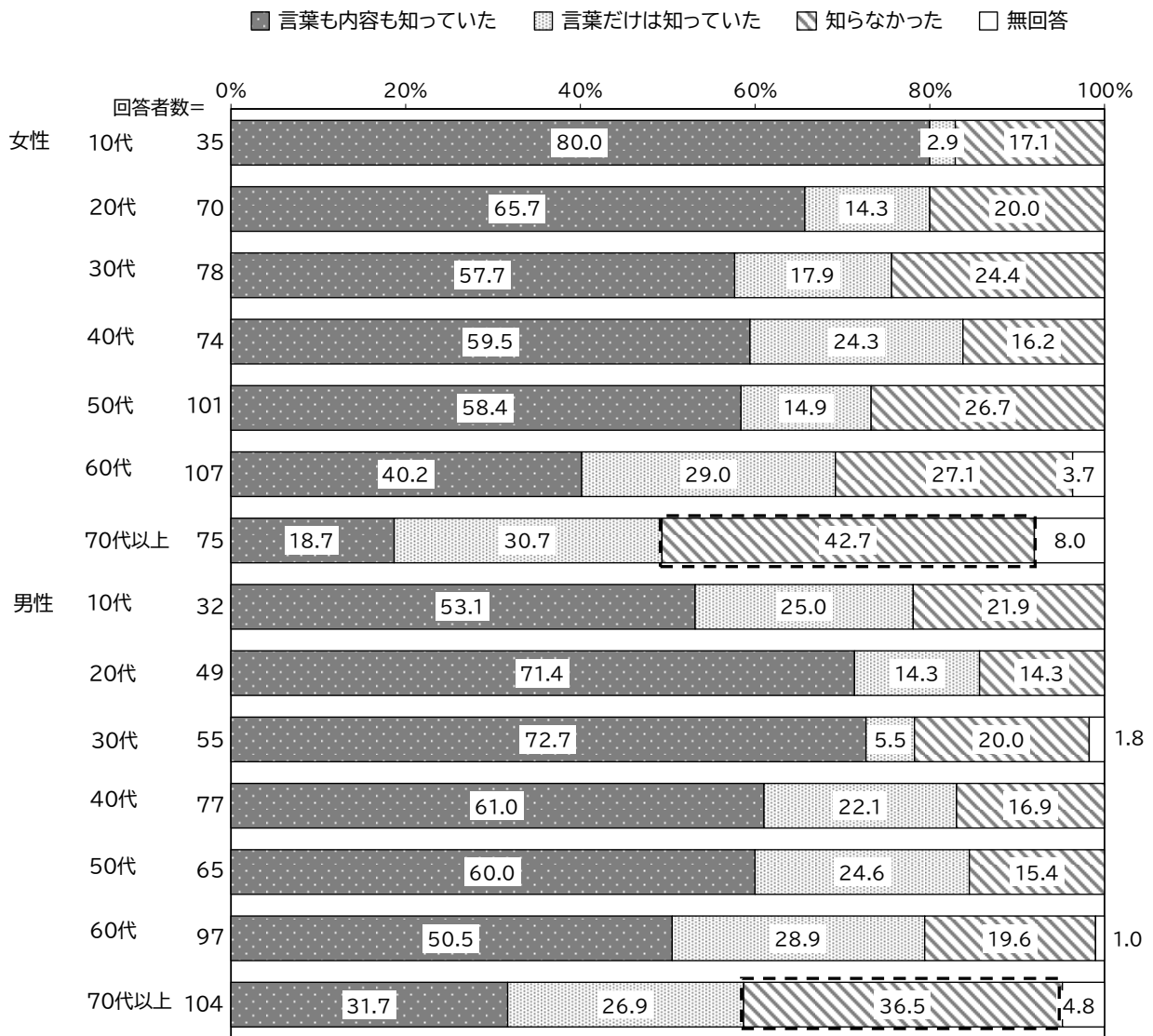
【性別・年代別】



H LGBT等性的少数者

性別・年代別で見ると、他に比べ、男女70代以上で「知らなかった」の割合が高い。

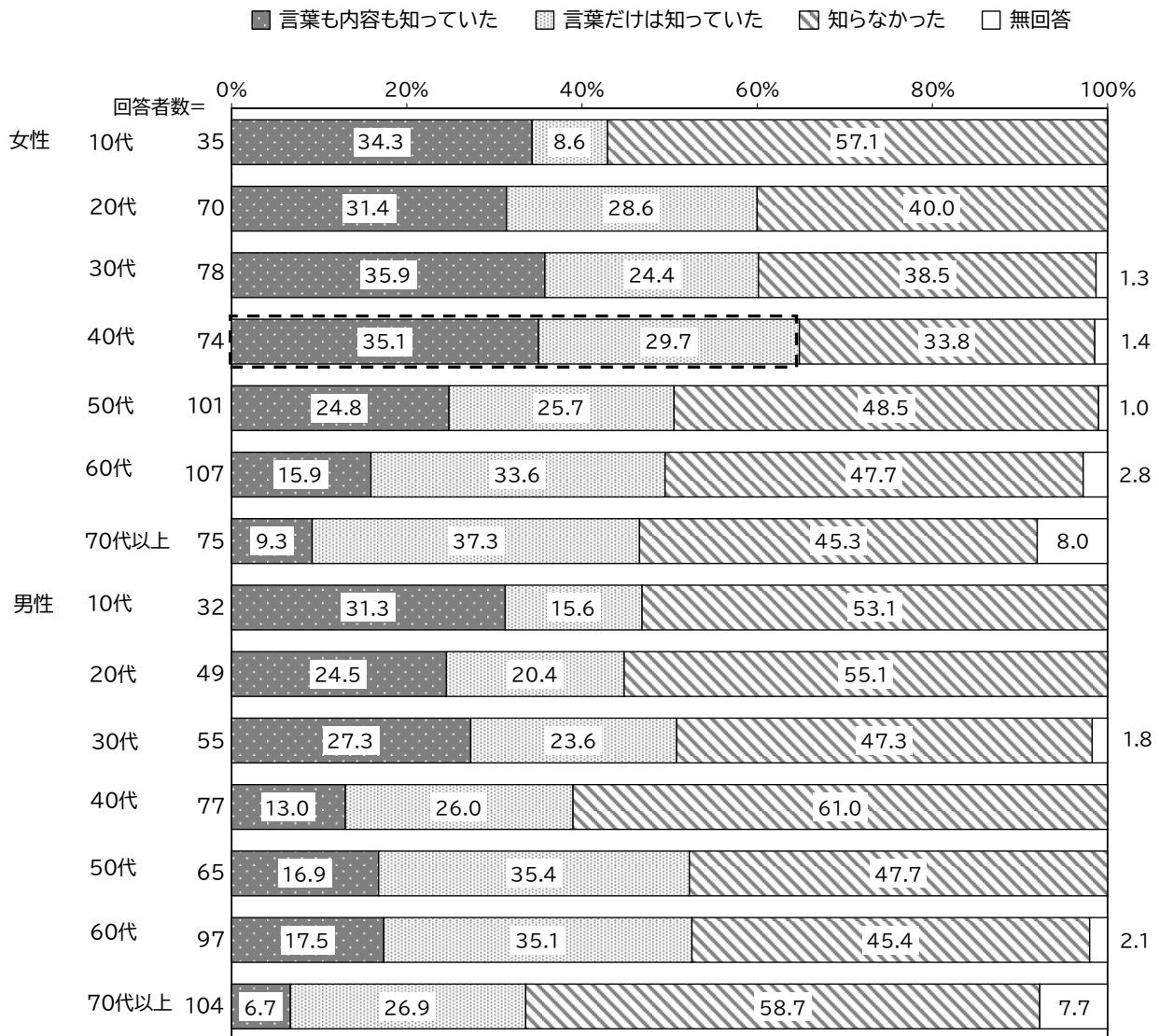
【性別・年代別】



I パートナーシップ・ファミリーシップ制度

性・年代別でみると、他に比べ、女性 40 代で「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」を合わせた“言葉の認知”の割合が高い。

【性・年代別】



※「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の計

豊橋市の過去の調査との比較でみると、令和5年と比較し、「言葉も内容も知っていた」の割合が『A ジェンダー』『B ワーク・ライフ・バランス』『C アンコンシャス・バイアス』『D デートDV』『F SOGI』で高くなっている。

【経年比較】

A ジェンダー

単位：％

	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	67.4	23.2	8.0	1.5
女性	71.9	20.6	6.1	1.5
男性	62.6	26.3	10.2	0.8
豊橋市 (R05.8)	56.3	29.6	10.8	3.3
女性	60.1	27.5	9.4	3.0
男性	52.3	32.2	12.8	2.6
豊橋市 (R03.8)	43.6	33.3	19.7	3.5
女性	45.1	35.0	17.0	2.9
男性	42.1	31.3	22.8	3.8

B ワーク・ライフ・バランス

単位：％

	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	51.4	18.0	28.0	2.6
女性	47.2	18.7	31.5	2.6
男性	56.4	17.3	24.2	2.1
豊橋市 (R05.8)	38.2	22.5	36.2	3.0
女性	37.9	23.3	36.4	2.5
男性	39.1	21.7	36.2	3.0
豊橋市 (R03.8)	34.9	18.5	43.4	3.2
女性	33.2	15.2	48.9	2.7
男性	37.2	22.3	36.9	3.6
豊橋市 (R01.8)	21.3	22.7	48.2	7.9
女性	20.4	23.1	49.7	6.8
男性	22.4	23.0	44.9	9.7
豊橋市 (H28.8)	15.2	27.6	47.8	9.4
女性	15.3	26.3	47.6	10.8
男性	15.3	29.4	48.8	6.5
豊橋市 (H26.9)	10.9	24.1	57.9	7.1
女性	11.1	24.7	56.2	8.0
男性	10.5	23.3	60.2	6.0
豊橋市 (H23.6)	7.2	28.9	58.8	5.1
女性	6.3	28.4	60.9	4.5
男性	8.4	29.4	57.2	5.0

C アンコンシャス・バイアス

単位：％

	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	8.9	7.9	80.7	2.5
女性	7.4	7.4	83.0	2.2
男性	10.4	8.4	78.9	2.3
豊橋市 (R05.8)	6.8	10.2	79.5	3.5
女性	5.9	9.7	81.2	3.2
男性	7.9	11.5	78.0	2.6
豊橋市 (R03.8)	6.7	9.2	80.3	3.8
女性	7.4	9.6	80.0	2.9
男性	5.9	8.7	80.8	4.6

D デートDV

単位：％

	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	27.5	15.8	54.4	2.3
女性	31.3	17.4	48.9	2.4
男性	23.2	14.2	61.0	1.7
豊橋市 (R05.8)	22.5	15.5	58.0	4.0
女性	25.5	16.3	54.7	3.5
男性	18.4	14.1	63.8	3.6
豊橋市 (R03.8)	20.6	13.9	62.0	3.5
女性	24.7	14.3	58.3	2.7
男性	15.9	13.6	66.4	4.1
豊橋市 (R01.8)	14.6	18.1	60.1	7.2
女性	17.5	19.2	57.3	6.0
男性	10.2	16.3	64.3	9.1
豊橋市 (H28.8)	15.1	16.6	58.8	9.5
女性	20.4	16.6	52.6	10.5
男性	8.1	17.0	67.7	7.2
豊橋市 (H26.9)	10.6	17.6	65.2	6.7
女性	13.6	19.9	59.2	7.3
男性	6.6	15.0	72.6	5.8

E 困難女性支援法

単位：％

	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	5.5	12.7	79.7	2.0
女性	5.7	15.6	77.0	1.7
男性	5.2	9.6	83.3	1.9

※新規項目

F SOGI

単位：％

	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	4.1	5.4	87.8	2.6
女性	3.5	6.7	87.4	2.4
男性	4.4	4.0	89.4	2.3
豊橋市 (R05.8)	3.9	5.4	87.0	3.7
女性	3.0	6.4	87.4	3.2
男性	4.9	4.3	87.5	3.3

G 性的指向・性自認

単位：％

	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市 (R07.8)	35.6	21.1	41.0	2.3
女性	36.1	21.9	39.8	2.2
男性	34.9	20.7	42.6	1.9
豊橋市 (R05.8)	36.7	27.0	32.6	3.7
女性	36.6	27.7	32.4	3.2
男性	36.8	26.6	33.2	3.3

H LGBT等性の少数者

単位：％

	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市（R07.8）	52.8	21.4	23.8	1.9
女性	51.7	20.7	25.7	1.9
男性	54.3	22.3	21.9	1.5
豊橋市（R05.8）	53.7	26.7	16.0	3.6
女性	55.9	25.7	15.6	2.7
男性	52.0	28.0	16.8	3.3
豊橋市（R03.8）	52.3	21.5	22.4	3.8
女性	51.8	23.1	21.7	3.4
男性	52.8	19.7	23.3	4.1
豊橋市（R01.8）	30.9	27.8	34.6	6.8
女性	32.2	26.0	36.1	5.8
男性	28.3	30.5	33.0	8.3
豊橋市（H28.8）	22.5	19.0	49.1	9.3
女性	25.9	17.8	46.1	10.1
男性	18.4	21.1	53.3	7.2

E パートナーシップ・ファミリーシップ制度

単位：％

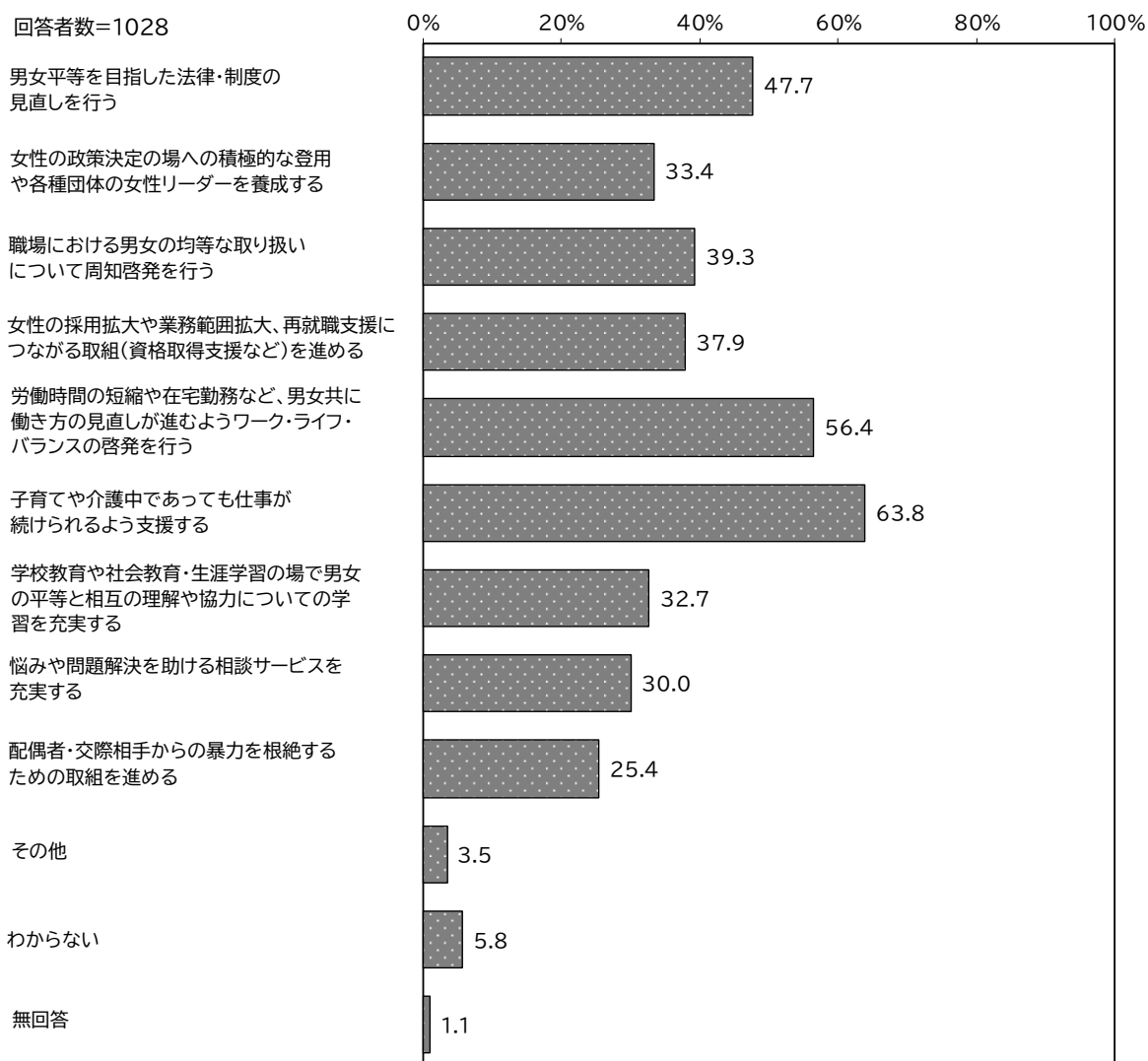
	言葉も内容も 知っていた	言葉だけは 知っていた	知らなかった	無回答
豊橋市（R07.8）	21.7	28.0	47.8	2.5
女性	25.4	28.5	43.9	2.2
男性	17.1	27.8	52.8	2.3
豊橋市（R05.8）	35.4	36.8	24.2	3.6
女性	38.1	37.9	20.8	3.2
男性	32.6	34.9	29.6	3.0
豊橋市（R03.8）	22.1	36.9	37.2	3.8
女性	23.3	38.8	34.3	3.6
男性	20.8	34.9	40.5	3.8

※令和5年調査まではパートナーシップ制度

(2) 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと

問23. 男女共同参画社会の実現のために、行政（国・県・市）はどのようなことに力を入れればよいと思いますか。【あてはまるものをすべてに○】

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が63.8%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う」の割合が56.4%、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」の割合が47.7%となっている。



性別別でみると、男性に比べ、女性で「女性の採用拡大や職域拡大、再就職支援につながる取組（資格取得支援など）を進める」「労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」「配偶者・交際相手からの暴力を根絶するための取組を進める」の割合がそれぞれ10ポイント前後高くなっている。

【性別別】

単位：%

区分	回答者数（件）	男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う	女性の政策決定の場への積極的な登用や各種団体の女性リーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	女性の採用拡大や職域拡大、再就職支援につながる取組（資格取得支援など）を進める	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	配偶者・交際相手からの暴力を根絶するための取組を進める	その他	わからない	無回答
女性	540	47.4	34.6	41.3	42.6	61.5	68.7	36.3	30.6	29.4	2.2	5.4	0.7
男性	479	48.2	32.4	37.2	32.8	51.4	58.9	28.8	29.2	20.9	5.0	6.1	0.8

性別・年代別でみると、他に比べ、女性 60 代で「悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する」の割合が、女性 10 代で「配偶者・交際相手からの暴力を根絶するための取組を進める」の割合が高い。

【性別・年代別】

単位：%

区分	回答者数(件)	男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う	女性の政策決定の場への積極的な登用や各種団体の女性リーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	女性の採用拡大や職域拡大、再就職支援につながる取組(資格取得支援など)を進める	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	配偶者・交際相手からの暴力を根絶するための取組を進める	その他	わからない	無回答
女性 10代	35	51.4	40.0	34.3	45.7	54.3	62.9	37.1	31.4	45.7	2.9	2.9	0.0
20代	70	57.1	40.0	44.3	34.3	70.0	71.4	37.1	24.3	34.3	0.0	4.3	0.0
30代	78	37.2	35.9	33.3	44.9	64.1	69.2	35.9	30.8	34.6	5.1	10.3	0.0
40代	74	41.9	32.4	45.9	39.2	63.5	66.2	35.1	29.7	18.9	4.1	1.4	1.4
50代	101	48.5	34.7	40.6	44.6	65.3	74.3	40.6	32.7	31.7	1.0	3.0	0.0
60代	107	50.5	35.5	47.7	45.8	59.8	71.0	35.5	43.0	30.8	2.8	3.7	1.9
70代以上	75	46.7	26.7	37.3	42.7	49.3	60.0	32.0	16.0	17.3	0.0	12.0	1.3
男性 10代	32	46.9	18.8	31.3	15.6	59.4	53.1	31.3	28.1	15.6	6.3	12.5	0.0
20代	49	42.9	30.6	40.8	28.6	67.3	57.1	32.7	28.6	26.5	6.1	0.0	0.0
30代	55	45.5	18.2	14.5	23.6	50.9	50.9	20.0	21.8	25.5	9.1	3.6	1.8
40代	77	37.7	27.3	27.3	26.0	49.4	55.8	26.0	27.3	20.8	7.8	7.8	0.0
50代	65	44.6	35.4	33.8	32.3	44.6	50.8	27.7	26.2	15.4	6.2	6.2	0.0
60代	97	60.8	38.1	50.5	42.3	52.6	69.1	29.9	29.9	19.6	3.1	4.1	1.0
70代以上	104	51.0	41.3	46.2	41.3	46.2	63.5	32.7	36.5	22.1	1.0	8.7	1.9

豊橋市の過去の調査との比較でみると、大きな差異はみられない。

【経年比較】

単位：%

	男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う	女性の政策決定の場への積極的な登用や各種団体の女性リーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	女性の採用拡大や職域拡大、再就職支援につながる取組（資格取得支援など）を進める	労働時間の短縮や在宅勤務など、男女共に働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う	子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	配偶者・交際相手からの暴力を根絶するための取組を進める	その他	わからない	無回答
豊橋市（R07.8）	47.7	33.4	39.3	37.9	56.4	63.8	32.7	30.0	25.4	3.5	5.8	1.1
女性	47.4	34.6	41.3	42.6	61.5	68.7	36.3	30.6	29.4	2.2	5.4	0.7
男性	48.2	32.4	37.2	32.8	51.4	58.9	28.8	29.2	20.9	5.0	6.1	0.8
豊橋市（R05.8）	50.3	35.5	39.6	41.9	53.7	63.2	34.9	32.2	22.5	3.0	6.4	1.9
女性	50.7	34.4	41.1	43.6	58.2	70.3	38.1	36.1	23.0	2.2	5.4	1.7
男性	50.0	36.5	37.8	38.8	47.7	54.9	30.3	27.6	22.0	4.3	7.6	1.0
豊橋市（R03.8）	49.3	34.4	40.3	46.8	55.1	65.8	34.4	30.3	24.7	1.3	6.9	1.7
女性	49.8	35.0	41.3	49.8	60.3	72.0	35.0	32.5	28.0	0.7	5.4	1.6
男性	48.7	33.8	39.2	43.6	49.2	58.7	33.8	27.2	20.5	2.1	8.7	1.8

過去の調査と項目が異なるため、参考とする。

【経年比較】

単位：%

	男女平等を 目指した法律・ 制度の制定や 見直しを行う	女性を政策 決定の場に積 極的に登用す る	各種団体の 女性のリーダー を養成する	職場における 男女の均等な 取り扱いにつ いて周知啓 発を行う	女性の採用 拡大や職域 拡大を進める	女性の再就 職支援につ ながる取組 (資格取得 支援など) を進める	労働時間の 短縮や在宅 勤務など、 働き方の見 直しが進 むようワー ク・ライフ ・バランス の啓発を行 う	子育てや介 護中であ っても仕事 が続けられ るよう支 援する	学校教育や 社会教育・ 生涯学習の 場で男女の 平等と相 互の理解や 協力につ いての学習 を充実する	女性の生き 方に関する 情報提供や 交流・教育 の場を充 実する	男性の生き 方に関する 情報提供や 交流・教育 の場を充 実する	悩みや問題 解決を助け る相談サー ビスを充実 する	各国の女性 との交流や 情報提供な どの国際交 流を推進 する	広報誌やパ ンフレット などによる 男女の平等 と相互の理 解や協力に ついてPRす る	家庭におけ る暴力を根 絶するための 取組を進め る	その他	特にな い	無回 答
豊橋市 (R01.8)	30.3	17.0	8.2	20.7	16.0	17.5	39.2	48.2	18.1	7.0	2.4	13.4	1.8	5.4	5.3	2.5	3.8	7.7
女性	29.7	15.3	8.0	19.8	15.9	19.2	40.4	52.2	18.1	6.8	2.1	14.6	1.6	5.8	5.4	1.9	3.5	7.4
男性	30.5	18.8	8.9	22.4	15.5	15.2	37.4	43.5	18.0	7.5	3.0	12.2	2.2	5.3	5.5	2.5	4.2	8.3
豊橋市 (H28.8)	29.5	17.8	9.2	22.2	22.0	-	55.7	44.1	23.6	8.7	-	15.2	2.6	5.6	-	2.5	3.5	5.9
女性	26.5	16.8	8.5	20.9	24.1	-	56.0	49.2	23.2	9.7	-	15.1	2.2	5.4	-	1.8	2.3	7.0
男性	34.2	19.4	9.6	24.2	19.6	-	55.7	37.8	24.4	6.9	-	15.1	3.3	6.0	-	3.6	5.0	3.8

Ⅲ 自由意見

寄せられた多くの意見の中から、本調査に直接関係ないものや要望、重複意見等を除き、主なものを紹介する。

1 男性が仕事と家事、育児、介護を両立することについて

(1) 10代男性

- ・女性の社会進出、仕事に平等に参加することよりも、男性が育児休暇などを取得し、子どもの健やかな成長を助長することが重要だ

(2) 30代男性

- ・昔からの習慣が根強いのが大きな原因。また、子どもがいる世代は子育てがさらに大きな原因か。法律もよくなり、男性も育休をとれるようになったがまだまだ浸透していない状況だし、会社によってはとりづらい環境かもしれない。本当に変えるなら強制力を持った環境にする必要がある。希望する人に対して職場から働きかける。個人と上司の間では、言いづらい等があるため、職場から一番いいのは上の人から言ってもらえるような環境だとよりよい。そうすれば、男性も育休参加し、女性も働けると思う。

(3) 40代女性

- ・男性が育児により参加するように未就学児、小学校低学年の間は残業を禁止にするなど、まず生活に組み込まれるようにする必要があると思う。社会・家庭・仕事をすべて大事にするために、誰でも自分の意見・考え方を口にすることができるように、やわらかい社会をつくりだすべき。
- ・学校教諭をしています。学校は公立であることもあり、だいぶ女性の不利にならないような取り組みは進んでおり、女性管理職も増えました。しかし、男性が育休を取得することは前向きに考える方が少ないです。現在、西三河の職場ですが、豊橋に勤務していたときには育休を取得する男性は全くいませんでしたが、西三河では育休だけではなく、時短勤務されている男性もいらっしやいます。西三河では名古屋に近いこともあって男女に関するこだわりはなく、おおらかなように感じます。しかし、東三河である豊橋は学校数が少ないことや、教員でも母校や住居に近い慣れ親しんだ所で何十年も勤務されている方も多く、男女に関するこだわりだけではなく、考え方が偏っている方が多いと感じます。人事交流をもっと活発にしたり、親が勤務している学校に子どもを入学させることができないようにしたり、内地留学を活発にしたり、異業種交流を盛んにしたり、地域のフォーラムやフェスティバルを増やして豊橋に足を運ぶ人を増やすなどの取り組みが必要であると感じます。私の出身は東京なので、豊橋は東京にくらべて物価が安く、お金がたまりやすいし、とても住みやすく感じます。新幹線駅がある立地を生かして魅力的な街づくりをし、老若男女のこだわりなく全ての人が楽しめる場所になることを実現させたいですね。

2 女性が仕事と、出産、子育て、介護などを両立することについて

(1) 20代女性

- ・産休に入るタイミングが9ヶ月になってからなど生活するだけでも、しんどいのギリギリまで出社して働くのは通勤も何もかもが辛い。働いて、頑張りたいが、本当にそのあたりの配慮が法的に足りていない。また、世代間のギャップも大きく旦那の会社では子の体調不良時に休もうとすると奥さんに頼めば良いと言われるそう。正社員で責任ある仕事をしてとは思っていなさそう。自分の勤務地は名古屋だが、そういった都会のほうではそういった事を言われたことも言っているのも聞いたことがない。が、旦那の職場や、前職（豊橋）では女性の時短勤務をバカにする発言をたびたび聞いた。田舎のおじさんの固定観念を表してる感じがした。この概念を変えていかないと大卒で残ってくれた子や、外を経験した子はUターンで帰ってきてくれても田舎の地を捨てて、都会に働きに行ってしまうと思う。そして、そのまま都会で結婚していくと思う。
- ・私自身が出産をし、育児休暇を取り復帰予定でしたが育児と仕事の両立が難しいと考えて専業主婦をしています。工場職でしたのでスキルアップを目指せる職場ではないので無理してまで働きたいと思いませんが、子育てにお金がかかる事もあり、共働きじゃないと生活がキツイです。バリキャリでやりたい人は男女平等で良いと思いますが、個人的には共働きじゃないと生活できないのは問題だと思います。（旦那の稼ぎは決して少なくはありません）子育てに専念しやすいように支援や育休が取りやすいような環境を作りたいです。あまり女性にも男性と同じ質量の仕事を求めすぎると妊娠しづらい（仕事をやめにくい）と思うので、ほどほどが良いと思います。
- ・子育て中のママがもっと社会にでて堂々と働ける世の中になってほしいと思いました。・”子供が熱を出して仕事を休む”という理由でも嫌な顔せず理解してくれる会社が増えると良いな、ママパパどちらの会社でも2人の子だからどっちが休んでも良いと思う。・パパが育児休暇を取りやすい世の中になってほしい。私の主人の職場は人手不足で育休を取る人が過去に職場で1人しかおらず育休はとらなかった。初めての子育て右も左もわからない、朝は早く夜はおそい主人の帰りを待ちながら孤独と不安でおしつぶされそうだった。育休が当たり前にとれる世の中になると良いな。男だから、女だからなんて昔の考えからあなたはあなた私はわたし!!と堂々と言える世の中になってほしい。・みんながしあわせな人生を歩めるように心から願ってます。

(2) 30代男性

- ・子育てしながらでも仕事ができる環境が整っていないと感じます。保育園や学童がもっと活用しやすくなれば働きたい女性が働ける社会になるのかなと感じます。

(3) 30代女性

- ・保育園に預けられる条件が厳しすぎる。育休退園なんてあり得ない!!育児がどれほど大変か、理解されてない。今のままでは、どんどん子供を産む人は減ると思う。
- ・女性が定年まで正社員として働きたいと思っても、出産によって退職を余儀なくされる職場で働いているため、将来が不安です。結婚しても何も失うことのない男性と、様々な物を失う女性を平等に扱うことなど出来るのでしょうか？結婚、妊娠、出産をしても女性が正社員として働ける社会を望みます。もしくは、育児中の女性が無理をして働かなくても良い社会を望みます。

(4) 40代女性

- ・女性がもっと社会に出ても良いと思うが、急な子供の発熱などで、『急に休まれる』『子持ち様』と扱われざるを得ない。今の職場は、快く休ませてくれるが、罪悪感があります。申し訳ない気持ちでいっぱいです。
- ・企業への就職時、「私は結婚後も働きたいですが、産育休制度はありますか？」と確認して就職しました。しかし、いざ子どもができた時、産育休は取得できず、辞めざるを得ませんでした。今は、その会社は豊橋市の子育て応援企業に認定されています。そういう時代だった、と諦めるしかないのでしょうか。そういう世代への救済措置があれば…と思いますが、具体的には思いつきません。

(5) 50代女性

- ・女性が仕事を続けるには、まだまだ大変な社会である。子育てや介護など、女性に負担が多い。女性が社会進出をするためには、システムを構築することが大切だと思う。家庭と仕事の両立に、ほとんど疲れてしまった。仕事を辞めたい。しかし経済的な理由で辞められない。

(6) 60代男性

- ・若い人達に対する男女平等(雇用・子育て)制度はとても優遇されていると思います。しかし、50代~60代(子育て・介護で苦勞している世代)に対する、社会・会社の対応はひどいものです！さんざん苦勞している世代なのに…大学に子供が二人通うタイミングで若い頃、正社員で働いていた会社に入社したのですが、アルバイトでしか雇い入れてもらえなかったのです。その後、10年近く過ぎましたが、今だにアルバイトです。(妻)男性は、退職して戻って来ても中途→正社員で雇用されています。これは男女平等ではないと思います。(この世代の女性は子育ての為にほとんどの人が退職していました。)
孫の世話・親の介護で忙しいのもこの世代です。もっとそこの部分にも気付いて欲しいです。

(7) 60代女性

- ・仕事を持つ女性にとって、家事と仕事の両立はかなり大変です。「家事は女性がやる」という考えではなく、男性も役割分担などをして、積極的に家事をこなして欲しいと思います。

3 ジェンダー平等について

(1) 10代男性

- ・女性の意見が今より通りやすくなるのはいいと思うが、女性の意見が全て通るのはいけない。

(2) 10代女性

- ・私は学生なのであまり詳しい話は分からないが、ニュースやネットで今の社会で少しずつ女性に対する見方が変わってきていると思う。まだ男の方が上だとか女は楽だとか、言う意見があるが、早くこの風習(?)が無くなればいいと思う。もちろんこれは女性だけでなく男性も同じで、育休などが取りやすい環境を社会がつくっていくべき。すぐに全ての日本人に理解してもらえないとは思わないが、自分に子供が出来てその子が大人になる頃には、男女差別だけでなく、ジェンダーなどの理解も広がって、様々な人が自分らしく生きられたらいいと思います。

(3) 20代男性

- ・女性が参加しやすい環境を作るべきであるが、「女性枠」など性別だけで切り分けるのは絶対にやめるべき。「女性枠」女性優遇であり男性差別であり、また女性も「女性枠」で入ったなんて言われたくない人が一定数いると考える。当然「女性枠」無しで参加している女性にも失礼である。単純に男性が政治などに多い理由は参加しようとする分母が圧倒的に多いからだけであり、そこに差別などは存在しない。女性の分母を増やせば女性も増えていくと考える。

(4) 20代女性

- ・男女平等を掲げ様々なことに取り組むと予想されるが会社の中で既に女性の管理職を設ける等の施策を行なっている。女性が管理職にならないといけないといった偏った考えがあると思うのでその時点で女性の方が優遇されているように感じ男女平等の考え方が破綻しているように感じている。この仕事は力が必要だから男性がやればいいのかそういった内容が既に平等ではないと思う。低い立場の女性を持ち上げるあまり平等を通り越して女性優遇になるのではないかと思うのでそういった所を具体的にどのようにして平等にするのか市として教えて頂きたい。

(5) 30代男性

- ・男性も家庭進出できてこそ男女共同参画です。女性の社会進出だけではありません。また、女性の個別採用枠などで優遇することも平等ではありません。逆に男性も然りです。重要なのは、結果の平等ではなく、機会の平等です。
- ・男女平等は不可能だと思います。まず、男性と女性で体のつくりが違います。例えば、工場などで重い物は女性のほうが不利になることがあります。そうした場合、給料等を女性は配慮してもらって同じだと不平等となるのです。同じ重さの物を持ちたりしているのであれば、男性、女性で給料がかわらないのがいいけど、性別で配慮するなら給料も変わってくると思います。・しかし、平等は無理でも、互いの性を尊重し合うことはできると思います。・平等にこだわることと、かえって不平を生みかねないと思います。・区別は大切です。・人間社会、そのものがすべて平等にはならないので、男女平等も不可能です。同性内でも、顔や体格等で、1人1人違うのです。男女平等にこだわるのではなく、1人1人個人を尊重する豊橋市がいいと考えます。

(6) 30代女性

- ・教育の見直し…今は知らないが、昔はひどかった。その教育を受けた世代が親になっている。男尊女卑。蛙の子は蛙、子どもの時から大人が手本を見せるべき、でも手本になる大人が少ない。海外を手本にすべき。日本は変化を嫌うが、今後どう教育するのか知りたい。相談センター…アンケート内で相談窓口を増やす。などの文を見た。増やすと聞こえはいいが、窓口の職員のレベル、やる気、知識、よりそい、理解度など質がどうなのか聞きたい。ジェンダーやDV以外の自殺防止や育児の相談など、利用した事があるが、職員電話口の人の対応の悪さに驚かされた。酷かったです。“増やす”ではなく、相談のしやすさや、職員の人選や、教育などの方が重要だと思いますが、どうお考えですか？
- ・男女平等という考え方は世の中に浸透している。子どもの学校でも、ランドセルの色や習いごと(野球、サッカーに女の子も)、学級委員や児童会の役職で男女分けられることなくすごせている。また、子どもの通院や習い事の送迎などをお父さんがしている姿もめずらしくない。我が家は共働きなので、家事や送迎など、「できる方ができる時に」を意識してなんとかやりくりしている。職場では、急に子どもが熱を出した、仕事を切りあげてむかえに行く、などは、どちらかという母親の役目だ。周囲も「お母さんは大変だ」という目でみて、送り出してくれる。最近では、お父さんもその役目をはたしていたり、おむかえ当番だから、と言って定時に退社する姿もみられるようになった。家庭ごとにそのウェイトや、祖父母のサポート状況はちがう。なので、職場で「お母さんだから～」とかで仕事内容をセーブしたり、「男性だからできるでしょ」というのはバイアスで、一人一人と話をしてどんなバランスで仕事ができるのか、それが実現できる会社のあり方、家事・育児をサポートする(社会の)システム、そしてそれを利用して、働いてもいい、という世間の目を気にしすぎないですむすごし方ができたらいいなと思います。女性管理職になりたいくても、家庭のバランスを考えると心配です。積極的な登用も大切ですが、夫や実家からのサポートだけでなく、気軽に家のことをサポートしてくれるシステムがあればいいな。これが整えば女性管理職も増えると思います。とはいえ、生物学的に、男性女性にそなわっている違いはあるので、そこは理解しあえるよう学校教育や家庭、社会での認識が必要だと思います。
- ・自分自身、女性であることで転職時にある職種につけない経験をしましたが、力仕事など身体的に不利であることを考えると企業は妥当な判断をしたと思えます。必ずしも男女平等である必要がないという見方も重要視して、その上で”機会”は平等にある必要があると思います。
- ・会社でも、男女平等と言いつつも同じ業務内容なのに男性の方が基本給や手当が高い。中途採用の基本給も男性の方が高く優遇されており、経験や経歴など関係なく男性というだけで高い給料が発生していてとても悲しい。女性だって同じくらい給料が欲しいし、女性の方が家事の負担だって大きいのに家でも仕事でも見合っただけなく感じる。子供を産んで育てるのは女性。という考えも根強く、男性が少し育児をただけでイクメンと褒められて、女性は母親だから当たり前。と誰も褒めてもくれない。仮に男性が妊娠出来たら私だったら育児よりも仕事をして稼いできたい。なのに、男性の多くは育児を楽だと客観視し、家で子供みてるだけでいいよな。のような発言をする人も周りにいる。特に給料に関しては賃上げ、よりもまず男女の差をなくし平等な固定給を望みます。それだけで賃上げにこだわらなくても生活水準が上がる家庭は多くなると思うのです。

(7) 40代男性

- ・性的立場の弱い方々への配慮は必要ではありますが、過度に配慮した結果、現状で困っていない方々が不利益を被らない用、バランスの取れた意見や制度を取り入れてほしい。
- ・男女平等と言えば、会社の女性管理職はまだ少ないが、それ以外であれば徐々にではあるが理解平等化が進んでいると感じる。一方、逆に女性優遇・不平等を感じる部分もある。
- ・学校教育や職場における、それぞれの組織からの啓発・支援はある程度充実してきているように感じる。問題は家庭のほうで、成人、特に高齢者のマインド変化が著しく遅れている。そうした環境で育てられた子供たちは、無意識のうちに男女格差のマインドを植え付けられてしまうリスクがあり、結果的に悪習を引き継ぐことになる。今後は、成人・高齢者向けの教育を充実させる取り組みが重要ではないかと思う。

(8) 40代女性

- ・最近では福利厚生の手厚い会社も多いですが、50代手前では正社員になるのは難しいのが現実です。子育てに関しては女性の方が向いていると思いますが、男性も無関心ではなく積極的に関わらねばなりません。急な発熱・病気・怪我等男女どちらでも職場が気持ち良く受け入れてくれるようになって欲しいです。
- ・男女平等、ジェンダーレスを重視するのも大切ですが何もかも性別と切り離してすすめるのは無理があると感じています。
- ・他県から結婚を機に豊橋に越してきたが、女性の就業率の高さに驚かされたとともに（実家地方は専業主婦が多い地域だった）女性の賃金の低さに驚いた（会計事務所勤務で多くの会社の給与を見ることができたため）様々な職業の管理職等に女性を起用することで、そういった格差が次の世代に残ることがないようにしていけると良いと思う。
- ・アンコンシャスバイアスは先週、会社の教育時間に聞きました。それに関するテストみたいなものもあって、自分自身まだまだ無意識に男性だろう女性だろうと思いつける場面があるなど感じました。
- ・学校、家庭の両方で男女平等についての教育が必要。年齢が若いほど柔軟に考えられるようになるから。中高年の男性ほど、男尊女卑や家庭での役割を女性に押し付けることが多い。それに対しての問題意識もない。女性の社会進出の講座はあるが、男性の家事育児のスキルアップ講座はない。男性が家庭内で役立つことができ、はじめて女性が社会に出ているのに、順番が逆になっている。男女平等は正しいことだと思うが、正しいことが正解ではない。特に子育てについては、子供の年齢や状態（病気や不登校など）によってはどちらかの親が専念する必要もある。1馬力の収入でも安心して生活していけるようにサポートする、子育てが落ち着いて仕事復帰を望む時にサポートするのが行政の役割だと思う。
- ・男女平等と言っても、出産できるかできないかで全然違う生き物なので、『同じように』は所詮無理な話。子どもを産める女性の負担を軽減する支援を手厚くしなければどんな自治体でも衰退していくと思います。

(9) 50代女性

- ・昔からの古い考えや習慣など、男性が優位なのが日本であると思います。すぐには、こうした考えは変えられないのですが少しずつさまざまな生き方があることや、性別もそうですが全般的に寛容な社会になることを願います。いつまでも古い概念を押しつけるのはよくないです。早く保守的から、もっともっと誰もが自由にのびのび生きられる寛容な社会になりますように！
- ・言葉や意識、頭では分かっている、力の差筋力量の差、骨格・ホルモン等々、男女の差が見えてくると、なかなか同等と見られない、思われない時の方が多いと思います。男女の優れているところ、良いところを活かし、話し、小さい頃から偏見を持たない教えが必要だと思いますが、今だに偏見を持つ人が無神経に悪口を言ったり、意識を変えない限りまだまだ難しい問題だと思います。
- ・男女平等とはいったが、男性と女性で役割は違うこともある。(力の差や母性など) 役割分担しつつも、男だからやらなくていいとか若い女性を雇うと妊娠されるから困るとか、そういう考えが減ってほしいです。

(10) 60代男性

- ・男女平等でも女性の方が働きやすい環境を作っていく事が大事だと思います。
- ・法律→政治にはクォーター制を導入→DVには警察がすぐに介入できるように法律をかえる。交通違反などやってる場合ではない。DVされてる被害者まったなし。人それぞれいろいろな考えや人生があるのだから女性が仕事をして男性が家事でも良いし、周りの人もそれを認める。日本人は考え方のモノサシが短かすぎる人が多いと思う。このままでは日本は本当の意味の男女共同参画は100年かかりますよ。
- ・日本社会には、まだまだ男女差別が残っていると思う。最近では女性の社会進出が進んでいる中で、子供がいると働きにくいなど女性にとって不利な仕事環境がある。また、男女の給与格差があり、特に高齢化社会を迎えて介護業界などでは女性の人が多く働いており、低賃金できつい仕事をしなければならない環境にあるため、女性の給料をもっと引き上げる必要がある。まずは、男女の給与格差をなくしていくことを政治家自身ももっと汗をかくべきである。

(11) 60代女性

- ・今年3月末に早期退職した。退職理由として、私の職級と異動先で求められるものとの差が激しすぎ、やりがいも完全になくして退職した。「我が社は女性が活躍しています」と対外的に言っただけでも現実はこんなものなんだと痛感した。社長に直訴したこともあったが「〇〇(部署名)だからしょうがないよ」と聞く耳すらもってもらえなかった。この部署は元々、とある会社をM&Aで吸収合併したため事業所文化が古く、未だに女性社員のことを総称して「女の子」と呼んでいる。女性社員もそれをおかしいとも思っていない。40年間働いてきて、名刺もなく、月次会議に招集もかからないことは初めてで、これには抗議したが、なぜ抗議するのか不思議に感じていたようだった。男女共同参画は、まず現場の文化を根本的に変えなければ、先には進まないと思う。この上で、男女共個々の変革意識が必要であると考えている。

(12) 70代男性

- ・「男だから」とか「女だから」という「日本人特有の文化？」の変革をする、長い取組と文化の発展が必要と思います。まずは、女性の社会進出を助ける努力と機会が必要と思います。
- ・改善の出来そうな事項は、積極的に改善に取り組んでほしい。女性職員の登用について、役職者の少ない事項も管理責任者の責任だ。直ちに女性の為の研習会を開いて教育すべきだ。市の施設の設備で有るが、地区体育館、市民館の便所の便器数が利用者の頭数に適した数になっておらず、行事の有る休憩時間になると女性便所の前には長い列で空くのを待っている。女性便所の便器数を増やす事が急務である。女性の人権に係る。

(13) 70代女性

- ・政治の世界に女性目線の意見がとどくように議員を半々にする。日本の男性の意識をかえることから。(教育・学校・家庭)
- ・賃金の格差、同一賃金になるように。(男女、正規社員と非正規社員)

4 LGBT等性的少数者への認識について

(1) 20代女性

・男女平等とLGBTQへの平等を、などと謳っている割には現状上の者にこれらが何故問題視されているのかという理由を理解している者が少ないという印象を受ける。有り体に言うと打ち出された対策や対応が粗末であり、かえって世間での男と女とLGBTQの差別意識が深まっている。SDGsの時と同じように、男女平等やLGBTQという流行に上辺だけ真似て乗っかっているようにしか見えない。原因を把握してないにも関わらず無理やり女性用の場所を確保するというのかえって女性が男性の反感を買いやすく、またそれにより選ばれた女性の意見も通り辛いと思う。よって意味がそこまでないと考える。真に男女平等やLGBTQへの理解や女性の参画率を上げたいのなら、まずは今までやっていた女性やその他の者への業務以外の面で評価を下げて昇進させない・業務外の接待を女性にさせないなどといった初歩的なところから始めるべきだと思う。

(2) 30代女性

- ・性の多様性について：トイレや風呂、更衣室など体をさらす場面においては、身体の性で分ける、第三の性のエリアを新設する等の配慮が必要だと思う。
- ・政令指定都市で、LGBTQ関連の条例があるが、論外。LGBTQの意見を盾に女性と子供の安全を脅かしている。平等と対等は違う。誰に対しても尊厳を守るべきであり、それは、LGBTQの方も男性も女性も守られるべきである。世の中は多様性を履き違えている、共生を理解していない。多様性も共生も尊厳をもってこそ、自立、自律してこそ受け入れられるもので一方的に依存し、寄生されることではない。
- ・LGBTをもっと知ってほしい。その差別を極力少なくしてほしい。LGBTの人達がもっと生きやすいように。

(3) 60代男性

- ・男女差別、LGBTの教育は若い方には浸透していると思います。
男女共同というよりも、各人の能力にあった社会的役割につけるような社会にしてほしい。
勉強できなくても、道理のわかっている人はたくさんいます。

(4) 60代女性

- ・パートナーシップ・ファミリーシップ制度がもっと浸透してほしい。
- ・性の多様性も叫ばれる時代 男だから女だからではなく 他人との違いを「個性」として捉え、認め合える社会になり、自由で住みやすい家庭や地域づくりがなされていくことを期待します。

(5) 70代以上男性

- ・後世のため男女の恋愛や性愛が望ましいと思います、LGBT他等の方少数だと思いますが出来れば本来の男女恋愛・性愛向き合える機会を作ってあげられる環境があれば良いなと思います。

5 その他男女共同参画に関して

(1) 10代男性

- ・女性全体がより積極的に社会に参画できる制度をもっと周知させるのが良いと思う。
- ・男女共同参画に関しては現代社会においては一定の重要性を持つものではあるが行き過ぎた平等などはやめるべきだと考える。むりに完全な平等や性別の区別をなくすというよりはそれぞれ性別の特性などを尊重した社会的役割を与えるほうが社会全体に良い影響を与えている。
- ・男女共同参画の為地域などで力を入れるのは勿論の事会社や学校と言った所でも力を入れていき男女平等にするべきだと思います。

(2) 30代男性

- ・選択的夫婦別姓については反対。自分の姓に愛着があるのは分かるが、その愛着は家族全員が同じ姓の元で育まれたものではないのか（別に夫が姓をかえていい）子には姓に愛着の湧く環境を与えてやらないのか、生まれた子の姓をどうするのか、あらかじめ決めておく、裁判で決めるなど聞かすが、どんな方法・法律にのっとって決めるつもりなのか。性の多様性に関しては認めるべきと思うが、スポーツにトランスジェンダーが参加（女子競技に肉体男性）はまずいと思う。女性が輝ける社会、平等をうたいながら、女性の活躍の場を奪っている。パリ五輪のボクシングを見て何も感じないのか不思議でならない。（厳密にはトランスジェンダーではないが）男女共同参画は政治家になりたい女性が男女同数いるという前提に首をかしげる（様々な世論調査より）目指したいという女性はしっかりサポートしてあげればよい。右に寄った意見で申し訳ありません。
- ・女性の管理者の割合を増やすとあるが、意味があまり分かっていない。優秀な方は男女問わず、管理者になるだろし、無理して？増やすようなことはどうなのだろうか。
- ・無理に平等だ共同参画だのする必要はない性差の特徴に合っていない仕事に就きたい者はそのような事は関係なく仕事にするものだと思う男性の保育士然り女性の土業然り逆に女性の中には保育士になりたくない者、男性の中にも土業をしたくない者もいると思うが、その方たちの意見はどのように思うのか共同参画は声の大きいマイノリティが意見を出しているだけだと考えるためマイノリティがマジョリティにならない限りは無理に行う必要はないと個人的に思う。個人的には少子化対策をしていただいた先に男女の共同参画があるものだと考える。私も子持ち家庭だが、子育てしやすい環境が整えば自然と仕事も生まれ仕事の選択肢も増えると思う子育て環境も、0から1の案を生み出す必要はなく、他の自治体の良いところを取り入れ1を2や3に増やすといった事を、長坂市長や豊橋市に期待したい。

(3) 30代女性

- ・多様性という言葉があまり好きではなくて、おたがいが思いやりとか、相手がこうかな？と思って声をかけたり、行動すれば良く、自分がこうだから!!って求めてくるのも違うんじゃないのかな？と思います。元々、この人は、こう。とか、人それぞれ違うのが当たり前。と思っている人には、受け入れるにはムズかしいかもしれないですね。多様性を当たり前にする、自分が一。という人が増えていって、違うんじゃない？という事も、多様性にされていくのではないのかな、と思ってしまいます。日本人は元々、思いやりとか、人の顔を見て行動できる人が多いと思うのに、自分勝手な人が増えてしまうのではないかと、思います。こういうアンケートもあったり、大変ですが、がんばって下さい。未来が明るい世の中がいいですね!!
- ・男女共同参画とは性差による肉体的、精神的な理解を元にそれぞれの特性を活かして活躍できる場を設けることを目的としているというのが私の認識である。体の構造に違いがある以上、女性に男性と同じ力仕事や、男性に女性的目線が必要となる仕事をさせて男女の比率を揃えるというのは数を揃えただけであり、揃えられた側の性に余計な負担が掛かることがあるため非合理的だと思う。どうするか、どうありたいかを決めるのは個人や各家庭であり、個々人が性別に囚われず、それぞれの希望に合わせて人生を歩めるようにする制度作りとその制度の周知、問題がある個人や家庭への補助が必要であると思う。とは言え、自分の体感や若い世代では割とうまいこと男女平等は出来ていると実感することも多いので、さらに良くするための枠組み、仕組み作りを行政には頑張っていただきたいです。
- ・パートナーシップ宣誓で、公務員の福利厚生面においても婚姻と類似の効力をもつようになるとありがたいです。選択的夫婦別姓が進むとありがたいです。姓が変わることに伴う手続きなど職場でも仕事が増えるので、それを減らせれば効率が良くなると思います。公務員でも、ライフステージによって(出産や病気ほど重大な事情でなくても)、時短など柔軟な働き方を選べると、より豊富な人材が集まると思います。教育現場は人が足りないの。・男性が育休を取ることに大賛成なのですが、代わりの人材が来ないことがありました。女性の産休・育休ですら、代わりの人材が来ないことがあると聞きます。(この例は教員ですが)どの業界も人手不足なので、そこを解消するのも男女共同参画のひとつだと思います。

(4) 40代男性

- ・互いに尊重し合い、個人の個性と能力を十分に発揮出来るようにするためには、古い価値感を持った老人(50代以上)ではなく、広く若い世代(10~20代)の意見を市政に反映させるべきである。また、人の意見を聞かない者、周りの迷惑を考えない者、業務(学業)に支障をきたす者、上記の者以外の支援を拡充することが重要であると思います。性の多様性について、特別の不利益、特別の利益のない事を望みます。
- ・まずは人手不足の解消。男女共同参画の推進は中小企業には業績が落ち込みが懸念される。行政がしっかり支援しなければいけない。
- ・起業の仕方をもっと周知されるべき。難しい手続き不要で税務署へ開業届出を出すだけでできるのだと。女性らしいミシンしかできないひとだって今ではミシンを扱える人も少ないし、起業のチャンスでもある。女性でも男性でもアイデアがあれば起業できるんだということを周知させるべき。男女関係なく能力や野心がある人は起業できる。ない人も専門性を身につければできる。

(5) 40代男性

- ・何故、生まれたときから男女の違いがあるのですか？
- ・全ては出生率のアップがなければ何にもつながらない
- ・男一人では、配偶者や子どもを養っていきません。個人が望む場合、それが実現できるような社会であってほしいです。現代はそれができないのが残念です。

(6) 40代女性

- ・中学・高校の家庭の授業で男女共同参画について学習します。今の学生は一昔前よりもこのことについて知っていると思うので、成長したとき、社会へ出るときに良い影響を与えられる環境作りが大切だと思います。性の多様性は学んだり関わる機会が少ないと思います。
- ・カスハラ、セクハラは相手をみくびる人がやる。自分が優遇されて当たり前という意識を持つ人がいる。手が出る、暴言は言語化能力が低いからなので、各人の国語力をあげる。カスハラへの断固とした対処及びカウンセリング（相手も1人の人間と気づくように）。高齢は優遇されて当たり前という意識の排除（性別年齢関わらず、一人一人を個人として対等に接する文化を）
これらが実現した上で、全員が対等に意見交換できて、異性も同性と同じように気さくに話せる環境が整い、男女共同参画が初めて実現すると思います。

(7) 50代男性

- ・そもそも異なる生物のため平等とする事が難しいと思う。特別な訓練を受けている者を除いて、体格、得意不得意、元々の考えなどから全てを平等とする事はどうかと思う。会社のクレーム処理でも男性は1人で行うが女性は現場には行かない（危険なため）。男性も同じく危険なのだが？なぜ、都合のよい時だけ男女平等と言うのか？男女共に全て同じ事をするのであれば平等でも納得できるが、出産、体のつくり、特性（母性）も違うので平等はやはり難しいのでは？全てを型にはめようとする歪みが生まれると思う。
- ・男性優位の風潮がまだまだ根強い理由の一つとして感じているのは、高齢者（特に男性）の理解・認識が非常に乏しいこと。後進に道を譲る、後進の育成について高齢男女は、もっと考えてもらいたい。例えば、市議会・県議会議員の定年制を導入することで、古い価値観を捨てて、若者の新しい価値感から次世代の男女共同参画をつくっていくべきだと思う。

(8) 50代女性

- ・世の中が10年くらい前よりも男女平等という流れになってきていると思う。豊橋はまだ固定観念がある人が多い街だと思うので市や学校でも勉強する講座などあればよいと思う。※特に50才以上の人は男女差別している人が多く田舎はすごくあります。
- ・私達の事実婚の理由は、お互いバツイチで子供もいます。子供達が結婚とかしないかぎり籍を入れられません。子供が社会人で苗字を変えたくないと言うからです。早く夫婦別姓をとりいれてほしいです。
- ・確かに歴史的に男性は諸々優遇されてきた。同時に、女性には与えられないものを背負わされてきたのも事実。女性とは違う負荷がかかっている。それごと否定してはいけないと考える。・女性は長い歴史の中でその立場を、ある意味限定されてきた。男性とは違う角度で「命」を背負ってきた。時代と共に女性の背負うものの角度が増え、可能性が広がると共に負荷も増えた。・お互いがお互いの可能性や負荷を協力・共有していく時代が来たと思う。何が平等で、何が不平等かは、個々の関係性によって本来個々が判断することと考える。・男性は女性に頼ってきた生活に甘んじてはならない。女性は男性の傘の中にだけ生きてはならない。又、女性（全時代を生きた）が、今を拓いてゆこうとしている女性の可能性をふさいではならない。・男女共に世代間での意識の乖離が大きく、それが同性の意識の成長をはばむ一因と考える。・各世代ごと、性別ごとの教育も大事なのでは？
- ・性の違いによる、差別、ハラスメントなどのトラブルは、男女が別々の性である以上、なくなることはないと思います。これからも顕著に現れるであろう少子高齢化現象に対抗するためにも、男女が互いに必要な存在であるという意識を持たせることが必要です。社会や職場でも、男女どちらかを優位にするのではなく、個々の特性を重要視して性別は2の次に出来るといいですね。私は、家庭、子育てを第一にしてきましたが、次の世代には、家庭における地位(?)を家族とも相談の上、悔いのないように、確立して暮らしてほしいと願っています。人生一度しかありませんから。
- ・程度が難しいとは思いますが、過度に支援すると逆差別になるのではないかとと思う。無理に女性リーダーを増やそうとして、能力の無い不適格な人をその地位に就けるべきではないし、望んでいないのに職場で強要されるのも困る。LGBTQについては同じ職場で働いている人がそうであっても私は全く気にしないが、オープンにする必要が無ければしなくていいと思う。趣味と同じで同じ嗜好の人が集まってすればいいだけだと思う。学校については今後、男女ともトイレや更衣室は個室にできるように改善し、制服はスカートを廃止し、中性的なデザインに統一すれば性同一性障害等の人も困らないと思う。男女に関係なく他人と同じ空間で着替えたり、入浴したりするのは私は子供の頃から嫌だったと記憶している。DVは大人になって手を出す人間は理性より感情が上回っていると思うので高い確率で一度では終わらない。基本被害者は女性だと思うが、離婚できない理由は昔なら世間体、今なら経済的理由だろうから、他県等と協力して公営住宅への入居、元夫の給与の養育費を法的に差し押さえて直で妻子の口座に振り込まれるよう手続きをスピーディーに行えるよう法改制するしかないでしょう。以上はこれまで友人、知人、会社の人等から聞いた話から思った事です。
- ・今の若い人たちは夫も家事育児を楽しむ様子があり、羨ましく思う。自分の親世代70から80代の妻は奴隷のような扱いを受けていたので徐々に良くなっているとは思う。女性に対する意識が変わらない地域には、若い女性は残らないと思うので、意識改革して欲しい。

- ・性差は優位差でなく、個性の一部であるという視点で各個人の存在そのものが尊重される社会。相手を思いやり助け合える関係性がまずは家庭や家族で生まれ、やがては地域、社会へと波紋のように広がりを見せる社会。そんな理想の社会の実現を豊橋から発信！ 自分の個性が一番輝ける分野は何か？を高校生くらいから体験学習や自主的活動で模索し、発表できる教育システムがあれば豊かな人材が育ち独創的な社会が構築されるかもしれません。”
- ・女性でも男性でも人生の選択権があることが、自由に自分らしく生きられる社会であると思う。

(10) 60代男性

- ・現代日本人における男女共同参画は、本来であれば性別を問わず全ての人々が活躍できる社会を目指す制度として歓迎されるべきものである。しかし、現実にはその制度が少子化問題の一因となっているという指摘も根強く存在する。働き方が均質化されることで家庭を築く余裕を持たず、育児と労働の両立を困難にする現状が結果として出生率の低下に繋がっているのではないかと。また雇用側にとっては人件費の抑制につながり、非正規雇用や時給の低下といった側面も見逃せない。一方で、性の多様性は論理的に社会に受け入れられるべき当然の前提となった。しかし、制度の整備が進む一方で、感情的な受容が追いついていないという現実もある。戸惑いや違和感、無言の偏見が社会の奥底に横たわっており、その隔たりは制度以上に深い亀裂を生む。人は論理だけでは動かない。共感や違和感を受け止める力がなければ、制度は空回りし、分断が広がるだけだ。このような現状に向き合うには、幼少期からの教育が鍵になる。ただ知識を詰め込むのではなく、「議論する」「対話する」授業を通じて、自分と異なる意見や価値観を理解し、受け入れる経験を積むこと。そのような場を義務教育の中に確保することが、将来的に制度の本質を問い直し、自律的かつ感情的に成熟した市民を育てる礎となるだろう。制度は始まりに過ぎない。それを支える感情、想像力、そして対話の力こそが、社会の変化を本物にするのだ。

(11) 60代女性

- ・男性の女性に対する意識や考え方を変えない限りこの先も男女平等はないと思います。
- ・男だから女だから固定した考えではなくその場所に必要とされている人得意としてる向いているなどで採用してほしい。力仕事や育児などどうしてもということもあります。なるべくその差が小さければよいのではと思います。個人の考えはそれぞれなので、社会として受け入れる安心な場所を作ってほしいです。自由ってとてもわがままに聞こえてた私たちの年代、自分らしさは、わがままになってはいけないけど、生きづらい人もいることも知らないといけないなど近年思います。(言葉の)DVなどをする人は自分は常に正しいと思いこみ、自分の意見に従わせる。人に何の指導をしても、何も響かず、指導者の言葉を自分本意な解釈をしてしまおうし、自分は間違っていない、正してやっていると言う考えが強いためDVの人を指導するのは容易ではない。イジメも同じ、この問題を無くすのは難しいので重い罰則などの法律を作らない限り無くなることはない。罰則を与えてもすぐ出て来てしまうので、被害者が逃げるか殺されるしかない。もしくはDVの人の名前を公表するなど、DV者への報いは必要。そしたら被害者は減る。

(12) 70 代以上男性

- ・男女共同…について一部声の大きな女性に達引張られているように思います。特にこれが進まないのは男が悪いという傾向が見られるような気がします。OL、女性の側の意識を変える必要があります。少し前になりますが、新聞に女性の方の次のような意見が載ってありました。「婦人科の診療を受けた時、看護師が男性で嫌な思いをした。」男女共意識を変える必要があると思いますが、生物学上の相異を無視した乱暴な考え方をしないようにと思います。
- ・少子高齢化が益々進展する中であって、社会・経済活動を維持するためには、女性の活躍が重要となる。家庭にとらわれることなく、個人の能力を発揮させる取り組みや仕組み作りをさらに進める施策が必要である。

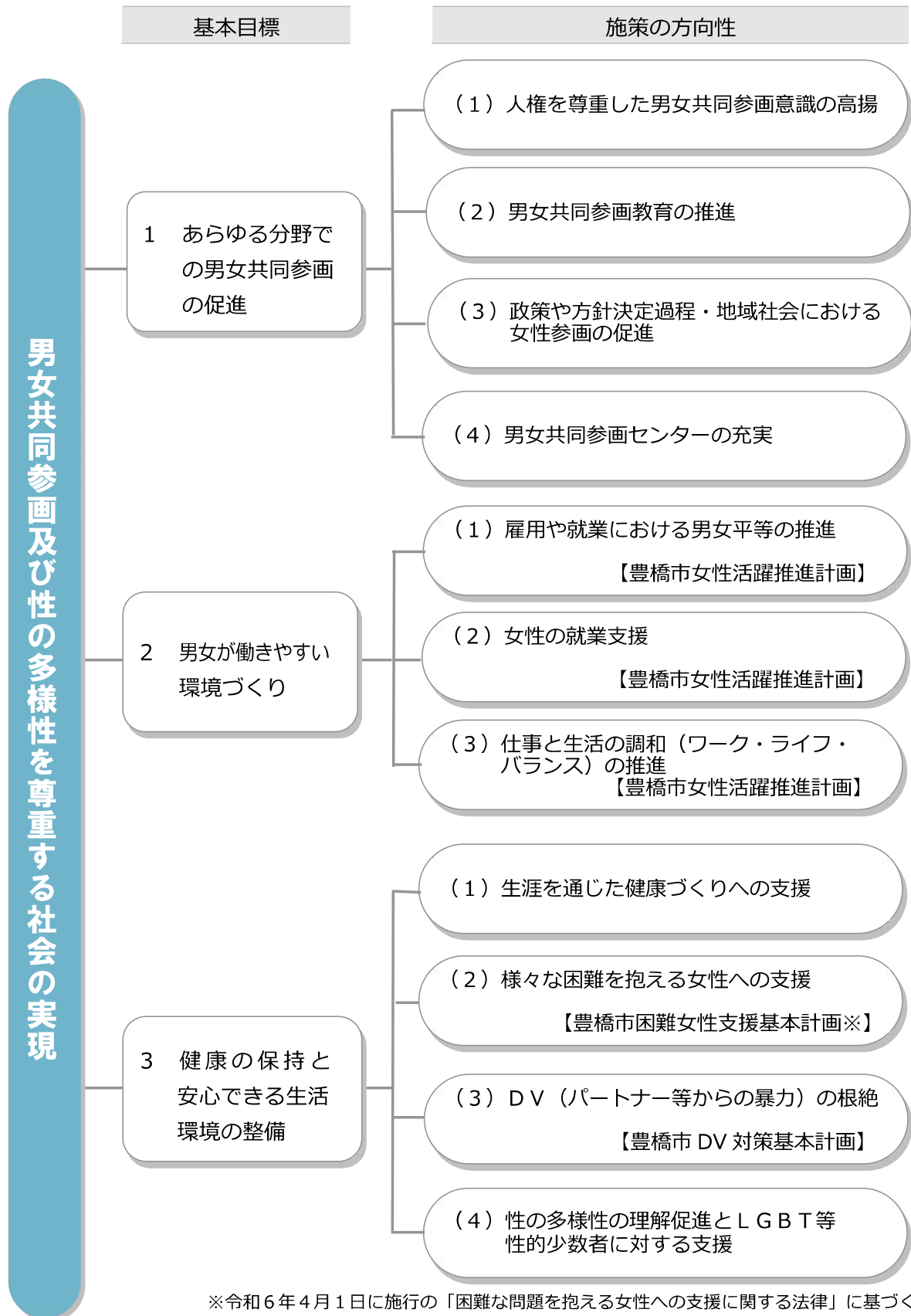
豊橋市男女共同参画及び性の多様性の尊重に関する
市民意識調査（令和7年度）

令和8年3月

発行 豊橋市役所市民協創部市民協働推進課

〒440-8501 豊橋市今橋町1番地
Tel (0532)51-2188 Fax (0532)56-5128

豊橋市男女共同参画基本計画（とよはしハーモニープラン2023－2026）の総括 プランの体系



※令和6年4月1日に施行の「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づく「困難女性支援基本計画」として位置づけ。

基本目標 1

あらゆる分野での男女共同参画の促進

施策の方向性(1)

人権を尊重した男女共同参画意識の高揚

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果																												
1 あらゆる分野での男女共同参画の促進	(1) 人権を尊重した男女共同参画意識の高揚	<p>1. 固定的性別役割分担意識に反対する （「どちらかといえば反対」を含む）人の割合</p> <p><市民意識調査></p> <table border="1" data-bbox="350 394 1092 489"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57.6%</td> <td>-</td> <td>60.7%</td> <td>-</td> <td>63.5%</td> <td>70.0%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 社会全体で見た男女の地位において、 男女平等であると感じる人の割合</p> <p><市民意識調査></p> <table border="1" data-bbox="350 646 1092 741"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9.9%</td> <td>-</td> <td>9.7%</td> <td>-</td> <td>12.0%</td> <td>18.0%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p><評価基準></p> <p>◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		57.6%	-	60.7%	-	63.5%	70.0%	○	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		9.9%	-	9.7%	-	12.0%	18.0%	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市政情報番組「広報『エフエム』とよはし」や市の公式X（旧ツイッター）による男女共同参画週間イベントや各種セミナー、女性キャリアアップ応援補助金の告知により参加者や申請者の増加につながりました。[市民協働推進課] ・男女共同参画週間にあわせた豊橋駅前での街頭啓発により、男女共同参画に関心をもっていない市民に考える機会を提供できました。[市民協働推進課] ・男女共同参画月間イベントとして実施した、「男女共同参画・性の多様性標語・川柳」募集により、市民に男女共同参画や性の多様性尊重についてじっくりと考える機会を提供するとともに、優秀作品の展示を行うことで広く市民への啓発を図りました。[市民協働推進課] ・ライフアップセミナーについて、市民のニーズを踏まえてテーマを検討するとともに、名称を魅力が伝わる講座名称とすることで、令和7年度の参加者は令和4年度比1.4倍に増加し、市民への啓発の効果を高めました。[市民協働推進課] ・市職員の新規採用職員研修で男女共同参画や性の多様性の尊重に関する研修を実施することで、市職員が業務において男女共同参画や性の多様性の尊重を意識していく体制を構築できました。[市民協働推進課] ・男女共同参画意識の高揚を目的とした様々な取り組みの結果、固定的性別役割分担意識に反対する市民の割合は、60.7%（R5）から63.5%（R7）へ2.8ポイント上昇するとともに、社会全体で見た男女の地位において男女平等と感じる市民の割合は、9.7%（R5）から12.0%（R7）へ2.3ポイント上昇しました。[市民協働推進課]
	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)																									
	57.6%	-	60.7%	-	63.5%	70.0%	○																								
基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)																										
9.9%	-	9.7%	-	12.0%	18.0%	○																									
取組実施状況	課題																														
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSや広報紙、地元放送局と連携した広報活動の推進による啓発 ・男女共同参画意識の向上を図るイベントの開催 ・男女共同参画意識の向上を図る講座の開催 ・市職員向けの研修会の開催 ・生涯学習講座の実施 ・生涯学習情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用等により、男女共同参画や性の多様性尊重に関する情報発信を効果的に行う必要があります。[市民協働推進課] ・性別では男性が、年齢層では高齢層が男女共同参画意識や関心が低い傾向にあるため、そういった層に直接届く手法による啓発に取り組む必要があります。[市民協働推進課] ・固定的性別役割分担意識に反対する市民の割合は63.7%で令和8年度目標値の70%に届いていません。とりわけ、30代～50代男性において、固定的性別役割分担意識に反対する市民の割合は6割未満の低い状況です。[市民協働推進課] ・社会全体で見た男女の地位において、男女平等であると感じる市民の割合は、12.0%（R7）にとどまり、依然として市民の男女の平等感は広がっていません。とりわけ女性において、「平等である」と感じる割合が低く、「男性の方が優遇されている」と感じる割合が高い状況にあります。[市民協働推進課] ・学校においては、男女平等と感じている人は5割を超えている一方、政治分野・しきたりや風習、職場における男女平等が進んでいないと感じている人の割合が高く、分野・場面による差が大きくなっています。[市民協働推進課] ・政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由として、「男性中心の組織運営」や「固定的な性別役割分担、性差別意識」「女性の活動を支援する体制の不足」と答えた人の割合が多く、男性を中心とした組織運営をするという風土の解消が必要です。[市民協働推進課] 																														
総括																															
	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用等による、効果的な情報発信に取り組む必要があります。[市民協働推進課] ・男女共同参画意識や関心が低い層へのプッシュ型の手法による啓発活動が必要です。[市民協働推進課] ・市民の固定的性別役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消、男女共同参画意識の向上を目的とした取り組みが必要です。[市民協働推進課] ・職場等、市民の男女の平等感の低い分野における男女共同参画を推進するためのさらなる取り組みが必要です。[市民協働推進課] 																														

基本目標 1 あらゆる分野での男女共同参画の促進

施策の方向性(2) 男女共同参画教育の推進

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果														
1 あらゆる分野での男女共同参画の促進	(2) 男女共同参画教育の推進	<p>1. 学校における男女の地位において、男女平等であると感じる人の割合</p> <p><市民意識調査></p> <table border="1" data-bbox="350 352 1089 453"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>54.4%</td> <td>—</td> <td>52.3%</td> <td>—</td> <td>53.9%</td> <td>70.0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><評価基準></p> <p>◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△	54.4%	—	52.3%	—	53.9%	70.0%		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での出前講座の実施や小・中学生への啓発パンフレットの配布により、児童・生徒やその保護者の男女共同参画意識の啓発や性の多様性に関する理解を促進しました。[市民協働推進課] ・進路選択前の中学生・高校生の女子生徒やその保護者を対象とした理工系分野の職業の魅力を発信するセミナーを開催することで、理工系分野に関心がある女子生徒の希望通りの進路選択を促進しました。[市民協働推進課] ・市民の各場面・分野における男女の地位の平等感について、「学校」が平等と回答した市民の割合は53.9% (R7) で、調査した6分野の中で最も高く「学校」の分野の平等感が高いことがうかがえます。[市民協働推進課] ・小中学校の道徳科において人権を題材にした授業を実施したほか、教職員向け研修において人権教育に関する外部講師を招き講義を行うことで、人権の観点から男女共同参画についての理解を深めました。[学校教育課] ・小学校6年生を対象にした出前講座の実施により、赤ちゃんや子育て中の保護者とふれあう経験の機会を提供し、児童の父母性の育ちや自分自身や周りの人を大切にすることを意識の向上を図りました。また、講話では妊娠・出産、性の多様性や親になる責任等の理解促進を図りました。[こども保健課] ・中学校、高校で産婦人科医等による講話を実施し、第二性徴を迎える時期に、男女の身体の違いや妊娠、出産、ライフスキルを学ぶ機会を提供し、正しい知識の普及と自分を大切にすることを意識の向上を図りました。また、一般向けには、オンラインセミナーを開催しプレコンセプションケアの普及に取り組みました。[こども保健課]
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△									
		54.4%	—	52.3%	—	53.9%	70.0%										
取組実施状況	課題																
<ul style="list-style-type: none"> ・学校への男女共同参画の出前講座の実施 ・児童・生徒へ男女共同参画に関する啓発パンフレットを配布 ・小・中学校での男女混合名簿の実施 ・人権に関する学習機会の提供 ・教員向け人権教育講座の開催 ・人権教育指導者研修会への教員等の派遣 ・小・中学生への性教育の実施 ・小・中学生への性の多様性啓発パンフレットの配布 ・小学校での赤ちゃんふれあい体験の実施 ・プレコンセプションケアの視点による健康教育の実施 ・女子生徒のための理系魅力発見セミナーの実施 	<p style="text-align: center;">総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画教育や性の多様性の理解促進に関して、学校での教育の充実や家庭で考える機会の提供が必要です。[市民協働推進課・学校教育課] ・性別にとらわれない子育てや教育の重要性について、保護者をはじめとした市民への啓発を行う必要があります。[市民協働推進課] ・女子生徒の理工系分野の進路選択の無意識の思い込みの排除が必要です。[市民協働推進課] ・小中学校において、人権の観点からの男女共同参画の授業実施にあたり、最新の情報収集に努めるとともに、適切な課題設定が必要です。[学校教育課] ・小学6年生対象の赤ちゃんふれあい体験について、児童の父母性が育つことや、自分自身や周りの人を大切にすることを意識を高めることを目指し、赤ちゃんの母親のみならず、父親の参加を促す必要があります。[こども保健課] ・中学校、高校での産婦人科医等による講話について、ライブ配信を取り入れた効率的な講座開催などにより、実施校の拡大を図る必要があります。[こども保健課] 																

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果																												
1 あらゆる分野での男女共同参画の促進	(3) 政策や方針決定過程・地域社会における女性参画の促進	<p>1. 市の審議会等（法律・条例に基づくもの）に占める女性委員の割合（R6以降「豊橋付属機関条例」定められたものも対象とする）</p> <table border="1" data-bbox="350 352 1092 451"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27.2%</td> <td>27.2%</td> <td>25.7%</td> <td>24.0%</td> <td>24.4%</td> <td>35.0%</td> <td>△</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 校区・町自治会の役員（会長・副会長・会計等）に占める女性の割合</p> <table border="1" data-bbox="350 562 1092 661"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8.8%</td> <td>8.8%</td> <td>9.0%</td> <td>12.1%</td> <td>15.2%</td> <td>20.0%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		27.2%	27.2%	25.7%	24.0%	24.4%	35.0%	△	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		8.8%	8.8%	9.0%	12.1%	15.2%	20.0%	○	<ul style="list-style-type: none"> 市の審議会等への女性の委員登用を促進したほか、特に女性委員の比率の低い審議会を所管する課等に女性委員の登用を直接働きかける等の取り組みにより、一部の審議会等の女性委員数の増加を図ることができました。[市民協働推進課] 豊橋女性団体連絡会への活動支援として、子育てや男女共同参画など市の施策を学ぶ研修会等の開催により女性のスキルアップを図ることで、審議会等の委員として活躍できる女性の育成を図りました。[市民協働推進課] 校区・自治会長向けの女性活躍推進の研修会や、自治会活動の負担軽減やデジタル化の推進等により、自治会における女性活躍の必要性の啓発や女性が活動に参加しやすい環境整備を進めました。その結果、自治会役員の女性の割合は緩やかに上昇しています。[市民協働推進課] 防災会議における女性委員数が、2名から3名へと増加し、女性の視点を取り入れる体制の強化が図られました。[防災危機管理課] 令和7年度の市内小中学校各校のPTA会長（74名）のうち、女性は5名（7%）であり、女性はまだまだ少ない状況にあるものの増えつつあります。[生涯学習課]
	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)																									
	27.2%	27.2%	25.7%	24.0%	24.4%	35.0%	△																								
基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)																										
8.8%	8.8%	9.0%	12.1%	15.2%	20.0%	○																									
取組実施状況	課題																														
<ul style="list-style-type: none"> 市の附属機関等への女性の参画促進（市民協働推進課） 豊橋女性団体連絡会への活動支援 女性と市長との懇談会 自治会活動におけるデジタル化促進 市の附属機関等への女性の参画促進（行政課） 防災会議へ女性委員の参加の推奨 自主防災会責任者への女性登用の促進 地域防災に対し女性の関心を高めるための啓発 女性リーダーの育成と自主防災会における活躍の場の醸成 女性防火クラブにおけるクラブ員の増員及び育成 自治会活動における女性の参画促進 自治会活動における女性役員の参画促進 PTA活動における男女共同参画の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 審議会等への女性の登用率は24.4%（R7）で令和8年度の目標値である35.0%に届いていません。審議会等の女性委員の登用促進にあたっては、所掌事務の審議の機能が発揮できるように留意しながら取り組みを進める必要があります。[市民協働推進課] 政策などの決定の場への女性の参画状況が低い理由として、「男性中心の組織運営」や「固定的な性別役割分担、性差別意識」「女性の活動を支援する体制の不足」と答えた人の割合が、依然として高い状況です。[市民協働推進課] 自治会役員の女性の割合は、15.2%（R7）で令和8年度の目標値である20.0%に届いていません。更なる自治会活動の負担軽減やデジタル化の推進等により、女性が自治会活動に参加しやすい環境整備を進めるとともに、校区自治会長向けの女性活躍推進の研修会等で意識啓発により、女性も自治会活動で活躍する風土の醸成を進める必要があります。[市民協働推進課] 防災においては、災害時の生活環境や支援ニーズなど、多様な視点からの検討の必要性が高く、検討過程への女性の参画促進が重要視されるなか、関係する審議会等の委員はあて職として企業や関係団体の役職者からの選任が多いこともあり、女性委員が選任されにくい状況です。[防災危機管理課] 令和7年度の市内小中学校各校のPTA会長（74名）のうち、女性は5名（7%）であり、女性の割合が低い状況です。[生涯学習課] 																														
総括	<ul style="list-style-type: none"> 審議会等の委員には、あて職として企業や関係団体の役職者を委嘱する例が一定数あり、女性委員の増加には、社会全体において管理・監督者層への女性登用が進んでいく必要があります。[市民協働推進課] 社会全体における男性を中心とした組織運営をするという風土や固定的性別役割分担意識の解消が必要です。[市民協働推進課] 引き続き、自治会役員への女性の登用や女性が自治会活動に参画しやすい環境整備を進める必要があります。[市民協働推進課] 防災分野における女性の登用に関する啓発活動など、女性登用を推進する取り組みが必要です。[防災危機管理課] 市内小中学校各校のPTAにおいて、固定的な役割分担意識を解消するとともに、男女ともに活動しやすい環境整備が必要です。[生涯学習課] 																														

基本目標 1 あらゆる分野での男女共同参画の促進

施策の方向性(4) 男女共同参画センターの充実

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果														
1 あらゆる分野での男女共同参画の促進	(4) 男女共同参画センターの充実	<p>1. 男女共同参画センターの充実 男女共同参画センターで実施するライフアップセミナーの参加者数</p> <table border="1" data-bbox="350 359 1092 464"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>見込値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>103人</td> <td>99人</td> <td>89人</td> <td>72人</td> <td>139人</td> <td>150人</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	見込値 (R7)	目標値 (R8)		103人	99人	89人	72人	139人	150人	○	<ul style="list-style-type: none"> 市と豊橋市内の団体・グループとが協働して、男女共生フェスティバルを開催することで、男女共同参画に関する啓発や意識醸成を進めるとともに、男女共同参画センターの認知度の向上を図りました。[市民協働推進課] Wi-Fi 設備の活用や市民活動団体との連携による図書室の魅力発信等により、利用促進に取り組んだことで、コロナ禍に減少した利用者数の回復を図ることができました。[市民協働推進課] ライフアップセミナーについて、市民のニーズを踏まえてテーマを検討した結果、令和7年度の参加者は令和4年度比1.4倍に増加しました。[市民協働推進課] 自主グループに対する広報誌の作成支援や男女共生フェスティバルの運営面の支援を行ったことで、各団体の活動内容や取り組みを広く発信できました。[市民協働推進課]
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	見込値 (R7)	目標値 (R8)										
		103人	99人	89人	72人	139人	150人	○									
		取組実施状況	課題														
<ul style="list-style-type: none"> 男女共生フェスティバルの開催 男女共同参画センターの利用促進 男女共同参画センターのWi-Fi環境整備 ライフアップセミナーの開催 男女共同参画に関する書籍・資料の充実 自主グループへの活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> 男女共生フェスティバルの参加者数が伸び悩んでいるほか、参加者層も女性や高齢者層などに偏っており、若者や働く世代など、幅広い層の市民の参加ができていません。[市民協働推進課] 市民意識調査では、「男女共同参画センター「パルモ」について「知らない」と回答した市民が89.8%であり、男女共同参画センターの市民の認知は進んでいない状況です。[市民協働推進課] ライフアップセミナーの参加者数は増加していますが、令和8年度の目標値である150人には到達していません。また、男性の家事育児参画を目的とした講座において、男性の参加者が少ない状況であるため、対象者に届くよう効果的な手法で開催情報の周知を行ったり、日時設定を検討したりする必要があります。[市民協働推進課] 男女共同参画センターの男女共同参画推進を目的に活動をしている市民活動団体への支援機能の活用を促進し、市民活動団体による男女共同参画推進の取り組みの活性化を図る必要があります。[市民協働推進課] 																
	総括																
	<ul style="list-style-type: none"> 男女共生フェスティバルを、市民の男女共同参画意識の向上の効果を高めるよう、市と豊橋市内の団体・グループのそれぞれの強みを生かした実施体制を構築するとともに、幅広い層の市民の参加促進に取り組む必要があります。[市民協働推進課] 男女共同参画センターのWi-Fi設備や託児室などの施設機能を市民に広く周知するとともに、機能を生かした講座を開催するなど、施設の認知度及び利用率向上に取り組む必要があります。[市民協働推進課] ライフアップセミナーについて、男女共同参画の推進に効果的で、市民に魅力がある内容のセミナーを開催し、多くの市民に参加につなげ、男女共同参画意識の高揚を図る必要があります。[市民協働推進課] 市民活動による男女共同参画推進のため、男女共同参画センターが持つ団体支援の機能の活用を市民活動団体に促す必要があります。[市民協働推進課] 																

基本目標 2

働きやすい環境づくり

施策の方向性(1)

雇用や就業における男女平等の促進

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果																																							
2 働きやすい環境づくり	(1) 雇用や就業における男女平等の促進	<p>1. 農業分野における家族ルール作成数</p> <table border="1" data-bbox="394 342 1139 464"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th rowspan="2">○</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>294 経営体</td> <td>300 経営体</td> <td>306 経営体</td> <td>326 経営体</td> <td>329 経営体</td> <td>340 経営体</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 市職員の管理職に占める女性の割合</p> <table border="1" data-bbox="394 537 1139 659"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th rowspan="2">○</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19.4%</td> <td>19.3%</td> <td>19.7%</td> <td>20.8%</td> <td>21.8%</td> <td>25.0%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 学校における女性教員の管理部門（校長・教頭）への登用</p> <table border="1" data-bbox="394 732 1139 831"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th rowspan="2">◎</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41.3%</td> <td>40.9%</td> <td>42.2%</td> <td>45.3%</td> <td>45.3%</td> <td>45.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	○	294 経営体	300 経営体	306 経営体	326 経営体	329 経営体	340 経営体	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	○	19.4%	19.3%	19.7%	20.8%	21.8%	25.0%以上	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	◎	41.3%	40.9%	42.2%	45.3%	45.3%	45.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・パパママ育児応援会を開催し、復職後の休暇制度等の周知や、仕事と育児の両立について育児経験者との座談会を行い、育児などで休業した職員のスムーズな職場復帰を支援したことで、市職員の育児休業取得率は女性で100%、男性で85.7%（R7）となりました。[人事課] ・市役所において「ダイバーシティ研修」「女性のキャリア構築支援研修」「豊橋みらいアカデミー」を実施し、女性職員の働くことへの目的意識を高めるとともに、女性職員に期待される役割を理解し、自身の能力をいかせる組織貢献スタイルや今後のステップアップを前向きにイメージする機会を設けることで、女性職員のキャリア形成を促しました。[人事課] ・消防本部において、女性が働きやすい職場環境づくりのためマニティ制服の導入を実施しました。また大清水出張所の改修にあたり女性専用仮眠室、トイレ、浴室を整備したことで、大清水出張所へ女性職員を配置することができました。[消防本部総務課] ・救急需要が集中する平日の日に稼働する「本部日勤救急隊」を創設し、育児休業から復帰した女性職員が生活と調和し活躍できる職場環境を確立しました。[消防救急課] ・女性活躍に関する多様な法令の規定があることから、労働に関する法制度や労働相談窓口の案内を広報とよはし及びホームページへ掲載し、働きやすい職場づくりの周知啓発を行いました。[商工業振興課] ・社会環境の変化に対応できる人材の確保や育成を図るためのセミナーを開催し、企業や女性を含む労働者が必要な能力を身につけることを支援しました。[商工業振興課] ・家族経営の農家等へ家族経営協定の周知・啓発を行い、当該協定を締結する経営体を増加させることにより、女性をはじめとする家族全員が主体的に農業経営に参画できる環境整備を図りました。[農業支援課] ・官民共同での「女性応援プロジェクト」セミナーの実施により、地元企業への女性活躍の必要性や手法についての理解促進を図りました。プロジェクトメンバーの企業を増やし、プロジェクトの協力体制を強化しました。[市民協働推進課] ・男性のための面接相談について、相談希望者が相談がしやすいよう、固定の相談日を設定せず、土日夜間も含めて随時対応することとして、相談希望者の利便性の向上に努めたところ、相談件数が年間5件程度から令和7年度には9件に倍増しました。[市民協働推進課] ・市職員の管理職向けの研修会を実施し、多岐にわたるハラスメントに関する正しい知識やその対応方法についての周知に努めました。また、各事業場（環境部、健康部）のからの要請に基づき、ハラスメントに関する研修会を実施し、職場でのハラスメントに該当するケースや予防策、相談体制などの周知に努めました。[人事課]
	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	○																																			
	294 経営体	300 経営体	306 経営体	326 経営体	329 経営体	340 経営体																																				
基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	○																																				
19.4%	19.3%	19.7%	20.8%	21.8%	25.0%以上																																					
基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	◎																																				
41.3%	40.9%	42.2%	45.3%	45.3%	45.0%																																					
	<p>取組実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性消防吏員の活躍推進 ・本部日勤救急隊の創設 ・各種ハラスメント根絶に向けた啓発 ・女性農業者への支援 ・女性応援プロジェクト ・男性相談 ・産業人材の育成支援 ・市役所におけるハラスメント防止対策 ・市職員の休業者へのフォローアップ体制の整備 ・市女性職員の職域の拡大と育成 ・市役所における多様な働き方、柔軟な働き方の推進 ・市役所における男性中心型労働慣行の改善 ・学校における管理職（校長・教頭）への女性登用の促進 ・家族経営協定締結推進事業の実施 ・保育所等ICT化推進事業 ・女性教員の管理・指導部門への積極登用 ・企業における誰もが働きやすい職場づくりの支援 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の市職員の育児休業取得者の休業期間は3か月以下が多く、さらなる男性の育児参画を進める必要があります。[人事課] ・市職員の管理職に占める女性の割合は微増しているものの、依然として低い推移をたどっています。[人事課] ・本部日勤救急隊も日中の時間帯は、救急出動するため、出勤が多い場合には事務業務の処理のための時間外勤務が発生しています。[消防救急課] ・労働に関する情報は多岐にわたるため、重要性を精査し、適切に周知啓発を行う必要があります。[商工業振興課] ・物価高の継続や生産・投資コストの増加など、企業活動を取り巻く環境は厳しい状況にあり、とりわけ人材確保については困難な状況が続いており、女性を含む多様な人材の活用が必要です。[商工業振興課] ・農業従事者の安定的な人材の確保を図るため、さらに農業従事の態様等の改善に取り組む必要があります。[農業支援課] ・「女性応援プロジェクト」セミナーへの参加者が少なく、社会に広く女性活躍を推進するためには、さらに多くの方に参加していただくよう取り組む必要があります。[市民協働推進課] ・男性相談の相談件数は増加傾向にありますが、十分とは言えない状況であるため、さらなる周知が必要です。[市民協働推進課] ・市役所の職場全体でハラスメント問題に関する関心と理解を深めていくため、管理職だけでなく、担当職員向けにも研修を実施していく必要があります。[人事課] 																																								
		<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の市職員の育児休業取得率は大幅に上昇してしましますが、休業期間は3か月以下の人が多く、男性の育児への参画を後押しする取り組みが必要です。[人事課] ・女性の市職員が管理職を目指せるよう、引き続きキャリア形成を促す取り組みが必要です。[人事課] ・「本部日勤救急隊」を創設し、育児休業から復帰した女性職員が活躍できる職場環境を作りましたが、出勤状況によっては時間外勤務が発生してしまうことがあるため、協力体制の強化などが必要です。[消防救急課] ・労働に関する情報について、ハローワークなど関係機関との連携を強化して周知啓発に取り組む必要があります。[商工業振興課] ・中小企業者の人材不足の課題を解消するため、女性を含む多様な人材確保に取り組む必要があり、企業の意識改革や誰もが働き続けることができる環境づくりが必要です。[商工業振興課] ・女性農業者は農業生産の重要な担い手であることから、家族経営協定の締結によるパートナーシップ経営とワーク・ライフ・バランスの確保が必要です。[農業支援課] ・「女性応援プロジェクト」セミナーへの参加者をさらに募るため、求心力のある講師の選定や実施時間、曜日等について検討する必要があります。[市民協働推進課] ・男性相談について、必要な人へ相談窓口に関する情報が届くよう、さらなる周知及び利便性の改善の取り組みが必要です。[市民協働推進課] ・育児や介護など市職員の多様な働き方への配慮をするとともに、1人あたりの時間外勤務を削減するため、仕事と生活の調和がとれる職場環境を整備する必要があります。また各種ハラスメントを撲滅し、職員一人ひとりが互いを尊重し、信頼関係のある組織を目指し、働きやすい職場環境・組織風土を育む取り組みが必要です。[人事課] 																																								

基本目標 2

働きやすい環境づくり

施策の方向性(2)

女性の就業支援

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果														
2 働きやすい環境づくり	(2) 女性の就業支援	<p>1. 女性（30～39 歳）の就業率</p> <table border="1" data-bbox="394 338 1139 436"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71.0%</td> <td>-</td> <td>76.9%</td> <td>-</td> <td>85.7%</td> <td>80.0%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		71.0%	-	76.9%	-	85.7%	80.0%	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市と支援機関の連携により、創業を後押しするための一体的な体制を構築し、融資や補助金、講座等による起業の支援を行いました。[商工業振興課] ・若者の市内企業への就業を促すため、学生を対象にした合同企業説明会や合同企業研究フェアなどを行い、若者と企業の出会いの場を創出しました。[商工業振興課] ・保育課に「保育士・保育所支援窓口」を設置し、潜在保育士の職場復帰を支援しました。また、現職保育士への相談支援や、保育所等への助言指導を行いました。[保育課] ・令和7年4月より看護師修学資金の貸与上限額を引き上げたことにより、女性の新規貸与者数が増加しました。[市民病院管理課] ・市民に広く周知することにより、女性キャリアアップ応援補助金利用者は年々増加しています。[市民協働推進課]
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)										
		71.0%	-	76.9%	-	85.7%	80.0%	◎									
		取組実施状況	課題														
<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋イノベーションガーデン運営事業補助金 ・「とよはし創業プラットフォーム」による支援 ・女性キャリアアップ応援補助金 ・豊橋市看護師等修学資金貸与制度の運用 ・女性再就職支援業務 ・若年者の就業の促進・支援 ・保育士・保育所支援窓口 ・女性キャリアアップ応援補助金（女性デジタル人材育成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格の高騰が創業の初期費用高騰につながり、今後市内における創業者数の減少が見込まれます。[商工業振興課] ・就職活動時期の早期化、情報収集手段の多様化などにより、対面式の合同企業説明会に参加する学生の数が減少しています。[商工業振興課] ・保育所等からの求人内容と求職者の就労希望内容の相違が多く円滑なマッチングが困難な状況にあります。[保育課] ・看護師修学資金の貸与上限額の引き上げについて、豊橋市内の養成機関に在学する学生からの申請が多くを占めており、社会人卒の学生や他市の養成機関に在学する学生への周知が十分とは言えない状況です。[市民病院管理課] ・働き世代における女性と男性の正規雇用割合の差は常に25ポイント以上あります。(R7市民意識調査) [市民協働推進課] 																
	総括																
	<ul style="list-style-type: none"> ・女性を含む創業を希望する市民を後押しするような補助メニューの拡充や相談機関の支援スキルの向上が求められます。[商工業振興課] ・少子化や進学率の上昇、就職活動時期の早期化、情報収集手段の多様化などにより、対面式の合同企業説明会に参加する学生の数が減少しており、女性を含む多様な人材の確保につながるよう社会情勢の変化に対応した市内企業と若者をマッチングするための支援が必要です。[商工業振興課] ・保育所等からの求人内容と女性を含む求職者をより多くマッチングできるような取組みが必要です。[保育課] ・看護師修学資金の貸与上限額の引き上げについて、従来の看護学生に加え、社会人卒の学生や他市の養成機関に在学する学生への周知が必要です。[市民病院管理課] ・資格取得により正規雇用での就業を目指す女性の支援を継続する必要があります。[市民協働推進課] 																

基本目標 2

働きやすい環境づくり

施策の方向性(3)

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果														
2 働きやすい環境づくり	(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	<p>1. 豊橋公共職業安定所管内の男性育児休業給付金の初回受給者数</p> <table border="1" data-bbox="394 331 1136 436"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>139人</td> <td>250人</td> <td>412人</td> <td>456人</td> <td></td> <td>170人</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		139人	250人	412人	456人		170人	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等における従業員のワークライフバランスや子育て支援を推進するため、「豊橋市子育て応援企業」を募集・認定し、令和8年2月時点で認定企業数は260社478事業所になりました。[子育て支援課] ・子育ての援助が必要な人と援助をしたい人の会員組織「とよはしファミファミリー・サポート・センター」を運営し、子どもの預かりや送迎の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援しました。[子育て支援課] ・保護者の働き方の多様化に伴うニーズを把握するとともに保育サービスを充実させ、一時預かり事業・休日保育事業など多様なサービスの提供と質の向上に努めました。[保育課] ・就労などによって家庭で保育ができない特別な支援を必要とする子どもに対し、保育所、認定こども園での保育を更に充実させました。[保育課] ・国が実施する幼児教育・保育の無償化を実施するとともに、国の無償化対象外の世帯に対して、市独自に所得制限のない、保育料と副食費の負担軽減策を実施しました。[保育課] ・こども未来館・6か所の地域子育て支援センター・4か所のつどいの広場で、0～3歳までの乳幼児とその保護者が気軽に集う場を設け、育児に関する情報交換や仲間づくりを進めるとともに、子育てに関する講習会を開催するなど、学びの機会を提供しました。また、利用者と地域の高齢者などの交流の場を設け、地域の世代間交流を実施しました。[保育課] ・保育課に専任職員（保育コンシェルジュ）を配置し、保育サービスを必要とする保護者に寄り添う支援を実施し、安心して子育てできる環境を整えました。[保育課] ・児童クラブの増設により、放課後における児童の受け入れ態勢を充実しました。[地域教育推進室] ・企業等における男性従業員の育休取得を推進するセミナーや子育て世帯を対象にした家事分担に関するセミナーを開催し、男性の育休取得や家事分担に関する啓発を行いました。[子育て支援課] ・市職員の男性の育児休業の取得率は大幅に上がり、R5からR7の取得率は50%から87.5%と20ポイント以上増加しました。また、女性も特定事業主行動計画の目標数値である100%を達成しています。[人事課] ・介護入門講座の開催により、介護保険事業所の人材確保につなげ、家族の介護が必要な人も継続して就労できる環境を整備しました。[長寿介護課]
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)										
		139人	250人	412人	456人		170人	◎									
		<p>2. 市職員の男性職員の育児休業取得率</p> <table border="1" data-bbox="394 485 1136 590"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29.0%</td> <td>44.6%</td> <td>50.0%</td> <td>71.8%</td> <td>87.5%</td> <td>35.0%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		29.0%	44.6%	50.0%	71.8%	87.5%	35.0%	◎	
基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)												
29.0%	44.6%	50.0%	71.8%	87.5%	35.0%	◎											
<p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>																	
<p>取組実施状況</p>																	
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報ガイドブックの発行 ・パパママ子育て講座 ・幼児教育・保育無償化 ・市独自の保育料軽減 ・地域子育て拠点事業 ・子育てに関する相談体制の充実（こども保健課） ・チャイルドサポートプラン説明会 ・市民病院院内保育所の運営 ・家族介護支援事業 ・シニア人材活用促進 ・市職員の育児・介護など、家庭と仕事の両立支援 ・市男性職員の育児・介護休暇取得への理解促進 ・市役所における育児休業者等へのフォローアップ体制の整備 育児・休業制度の一般職員の理解促進 ・子育て応援企業認定・表彰制度 ・ファミリー・サポート・センター事業 ・通常保育事業・特別保育事業 ・特別支援保育事業 ・子育てに関する相談体制の充実（保育コンシェルジュ） ・子育てに関する相談体制の充実（こども未来館） ・放課後児童クラブ ・総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業） ・介護家族への支援 ・男性の育休取得・家事分担の推進 	<p>課題</p>																
<ul style="list-style-type: none"> ・共働きの子育て世帯の割合が増加しており、子育て中の従業員が働きやすい就業制度を取り入れようとする企業等は増加傾向にありますが、「豊橋市子育て応援企業」の認定制度の周知や認知が十分ではありません。[子育て支援課] ・「とよはしファミリー・サポート・センター」においては、女性の就業率の上昇や定年延長等の影響により、子育てを援助する会員のなり手が不足しています。[子育て支援課] ・通年及び夏休み期間において児童クラブの利用を希望する家庭は年々増加傾向となっています。児童クラブの必要数を確保するには、支援員及び開設場所の確保が課題となっています。[地域教育推進室] ・市内の企業等においては、女性を含め育児休業取得者の代替要員の確保や仕事の割振等が負担になっており、対策が必要です。[子育て支援課他] ・市職員における男性の育児休業取得率自体は年々上昇しているものの、令和6年度では約8割が3か月以下である一方で、女性では7割以上が2年超となっており、男女間で差が生まれています。[人事課] ・一時預かり事業は、利用者からのニーズが高く、毎月利用者が希望する全日数を利用できていない状況があります。また、休日保育においては、特にくるみ保育園に対する利用希望者が多く、まれに定員を超えて利用お断りすることが発生しています。[保育課] ・保育において、特別な支援を必要とする児童が増加傾向にあることから、保育現場において特別支援保育への対応体制の確保が大きな課題となっています。[保育課] 	<p>総括</p>																
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市子育て応援企業や子育て家庭優待事業の協賛事業所は着実に増加していますが、企業におけるワークライフバランスの推進や男性の育児休業取得率の向上など、企業における子育て家庭への支援や配慮が十分ではないため、企業への働きかけが引き続き必要です。[子育て支援課] ・「とよはしファミリー・サポート・センター」について周知し、会員数の増加や活動の充実に向けた取り組みが必要です。[子育て支援課] ・子育て家庭における共働きの割合の増加により、仕事と子育ての両立に対する負担や教育等にかかる経済的負担などへの不安を感じる家庭も多く、妊娠から出産、子育てにわたる切れ目のない支援に社会全体で取り組む必要があります。[保育課] ・共働き家庭の増加や生活環境の多様化に伴い、子どもが安心して過ごせる居場所の確保が必要であり、利用ニーズに応じた児童クラブの整備が求められています。[地域教育推進室] ・市内の企業等においては、女性を含め育休取得者の代替要員の確保や仕事の割振等が負担になっており、対策が必要です。[子育て支援課他] ・男性の長期の育児休業や育児参画を促していく必要があります。[子育て支援課・市民協働推進課] ・保護者の働き方の多様化に伴う保育ニーズを把握し対応する取り組みが必要です。[保育課] ・保育において、特別な支援を必要とする児童が増加傾向にあることから、特別支援保育の対象児童に充実した保育を提供していく必要があります。[保育課] 																

基本目標 3

健康の保持と安心できる生活環境の整備

施策の方向性(1)

生涯を通じた健康づくりへの支援

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果																										
3 健康の保持と安心できる生活環境の整備	(1) 生涯を通じた健康づくりへの支援	<p>1. 子宮頸がん検診受診率（20～69歳）</p> <table border="1" data-bbox="391 338 1136 436"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th rowspan="2">△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13.8%</td> <td>10.9%</td> <td>11.4%</td> <td>12.3%</td> <td>12.6%</td> <td>20.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 乳がん検診受診率（40～69歳）</p> <table border="1" data-bbox="391 510 1136 609"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th rowspan="2">△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15.6%</td> <td>12.7%</td> <td>12.9%</td> <td>13.0%</td> <td>13.4%</td> <td>25.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△	13.8%	10.9%	11.4%	12.3%	12.6%	20.0%	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△	15.6%	12.7%	12.9%	13.0%	13.4%	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種法に基づき、年齢、性差に応じた予防接種費用の助成を行い、集団免疫による感染症蔓延防止を図っています。[保健医療企画課] ・がん検診の受診率向上のため、子宮頸がん・乳がん検診の受診勧奨を実施しました。また、Web 申込による受診券の発行や、集団健診会場において特定健康診査やがん検診等の同時受診できる機会を増やし、利便性を高めることで受診しやすい体制を整備しました。[健康増進課] ・産婦の健康状態を確認し、産後早期から必要な支援につなげることができました。[こども保健課] ・産後ケアを必要とする方が利用しやすいよう周知を図るとともに、申込方法を電子申請にすることで利便性を図りました。また、産後ケア利用後も支援が必要な方に継続支援が行えるよう実施施設との連携を図りました。[こども保健課] ・不妊・不育および流産・死産等に関する悩みを持つ者の精神的ストレスの軽減を図るため、電話や来所等で相談支援を実施しました。また、相談先や必要な情報が入手しやすいようホームページを改正しました。[こども保健課] ・中・高校において、産婦人科医等による講話を実施し、男女の身体の違いや妊娠、出産、ライフスキルを学ぶ機会を提供しました。また、一般向けにオンラインセミナーを開催しプレコンセプションケアの普及に取り組みました。[こども保健課] ・安心して妊娠・出産・子育てができるよう、関係機関と連携しながら相談や訪問、教室など切れ目ない支援を実施しました。[こども保健課] ・女性特有の病気・悩みに対する助言及び受診指導のため、女性看護師などによる電話相談、対面相談を実施しました。また疾患による悩み以外にも、女性が抱える、介護や家族との関係性といった、多様な相談にも対応しました。[患者総合支援センター]
	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△																						
	13.8%	10.9%	11.4%	12.3%	12.6%	20.0%																							
	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△																						
15.6%	12.7%	12.9%	13.0%	13.4%	25.0%																								
	<p>取組実施状況</p>	<p>課題</p>																											
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康経営推進事業 ・感染症の予防への啓発 ・健康教育 ・こころの健康保持、自殺予防 ・産婦健康診査 ・妊娠・出産包括支援事業（産後ケア事業） ・性と健康の相談センター事業（不妊・不育専門相談） ・性と健康の相談センター事業（健康教育） ・妊娠・出産のための支援 ・各種予防接種の実施 ・健康診査等の充実 ・女性特有の病気・悩みに対する助言及び受診指導のため、女性の看護職などによる相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がん検診や乳がん検診は受診勧奨等により、受診率は徐々に回復していますが、他のがん検診等は、受診率は横ばい状態が続いています。受診率向上のため、さらなる啓発活動や受診しやすい環境づくりが必要です。[健康増進課] ・妊婦健康診査から継続的に状況把握できるよう医療機関と連携を図る必要があります。[こども保健課] ・産後ケア事業の利用者が個々の利用目的に合った型や産後ケア事業所を選べるよう、産後ケア事業所の特色が利用者に分かるよう周知する必要があります。[こども保健課] ・生殖医療を受ける方の割合は年々増加しており、また、妊婦のための支援給付の対象が拡大されたことで、流産・死産等された方から多くの給付金申請があり、相談体制の充実を図る必要があります。[こども保健課] ・「成育医療等基本方針（令和5年3月改定）」にプレコンセプションケアの推進についての方針が定められるとともに、令和7年には「プレコンセプションケア推進5か年計画」が策定され、プレコンセプションケアを推進することとされました。多くの中・高校でプレコンセプションケアの視点による健康教育の出前授業を実施できるよう講師を確保する必要があります。[こども保健課] ・外国人の妊産婦が増加しており、言語や文化の違いにより支援に時間を要するため、必要な相談支援が継続実施できるよう関係機関との連携を強化し、体制を整えていく必要があります。[こども保健課] ・女性が求められる役割が多様化し、社会や家庭内で抱える課題が複雑化しています。[患者総合支援センター] 																											
		<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の予防や早期発見のため、予防接種未接種者への勧奨、がん検診・特定健康診査受診率向上のための体制整備や普及啓発を行う必要があります。[保健医療企画課・健康増進課] ・安心して妊娠・出産・子育てが行えるよう、産後うつや早期発見、産後ケアとともに、関係機関の連携による、切れ目ない相談支援を行う必要があります。[こども保健課] ・医療機関と連携により相談体制の強化し、不妊・不育及び流産・死産等に悩みを持つ方の支援の充実を図る必要があります。[こども保健課] ・プレコンセプションケアの視点による講座の実施校の拡大により、性に関する正しい知識の普及に取り組む必要があります。[こども保健課] ・女性の健康課題に対する相談支援の拡充を図ることが必要です。[こども保健課・患者総合支援センター] 																											

基本目標 3

健康の保持と安心できる生活環境の整備

施策の方向性(2) 様々な困難を抱える女性への支援

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果																												
3 健康の保持と安心できる生活環境の整備	(2) 様々な困難を抱える女性への支援	<p>1. 就労自立促進事業により就職に結びついたひとり親の割合</p> <table border="1" data-bbox="350 310 1121 415"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>51.1%</td> <td>52.7%</td> <td>39.4%</td> <td>32.1%</td> <td>70%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 女性相談（電話・面接・法律）の件数</p> <table border="1" data-bbox="350 483 1121 588"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,889 件</td> <td>1,968 件</td> <td>1,892 件</td> <td>1,571 件</td> <td>1,331 件</td> <td>2,000 件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△	60%	51.1%	52.7%	39.4%	32.1%	70%		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△	1,889 件	1,968 件	1,892 件	1,571 件	1,331 件	2,000 件		<p>●女性</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性相談員による女性のための各種相談事業（電話・面接・法律）を実施し、女性の悩みごとの解決を支援しました。また、女性相談員を対象とした研修会を定期的に開催したほか、愛知県が実施する研修会の参加を通じて、相談員のスキルアップを図り、相談対応の体制を強化しました。[市民協働推進課] つながりサポート事業による SNS 相談やまちかど保健室などの実施により、若年層を含む幅広い年代の女性の相談ニーズに対応しました。またホームスタート事業の実施により、孤独になりがちな未就学児を養育する女性に対してアウトリーチ型の支援をしました。[市民協働推進課] 相談窓口などで生理用品を無料配布により、生理用品の入手が難しい女性の支援のほか、同時に「市民の相談窓口一覧」を同封することで、支援が必要な女性が相談につながるきっかけをつくりました。[市民協働推進課] 女性支援調整会議の設置により、女性支援の関係課の連携を強化しました。[市民協働推進課] <p>●子ども・若者・母子</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとり親家庭の経済的自立を図るため、養育費の取り決めにかかる公正証書作成費用等の助成や、離婚前後の親を対象に養育費に関するセミナーを実施しました。[子育て支援課] 就業支援センターでの就業支援や母子父子自立支援員とハローワークとの連携による相談支援を実施するとともに、就業に有効な資格取得や職業訓練のための給付を実施した。[子育て支援課] 社会福祉士、保健師、公認心理師等の多職種により、児童虐待を含む子どもから若者までの幅広い相談対応を行いました。子ども・若者自立支援業務を民間支援団体に委託し、相談実績（見込み）は、相談者数 715 人、延べ相談件数 5,760 件でした。こども家庭センターとの連携により、年齢による切れ目のない支援を行いました。[こども若者支援センター] 要保護児童対策ネットワーク協議会（代表者会議 1 回、実務者会議 24 回、関係者会議 12 回、個別ケース 70 回）を開催しました。また、こども家庭センターとして、合同ケース会議を 20 回開催し、個別のサポートプランを 40 件作成するなど、母子保健機能と児童福祉機能の一体的支援に取り組みました。[こども若者相談センター] スクールソーシャルワーカーの派遣により、学校や関係課からの依頼による支援対応を行い、学校生活・家庭生活の両面からこどもの困り感を吸い上げ、必要な支援を行いました。[学校教育課] ひとり親世帯や子育て世帯に対して、市営住宅への入居機会を確保しました。[住宅課] <p>●外国人</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語・ポルトガル語・タガログ語の通訳者による外国人市民相談のほか、ベトナム語・インドネシア語通訳・翻訳者の配置や、希少言語にも対応できる多言語通訳タブレットを 3 台導入したことで、日本語を話すことのできない外国人市民も安心して行政サービスを受けられるよう支援を行いました。[多文化共生・国際課] <p>●高齢者</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員を通して、70 歳の方へ高齢者向け情報冊子「いきいきシルバーエイジ」の配付を行い、高齢者に関する行政サービスの周知を図りました。[長寿介護課] <p>●生活困窮者</p> <ul style="list-style-type: none"> 住まい相談支援員を配置し、住居喪失者が地域にスムーズに移行できるように支援を行いました。[住宅課] <p>・積極的なアウトリーチでの相談も行い、相談者の状況に合わせた適切な支援を行うことができました。[生活福祉課]</p>
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△																							
60%	51.1%	52.7%	39.4%	32.1%	70%																										
基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	△																									
1,889 件	1,968 件	1,892 件	1,571 件	1,331 件	2,000 件																										

基本目標 3

健康の保持と安心できる生活環境の整備

施策の方向性(2) 様々な困難を抱える女性への支援

	取組実施状況	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから若者までの総合相談支援 ・障害児に対する支援の充実 ・軽度・中等度難聴児補聴器購入助成 ・外国人相談の実施 ・外国人市民に対する各種行政情報の提供 ・民生委員児童委員の地域における支援の充実 ・児童虐待防止に関するネットワークの推進 ・障害者交通利用助成 ・母子世帯、子育て世帯への優先入居の実施 ・フードバンク事業 ・低所得世帯の保育料・副食費等の軽減 ・学習・生活支援事業（122-1） ・生活相談 ・女性相談 ・女性のつながりサポート事業 ・障害児ワークステーション「わくわく」 ・ひとり親家庭への自立支援 ・ひとり親家庭への就業支援 ・ひとり暮らし高齢者等への生活支援 ・民生委員・児童委員研修事業 ・民生委員・児童委員活動」 ・学生服等リユース事業 ・スクールソーシャルワーカーの派遣 ・学習・生活支援事業（122-2） ・学習・生活支援事業（122-3） ・生活困窮者の相談及び自立支援 ・ひとり親家庭等養育費確保支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性 <ul style="list-style-type: none"> ・女性相談の件数は、令和4年度から減少が続いており目標値である2,000件は達成しておらず、支援が必要な女性が相談につながるよう、引き続き相談窓口の周知をしていく必要があります。[市民協働推進課] ・ホームスタートの申込件数が、減少傾向にあることから、家庭訪問型の支援が必要な女性に支援が届くような情報発信が必要です。ホームスタート事業に従事するボランティアスタッフが不足しており、人材の確保の取り組みを強化する必要があります。[市民協働推進課] ・生理用品の入手が困難な女性への支援を継続していく必要があります。[市民協働推進課] ・支援が必要な女性に的確な支援を円滑に提供するため、女性支援調整会議の活用等による関係機関の連携の強化に取り組む必要があります。[市民協働推進課] ●子ども・若者・母子 <ul style="list-style-type: none"> ・民法等改正法により見直される養育費に関するルール等や、公正証書作成費用等の助成制度を周知し、認知度を高める必要があります。[子育て支援課] ・ひとり親家庭がより安定した収入の高い就業を可能にするための支援が必要です。[子育て支援課] ・こども若者支援センターとこども保健課がこども家庭センターとしての役割を十分に発揮できるよう、積極的な合同ケース会議の開催やサポートプランの活用が必要です。[こども若者支援センター] ・スクールソーシャルワーカーへの相談件数は年々増加傾向にあり、適切な支援を継続するために必要な人的配置が求められています。[学校教育課] ●外国人 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人市民の多国籍化や在留資格の多様化に伴い、外国人市民の生活の複雑化・多様化や通訳・翻訳者が対応できない言語が増加しており、機械通訳・翻訳や外国人が日本語を学ぶ機会の充実とともに、様々な関係機関・団体との協働による支援をより一層推進していく必要があります。[多文化共生・国際課] ●生活困窮者 <ul style="list-style-type: none"> ・困窮状態にあっても、自ら支援を希望しない方への介入が困難です。[生活福祉課]
		<p>総括</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ●女性 <ul style="list-style-type: none"> ・相談や支援を必要とする女性を相談事業の活用につなげるよう、各種相談事業の周知に努めるとともに、引き続きSNS等を活用した相談を実施する必要があります。また、女性相談員の相談対応能力向上を図る必要があります。[市民協働推進課] ●子ども・若者・母子 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事と子育てを一手に担わざるを得ないひとり親家庭が抱える様々なニーズに対応する必要な経済的支援のほか、所得の増加を目指した就業支援や養育費の確保など、当事者に寄り添ったきめ細やかな相談支援が必要です。また、スクールソーシャルワーカーの適切な人的配置により、ひとり親家庭等で養育される子どもが貧困によって学習機会が損なわれないような支援が必要です。[子育て支援課・学校教育課] ・引き続き、こども若者支援センターの相談支援を官民一体となって運用することで、子ども・若者の相談が年齢によって途切れることのないよう、切れ目のない支援体制が必要です。[こども若者支援センター] ・こども若者支援センターとこども保健課がこども家庭センターとしての役割を十分に発揮できるよう、母子保健機能と児童福祉機能の連携強化が必要です。[こども若者支援センター] ・引き続き、子育て世帯、ひとり親世帯の市営住宅への入居機会を確保するとともに、他の住宅確保要配慮者世帯との入居のバランス等の検討が必要です。[住宅課] ●外国人 <ul style="list-style-type: none"> ・機械通訳・翻訳や外国人が日本語を学ぶ機会の充実とともに、様々な関係機関・団体との協働による支援のより一層の推進が必要です。[多文化共生・国際課] ●生活困窮者 <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者を取りこぼすことのないよう、引き続きアウトリーチでの相談を行うなど、他機関と連携し積極的に相談に応じていく必要があります。また、リスクのある世帯については伴走支援を行っていく必要があります。[生活福祉課]

基本目標 3

あらゆる分野での男女共同参画の促進

施策の方向性(3)

DV（パートナー等からの暴力）の根絶

基本目標	重点目標	指標の評価	成果														
3 健康の保持と安心できる生活環境の整備	(3)DV（パートナー等からの暴力）の根絶	<p>1. DV相談窓口の認知度</p> <table border="1" data-bbox="409 338 1160 436"> <thead> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36.2%</td> <td>-</td> <td>38.0%</td> <td>-</td> <td>34.9%</td> <td>50.0%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈評価基準〉 ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		36.2%	-	38.0%	-	34.9%	50.0%	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「女性に対する暴力をなくす運動」週間にあわせた街頭啓発や高校でのDV出前講座などによりDVの認知度の向上に努めた結果、「デートDV」の内容を知っている市民の割合は増加しました。[市民協働推進課] ・「DV被害経験あり」女性の25.2%に対し男性14.0%と女性が男性より高い割合となっている（R7）ものの、男女差に着目すると、令和5年度の女性が男性の約3倍から、令和7年度は約2倍弱となり、DV被害が性別にかかわらず発生することなどの認知が広がってきたことがうかがえます。[市民協働推進課] ・DV相談窓口において、DV相談員による寄り添った対応により、DV相談をしやすい環境を創出しました。また、DV相談員のスキルアップを図り、相談者から被害内容、家庭関係、加害者等の関係性、本人の希望等を丁寧に聞き取り、対応方法や支援機関の活用などについて本人の置かれた状況に応じた的確な助言を行いました。[市民協働推進課] ・子ども若者支援センターや児童相談所、他市教育委員会等、関係機関との連携により、DV被害に係る児童生徒の安全確保と就学の円滑化を図りました。[学校教育課他] ・DV支援の関係課の連携の強化により、DV被害者に対する支援を的確かつ円滑に行うことができました。[市民協働推進課他] ・DV被害者生活保護者等援護事業として、措置の有無に関わらず、生活困窮者に対しての相談支援を行いました。要保護者に対しては生活保護を適用し、経済的支援を実施しました。[生活福祉課] ・DV被害者就業支援として、ハローワーク等の利用を通して、就労支援を行いました。相談者が施設入所者である場合は、施設職員とも連携をしながら支援を実施しました。[生活福祉課]
	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)											
	36.2%	-	38.0%	-	34.9%	50.0%	○										
	<p>取組実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DV相談窓口 ・DV被害者生活支援(132-2) ・DV被害者住宅の確保 ・DV被害者に係る情報の保護 ・DV理解・防止のための啓発の促進 ・「女性に対する暴力をなくす運動」の展開 140 ・「女性に対する暴力をなくす運動」の展開 141 ・デートDV出前講座 ・関係機関・民間団体との連携体制の整備 ・DV被害者生活支援(132-1) ・DV被害者生活支援(132-3) ・DV被害者生活保護者等援護事業 ・DV被害者就業の支援 ・DV被害者子どもの就学・保育等の支援 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DV被害の発生を抑止やDV被害者の支援の充実には、市民のDVそのものの認知度の向上を図る必要があります。[市民協働推進課] ・令和7年度DV相談の認知度は、令和3年度、令和5年度から減少しています。また、DVの被害を受けた際に誰にも相談しなかった理由として、「どこに相談してよいか分からなかった」の割合が増加しており、DV相談窓口の認知度向上を図る必要があります。とりわけ、20代男女において80%近くが豊橋市にDV相談があることを知らなかったと回答しているため、SNSの活用などにより、広報とよはし等を見ない方にも情報が届くような工夫が必要です。[市民協働推進課] ・「DVを受けた経験がある」と答えた市民は約19.8%であり、令和5年度の約15.9%から増加しており、社会全体で暴力を許さない意識啓発を進める必要があります。暴力はいけないことであると家庭や学校での幼少期から教育を行うほか、街頭啓発などでの幅広い年代への啓発も必要です。[市民協働推進課] ・より円滑な支援が行うため、DV支援の関係課や関係機関と支援方針等について共有し、連携を強化する必要があります。[市民協働推進課] 															
		<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力を許さない社会の実現に向け、社会全体で人権尊重意識を共有することができるよう、関係機関と連携した啓発が必要です。[市民協働推進課] ・DV相談窓口を始めとする各種相談窓口の認知度向上やDVに関する理解度の向上に取り組めます。[市民協働推進課] ・若年層へのDV防止の啓発や相談窓口周知のため、引き続き市内の高等学校等での啓発を行うほか、SNSの活用や他の相談事業との連携を行う必要があります。[市民協働推進課] ・DV相談窓口において、DV被害者に対する寄り添った対応や的確な助言を行えるよう、引き続き相談員のスキルアップに取り組む必要があります。[市民協働推進課] ・単なる相談の取次ではなく、DV被害者支援の最前線として、関係機関と連携しながら、相談から自立支援までの切れ目のない支援を行う必要があります。関係機関の連携体制の強化が必要です。[市民協働推進課] 															

基本目標3 あらゆる分野での男女共同参画の促進

施策の方向性(4) 性の多様性の理解促進とLGBT等性的少数者に対する支援

基本目標	施策の方向性	指標の評価	成果																												
3 健康の保持と安心できる生活環境の整備	(4) 性の多様性の理解促進とLGBT等性的少数者に対する支援	<p>1. LGBT等性的少数者について言葉も内容も知っている市民の割合 ＜市民意識調査＞</p> <table border="1" data-bbox="409 380 1154 478"> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> <tr> <td>52.3%</td> <td>-</td> <td>53.7%</td> <td>-</td> <td>52.9%</td> <td>75.0%</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>2. LGBT相談の件数（令和2年度からの累計件数）</p> <table border="1" data-bbox="409 548 1154 646"> <tr> <th>基準値 (R3)</th> <th>実績値 (R4)</th> <th>実績値 (R5)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th></th> </tr> <tr> <td>7件</td> <td>11件</td> <td>14件</td> <td>16件</td> <td>20件</td> <td>20件</td> <td>◎</td> </tr> </table> <p>＜評価基準＞ ◎：目標値達成 ○：目標未達成だが基準値を上回る △：目標未達成、基準値を下回る</p>	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		52.3%	-	53.7%	-	52.9%	75.0%	○	基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)		7件	11件	14件	16件	20件	20件	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校において、性の多様性の理解促進の出前講座の実施や、パンフレットの配布により、児童・生徒が性の多様性について学ぶ機会を提供しました。また、配布したパンフレットを児童・生徒が家族へ共有することで保護者の性の多様性の理解を促進しました。[市民協働推進課] ・事業所向けの性の多様性の理解促進の研修会の実施、研修動画・啓発パンフレットの配布により、事業主や職員・従業員の性の多様性の理解促進を図りました。[市民協働推進課] ・市職員向けの性の多様性の理解促進研修により市職員の理解促進を図りました。また、新規採用職員研修において、性の多様性を説明することで、本市のすべての行政職の職員が採用時に性の多様性を学ぶ機会を確保しました。[市民協働推進課] ・LGBT相談により、LGBT等性的少数者が抱える性的指向や性自認に関する悩みへの寄り添った対応ができました。また、事業所からの相談に対応することで、LGBT等性的少数者が働きやすい職場づくりを支援することができました。[市民協働推進課] ・パートナーシップ制度をパートナーシップ・ファミリーシップ制度に拡充し、制度利用者の家族も証明及びサービスの対象としました。また、愛知県と本市の双方の制度利用者に県・市いずれのサービスも適用することとしました。[市民協働推進課] ・パートナーシップ・ファミリーシップ制度に関する自治体間連携を拡充することで、制度利用者が転出入時に安心して宣誓を継続できる体制を充実しました。[市民協働推進課] ・市の各種様式のうち不要な性別欄の削除を進めることで、性自認にかかわらず市民が安心して行政手続きができる環境を整備しました。[市民協働推進課]
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)																								
		52.3%	-	53.7%	-	52.9%	75.0%	○																							
		基準値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	目標値 (R8)																								
7件	11件	14件	16件	20件	20件	◎																									
<p>取組実施状況</p>	<p>課題</p>																														
<ul style="list-style-type: none"> ・市民への性の多様性啓発パンフレットの配布 ・3歳児健診時での性の多様性啓発パンフレットの配布 ・事業所への性の多様性啓発パンフレットの配布 ・学校関係者への性の多様性の啓発（学教） ・LGBT等面接相談 ・子ども・若者支援地域協議会による連携（子若） ・パートナーシップ制度 ・パートナーシップ制度広域連携 ・各課が所管する様式等の性別欄の見直しを行う。 ・市職員の性の多様性の研修 ・教育会館での保護者・生徒のLGBT等の相談受付（学教） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の性の多様性の認知度・理解度が横ばいであり、引き続き市民に対する啓発を進める必要があります。[市民協働推進課] ・市民に対して、すべての人の性のあり方が多様であるという概念の理解を進める必要があります。[市民協働推進課] ・事業所の従業員等の性の多様性の理解促進研修会への参加者が少ない状況であり、事業所に出向いて研修会を開催するなどの取り組みが必要です。[市民協働推進課] ・LGBT等性的少数者も安心して生活を送れるよう、パートナーシップ・ファミリーシップ制度利用者向けのサービスの充実が必要です。[市民協働推進課] 																														
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の性の多様性の認知度・理解度の向上のほか、すべての人の性のあり方が多様であるという概念の理解促進への取り組みが必要です。[市民協働推進課] ・事業所への直接的な働きかけを通じて、職場での性の多様性の尊重の理解を深める必要があります。[市民協働推進課] ・パートナーシップ・ファミリーシップ制度利用者向けのサービスの充実が必要です。[市民協働推進課] 																														

事業所向け及び児童・生徒向け男女共同参画及び性の多様性の尊重に関する意識調査について(事業所、中学生、小学生)

1 目 的

令和 9 年度からの次期男女共同参画基本計画の策定のため、事業所や小・中学生の男女共同参画等に関する意識や実情を把握することを目的とする。

2 調査内容

(1)実施期間

令和 8 年 5 月 7 日～5 月 22 日

(2)調査対象

事業所：豊橋市内の全事業所のうち従業員数や産業大分類ごとに按分した
1,000 事業所

中学生：市内全中学生

小学生：市内小学 5・6 年生

(3)調査方法

① 調査の案内方法

インターネット回答用の URL および二次元コードを記載した依頼文を配付

② 回答方法

タブレットまたはパソコン等を利用したインターネット回答

(4)調査項目

別紙「資料 3-2」のとおり

(5)調査対象別のポイント

事業所

- ・ワーク・ライフ・バランスや女性の登用状況は、個人の意識だけでなく企業の管理体制や職場環境に大きく依存するため、事業所の現状及びボトルネックとなっている課題を明らかにし、施策及び具体的な取り組みに反映する。
- ・メーリングリストへの登録を促すことで、市の施策の周知や事業所との関わりを築く足掛かりとする。

中学生・小学生（5・6年生）

- ・日常や将来に対して抱いている「性別に関する意識」は、成長過程での刷り込みが影響を与えるため、早い段階での意識を知ること、今後のキャリア教育や人権教育等の基礎資料とする。
- ・意識の形成期に、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）やデートDV、SOGI（性的指向・性自認）に関する質問をすることで、気づきや「SOS を出しやすくするための啓発」を兼ねる。

男女共同参画及び性の多様性の尊重に関する意識調査設問案

対象	設 問	市民アンケート 類似設問
事業所	業種	
	従業員の人数及び管理職人数 (男・女/正規・非正規/うち管理職人数)	
	男女問わず、育児・介護等の制約を持つ社員が「キャリアを諦めずに働き続ける」ための課題	
	女性活躍を進めるうえで「変えるのが難しい(時間がかかる)」と感じる要素	
	女性の「管理職登用」や「中途採用」を検討する際、男性と比較して特にハードルだと感じる点	
	全ての人にとって働きやすい環境づくりの「実施状況」、「重要度」、「進め方の理解度」	
	(自由意見) 現場での悩みや市への要望	
	(自由意見) 好事例の共有	
	(自由登録) 市からの情報提供のメーリングリスト登録	
中学生	性別(「答えたくない」も含む)	
	各場面および分野の男女の地位評価	○
	性別役割分担意識	○
	家庭での家事分担の状況	
	学校での性別役割分担場面	
	進路を考える際の文系・理系の固定的意識	
	将来の働き方に対する価値観	
	交際相手からの暴力についての意識	
	性的指向および性自認に関する自身や周囲の悩み	
	身近な人からのカミングアウトへの対応	
	悩み事の相談相手	
	(自由意見) 男女共同参画、性の多様性が尊重されるために必要だと思うこと	
(周知) 相談窓口の提示		
小学生	性別(「答えたくない」も含む)	
	世の中の「男女の平等」について	○
	「男らしさ・女らしさ」について	○
	お家での「お手伝いや家事」について	
	学校でのルールや当番について	
	将来の職業や勉強の得意科目について	
	大人になった時の働き方について	
	友だちや付き合っている人との関係について	
	「自分らしさ」と「性の多様性」について	
	友達から「性の悩み」を打ち明けられたら	
	困った時の相談相手	
(自由意見) みんなが自分らしく生きるために		